賦存量がある、露天掘のため剝土として採掘した物の一部含油分の多い部分を製油工場で採油する、其他熱河省に北滿に、東邊道に處々發見さるるものはあるが今の所經濟價値は疑問である

（3）鐵鑛　鐵鑛は日本の總埋藏量8000萬噸に比べれば滿洲には既知のものだけでも10數億噸に上り今後益有望であるが大部分は貧鑛であることは惜しいことである。富鑛は弓張嶺の500萬噸、最近見出された東邊道大栗子溝の350萬噸、廟兒溝の200萬噸を始め1270萬噸は確實らしい尤も弓張嶺丈でも2000萬噸に上るといふ說もある。又最近問題の開原の鐵山は純良赤鐵鑛數千萬噸とか億以上とかいふ掛聲もあるが確實な處數百萬噸位は賦存するといふ觀察が有力であつて之は前記計算外である。貧鑛は12億噸以上あり滿鐵多年苦心の結果貧鑛處理法に成功し鞍山の昭和製鋼所で盛大に經營されてゐて。現在製鐵高は銑鐵の量で計算し鞍山47萬噸本溪湖16萬噸であるが數年後には百數十萬噸迄擴大されるであらう。

（4）硫化鑛　滿洲の地質は硫黃氣に乏しく本溪湖、煙台等古生代炭層中にポケットで產出するもの年產僅かに5000噸、銅鑛も盤嶺、馬鹿溝に貧弱なる埋藏を示すのみ。

（5）鉛鑛　鉛、亞鉛、銀は相隨伴して同一鑛床に產するを常としてゐる錦州省の楊家杖子は斷然有望で最小限200萬噸は確定してゐるが此埋藏高を以て同鑛山の價値のバロメーターとするのは尙早で探鑛の結果意外の大物であるかも知れぬ。間島省の天寶山も之に對抗するに足るものらしい。獨安奉線の青城子外數十箇所に發見されるが經濟價値に乏しい。然し兎に角日本には皆無に近い鉛鑛が滿洲から相當量出る樣になりつつあるは心强い。

（6）菱苦土鑛白雲石滑石　マグネサイトは大石橋附近に賦存鑛量200億噸以上世界無比の大鑛床といはれ品質も良いのがある。マグネサイトに隨伴してドロマイト及タルクがこれも亦相當大量に埋藏されてゐる。ドロマイトはその外にも關東州に豐富なる埋藏がある。

（7）蠻土頁岩　蠻土頁岩又は陶質粘土と稱するものは品質區々であるが撫台本溪湖方面、復州金州方面に合計1億數千萬噸が賦存する。數量は極く僅であるがアルミナ含有量70%以上に上るものもある。鐵分の少い良鑛は特殊耐火材料に、鐵分の多い良鑛はアルミニウム原料に向けられる。

（8）石灰石　石灰石も隨所に豐富なる埋藏があり大連附近では周水子甘井子のものがセメント及製鐵用に採掘され安奉線附近のものも鞍山本溪湖で利用され其他奥地迄セメント用として採掘される石灰山所々にあり事缺かぬ模樣である。

（ii）農牧林業

（1）農產資源　大豆は滿洲農產物の王で年產凡そ400萬噸であるが列國の關稅牆壁に災され既に天井に頭を打付けた形で往年の盛況に及ばず他の作物に一部は轉換した有樣である。高粱も大豆に匹敵し年產400萬噸、粟が第3位で300萬噸を超へ、之に次ぐものは玉蜀黍の200萬噸、小麥の100萬噸內外である。米は移住鮮人の手によつて近年非常の增產を見、昭和11年度は44萬噸內外の生產を見猶增加の趨勢にある。此外大麥、小豆、綠豆其他豆類、黍、稗、蕎麥等、また油料子實とては落花生、蘇子（荏）、芝麻（胡麻）麻子（麻實）、大麻子（蓖麻子）、棉實がある。

近年擡頭したものに棉花がある。然し他の作物に比し必しも未だ有利とはいまいから試驗時代と見るが至當でつて棉花は寧ろ北支中支の少しでも冲の長い地方に期待すべきではあるいか。

新しき農產物として將來を期待されるものにケナフがある。之はロアから輸入された一種の麻で最も有望されてゐる之は印度から現に輸入してゐる黃麻製品の麻袋（特產物用）の代となるのである。煙草、柞蠶も改良期待され其他目新しいところでは牧のルーサンがある。

（2）畜產資源　牛・馬・羊・豚・騾合せて1800萬頭以上に及び日本とは比べ物にならぬ程の牧畜國である。今迄何等改良の行はれてゐないだけに政府及滿鐵の指導により將來に期待さるるところのものである。

（3）林產資源　滿洲國面積の3分の1が森林である、之は北米合衆國の5分1に比し比例に於て勝る。針葉樹40%濶葉樹60%の割合で針葉樹中最多いのはカラマツ、テウセンマツでモミ、トウヒ屬之に次ぎ、濶葉樹ではナラ、カシワ、シナノキ、ハルニレ、ヤマナラシ、ヤチダモ等が大部分で之に次ぐものはマンシウクルミ、キハダ等である。

滿洲國の化學工業

（i）酸アルカリ肥料工業

滿洲の酸アルカリ工業の代表的なものは滿洲化學工業株式會社と滿洲曹達股份有限公司とである。硫酸は滿化社に日產120噸の鉛式鉛室5基あり濃硫酸も日產10噸の設備がある。其他は撫順に製油工場附屬日產50噸のもの2基ヤンド瓦斯工場に日產50噸のもの2基鞍山の昭和製鋼所に33・5噸のもの、25噸のもの、34噸のもの各1基（何れも塔式、千噸濃硫酸工場附）、本溪湖製鐵所に日產13・5噸鉛式1基がそれぞれ設置されてゐる。

鹽酸は今の處では大連で味の素製造用として三協公司の小規模な工場あるのみ、食鹽、硫酸、酸性芒硝等を原料としてゐるが、昭和13年夏頃には撫順に滿洲輕金屬株式會社の曹達工場が落成すると共に合成鹽酸が出る筈である。

硝酸は滿化にボーメ35度硝酸日產20噸の設備、之に關聯して奉天造兵所に硝酸濃縮日產5噸の設備がある。

曹達は大連市外甘井子の滿化社隣地に滿洲曹達股份有限公司の年產3萬5千噸1單位が昭和12年8月から運轉を開始した。ソルヴエー式で日滿を通じ最新式の工場である、引續き倍額7萬噸となすべく1基增設される。電解曹達は前記滿洲輕金屬附屬の水銀法年產1160噸のものが昭和13年中に動く筈、猶また開原に出來る筈の滿洲豆粕パルプ會社工場內に滿洲曹達公司によつて3—5000噸の電解曹達工場が出來る噂もある。

硫安は滿化のウーデ式合成法で24萬噸の大設備がある、其中6萬噸は硫酸を用ゐずして堀式亞硫酸法により製造されることと硝酸及硝酸アンモニアの生產が行はれてゐることは異色とすべきである。滿洲國內の硫安消費は極く

僅であるから主に內地及東洋諸國に仕向けられる、隨つて過燐酸肥料工業は未だ興つて居ない。

(ii) 燃料工業

(1) 瓦斯事業 南滿洲瓦斯株式會社によつて下の各地に經營されてゐるが大體の處は其投資額(昭和11年度)によつて想像していただく

大連	4 909 790 圓
奉天	2 480 799 〃
鞍山	496 725 〃
安東	751 123 〃
新京	1 794 739 〃
計	10 433 177 〃

(2) モンド瓦斯工業 撫順炭礦のボタ處理のためボタ良炭等分混合瓦斯化を目的としパワーガス會社によりモンド瓦斯爐1日264噸のもの大正3年1組、大正7年1組、續いて大正8年 Lymn Chemical Engineering 會社の設計の280噸1組を設備した歷史的のものである。Lymn 式は其後低溫乾溜裝置を併置した結果1日336噸を處理する樣になつた。昭和10年度の生產は下の通である。

瓦斯發生量	450 899 848m^3
硫安	5 839噸
高溫タール	10 378〃
低溫タール	5 276〃

タールは全部蒸溜し、クレオソート油、重油、軟ピツチ、硬ピツチ、ピツチコークス等を出し更にクレゾール、餌裝タールをも產出してゐる。

(3) 骸炭工業 鞍山は年產60萬噸以上の骸炭を撫順炭中の弱粘結炭に本溪湖炭2割5歩を配合して作り爐は水平コツパース及オツト式でタールはベンゾール、クレオソート油、ナフタリン、ピツチ迄に處理してゐる。

本溪湖は年產20萬噸以上、地元炭により、爐は黑田式2基、タールは鞍山に送つて蒸溜する。

此外大連の滿化社は原料瓦斯の一部をオツト式骸炭爐により製造してゐる、原料は主として撫順炭、配合炭は開平、中興、井陘等を用ゐ年產約7萬噸、タールはベンゾール、クレオソート油、ナフタリン、アンスラセン等に處理してゐる。

(4) 石炭液化工業 海軍鞍山燃料廠と滿鐵との合作により、事業資金1600萬圓を投じ昭和11年より撫順に建設に着手目下工事中である。撫順炭を直接水素添加するのである。之は試驗工場的意味のもので將來は低溫乾溜、合成の工場とコンバインし雄大なる人造石油工場が出現するものと思はれる

四平街に於ける滿洲油化工業株式會社は八幡製鐵所黑井千代吉氏の低溫タール高壓水素添加法により日產40噸を生產する豫定である。資本金250萬圓を未だ建設中の今日1000萬圓に增資するとの報あり、將來は年產10萬噸にする計畫を抱いてゐる。

(5) 頁岩油工業 撫順炭礦で油母頁岩を發見したのは明治42年であるが初めは諸外國で實施せられた爐式により利用研究せるも收油率6%位の貧鑛であるため收支相償はなかつたが夙に獨特なる內熱式乾溜法に依り經濟的に成功した、更に昭和10年乾溜爐の改裝により生產倍加し世界各國の頁岩油工業の不振なるに反しよく貧鑛を用ゐて獨り氣を吐いてゐる。

現在年額290萬噸の油母頁岩を乾溜して粗油14萬5千噸硫安3萬噸を生產する、尙之を粗油30萬噸に增設を急いでゐる。而して此粗油より重油6萬6千噸、粗蠟2萬噸、ピツチコークス及

分解コークス1萬5千噸及揮發油2萬噸を生產してゐる。但し揮發油は一部の重油をダブス式クラツキング工場(能力原料油1日120噸)で分解蒸溜するのであるが一小部は乾溜瓦斯中からも得られる。粗蠟はパラフイン原料として山口縣德山の日本精蠟會社へ送り精製する。

(iii) 油脂工業

(1) 油坊工業 油坊は嘗て滿洲工業界の王座を占めたものであるが列國の關稅障壁、支那との分離による南支市場の喪失、硫安生產費低下の重壓等により一と頃より4割以上の生產減で受難の業態である。

昭和10年の豆粕生產高は118萬噸大豆油12萬8千噸で大小300餘(此の內休業せるもの多し)の油坊がある。

(2) 大豆酒精油出工業 酒精油出法は滿鐵中央試驗所の佐藤氏の考案にかかり最も合理的な大豆の處理法であるが經濟的には猶未だ試驗時代を脫し切らぬ。本法によつて得る大豆油の優良なことは勿論、脫脂大豆はソヤレックスフレーキと稱し食料又は高級飼料となる。外に副產物としてレシチン蛋白、ヴイタミンBが擧げられるが猶外にスタキオース、グルコシド、ステリン等が得られる、是等のものの新用途の開拓が本法の未來に期待される。

(3) 硬化油工業 大連油脂工業株式會社が唯一の存在である。大正5年滿洲牛脂に對抗すべく設立されたが內地が關稅によつて本社の製品を拒否するので多年苦境にあつたが近年漸く立直りつつある、年產能力7 200噸である。

(4) 石鹼工業 內地よりの輸入品に壓倒され振はず大連に大連油脂工業、滿洲ペイント兩社の各石鹼部及萬玉洋行、奉天に白蘭公司、撫順に協和石鹼製造公司などが主なもので全滿に15工場程あるが總生產1年60萬圓位に過ぎぬ。

(5) ペイント工業 滿洲ペイント會社工場が大連及哈爾賓に日本ペイント滿洲工場が奉天にある、製品は年約400萬圓、種類は塗料油、各種ペイント、水性塗料、ワニス、エナメル、パテ、ラツカー、亞鉛華、光明丹、胡粉、硫酸バリウム、黃鉛、プルシヤンブルー、辨柄等である。

(iV) 窯業

(1) セメント 滿洲事變前には大連郊外周水子に小野田セメント會社工場あるのみで河北省唐山の支那同業者に壓されて居た有樣であつたが事變後建設進行の目覺しさと國境の出來た事により一躍8工場年產能力100萬噸に垂んとするに至つた。

下表は社名、所在地、能力を示す

社名及所在地	年產能力
小野田セメント會社	
周水子工場(大連)	25 萬噸
鞍山工場(鐵滓セメント)	11 〃
滿洲小野田洋灰公司(泉頭)	10 〃
大同洋灰公司(吉林)	10 〃
撫順セメント會社	10 〃
哈爾賓洋灰公司	12 〃
本溪湖洋灰公司	10 〃
滿洲洋灰公司(遼陽)	9 〃

以上の中撫順セメントは頁岩油工場で使用しない油母頁岩粉鑛を粘土の代りに用ゐるもので滿鐵中央試驗所の發明にかかる世界獨歩のもの、滿鐵の經營にかかる。

(2) 耐火煉瓦 耐火材料の原鑛石は其種類多く珪石、マグネサイト、

ドロマイト及礬土頁岩の豐富なるを特長とする。大連窯業株式會社（耐火煉瓦を主とす）と鞍山、本溪湖の製鐵所附屬耐火煉瓦工場とを主とし外に大陸窯業株式會社（資本金50萬圓大連）及撫順窯業株式會社（資本金100萬圓）等がある。

（3） **マグネシアクリンカー** 南滿鑛業株式會社以下7軒の小企業者が大石橋附近にあり。マグネシアクリンカーを歐洲に輸出してゐる、外に化學工業原料として900°C位に燒いた輕燒マグネシア及建築材料リグノイド等をも製造する。

（4） **ドロマイト工業** 關東州、大石橋、本溪湖の三方に分れ數個のドロマイト企業あり關東州の南滿ドロマイト工業會社最も盛大である。耐火材料として出す外輕燒せるものはドロマイトプラスターとして利用される。

（5） **硝子工業** 板硝子は滿鐵及旭硝子の共同出資による昌光硝子株式會社（資本金300萬圓）あり、フーコール式9基年產80萬箱の能力を有する。普通硝子製品は南滿硝子株式會社（資本金30萬圓）により代表せられる、日本のカツトグラスは元同社によつて養成されたエキスパートにより起されたもので國產カツトグラスの先驅をなしたものであることは特筆すべきことである。

（V） 其他化學工業

（1） **アルミニウム** 滿洲に豐富な礬土頁岩からアルミニウムを製造する爲に滿鐵及滿洲國によつて滿洲輕金屬株式會社（資本金2500萬圓）が設立され目下工場建設中である。昭和13年6月運轉開始の豫定である。礬土頁岩を電氣爐で還元して粗アルミナ及フエロシリコンの二層に分ち更に之を濕式法によつて精製した純良なるアルミナを得之を電解する。

生產能力は年4000瓲、電力は撫順炭礦のボタによる低廉なる電力を使用する。

（2） **製糖工業** 滿洲事變前南滿洲製糖株式會社が資本金1000萬圓を以て奉天及鐵嶺に甜菜糖工場を經營したことがあつたが失敗し、哈爾賓の阿什河製糖廠（波蘭人支那人共同）も同樣休止して居たが事變後政治的壓迫の解消と僅少の輸入稅增加に力を得て健全なる發達を示すに至つた。

舊兩社の工場は國策により創設された滿洲製糖株式會社（資本金1000萬圓資本は內地製糖會社の聯合）により繼承せられたが、北滿の方が他の作物と相對的に甜菜の栽培が農民に受入れられ易いのと、輸入糖の運賃諸掛割高なるとにより條件が良い。將來北滿ではまだまだ發展するだらう。

（3） **麥酒工業** 南滿は日本人が抑へ北滿は日本人進出の哈爾賓麥酒會社及大滿洲忽布麥酒會社の外に露滿人經營の9社（內3社休止中）がある。

滿洲麥酒會社は大日本麥酒、キリン麥酒兩社の聯合で第一工場はサツポロ第二工場はキリンを製造する。北滿の麥酒工場は概して設備不完全小規模である。

（4） **酒精工業** 北滿に露滿人等により10餘の酒精工場があり共倒れの結果昭和8年合同して日滿合辨の大同酒精株式會社となつた。南滿には奉天に特產工業會社、大連に關東州興業會社あり全滿の生產能力138 800石であるが中には舊式で使用に堪えぬものがある。木材を原料とするショーラー法は東拓によつて企業されんとし、既設

工場も無水酒精の生產を目指して擴充されやうとしてゐる。

（5） **製紙及パルプ工業** 鴨綠江製紙株式會社（安東）は多年苦難の行路を經て今日あるに至つた既設では殆どユニークな存在である、拂込資本金180萬圓年產能力サルフアイトパルプ15000瓲、グラウンドパルプ2 500瓲、之を大部分自家用として紙13 000瓲を生產し得る。外に六合造紙廠（資本金150萬圓）、安東造紙公司（50萬圓）、松浦製紙工場（15萬圓）、撫順製紙工場（12萬圓）等がある。

滿洲國統制による新設の木材パルプ4會社はいづれも人絹パルプ年產15000瓲（第1期は10 000瓲）を目指し資金も1 000萬圓均一である。

會社名	資本系統	工場地
東滿洲人絹パルプ	鐘紡系	開山屯
滿洲パルプ	寺田系	樺林
日滿パルプ	王子系	敦化
東洋パルプ	川西系	石蜆

鐘紡は大川系で計畫された上記の東滿洲人絹パルプを引受けたのみならず別に營口附近の葦を原料として資本金500萬圓の康德葦パルプ會社を興し人絹パルプ2 000瓲、製紙用パルプ1 300瓲の年產をあげ樣としてゐる。

福井縣の酒井伊四郎氏等の研究により大豆莖からパルプの製造が計畫され滿鐵、滿洲國の援助出資を得て滿洲豆桿パルプ會社（資本金1 000萬圓）の設立を見、開原に人絹パルプ1萬瓲の工場を設立することとなつた。以上6社は目下鋭意工場の建設中である。

（6） **製鹽業** 滿洲國內に於ける現存鹽田は14萬町步其產鹽28萬瓲に及び外に關東州に8 600町步25萬瓲の生產がある。

鹽の生產擴充の爲昭和11年日滿合辨の滿洲鹽業股份有限公司が設立され資本金500萬圓を以て鹽田の新設並に既設鹽田の擴張を行はしめることとなつたが其計畫姑息で將來の見透を缺いて居たので着々修正されつつある。

工業化學會滿洲支部編

增訂改版 **滿洲の資源と化學工業**

菊判604頁 定價4圓 送料22錢

——◇內容◇——

I	資源	VIII	金屬工業
II	油脂工業	IX	燃料工業
III	食品及釀造工業	X	酸アルカリ工業
IV	畜產工業	XI	其他の化學工業
V	纖維工業	XII	新興工業
VI	製鹽業		附錄
VII	窯業		附表

——御用命は弊社代理部へ——

滿洲國ニ於ケル化學製品ノ輸出表 (大同元年—昭和7年—1932年)

品名	單位	大同元年 數量	大同元年 金額	大同2年 數量	大同2年 金額	康德元年 數量	康德元年 金額	康德2年 數量	康德2年 金額	康德3年 數量	康德3年 金額
ベンゾール	米ガロン	.....	.....	378 404	165 534	320 810	120 692	845 099	331 503	1 716 081	795 748
石鹸(家庭及洗濯用)	瓲	42	11 372	9	1 211	10	1 357	2	293	2	295
ワニス	〃	10	3 120	19	5 211	8	2 093	8	2 418	.....	72
曹達	〃	.....	.....	1	65	2	94	12	437	.....	9
硫安	〃	28 362	1 569 638	33 738	1 756 591	28 734	1 717 696	99 328	6 051 084	177 083	11 423 631
化學藥品		.....	280 031	.....	8 704	.....	19 466	.....	27 624		
香水及白粉		.....	4 237	.....	.....	.....	.....	.....	20 575	.....	1
塗料		.....	.....	.....	55 247	.....	56 933		78 222		109 154
其他化學藥品		.....	152 431	.....	74 847	.....	121 762	.....	317 029		
クレオソート		.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	69 267	2 446	110 993
ナフタリン		.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	58 188	1 207	106 067
アスファルト及コールタール		.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	88 346		235 576

滿洲國ニ於ケル化學製品輸入表 (大同元年—昭和7年—1932年 滿洲國外國貿易統計年報ニ依ル)

品名	單位	大同元年 數量	大同元年 金額	大同2年 數量	大同2年 金額	康德元年 數量	康德元年 金額	康德2年 數量	康德2年 金額	康德3年 數量	康德3年 金額
醋酸	瓲	60	40 386	108	72 094	276	137 266	251	103 977	308	152 359
鹽酸	〃	158	23 650	425	33 895	419	39 061	906	80 838	1 681	135 523
硝酸	〃	34	8 026	222	56 185	426	92 178	426	89 454	315	70 355
硫酸	〃	241	44 014	946	76 438	1 193	115 626	702	82 433	545	69 057
其他酸類	〃	86	72 168	1 383	288 658	319	120 339	223	150 789	166	105 999
硫安	〃	5 033	831 932	54	8 741	630	63 340	369	39 614	694	114 289

晒粉	〃	770	74 006	557	123 375	967	111 030	1 609	137 382	860	71 221
カーバイト	〃	1 857	237 368	2 696	326 444	3 055	333 821	3 357	393 900	5 013	546 637
工業用火藥	〃	.....	70 520	.....	317 136	.....	351 221	996	735 451	658	495 451
グリセリン	〃	123	83 214	276	155 299	260	165 672	376	276 966	321	313 213
人造肥料	〃	848	82 208	3 336	177 348	5 103	217 852	12 429	717 771	11 702	520 377
燐	〃	41	54 612	41	2 083	3	2 439	.....	.....	.....	.....
鹽酸加里	〃	140	70 654	325	191 788	287	130 517	499	157 582	427	153 800
殺蟲劑	〃	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	476 244	.....	443 995
硝石	〃	131	60 748	49	15 471	11	4 080	.....	.....	.....	.....
硫黄	〃	2 998	177 960	2 831	351 639	2 582	146 518	507	45 762	2 039	156 487
曹達灰	〃	6 625	819 280	14 243	1 522 154	15 874	1 607 886	16 571	1 600 522	19 852	1 632 918
苛性曹達	〃	683	149 718	3 279	654 835	1 265	207 194	4 085	730 368	2 367	308 651
硝酸曹達	〃	801	123 036	1 108	123 473	1 118	99 403	1 370	156 396	935	86 407
硅酸曹達	〃	30	4 876	142	20 317	221	29 714	252	38 053	181	18 566
硫化曹達	〃	212	56 206	838	86 518	622	78 962	721	75 029	652	53 495
其他曹達類	〃	1 856	254 372	2 090	342 869	786	193 833	884	209 838	1 796	319 827
アルコール	英ガロン	408 589	369 420	435 075	333 200	.....	382 028	.....	519 815	.....	226 612
其他化學品											
(A)鹽化マグネシウム	瓲	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	61 957
(B) 〃	〃	.....	1 158 708	.....	1 780 683	.....	2 122 474	.....	1 990 542	.....	2 917 197
其他藥品	〃	.....	2 038 598	.....	2 441 360	.....	3 433 767	.....	4 431 948	.....	6 184 200
工業用糖酒	英ガロン	45	102	1 830	1 902	11 724	11 839	.....	.....	.....	.....

滿洲國ニ於ケル化學製品ノ再輸出表

（大同元年—昭和7年—1932年）

	大同元年		大同2年		康德元年		康德2年		康德3年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
醋酸	6	4 954	6	2 950	4	2 072	9	4 923		
鹽酸	〃 7	1 130	34	4 151	38	5 981	5	690	貿易統計年報未發行ニ就キ不明	
硝酸	〃	552	3	556	6	840	.....	.....		
硫酸	〃 19	2 444	22	1 711	3	367	5	440		
其他酸類	〃 63	42 644	43	24 254	13	9 120	46	25 509		
硫安	〃	.....	15	2 084	200	17 901	143	19 585		
曹粉	〃 2	364	1	500	5	1 155	4	462		
カーバイド	〃 813	100 098	390	43 476	193	20 188	30	2 893		
工業用火藥	〃	8 268	.....	8 268	.....	2 447	.....	.....		
グリセリン	〃 2	820	2	1 121	2	1 076	11	5 945		
其他人造肥料	〃 2	146	17	1 524	39	2 123	80	12 114		
鹽酸カリ	〃 5	3 502	3	1 978	15	6 236	8	1 201		
硫黃	〃 656	63 130	.....	.....	6	30	.....	.....		
曹達灰	〃 138	17 458	266	25 439	.....	55 347	928	96 049		
苛性曹達	〃 51	10 572	613	82 460	463	42 805	51	7 515		
硝酸曹達	〃 8	1 226	.....	.....	.....	.....	.....	1		
硅酸曹達	〃	.....	3	459	.....	5	1	65		
其他曹達類	〃 54	30 364	25	10 236	44	21 866	65	22 445		
アルコール	瓦 194 629	208 732	96 070	87 533	97 436	99 819	.....	78 219		
其他化學藥品	.....	122 760	.....	56 779	.....	37 415	.....	63 397		
其他藥品	.....	193 586	.....	117 516	.....	109 371	.....	194 020		

昭和9年ノ滿洲ニ於ケル工業種別生産額並工場内容調

工業種別	主國籍	工場數 總數	操業	休業	原動機 實馬力數(H.P) 電動機	其ノ他ノ原動機	實出資額（圓）	常時職工數	職工延勞働時間	生産 實數(圓)
化學工業	總數	810	799	11	25 297 61	12 165 50	(3)52 437 752	19 010	50 377 643	123 258 680
	日本	92	90	2	23 476 11	4 067 00	37 556 252	7 910	21 866 794	54 108 039
	滿洲	712	703	9	1 703 50	7 698 50	(2)12 390 700	10 563	26 554 939	65 607 738
	合辨	1	1	...	.....	50 00	1 670 000	105	228 060	591 013
	其他	5	5	...	118 00	350 00	(1)320 800	432	1 727 850	2 951 890
窯業	總數	12	12	...	53 68	.....	983 126	205	480 677	377 661
	日本	5	5	...	43 68	.....	926 626	113	282 871	183 346
	滿洲	7	7	...	10 00	.....	56 500	92	197 806	194 315
	合辨	...	...	...	.....	.....	.....	.....	.....	.....
	其他	...	...	...	.....	.....	.....	.....	.....	.....
製藥業	總數	14	14	...	587 00	106 00	2 852 477	364	913 222	1 914 038
	日本	8	8	...	587 00	56 00	1 163 677	231	651 762	1 283 715
	滿洲	3	3	...			3 000	20	21 742	7 650
	合辨	1	1	...	.....	50 00	1 670 000	105	228 060	591 013
	其他	2	2	...	.....	.....	15 800	8	11 658	31 660
製鹽業	總數	1	1	...	18 00	.....	288 145	64	147 560	165 340
	日本	1	1	...	18 00	.....	288 145	64	147 560	165 340
	滿洲	...	...	...	.....	.....	.....	.....	.....	.....
	合辨	...	...	...	.....	.....	.....	.....	.....	.....
	其他	...	...	...	.....	.....	.....	.....	.....	.....
製硝酸業	總數	5	5	...	287 00	.....	991 990	209	561 083	1 148 681
	日本	4	4	...	287 00	.....	856 990	201	544 283	975 281
	滿洲	...	...	...	.....	.....	.....	.....	.....	.....
	合辨	...	...	...	.....	.....	.....	.....	.....	.....
	其他	1	1	...	.....	.....	55 000	8	16 800	173 400
製硫業	總數	33	32	1	136 20	.....	594 032	249	594 600	728 334
	日本	7	7	...	74 20	.....	496 850	96	254 267	383 453
	滿洲	26	25	1	62 00	.....	97 182	153	340 333	344 881
	合辨	...	...	...	.....	.....	.....	.....	.....	.....
	其他	...	...	...	.....	.....	.....	.....	.....	.....
製曹達業	總數	30	30	...	25 50	.....	194 883	280	634 994	631 324
	日本	1	1	...	.....	.....	35 000	4	19 680	3 975
	滿洲	29	29	...	25 50	.....	159 883	276	615 314	627 349
	合辨	...	...	...	.....	.....	.....	.....	.....	.....
	其他	...	...	...	.....	.....	.....	.....	.....	.....
製鹽業	總數	34	34	...	426 30	.....	1 469 325	709	1 980 951	1 648 009
	日本	5	5	...	426 30	.....	1 425 875	504	1 370 925	1 563 626
	滿洲	29	29	...	.....	.....	43 450	250	610 026	84 383
	合辨	...	...	...	.....	.....	.....	.....	.....	.....
	其他	...	...	...	.....	.....	.....	.....	.....	.....
其他製藥業	總數	12	12	...	8 603 00	2 979 00	8 761 342	900	2 390 696	3 703 155
	日本	12	12	...	8 603 00	2 979 00	8 761 342	900	2 390 696	3 703 155
	滿洲	...	...	...	.....	.....	.....	.....	.....	.....
	合辨	...	...	...	.....	.....	.....	.....	.....	.....
	其他	...	...	...	.....	.....	.....	.....	.....	.....

（昭和9年滿洲工場統計ニヨル）（滿洲國、關東州を含む）

額 千分率	原料及材料使用額 (圓)	燃料使用額 (圓)	職工賃銀 (圓)	電氣使用量 (K.W.H)	瓦斯使用量 (立方米)	1勞働時間當リ生產額 (圓)	生產額 實出資額
277.7	104 699 562	1 574 937	4 171 427	53 367 797	807 689 789	2 447	2.35
121.9	42 297 993	675 562	1 726 761	52 074 774	807 689 789	2 474	1.44
147.8	61 324 334	841 120	2 304 234	1 285 837		2 471	5.09
1.3	185 011	52 452	88 362	......		2 591	.35
6.6	892 224	5 803	52 070	7 186		1 708	.92
.9	171 238	12 765	67 579	34 934	㊥ 17 385	786	.38
.4	92 057	11 142	31 655	27 601	㊥ 17 385	648	.20
.4	79 181	1 623	35 924	7 333	......	982	3.44
......	......	......	......	......	......	......	......
......	......	......	......	......	......	......	......
4.3	746 694	69 767	165 826	1 547 478		2 096	.67
2.9	527 685	16 707	72 847	1 546 748		1 970	1.10
.0	6 858	245	2 402	544		352	2.55
1.3	185 011	52 452	88 362	......	......	2 591	.35
.1	27 140	363	2 215	186	......	2 716	2.00
.4	152 351	5 926	7 619	13 561	......	1 120	57[illegible]
.4	152 351	5 926	7 619	13 561	......	1 120	57[illegible]
......	......	......	......	......	......	......	......
......	......	......	......	......	......	......	......
......	......	......	......	......	......	......	......
2.6	545 768	17 849	35 304	234 523	㊥ 57 428	2 047	1.2[illegible]
2.2	478 060	14 799	31 304	227 523	㊥ 57 428	1 972	1.14
......	......	......	......	......	......	......	......
......	......	......	......	......	......	......	......
.4	67 708	3 050	4 000	7 000	......	10 321	3.1[illegible]
1.6	589 754	9 402	57 107	78 954	㊥ 3 843	1 225	1.2[illegible]
.9	342 931	3 251	19 575	41 234	㊥ 3 843	1 508	.77
.8	246 823	6 151	37 532	37 720	......	1 013	3.5[illegible]
......	......	......	......	......	......	......	......
......	......	......	......	......	......	......	......
1.4	462 344	6 515	47 256	23 204	......	994	3.2[illegible]
.0	2 625	55	144	250	......	202	.1[illegible]
1.4	459 719	6 460	47 112	22 954	......	1 020	3.9[illegible]
......	......	......	......	......	......	......	......
......	......	......	......	......	......	......	......
3.7	1 176 477	22 633	141 609	324 382	......	832	1.1[illegible]
3.5	1 134 791	22 633	114 223	321 979	......	1 141	1.1[illegible]
.2	41 686	......	27 386	2 403	......	1 383	1.9[illegible]
......	......	......	......	......	......	......	......
......	......	......	......	......	......	......	......
8.3	1 766 966	28 529	286 925	12 635 900	586 449 600	1 549	[illegible]
8.3	1 766 966	28 529	286 925	12 635 900	△ 580 887 600 ㊥ 5 562 000	1 549	[illegible]
......	......	......	......	......	......	......	......
......	......	......	......	......	......	......	......
......	......	......	......	......	......	......	......

工業別	主國籍別	工場數 總數	操業	休業	原動機實馬力數(H.P) 電動機	其ノ他ノ原動機	實出資額 (圓)	常時職工數	職工延勞働時間	生產實數 (圓)
豆油製造業	總數	359	350	10	4 352 83	8 643 50	(2)17 779 063	8 514	21 513 062	87 172 429
	日本	17	15	2	2 975 83	595 00	6 994 428	1 375	3 630 597	24 725 499
	滿洲	342	334	8	1 317 00	7 698 50	(1)10 784 635	6 903	16 364 513	61 410 100
	合辦	...	...	...	......	......	......	......	......	......
	其他	...	...	1	60 00	350 00	......	236	1 517 952	1 036 830
豆油以外ノ植物油製造業	總數	16	16	...	17 50	......	(1) 25 383	76	173 088	69 748
	日本	...	...	...	......	......	......	...	......	......
	滿洲	16	16	...	17 50	......	(1) 25 383	76	173 088	69 748
	合辦	...	...	...	......	......	......	...	......	......
	其他	...	...	...	......	......	......	...	......	......
…油製造業	總數	1	1	...	485 00	......	735 519	106	384 020	1 177 361
	日本	1	1	...	485 00	......	735 519	106	384 020	1 177 361
	滿洲	...	...	...	......	......	......	......	......	......
	合辦	...	...	...	......	......	......	......	......	......
	其他	...	...	...	......	......	......	......	......	......
…業	總數	53	53	...	3 636 00	360 00	5 925 093	1 459	4 492 461	3 772 525
	日本	3	3	...	3 566 00	360 00	5 190 000	658	2 274 767	3 492 309
	滿洲	50	50	...	70 00	......	735 093	801	2 217 694	280 216
	合辦	...	...	...	......	......	......	......	......	......
	其他	...	...	...	......	......	......	......	......	......
…肥製造	總數	1	1	...	686 00	73 00	1 718 841	328	1 078 344	1 572 567
	日本	1	1	...	686 00	73 00	1 718 841	328	1 078 344	1 572 567
	滿洲	...	...	...	......	......	......	......	......	......
	合辦	...	...	...	......	......	......	......	......	......
	其他	...	...	...	......	......	......	......	......	......
…業	總數	191	191	...	218 00	......	1 775 074	1 896	5 376 888	4 001 313
	日本	3	3	...	25 00	......	624 000	58	220 000	149 270
	滿洲	187	187	...	135 00	......	901 074	1 658	4 975 448	2 142 043
	合辦	...	...	...	......	......	......	......	......	......
	其他	1	1	...	58 00	......	250 000	180	181 440	1 710 000
…ーク…	總數	5	5	...	3 745 10	400	6 174 353	1 147	3 028 981	10 982 851
	日本	5	5	...	3 745 10	400	6 174 353	1 147	3 028 981	10 982 851
	滿洲	...	...	...	......	......	......	......	......	......
	合辦	...	...	...	......	......	......	......	......	......
	其他	...	...	...	......	......	......	......	......	......
…炭	總數	8	8	...	434 00	......	227 814	251	706 620	573 296
	日本	6	6	...	434 00	......	227 114	241	682 126	570 653
	滿洲	2	2	...	......	......	700	10	24 494	2 643
	合辦	...	...	...	......	......	......	......	......	......
	其他	...	...	...	......	......	......	......	......	......
…化…業	總數	44	44	...	1 586 50	......	2 021 292	2 253	5 920 396	3 620 048
	日本	23	23	...	1 520 00	......	1 937 492	1 884	4 905 915	3 175 638
	滿洲	21	21	...	66 50	......	83 800	369	1 014 481	444 410
	合辦	...	...	...	......	......	......	......	......	......
	其他	...	...	...	......	......	......	......	......	......

（括弧内ノ數字ハ實出資額不詳ノ工場數ヲ示ス）

額 千分率	原料及材料使用額 (圓)	燃料使用額 (圓)	職工賃銀 (圓)	電氣使用量 (K.W.H)	瓦斯使用量 (立方米)	1勞働時間當リ生産額 (圓)	生産品賣
196.4	85 913 472	988 863	1 965 177	5 994 026	.....	4 052	4.99
55.7	26 512 363	191 807	261 208	5 004 426	.....	6 810	3.54
138.3	58 603 733	794 666	1 658 114	989 603	.....	3 753	5.09
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
2.3	797 376	2 390	45 855	.....	.....	683	2.96
.2	50 080	1 922	1 284	28 698	.....	403	2.77
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
.2	50 080	1 922	1 284	28 698	.....	403	2.77
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
2.7	918 048	24 847	19 045	3 657 147	⊕ 73 080	3 066	1.06
2.7	918 048	24 847	19 045	3 657 147	⊕ 73 080	3 066	1.06
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
8.5	1 659 284	176 475	265 993	11 719 650	.....	840	.61
7.9	1 585 316	162 711	133 235	11 613 332	.....	1 535	.77
.6	73 918	13 764	132 758	106 318	.....	126	.58
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
3.5	556 183	.....	97 148	1 856 069	⊕4 323 000	1 458	.91
3.5	556 183	.....	97 148	1 856 069	⊕4 323 000	1 458	.91
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
9.0	1 699 555	14 457	266 025	87 264	.....	744	2.25
.3	130 230	1 364	15 212	3 560	.....	679	.25
4.8	1 569 325	13 093	250 813	83 704	.....	431	2.38
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
3.9	.....	.....	.....	.....	.....	942	6.84
24.6	5 725 161	129 145	279 561	11 655 703	216 736 277	363	1.76
24.6	5 725 161	129 145	279 561	11 655 703	□148 767 628 ⊕ 67 968 649	363	1.76
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
1.3	385 603	1 725	47 631	1 043 837	.....	813	2.58
1.3	384 874	1 725	46 325	1 043 695	.....	837	2.58
.0	729	.....	1 306	142	.....	108	3.70
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
8.2	2 180 634	64 117	409 684	2 432 464	⊕ 29 176	611	1.71
7.2	1 988 352	60 921	310 735	2 426 046	⊕ 2 176	647	1.64
1.0	192 282	3 196	98 949	6 418	.....	438	5.31
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....

昭和9年ノ關東局管内ニ於ケル工業

工業主國籍別		工場數 總數	操業	休業	實出資額	生産額	通常ノ作業狀態ニ於ケル職工數	職工給與額
化學工業	日本	80	78	2	37 117 052	53 171 219	7 107	1 575 666
	滿洲	130	121	9	5 324 179	40 381 784	3 588	548 268
藥業	日本	4	4	...	826 626	165 076	103	28 142
	滿洲	...	...	...	.....	.....	.....	.....
藥品製造業	日本	8	8	...	1 163 677	1 283 715	231	72 847
	滿洲	...	...	...	.....	.....	.....	.....
料製造業	日本	1	1	...	288 145	165 340	64	7 619
	滿洲	...	...	...	.....	.....	.....	.....
飼料製造業	日本	4	4	...	856 990	975 283	201	31 723
	滿洲	...	...	...	.....	.....	.....	.....
繪製造業	日本	7	7	...	496 850	383 453	96	19 575
	滿洲	3	2	1	15 932	18 355	6	1 116
燭製造業	日本	1	1	...	35 000	3 975	4	144
	滿洲	9	9	...	50 183	150 402	74	10 314
藥類製造業	日本	5	5	...	1 425 875	1 563 626	504	114 223
	滿洲	...	...	...	.....	.....	.....	.....
油製造業	日本	2	2	...	8 761 342	3 703 155	900	286 925
	滿洲	...	...	...	.....	.....	.....	.....
豆油製造業	日本	14	12	2	6 978 228	24 674 192	1 359	257 419
	滿洲	102	94	8	5 163 541	40 032 175	3 373	520 553
豆油以外ノ植油製造業	日本	...	...	...	.....	.....	.....	.....
	滿洲	3	3	...	8 783	14 574	17	1 284
工油製造業	日本	1	1	...	735 519	1 177 361	106	19 045
	滿洲	...	...	...	.....	.....	.....	.....
紙業	日本	3	3	...	5 190 000	3 492 309	658	133 235
	滿洲	2	2	...	2 291	10 632	35	4 042
造肥料製造業	日本	1	1	...	1 718 841	1 572 567	328	97 148
	滿洲	...	...	...	.....	.....	.....	.....
革業	日本	2	2	...	600 000	84 540	40	6 312
	滿洲	11	11	...	83 449	155 646	83	10 959
ークス製造業	日本	5	5	...	6 174 353	10 982 851	1 147	279 561
	滿洲	...	...	...	.....	.....	.....	.....
炭製造業	日本	5	5	...	226 114	567 620	237	45 148
	滿洲	...	...	...	.....	.....	.....	.....
他ノ化學工業	日本	17	17	...	1 639 492	2 376 156	1 129	176 600
	滿洲	...	...	...	.....	.....	.....	.....

種別生産額並工場內容調

原料及材料使用額	燃料使用額	原動機實馬力表（H. P）總數	電動機	電動機以外ノ原動機	電氣使用量（K. W. H）	瓦斯使用量（立方米）
41 818 037	653 921	26 984 11	22 857 11	4 037 00	51 364 241	807 689 78[illegible]
39 090 614	418 204	4 454 50	397 50	4 057 00	394 952	……
84 257	7 992	43 68	43 68	……	27 601	石炭ガス 17 38[illegible]
……	……	……	……	……	……	……
527 685	16 707	643 00	587 00	56 00	1 546 748	……
……	……	……	……	……	……	……
152 351	5 926	18 00	18 00	……	13 561	……
……	……	……	……	……	……	……
543 625	14 799	246 00	246 00	……	227 523	石炭ガス 27 42[illegible]
……	……	……	……	……	……	……
342 931	3 251	74 20	74 20	……	41 234	石炭ガス 3 84[illegible]
12 192	512	……	……	……	……	……
2 625	55	……	……	……	250	……
125 384	2 130	10 00	10 00	……	12 375	……
1 134 791	22 633	426 30	426 30	……	321 979	……
……	……	……	……	……	……	……
1 766 966	28 529	11 582 00	8 603 00	2 979 00	12 635 900	其他 580 887 6[illegible] 石炭ガス 5 562 0[illegible]
……	……	……	……	……	……	……
26 470 880	190 790	3 515 83	2 950 83	565 00	5 004 143	……
38 829 681	412 899	4 375 50	318 50	4 057 00	346 734	……
……	……	……	……	……	……	……
9 899	844	17 50	17 50	……	11 326	……
918 048	24 847	485 00	485 00	……	3 657 147	石炭ガス 73 08[illegible]
……	……	……	……	……	……	……
1 585 316	162 711	3 926 00	3 566 00	360 00	11 613 332	……
3 367	270	5 00	5 00	……	2 971	……
556 183	……	759 00	686 00	73 00	1 856 069	石炭ガス 4 323 0[illegible]
……	……	……	……	……	……	……
66 848	877	15 00	15 00	……	1 520	……
110 091	1 549	46 50	46 50	……	21 546	……
5 725 161	129 145	3 749 10	3 745 10	4 00	11 655 703	發生爐ガス 148 767 6[illegible] 石炭ガス 67 968 6[illegible]
……	……	……	……	……	……	……
383 434	1 725	434 00	434 00	……	1 043 695	……
……	……	……	……	……	……	……
1 556 936	43 934	977 00	977 00	……	1 717 836	石炭ガス 29 17[illegible]
……	……	……	……	……	……	……

満洲ニ於ケル工業別會社數資本金調

（満洲銀行年鑑ニヨル）

年	業種別	株式會社 社數	株式會社 公稱資本金	株式會社 拂込資本金	合資會社 社數	合資會社 資本金	合名會社 社數	合名會社 資本金	合計 社數	合計 資本金
昭和九年	紡績及染色工業	15	15 267 500	9 334 250						
	化學工業	37	58 740 000	32 330 000						
	金屬及機械器具工業	18	127 520 000	81 857 500						
	製材及木製品工業	20	12 905 000	4 562 500						
	食料品工業	37	39 595 000	19 645 000						
	其ノ他ノ工業	12	15 230 000	3 935 500						
	窯業及鑛業	39	18 260 000	7 750 000						
	電氣瓦斯	7	38 450 000	33 925 000						
昭和十年	紡績及染色工業	15	15 387 500	9 794 250	10	329 000	…	……	26	15 716 500
	化學工業	36	58 900 000	33 740 000	24	2 327 000	3	29 000	63	61 256 000
	金屬及機械器具工業	18	132 420 000	95 332 500	35	1 288 650	6	515 000	59	134 223 650
	製材及木製品工業	21	13 005 000	4 662 500	42	1 771 800	3	25 200	66	14 802 000
	食料品工業	38	43 095 000	20 695 000	61	2 397 450	11	706 800	110	46 199 250
	其ノ他ノ工業	16	17 330 000	5 020 500	29	543 300	5	183 000	50	18 056 300
	窯業及鑛業	40	17 660 000	8 130 000	61	3 381 850	10	571 000	111	21 612 850
	電氣瓦斯	6	36 450 000	32 300 000	…	……	…	……	6	36 450 000
昭和十一年	紡績及染色工業	15	23 357 500	14 014 250	9	324 000	…	……	24	23 681 500
	化學工業	36	58 900 000	42 240 000	25	1 842 000	4	59 000	65	60 801 000
	金屬及機械器具工業	21	140 240 000	101 742 500	38	1 298 650	6	515 000	65	142 053 650
	製材及木製品工業	25	14 105 000	6 297 500	43	1 937 800	3	25 200	71	16 068 000
	食料品工業	42	47 020 000	23 553 750	74	2 641 450	15	1 324 800	131	50 986 250
	其ノ他ノ工業	18	17 610 000	5 350 500	44	814 300	7	292 000	69	18 716 300
	窯業及鑛業	42	18 390 000	9 885 000	61	2 929 000	11	578 500	114	21 897 500
	電氣瓦斯	5	11 700 000	11 017 500	…	……	…	……	5	11 700 000

川南工業株式會社
曹達灰
板硝子 販賣總代理店
日本バルブ製造株式會社
特約代理店

INC
國際商事株式會社
大阪市東區北濱三丁目二二
電話北濱(23)一一四五番
五七四七番

朝鮮の化學工業

緒言

朝鮮の工業は施政以來官民の協力により逐年著しき進展を見た。殊に最近數年間に於ける進展は實に目覺しきものがあつて舊來の面目を全く一新した觀がある。而して始政當時極度に疲弊せる大衆農民を擁する半島に於て、之が農民生活の安定を計り民度の向上を圖進するは當時に於ける施設の最も急要するところであつた。從つて其指導方針は農業本位であり工業方面の調査研究等十分ならざりしこと、半島に賦存せる資源に關しては一般の認識を缺き從て資本家の工業に對する關心淺薄なりしこと、工業に關し全面的に立遲れの感あり、加ふるに先進日本の製品進出の爲め斷へず其重壓を蒙り進展を著しく阻害したること、內地先進事業家は半島を消費地として玆に企業するの勿かりしこと、更に又半島は農業國としての使命を達成せんとし工業は寧ろ第2次的のものと考へたること等が半島の工業の促進を阻害したる主なる原因と考ふることが出來る。然るに時勢の進運は半島の眞の姿を再檢討する必要に迫られ、其結果地下資源に就ては金の增產特殊地下資源の發見開發となり、棉花栽培及緬羊飼育、亞麻栽培に最適する半島の特殊なる地位は滿洲北羊の政策の確立と實行に着手し亞麻栽培の奬勵となり其成績顯著なるものがあり、又北鮮地方に於ける大電力の確保と統制の完備、勞働賃銀の低廉なると其素質良しきこと等は工業朝鮮として立ち上るべく十分の資格あることは內外の確認するところとなつた從て最近の進展は殊に著しきものがある。卽ち昭和9年の工產額は4億3千萬圓、昭和10年には6億7百萬圓、昭和11年には7億3千萬圓と其增加率は實に顯著である。然れ共其內容を檢討すれば工產額の大半は尙未だ家內工業若しくは副業の所產であり近代的所產は尙未だ少ないが新工場の設備漸く整ひ全能力を發揮するとき工產額の著しき增大は疑ひを容れざる所である。而して最近に於ける急速なる進展は內地產業との摩擦を生じ、內地產業と關聯せる統制問題が近來著しく擡頭せるに依りても工業朝鮮としての地位が內外に重要視せらるるに至つた事を雄辯に物語るものである。玆に永年沈衰せる工業狀態は特に一大飛躍をなさんとしてゐる。

工業の現勢

資源の開發助長、大電力の確保と統制、勞働力の豐富低廉等企業條件に有利なる認識を得て最近著しき進展を見た。而して新興工業として擧げ得らるるものに窒中窒素固定工業、硬化油工業、石炭液化工業、澱粉工業、ビール工業、紡績工業、麻布工業、人絹工業製紙工業、石油工業、火藥工業、精鍊工業等國策上重要なる工業相次て興り新設擴張或は計畫中のもの頗る多くなつた。更に新たに製鐵事業の計畫あり或は又各種の重工業興りつつある盛況にして今後益々斯業の進展を期待し得られ、前途洋々たるものがある。而し

て赴戰江水電、長津江水電、寧越火力發電其他の完成により化學工業の分野に屬するもの頗る多く、加ふるに鴨綠江水電の開發により更に豐富なる電力を得らるるによりて之を消化利用すべく各種化學工業の計畫を進めつつあるので、其將來は化學工業の進運に期待せらるる所が頗る多い。最近3ヶ年に於ける工産額は次表の通りである。

	昭和9年	10年	11年
	單位千圓	單位千圓	單位千圓
紡織工業	67 791	82 327	99 477
金屬工業	9 660	26 988	33 735
機械器具工業	9 481	11 525	13 503
窯業	12 472	17 563	21 876
化學工業	91 150	147 834	195 430
木製品工業	7 271	8 243	9 936
印刷工業	11 237	12 744	13 133
食料品工業	137 670	169 420	199 883
瓦斯及電氣工業	12 831	39 803	39 988
其他	78 834	91 026	103 842
總額	438 401	607 476	730 806

資　　源

由來半島は氣候、風土、地勢等內地の夫等と異なる點を多分に見出すことが出來る。從て半島の産物には其特殊性を認め得らる。棉花の栽培、緬羊の飼育は半島の風土に適應するを以て重要なる政策として之が增産を計畫し其實績顯著なるものがある。勿論之を以て我が國の需要を充たすことは困難なるが之が增殖は國際貸借上に於て深き意義を有するものと信ずる。又地下資源に於ても金の賦存は普遍的なるを以て現下の情勢は之が增産に努力したる結果年と共に其産額は增大した。現今一層之が施設に萬全を期する所あるを以て明年度には更に其産額を著しく增大するものと信ずる。之と同時に既存資源の實態は漸く明確となり、且又珍貴なる各種資源の登場を見て其將來益々有望なりとの認識は內外共に深くなつた。更に又半島特有なる地形を利用することによりて赴戰江、長津江、黃水院、鴨綠江等に於て大電力を得られ之を消化利用すべく化學工業續々として起り或は新設を計畫しつつある實情である。次に重なる資源に就きて概說すれば次の通りである。

生産額調（昭和10年）

（單位千圓）

農業生産		944 426
林業生産		114 005
畜産業生産		46 488
水産業生産	漁獲	65 967
	水産製品	65 014
鑛業生産		88 039
工業生産		607 476

（i）農産物

(1) **米** 産米增殖計畫により品質も向上し釀造米として良質のもの多く産す。1ヶ年の生産額は1800萬石に上り、品質向上により內地に移出せらるるもの約900萬石に達す。

(2) **麥** 朝鮮の風土は粘質の小麥を生産する。特に西北鮮地方に産するもの硬質にして蛋白質に富み濠洲又は米國産に比して遜色なしと云ふ。産額は190萬石ある。大麥は約800萬石を産し麥酒原料として良く目下增産計畫中である。將來は朝鮮の麥酒工業は主として朝鮮麥を使用するを目標とする。大麥は南鮮地方に多く産す。

(3) **大豆** 朝鮮の風土は大豆の生産に好適するを以て良質美質を以て聞え食用大豆として內地市場に聲價を博しつゝあり、蛋白質に富めることは豆腐味噌醬油等の原料として優良である。

全鮮各地に産するが咸北東海岸、咸南京畿道及江原道の漢江流域に産するは古來より優良として知らる。生産額は約400萬石にして將來增産は可能である。

(4) **玉蜀黍** 平北の鴨綠江岸特に義州を中心として栽培せられ、總作付面積の割は平安北道で同地方の主要作物である。昭和10年に於ける玉蜀黍の收穫高は71萬5千石である。漸次增加の趨勢にある。

(5) **馬鈴薯** 主産地は北鮮地方にして優良なるものを産す、年産約1600萬貫、無水酒精製造原料とし其增産を計畫せらるゝので其將來を期待せらる。

(6) **棉花** 昭和11年に於ける棉花栽培面積は23萬町步に達し其約7割は陸地棉である。昭和10年生産額實棉2億1300萬斤に達した。朝鮮に於ける棉花增産計畫は昭和8年積極的に計畫を樹立し同年以降20年を期し面積50萬町步實棉生産6億斤を目標とし其第1期計畫として昭和17年まで10年間に作付面積25萬町步、産額3億斤を企圖したるが昭和9年に至り此計畫を强化し目標を35萬町步、4億2千萬斤に擴大せられ着々實施中である。在來棉は中部以北にて栽培せられ陸地棉は主として南鮮地方に限られたが、栽培技術の進步に依りて其地域は擴大せらるるに至つた。

(7) **繭** 古來養蠶業に適してゐるが從來餘り振はざりしが近來大に增産を計畫し100萬石を目標とし量と共に質の向上を計り略順調に進み現今は約70萬石に達し、其生産額は始政當初に比して約50倍となつた。

(8) **亞麻** 北鮮地方は亞麻の栽培に好適し昭和6年試作に成功したる以來年々生産を增加しつつあり、昭和10年には92萬瓩を産す。昭和9年以降10年間に栽培面積 000町步生産2400萬斤を目標として順調に計畫を進めてゐる。

(9) **麻** 大麻及苧麻は古來より栽培せられ大麻は約500萬貫、慶北、江原、平北等が主産地である。苧麻は全南北道を主産地として約15萬貫を産するが近來餘り産額は增さない。

（ii）林産物

(1) **漆** 平北の泰川、咸南の新興、江原の原州、慶南の咸陽等にある。漆液は年産額は約1000貫にして將來增産計畫の進捗につれて有望なものである。

(2) **アベマキ** コルク原料としてのアベマキの蓄積は現在240萬石にして江原道管內最も多く、慶尙北道、京畿道咸鏡南道之に次ぐ。而して其生産額は60萬貫である。江原道及其他に於て增殖計畫あるが故に將來增産可能である。

(3) **楮** 鮮內に於ける朝鮮紙和紙の唯一の原料は楮にして年産約180萬貫を産す。棉莖は和紙の補助資料として好適し其將來を期待せらる。

其他特用作物として藥草、荏、胡麻、蓖麻、甜菜、薄荷、除蟲菊等栽培に適するもの多く又ホップの試作に成功し之が增産を計りつつありて將來最も有望視せらるるものである。

（iii）畜産物

由來朝鮮の畜産は牛を以て代表せられた程其飼育は盛んにして農業經營上缺く可からざるものである。其他馬、豚等の飼養も近來盛んとなり畜産物の年産額は約400萬圓にして其重なるものを擧ぐれば次の通りである。

(1) **牛** 現今は約170萬頭ある。年々生牛を大凡7萬頭を內地に移出して

尙且つ年々約1萬3千頭の增加を見てゐる。牛皮の生產額は約400萬枚、價額250萬圓に達す。近來特に牛の增殖に努力しつつある。

(2) **綿羊**　昭和9年度より積極的に增殖計畫を樹立しユリデール種を奬勵品種と定め先づ飼育に適する咸南、咸北、平北、平南、江原、黃海等の農家に飼育せしめ之を全鮮に普及せんとし10年後に於て約10萬頭に達せしめ羊毛約30萬瓩を得る見込である。昭和10年の頭數9388頭、羊毛20 177瓩の生產ありて順調に遂行せられつつある。

(iv) 水產物

朝鮮は三面海を以て圍繞せられ海岸線の延長17 580粁に達し氣候潮流の關係等天惠豐かで水族の棲息亦頗る多く生產額1億3千萬圓に達するが、特に鰯漁獲高が最も多い。

鰯漁獲高及製造高

	昭和10年
まいわし	16 638千圓
魚　搾　粕	14 264〃
魚　　油	18 265〃

(v) 鑛產物

朝鮮に於ける主要鑛物は金、石炭、鐵、黑鉛等にして其特種鑛物として、マグネサイト、重晶石、明礬石、タングステン、水鉛、螢石更に窯業原料を產するが近來地下資源の探究は珍貴なるもの或は軍需資源が續々として發見せられ最近に於ける鑛產額は著しく增加した。昭和10年には8840萬圓に達した。其重なるものは次の通りである。

(1) **金**　金鑛の產地は全鮮普遍的なるも就中平北、平南、江原、咸南、忠南、忠北が主產地である。現在稼行しあるは約2800鑛區產額約5000萬圓に達す。年產80萬以上の產額を擧ぐるもの約20を算す。

(2) **黑鉛**　鮮狀と土狀とを產す、前者は平北を主產地とし、後者は慶北、忠北、咸南等である。

(3) **鐵**　鐵鑛は江原、平南、黃海、咸南、咸北、各道に產し現今の主要產地は黃海の載寧、殷栗、黃州、平南の价川、咸南の利原等で、目下主として採掘してゐるのは褐鐵鑛と赤鐵鑛である。埋藏量50％以上の品位のもの約2000萬噸と稱せられ年々約60萬噸を採掘し、其7割は兼二浦製鐵所にて消費せられてゐる。

咸南の端川郡及咸北茂山郡には大なる鐵鑛區がある就中茂山の磁鐵鑛山には推定埋藏量5億噸と稱せられ目下開發は進捗中である。品位は40～42にして低位にあるが選鑛比較的容易にして70％前後の品位に上げ得らるので將來有望なる鑛區として認めらる。其他未開のものに、慶南、金海及江原襄陽附近にも大なる鑛床發見せられ目下調査を進めつつあるが、要するに朝鮮には鐵鑛區に比較的惠まれてゐる。

(4) **石炭**　無煙炭と褐炭を產するが無煙炭は主として西鮮地方及江原、全南、慶南等に產す、埋藏量約14億噸、有煙炭は咸南北を主とし平南、黃海之に次ぐ、埋藏量約4億噸と推定されてゐる。最近は有煙無煙を合せて年約300萬噸を產す、無煙炭は多く內地に移出せられて聲價あり、有煙炭は品質優良ならずと雖も、低溫タール、石炭液化の原料として好適し最近は年約20萬噸を處理しつつあり。

(4) **タングステン鑛**　產地は主として黃海道谷山に產し、忠淸北道忠州等之に次ぐ。其產額は一時減退したるが昭和10年に876噸を產す。軍需工業活

況を呈するに至つて其增產は益々期待せらるるところである。

(6) **水鉛鑛**　主なる產地は全北長水鑛山最も多く產し、江原道金剛山附近慶北龍鳳水鉛鑛山、慶南三東鑛山等之に次ぐ。

(7) **明礬石**　主として全羅南道に產し、玉埋山鑛山、曉山鑛山、聲山鑛山等は埋藏量多く其他加沙島、長山島を合して最近の調査によれば總埋量3200萬噸以上にして目下稼行してゐるは玉埋山、曉山、聲山で約8萬噸の產出がある。アルミニウム製造原料に使用してゐる。

(8) **蠟土頁岩**　平壤炭田附近に產し滿洲復州粘土に類似なもので大同郡のは埋藏量は約700萬噸である。耐火粘土として優秀なるがアルミニウム原鑛としても其將來を期待されてゐる。

又窯業原料としては鮮內各處に各種鑛質の粘土長石等を產す、慶南の河東はカオリン、平南の江西カオリン及平原はカオリン等は有名である。白土は黃海載洲、忠南、瑞山、江原、高城等にある。耐火粘土としては平安の大同郡に產す。蛙目及蛙目としては生氣嶺最も有名にして咸北朱南其他にあり、長石は平安價西、慶南河東京畿始興等は有名なり滑石陶石、珪石等鮮內豐富に賦存してある。

(10) **重晶石**　代表的な產地は江原道咸北郡昌道鑛山で其他黃海道鳳山郡銀洞鑛山等に產し其埋藏量は相當莫大なものである。

(11) **マグネサイト**　咸南、端川、咸北、吉州等に大鑛床がある、埋藏量5億噸、耐火物又は金屬マグネシムウ原料として優秀なものである。

(12) **螢石**　黃海道載寧郡に產するもの最も有名にして其他江原、金化郡、咸南洪原郡等に於ても多量に產出する

以上は地下資源の重なるものに就て述べたるに過ぎざるが其他銅亞鉛鑛、硫化鐵鑛、雲母、珪砂、石綿、蠟石、アンチモニー鑛、ニツケル鑛、リチウム鑛、稀有土類金屬鑛等にして未だ開發せられざるものがある。之を要するに最近地下資源の開發により特殊鑛石の發見續々としてあり、鑛業界の將來は頗る有望である。

主要鑛產物產額

	昭和10年
金	12 400千瓦
石　炭	1 999千噸
銑　鐵	147千噸
砂　金	2 909千瓦
金　銀　鑛	58千噸
鐵　　鑛	228〃
銅　　鑛	97〃
銀	
黑　　鉛	45〃
銅	2 169千瓩
水　鉛　鑛	105〃
高　嶺　土	33千噸
明　礬　石	81〃
螢　　石	9〃
鉛	1 728千瓩
タングステン鑛	875〃

朝鮮の化學工業

最近朝鮮に於ける資源開發は著しく進捗し各種重要なるもの發見增殖の成績著しきものがある。北鮮地方に於ける大水力電氣の完成に依て企業を促進し勞力亦低廉、販路は今後鮮內需用增加見込充分なると且又滿蒙北支へと

廣汎なる市場を控へ、地理的にも有利なると、將又南洋其他海外貿易の途拓けたるにより全般的工業の進展を見て頗る活況を呈するに至つたことは已に述べた通りである。特に化學工業は其最も著しいものである。以下重なるものに就て概述することにする。

（i）陶磁器工業　窯業原料は優良なるもの多く產することは既述の通りであるが現在鮮內に於て大規模の工場は釜山にある日本硬質陶器株式會社あるのみで、其他會寧、生氣嶺、京畿驪州、京畿、江華島目永登浦、平壤等にあるが何れも小規模のものである然れども之等小工場にて增產計畫を樹て或は會社組織に改めんとし、或は各地に窯業工場建設の計畫漸く興る機運となり、其將來に期待をかけられるのである。最近の生產額は約300萬圓程度である。

（ii）硝子工業　全南、黃海等には優良なる珪砂を產するが從來硝子工業は興らず原料は殆ど全部を內地其他に移出してゐる。京城、平壤、釜山其他各地に小規模の工場あるのみである。最近釜山を初め各地に輸出電球が盛んになりつつある。現在硝子製品の產額は約40萬圓で微々たるものである。

(iii) 煉瓦工業　普通煉瓦は大都市附近にある工場にて生產し自給してゐるが、耐火煉瓦の原料は鮮內に多量に產するが其製造は遲々として振はざる憾みがある。平壤、會寧、生氣嶺等にて小規模に生產し約10萬圓の產額あるものと思ふ。日本製鐵兼二浦工場にて鑛滓煉瓦及耐火煉瓦を製造してゐるが自家用に供してゐる。タイルは平壤にて極めて少量の生產がある。鹽田タイル製造に就ては計畫中なるも未だ製造するの域に達してゐない。尙北鮮城津に於て端川產マグネサイトを原料としクリンカー及耐火煉瓦の製造に着手した。

(iv) セメント工業　鮮內には各所に優良なる原料あるを以て大正6年頃平壤府外勝湖里に小野田セメント會社工場が建設せられ、次で同社は咸南川內里、咸北の古茂山に相次で工場を建設し、前者は最新式窯を增設何れも昨年より操業し目下江原三陟にて新工場を建設である。又宇部セメント系朝鮮セメント會社は黃海龍塘浦に工場建設を終りて本年操業した。淺野系の會社も黃海道に建設中である。昭和10年の生產額756萬6千噸である。

（v）琺瑯鐵器工業　從來京城に富田琺瑯鐵器工場1つあるのみなりしが昭和7年末釜山に朝鮮琺瑯會社設立された後多くの會社が出來た。現今では前記の外に、東洋琺瑯、小佐琺瑯鐵器、釜山鐵器エナメル等の工場が建設操業しつつあつて最近著しく盛況を呈し生產高200萬圓を超へ輸出も100萬圓を突破するに至つた。

(vi) 輕金屬工業　鮮內豐富なるマグネサイトはクリンカー其他に利用せらるるが輕金屬工業として野口系の日本マグネシウム金屬會社が設立せられて製造に着手した。又明礬石を以てアルミニウム製造を計畫中である。現今にては明礬石は主に內地に移出し日本電工及住友に於て消費せられつつある。

(vii) 人造肥料工業　昭和9年朝鮮窒業肥料會社咸南興南に設立せられ昭和5年赴戰江水電完成と共に硫安の製造を開始し、硬化油其他の事業を兼營することになつた。然るに其後電力の不足を來たしたるの故を以て新に長津江水電の工を起し、昭和10年第1期の工事完成後は電力不足を補ひて硫安製造能力50萬噸に擴大することが出來るやうになつた。尙同工場にては過燐酸石灰、硫燐安の製造工場を建設し、更に石灰窒素工場をも建設した。硫安の製造は日本製鐵兼二浦工場にても副產物として製造してゐる。尙に朝鮮電力株式會社寧越火力發電所の一部完成を見て三陟に石灰窒素製造工場を三陟開發會社にて建設中である

(viii) 石炭低溫乾餾工業　北鮮地方に產する褐炭利用工業として昭和8年咸北永安に低溫乾餾工場が建設せられたが昭和10年新たに朝鮮石炭工業株式會社を創設して之に經營を移した。同工場にては揮發油、重油パラフイン、コーライト、メタノール、フオルマリンを製造し更に人造樹脂、チノライト等を製造するに至つた。昭和11年秋より咸北龍峴に日鮮鑛業會社及北鮮石炭液化工場は建設殆どなり操業の運びになつた。此工場は我國に於ける最初の液化工場にして其將來は液體燃料國策上重要なる工場である。

(ix) 石油精製工業　昭和9年7月石油業法に先ち釜山に立石商店製油工場はボルネオ產油を以て石油精製造に着手した。又昭和11年より操業したるものに朝鮮石油株式會社元山工場がある。原料油北米加洲產等を以てする。

（x）植物油製造工業　植物油脂の生產額は年約440萬圓にして其3分の1は工場生產である。半島には荏胡麻、玉蜀黍、蓖麻、棉實等を相當に產し、且又滿洲產大豆を利用するにも地利を得てゐるので斯業は有望である大豆油工場は從來新義州に日陞公司分工場あり、最近淸津に三井系北鮮製油株式會社は滿洲大豆を原料とする大豆油工場が操業を開始した。棉實油は日華製油株式會社木浦工場にて製造してゐる。原料棉實は現今に於ても相當にあるが棉花增產計畫の進捗につれて將來有望なる事業である。玉蜀黍油は平壤日本穀產工業株式會社にて製造してゐる。更に半島に於ける製米所は大規模のものが多い。從つて糠の收集容易なるが故近來糠油の製造工場の實現を見た。

卽ち釜山、仁川等の大製米所にては糠油の製造を兼營してゐる。又北鮮地方に於ける亞麻の栽培進捗すれば亞麻仁油工業も有望と考へらる。最近京城に建設せられたものに太陽製油株式會社がある。胡麻、棉實、大豆等食用油の製造を目的とするものである。

(xi) 魚油製造工業　最近朝鮮東海岸に於ける鰯漁獲高は年と共に增加しつつある。從て鰯油製造業は頗る活況盛大を極めてゐる。沿岸に於ける工場數は頗る多いが大部分は極めて原始的のもので其中工場經營のものを擧ぐれば、林兼淸津油肥工場、日本食糧工業漁大津工場、香椎鰯油肥漁大津工場、朝鮮油脂會社淸津工場公海興產株式會社淸津工場等がある從來は主として魚油は內地に移出したが近來では硬化油業の勃興によりて鮮內の消費量著しく增大した。尙製油所にては搾粕肥料、フイシユミールを多量に製造し且之を加工して調味料製造を計畫しつ

つあるものあり、其他明太油、肝油等も製造せらる。

(xii) 薄荷製造業 其生産は約30萬圓にして微々たるものなるが南鮮地方は栽培に好適なるを以て將來は進展し得るものと信ずる。

(xiii) 硬化油工業 東海岸清津附近より江原道沿海地方にては鰯漁獲年1億萬貫以上であるが從來は內地に移するのみであつたが昭和6年朝鮮窒素肥料株式會社工場に於て硬化油事業を開始し、次で昭和8年朝鮮油脂株式會社清津工場に於ても硬化油製造を開始した。生産能力は兩社を合せて約3萬5千噸である。硬化油を分解してグリセリン、脂肪酸を製造し、脂肪酸より石鹸製造をなしてゐる。

(xiv) 火藥工業 朝鮮に於ては從來火藥の製造を禁止してゐたが昭和8年より許可制の下に製造を認むることになつたので朝窒傍系の朝鮮火藥株式會社工場を興南に設立し朝窒製造のグリセリンを原料としてダイナマイトを更に黑色火藥導火線をも製造してゐる。尙最近に至り鮮內に尙1つの火藥製造會社の設立を見ることにならう

(xv) ゴム工業 鮮內のゴム工業は主として鮮人向ゴム靴製造業にして何れも小規模のものにして平壤、京城、釜山等が主産地である。年産額約1000萬圓に達す。就中大なるは三和ゴム株式會社である。

(xvi) 製紙工業 楮を原料とする朝鮮紙は紙質强靭なるを以て古來聲價を高め支那に多量の輸出があつた現今に於ても鮮內各地に小規模の抄紙場散在するが設備何れも不完全統一定せざる憾あるを以て當局にても之が改善向上の爲め努力してゐる。

大規模の工場として大正8年より操業しつつある王子製紙會社新義州工場は鴨綠江材を原料としてパルプ及包裝紙を抄造してゐる。昭和11年北鮮製紙會社北鮮吉州工場が完成せられた。同社は咸鏡南北道に大なる蓄積しある落葉松を以て原料としてパルプ特に人絹パルプ製造をなしてゐる。

(xvii) 皮革工業 朝鮮皮革株式會社は明治44年に設立せられた鮮內に於ける有力なる皮革會社である。太田皮革株式會社は太田にあり、此兩社は鮮內に於ける主要皮革工場にして其他小規模の製革所は鮮內各地にある。

(xviii) 工業藥品製造業 朝鮮窒素肥料株式會社興南工場、日本製鐵兼二浦工場等に於て硫酸を製造するが何れも自家用に供するのみである最近朝窒本宮工場に於ては苛性曹達、晒粉、鹽酸を製するが之又主として自家用に供するのである。炭化石灰、石灰窒素は朝鮮窒素肥料株式會社にて製造するが、又寧越火力發電の完成に伴ひ三涉に於ても製造をなすべく目下工場建設中である。

(xix) 釀造工業 和酒釀造は鮮內需要增加に伴ひ近來著しく活況を呈し、京城、仁川、釜山、平壤、馬山等には大規模の工場がある。燒酎は粳米、高粱、雜穀又は糖蜜等を原料とし各地に新式の工場多數ある。朝鮮には藥酒、濁酒等があるが小工場の生産である。當局の指導に依りて將來大量生産を目標とする傾向が多い。麥酒釀造業は昭和8年末朝鮮ビール株式會社、昭和キリンビール株式會社相次て京城近郊永登浦に工場を建設し、同9年より製品は市場に出た。將來は原料麥及ホップは大部分鮮産品を使用し得る見込の下に頗る盛況を呈してゐる。葡萄酒は慶北浦項三ツ輪農場にて其他鮮內に小規模の釀造場がある。

醬油、味噌の原料には鮮産大豆が好適してゐるので京城、仁川、釜山、平壤等各地にて優良品を生産してゐる。

(xx) 澱粉工業 昭和5年に平壤に於て創設せられた日本穀産工業株式會社は玉蜀黍を主要原料として澱粉、葡萄糖、飼料等を製造し其後順調に生産を擧げてゐる。

(xxi) 精糖工業 大正6年に設立せられた大日本製糖株式會社にては初め甜菜糖と精製糖を製造しつゝありしが現今は原料の關係で精製糖のみを製造してゐるのである。

結言

以上朝鮮に於ける工業に就て概說したが之を要するに最近數年間に於て朝鮮の工業は劃期的の躍進を見るに至つた。卽ち昭和9年は工産額4億3800萬圓、翌10年には6億1千萬圓、同11年には7億3千萬圓の産額を擧ぐるに至つた。特に化學工業の進展は目覺しきものがある。卽ち昭和9年には9100萬圓10年に1億6千萬圓、昭和11年は1億9500萬圓と增加し、昭和11年は前年に比し增加率約32%にして其增加率の多きは各業種を通じて第1位を占むるものである。又鑛業は25%の增加を示してゐる。新に計畫せられたものも之れあるに依りて玆數年間は化學工業を始め各業種共に其躍進は持續するものと信ずるのである。

工場數と職工數

(昭和11年末現在)

	工場數	職工數
紡織工業	402	33 830
金屬工業	259	6 787
機械器具工業	344	7 939
窯業	336	8 269
化學工業	1 425	41 972
製材及木製品工業	271	4 106
印刷製本業	286	6 273
食料品工業	2 258	32 617
瓦斯及電氣業	50	812
其他の工業	296	5 394
合計	5 927	148 799

石川留吉・谷口長一郎著

金鑛製錬法

四六判・布裝 價 2.50 〒 .15

緒言、混汞法、青化法、金銀鑛の選鑛、雜錄等より成り、朝鮮鑛業會社主催の鑛業技術員養成講習會の講義を基とし、朝鮮で現業中の鑛山より諸種引例せり。

御用命は弊社代理部へ 振替東京 79086番

正しき分析は正しき藥品より

化學藥品界の最高權威

小島の鹿印……鹿印の小島

鹿　印「保　證」
鹿　印「最　純」
鹿　印「純　　」

◎御注文には品位を御指定下さい

小島化學株式會社

東京市日本橋區本町三丁目五番地四
電話日本橋(24) 1756. 1757
2052. 4630
工場　東京市王子區神谷町二丁目一二二二
電話赤羽2511
埼玉縣草加町（電話草加179）

台湾の化學工業

一　般

本邦唯一の熱帶地方として臺灣の本邦化學工業に貢獻する所も又重要なものがある。其特徴とする所は當然其地理的位置にあるのであつて、臺灣が光と熱と水に惠れてゐる事は他の何れの地方とも比較にならぬ所である。今東京と臺灣南部の工業地恒春との氣候的條件を比較すれば次の如くなる。

	日照時 時/年	氣温 度	降水量 mm/年	濕度 百分率
東京	2111.7	14.0	1562	74
恒春	2381.5	24.4	2175	78

其結果高温多濕を利用する農產物が其工業資源の第一を占め之に林產物が次いでゐる。即ち砂糖、茶、アルコール、樟腦、石油、酒、煙草、食鹽等が臺灣化學工業の根幹をなしてゐる。

今臺灣に於ける工業の發達を支配すべき各素因につき考察して見やう。先づ燃料としては北部に石炭あり、中部に石油及び天然ガスがある。何れも產額多量であつて本島工業の需要を充して余りあり、多量に移輸出を行つてゐる。此他に中部の山間に在る日月潭を利用して建設せる14萬キロの發電所があり、島内各地の火力發電所と共に電氣化學の重要資源をなしてゐる。

臺灣は約40年以前に日本が領有したものであつて、其土人の大部分は昔對岸より渡來せる支那系臺灣人であつて其後渡來せる内地人の數に臺灣人に比して非常に少數である。其結果農民の中には少數の内地人移民もあるが大部分は臺灣人であり、工場勞働者の數も全職工數68773人中臺灣人は64296人であつて94%に相當する。是等臺灣人はよく臺灣の氣候風土に慣れて粗食勤勞に耐へる。

島内運輸の主なるものは鐵道であつて、北の端の基隆市に起り途中總督府所在地臺北及其他の重要都市を連結して南端高雄港に終つてゐる。此間本線を助けて農村各地の連絡を行つてゐるのに製糖會社の私設鐵道があり其の全長は2600哩に及び本島產業界に貢獻する所は大きい。南北の陸上交通は如斯完備してゐるが、東西兩部の間には中央山脈の大山脈が縱走する爲全く其交通は遮斷されてゐる。是を補ふに基隆高雄花蓮港を結ぶ沿岸航路がある。又其他にジヤンクのみに開放される小港も多數である。更に本島の位置は丁度南洋支那、日本内地の各地の中間に位する爲、中間工業地區として重要なる意義を有してゐる。

今總括的に本島工業發達の跡を述れば次の如くである。

工業生產額の發展

年次		實數圓	指數
大	1	46 934 121	100
	6	123 923 406	264
	11	133 930 293	285
昭	2	171 901 302	366
	7	212 602 757	453
	10	269 493 698	574

以上の諸條件を總括して臺灣の化學工業上の位置は化學工業原料製造地として重要であつて、未だ純粹の意味の

化學工業は發展の途中にあると云はねばならない。

各　論

(a) 甘蔗糖

臺灣農產物の主位を占めるものは米であるが、夫に次で大なるは甘蔗であり、臺灣工產物の主位を占むるものは甘蔗糖である。臺灣の甘蔗糖の歷史は相當に古く日本領有以前既に盛に製造して是を日本に向けて輸出してゐた。日本領有以後政府は製糖保護政策を採り大いに奬勵して現在の隆盛を見るに至つた。

會社(數)	工場(數)	資本金(圓)	能力(噸)	原料區域(甲)
9	51	245 720 000	42 980	657 611

臺灣の甘蔗栽培は南部が最も適當であるが現在では全島に行はれてゐる。

年期	甘蔗收穫高(千斤)	甲當收穫高(斤)	產糖高(千斤)	歩留(%)
6—7	12 605 719	122 503	1 648 415	13.08
7—8	7 879 320	104 485	1 056 207	13.40
8—9	7 650 145	97 449	1 078 405	14.10
9—10	12 191 821	110 807	1 609 420	13.20
10—11	11 832 479	102 785	1 502 798	12.70

年期	廢糖蜜產出高(千斤)	廢糖蜜割合%(對甘蔗)	バガス產出高(千斤)	バガス割合%(對甘蔗)
6—7	307 412	2.57	2 520 862	20.27
7—8	167 495	2.28	1 552 699	20.32
8—9	149 124	2.07	1 534 536	20.56
9—10	279 572	2.49	2 337 457	19.69
10—11	284 002	2.58	2 248 820	19.48

(b) 酒類及アルコール

共に本島に於ては總督府の專賣品である。酒類の大部分は臺灣在來の蒸溜未酒及其再製酒であつて、其他に清酒及藥酒が製造せられる。又アルコールは其原料の大部分を製糖副產物たる糖蜜に仰ぎ、本邦アルコール產額の主位を占めてゐる。近時無水アルコールの問題が起つて本島に於ても其製造が具體化されつつあるが其結果原料は糖蜜に限る事なく甘蔗汁及甘藷其他澱粉材料が是にあてられる事となるであらう

前表にて甲とは約1町歩の面積に相當する。甘蔗は苗甘蔗を二節位に切斷して之を挿植し、約1年半にて成熟する。多くは12月頃より製糖に供する。先づ畠で刈取りしものを工場に運搬し、是を壓搾して汁とバガスとに分離し、汁は淸淨、濃縮、結晶を行ひ製品となす。バガスは是は主として燃料に用ひてゐるが近時テックス及び紙の原料として供給せられる量が增加した。本島に於ける甘蔗糖の製造方法には二つある。即ち原料糖を目標とせる粗糖工場と白糖を目的とする耕地白糖工場であつて特に後者の製造は臺灣製糖技術の誇であつて、其の技術は先進國ジヤワを凌駕するに至つてゐる。尙上記のバガスの他に副產物として多量の糖蜜を產出するが其大部分はアルコール製造の原料として用ひられてゐる。

年期	酒類(瓶)	アルコール(石)
6	250 112	139 626
7	272 909	157 423
8	278 795	152 458
9	311 523	162 902
10	343 779	203 605

尙參考の爲甘藷の產額を擧げれば次の如くなる。

年期	面積(甲)	收穫高(千斤)
8	138 060	2 355 781
9	142 447	2 609 328
10	142 511	2 706 835

(c) バガス壓搾板

製糖工業の副產物たる甘蔗の纖維バガスは從來其まま燃料として製糖工場に消費されてゐたが近時其特性が認められてテックスの原料として需要が高まつた。又バガスは其約70%はセルローズ成分であるため製紙の原料としても注目され次第に工業化されんとしつつある現狀である。バガス壓搾板は建築用材として其應用範圍は極めて廣い

バガス壓搾板	
昭和 9	1 206 307 平方米
10	1 772 932
11	2 039 007

(d) 製　茶

臺灣にて製造せられる再製茶には三種ある綠茶、烏龍茶及紅茶である其中特徵のあるのはウーロン茶であつて特種の香氣を有し、更に又包種茶とて是に近き種類にて花香を付せるものがある。紅茶は近時茶樹の改良と製造方法の新式化によつて一段の發展をなし主として輸出せられつつある(千斤)

年期	ウーロン茶	包種茶	紅茶	綠茶
8	6 351	5 256	1 477	14
9	5 292	5 666	6 021	17
10	5 280	5 685	5 489	13

(e) パインアツプル罐詰

パインアツプルは古くより臺灣に於て栽培せられて其產額も多く又罐詰工業も明治40年後より行はれてゐる。本島の氣候が其栽培に適する爲其後大いに盛んとなり、又栽培品種も從來は主として臺灣在來種を栽培してゐたものをハワイより「スムースカイエン」種ボルネオより「サラワク」種を輸入して大いに品種の改良を行つた結果現在の如き盛大を致したのである。又販賣方面には合同鳳梨會社があり、品質と價格の統制に力めてゐる。

年期	在來種	外國種	計
8	5 084 248圓	1 087 909圓	6 172 247圓
9	5 354 248	896 206	6 250 454
10	6 516 529	1 311 753	7 828 282

(f) 樟　腦

臺灣に產出する樟腦は本島の中央山脈の高地に密生する樟より抽出せられし天然の樟腦であつて、其抽出の際に同時に副產物として本樟油、芳樟油が得られ、それ等は共に臺灣獨持の芳香料資源である。既に領臺以前より其製品は輸出されてゐたが、樟の濫伐の結果一時其前途を悲觀されてゐた、然し全島の山地には未だ樟の大森林が尙多く存在し且つ其後濫伐の取締りもよく行はれた。又樟腦採取方法もよく研究せられて增產せられつつある。昭和8年度の樟腦及副產物の賣渡高は次の如くである。因に本製品の販賣は專賣である。

樟腦	2 527 659斤	4 133 176圓
樟腦油(本樟油)	1 300 000	814 756
副產物	——	941 783
計		5 889 715

(g) 食　鹽

臺灣の西南地方の海岸は遠淺の地形

と定强度の風力のある爲古くより製鹽が行はれてゐた。

即ち海水を丘段鹽田に導き入れて濃縮より結晶迄行ふ天日鹽式の製鹽方法であつて其他に少量の煎熬鹽も製造せられる。天日鹽は其生産費が低廉であるため工業鹽の原料として用ひられる事が次第に多くなつたので當局に於ても大いに鹽田の擴張を奬勵し計畫の完成を急いでゐるが其の結果は5億瓲の製産が豫想されてゐる。昭和9、10年度の製鹽高は次の如くである。

年期	天日鹽	
9	160 763 206瓲	932 834圓
10	119 387 531〃	681 912〃
	煎熬鹽	
9	30 341 768瓲	676 621圓
10	28 932 916〃	645 204〃

(h) 澱粉

臺灣の澱粉製造工業は未だ盛なりとは云ふを得ぬも近時一般化學工業の發達と共に其重要資源たる事が認められて來つつある。甘藷澱粉、アロールート澱粉、キヤツサバ澱粉等であつて其産額は次の如くである。(昭和10年)

甘藷	アロールート	キヤツサバ
4 130 124斤	160 200	159 697

(i) 酒

臺灣に於ては酒類は總て專賣品に屬する。製造する酒類には清酒、蒸溜酒及再製酒がある何れも熱帶に適應する如く改良せられしものである。此の中主なるものは蒸溜酒である。

酒製造高(頭)		
昭8年	9年	10年
278 795	311 523	343 779

(j) 植物性油

植物性油類中臺灣の特産は落花生油である。主として食料に用ひられてゐる。其他胡麻油、大豆油、茶實油、桐油、菜種油等がある。其總産額は次の通りである。

年期	斤	圓
8	5 766 500	1 222 280
9	6 291 712	1 309 362
10	6 737 109	1 700 014

其他の化學工業

昭和9年	數量	價格(圓)
硝子	——	405 478
煉瓦	208 876千個	2 162 476
セメント	141 134瓲	3 810 618
硫酸	2 917 333貫	118 769
石鹼	——	1 025 750
紙	——	892 325
肥料	——	5 199 106
ビール	7 919石	527 296
醬油	93 311石	1 859 744
穀粉	25 781千斤	2 314 650
麵類	29 951千斤	3 042 317
昭和10年	數量	價格(圓)
硝子	——	111 360
煉瓦	261 580千個	2 914 168
セメント	145 549瓲	3 638 892
硫酸	2 793 583貫	145 298
石鹼	——	1 018 107
紙	——	1 473 830
肥料	——	6 057 116
ビール	9 403	579 826
醬油	107 145石	2 314 295
穀粉	23 757千斤	2 452 285
麵類	31 491千斤	3 504 448

化學圖書の御用命は弊社代理部へ

燃料協會編
最新燃料大觀
菊判 四九〇頁 價二圓五十錢 送・一四
本邦燃料界各方面の權威が蘊蓄を傾倒して最近五ヶ年に亘る燃料各般の重要事項を說き、國民の燃料知識の增進及燃料問題解決に資せんとする。燃料界の現狀がよく一卷に集約されてゐる。

工業化學會滿洲支部編 價四 圓 送・三二
滿洲の資源と化學工業
工學博士 厚木勝基著 價六圓八十錢 送・二二
改版 パルプ及紙
工學博士 小林久平著 上下(各)價六・五〇 送(各)・二二
石油及其工業
工學博士 龜山直人著 價六圓五十錢 送・二二
電氣化學の理論及應用 上卷

燃料協會編 價四圓五十錢 送・一四
實用燃料便覽
工學博士 辻本滿丸著 送七 圓 送・二二
肝油の研究
工學博士 上野誠一 岡村善策 共著 價五圓五十錢 送・二二
油脂實驗法
工學博士 田中芳雄 工學博士 喜多源逸 共著 (上)五・〇〇 (中)六・五〇 (下)五・〇〇 送各・二二
改版 有機製造工業化學

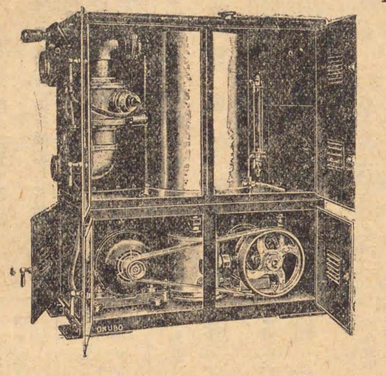
工學博士 荒木鶴雄著 價四 圓 送・一四
航空機の材料及化學
工學博士 大島義清著 價二圓五十錢 送・一四
燃料及燃燒概說
工學博士 田中芳雄 工學博士 安藤一雄 共著 上六・〇〇 中六・五〇 下五・〇〇 送各・二二
最近化學工業試驗法

東京日本橋通・本社電話日本橋(21) 2121・2131・振替東京5番
丸善株式會社
(東京—神田・三田・早稻田・丸ビル(日吉)—大阪・神戸 京都・名古屋・横濱・福岡・仙臺・札幌・京城)

特許アイデアルエアー瓦斯裝置

特許 77905 97956 97571 97957

E. B.



一〇〇型 毎時發生量一〇〇〇立方呎

本裝置はエアー瓦斯に不適當なる貯槽を廢除し之に代る自働調壓裝置室を以てし常に所要量丈の瓦斯を發生せしめ一定壓力を加へ瓦斯をして分解の機會を與へしめず直ちに使用する所の特許アイデアルエアー瓦斯裝置であります 尙本裝置には外氣濕度と使用揮發油の差違に拘らず或程度迄瓦斯の濃度を可及的一定ならしむる特許濃度自働調整裝置があり一方萬一の場合を考慮し危險性を完全に除去する特許自働電流遮斷式安全裝置を加設してありますから動作確實絕對安全で石炭瓦斯に比し熱量も高く且經濟で理想的のものであります

本裝置は瓦斯發生能力の大小に依り O.D. 5型、E.B. 10型、E.B. 20型、E.B. 30型、E.B. 50型、E.B. 100型等の標準型があります 型錄御申越次第御送附致します

理化學器械器具 度量衡器計量器

大久保器械店

東京市麹町區三番町三十番地

電話九段三〇四五番 振替東京五七三七〇番

南洋の化學工業

緒言

此處に謂ふ南洋とは、地理學的に云ふ廣い意味の南洋ではなく、歐洲大戰當時より貿易、企業等の關係で殊に我が國と密接なる經濟的關係を有するに至つた馬來群島を中心とする比律賓、英領北ボルネオ、サラワク、ブルネク蘭領印度、英領馬來、暹羅及佛領印度支那等を指すものである。斯の南洋の各地を通じて化學工業の發展してゐるのは蘭領印度で、暹羅、佛領印度支那之に次ぎ此等の內、世界產額の大半を占める錫採鑛業をはじめとして製糖、セメント、椰子油、ゴム、石油等は主なるもので其の規模も亦大である。

◇比律賓◇

比律賓に於ける工業は過去10ヶ年に著しき發達を遂げたが、比律賓其のものが原始生產を中心としてゐる關係上概して幼稚の狀態にあり、製糖、古々椰子油、煙草、セメント、製綱、製靑酒精製造、貝釦製造及刺繡等を除いては概して見るべきものなく、比島が工業化するには尙遠き將來を期待しなくてはならない。

◇佛領印度支那◇

佛領印度支那を工業的見地より見るとき所謂工業化への道程へは一步も前進せず全く取り殘された地位に置かれてゐると觀るべきであらう。即ち印度支那の工業は鑛產、農林產等の特殊的近代的工業を除いては全般に原產地消費を對象とする原始的小工業であると斷する事が出來る。染料、煉瓦、製油釀造、製糖、護謨加工等の工場が點在するも決して技術的、品質的に近代的面影は望み得ない。

◇暹羅◇

暹羅の經濟に於て工業の占むる位置は頗る貧弱である。然かるに最近歐洲資本の流入により先づ石鹼製造を手始めに燐寸、煙草の製造が行はるゝに至り、更に1934年に麥酒會社(暹羅資本)が設立され1936年には資本金100萬銖の製糖會社が設立され漸く近代的色彩をみるに至つたが、之とて未だ小規模のもので果して如何なる程度の發展を示すかは今尙未知數に屬する。

◇英領馬來◇

英領馬來に於ける工業の發達は最近の事に屬するが1931年クリメンチ總督就任と同時に馬來の產業化が叫ばれるに至り領內の工業化に對する十分なる素質と條件とにより今日では相當の成績を擧げてゐる。現在工業として擧げ得られるものは輸出護謨工業、錫精煉工業、罐詰製造工業、石油精製業、製油及油粕工業、石鹼工業、淸凉飮料水工業、麥酒工業等が擧げられる。

◇蘭領印度◇

蘭領印度は輸出を目的とする農園工業と領內消費を目的とする歐人製造工業及土人(含支那人)工業とに大別される。このうち近代的設備を有する歐人製造工業のうちセメント、麥酒、石鹼、製紙、硝子、鞣革、塗料、淸凉飮料水製造工業であるが、近年政府の產業保護奬勵により漸次工場の增設及新工業の勃興を見るに至り目下計畫中のものに飛行機工場、果物罐詰工業、曹

達工業等のものがあり、政府提唱の蘭印工業化の一歩を踏出しつゝあるが急速なる實現は困難のものゝ如くである以下南洋に開發嶽業されてゐる各種工業の概況を述べる事としよう。

製糖工業

(1) 比律賓 に於ける砂糖は比島の重要工業で糖業投下資本は米國商務省の發表によれば1935年7月末日現在2億7千5百37萬弗といはれ之が輸出高は逐年增加し1934年に於ては全輸出の56%、1935年に於ては35%を占めてゐる。當地に於ける斯業は1910年ミンドロ製糖會社が機械的製糖を開始したのを最初として1933年に46（內19はネグロス島に在）を算し生產能力は日產甘蔗7萬餘噸に達する。今日會社が甘蔗の耕作と製糖とを兼營してゐるものが大部分で、主製品は分蜜及粗糖の2種である。然し精製糖を生產する工場も1～2ある。1935年の砂糖、糖蜜の輸入は305 812 比で輸出は糖蜜497 300比で砂糖（セントリ眞糖、マスコバド、精糖）は 65 981 359 比である。

(2) 佛領印度支那 では交趾支那及安南地方に於て稍々盛んに行はるゝの外殆ど見るべきものがない。交趾支那の製糖工場は各川に沿ふて存在し堤岸が主要市場である。佛人資本を以て經營さるゝ製糖會社は4で土人資本小工場は225を算す。安南では褐色糖及糖蜜、糖汁が製造されその生產高は35000噸程度で東京ではハドン、ソンタイ等に小工場があり黑砂糖が製造されてゐる。尙東埔寨では家內工業として扇子（ローヂエ）から砂糖を生產してゐるが生產高は年約 2 000 噸である。1930–33 年 の精製糖の生產及輸入高は次の如し。

	領內生產	輸 入
1930年	3 105(噸)	14 780(噸)
1931〃	3 498 〃	9 244 〃
1932〃	4 130 〃	5 030 〃
1933〃	6 455 〃	2 856 〃

(3) 暹羅 に於ける斯業は餘りにも有名である。產糖は粗糖で大部分は國內にて消費され一部輸出されてゐたのであるが暹羅政府は最近に至りラムパーン縣に官營製糖工場を設立する事となり目下工場建設並に所要機械の入札を終り1937年末に操業開始の豫定である。尙1936年5月に資本金百萬銖の暹羅會社が計畫され日產能力 840 噸の壓搾機械を以て年額約10萬擔を精製する筈であつたが種々の事情により實現しなかつた。前記官營工場は大體右會社の計畫を繼承するものである。尙チョンブリ縣には日產 500 噸の製糖工場が計畫中で資本金20萬銖1937年中に事業開始の豫定で、暹羅に於ける糖業勃興の一現象として注目されてゐる。最近の砂糖輸入高は次の如し

輸 出	1933—34(年)	1934—35(年)	1935—36(年)
砂 糖	2 484(擔)	1 194(擔)	179(擔)
	10 009(銖)	4 507(銖)	880(銖)
輸 入	1933—34(年)	1934—35(年)	1935—36(年)
精 糖	36 264 566	38 245 020	43 454 932
	4 626 420	3 860 238	3 549 441
糖 蜜	4 188 054	6 527 370	12 944 742
	105 170	190 163	659 571

(4) 蘭領印度 に糖業が工業として發達したのは東印度會社がバタビア附近に工場を起した1637年が最初で、以來迂餘曲折今日の如き蘭印經濟界の鍵を握る重要事業の一となつたのであるが、其の後1830年フアン・デン・ボスの强制栽培制度が實施されると同時に官營となり1870年の土地法及1872年の砂糖法の施行により官營糖業の擴張は中止され、其等の經營は1891年以來民間に移され今日の爪哇糖業の基礎を固むるに至つたものであるが、其の間モレ病の發生と歐洲に於ける甜菜糖の勃興に伴ふ糖價の暴落に惱まされ、此れが對策として爪哇トラストの成立を見、更に1930年にはチヤドボーン案、翌年には甜菜糖生產諸國をも加入せしむる國際砂糖輸出制度協定の成立せらるゝに及び爪哇糖の輸出は蘭印政府統制の N.I.V.A.S（蘭印糖業組合）の管理の下に置かるゝに至つた。此の國際協定の結果は一般の豫想を裏切り、爪哇糖の不況は益々深刻化するに至り、1931年末より工場を閉鎖するもの續出し1932年1月末同年度の植付をなさざる工場は實に52の多數に上り1934年4月末現在全爪哇 173 工場中運轉を續ける工場は僅に50を算するに過ぎない狀態であつたが、最近市價の恢復と共に在庫高の減少を見事業は幾分立直りを見るに至つた。

爪哇糖の種類は1番糖（白双、中双黃双）2番糖（幼糖、赤双）裾物（セントリ眞粉及眞分）糖蜜（ハード・モラセス及ソフトモラセス）等がある。最近の產糖高は次の如し（單位百瓩）

1932年	25 601 829
1933年	13 725 850
1934年	6 361 040
1935年	5 096 590

次に輸出數量及金額は

	數量(噸)	價額(千盾)
1933年	545 869	62 126
1934年	1 373 996	45 462
1935年	1 396 566	36 075

尙1936年日本向輸出は

數量74 929噸、價額7 330千盾である

護謨工業

(1) 英領馬來 の生命線は何といつてもR. T. C. の三大物產で、就中護謨の消長は全領の景氣を左右する重要性を持つてゐる。世界一の產額を誇る馬來の護謨は世界生產額の過半數を供給して居り最近1934年には66萬噸2億7千萬弗の輸出を見、この半數が米國向である。玆には輸出向パラ護謨製造工業を謂ふのであるが、これは何れも栽培園內の工場で製造される。近年ラテックス其の儘の輸出も相當增加の傾向にあると謂はれてゐるが、尙700萬弗にしてパラ護謨總輸出額の40分の1に過ぎない。抑々護謨工業の濫觴は1921年支那人に依つてなされたズック靴の製造に初まり、今日では各種護謨、自動車及自轉車タイヤ、チユーブ、各種玩具、護謨タイル、ホース等に渉つて相當量の生產を見るに至つてゐる。然かるに生產數量及び品質的に不滿足な點も尠くない。護謨製品製造工場中主なるものは次の如し

(a) Singapore Rubber Works（新嘉坡）
資本金200萬弗、內拂込20萬弗
馬來最大の工場にして各種製品を產す。

(b) Nanyang Manufacturing Co.,（新嘉坡）
1927年の創立で護謨靴（日產5 000足）各種護謨玩具を製造してゐる。

（c）Samsong Shoes Co.,（新嘉坡）
皮靴及護謨靴の製造をなし日產4 500足に及ぶ。
右の他20有餘の小規模工場があり、當地最大の工場を有した Tan Kah Khee 工場は閉鎖せられた。

（2）**蘭領印度** に於ける護謨工業の代表的なものは在バイテ・ソゾルフ米資自動車護謨タイヤ工場たるグツドイーア工場及株式會社スラバヤ護謨工場スガゲルで、前者の量は近時增加する一方にある。1936年10月3日から1937年10月2日に至る本邦よりの自動車タイヤの輸入高は次の如し

タイヤ	1 262 000ブルト疋
チユーブ	60 100 〃

尙プリアンガンに主として栽培されるガタパーチヤは最近機械的方法で採取され大部分はチユーインガム原料として米國に輸出されてをり、其數量は年により異るも平均 4 000 噸前後である

麥酒、清凉飲料工業

（1）**佛領印度支那** に於ける麥酒、リモナード、曹達水、炭酸水等各種の清凉飲料水の製造は製氷業と合併して行はれ歐人及土人間に相當の需要がある。東京に於ては河內にオメル麥酒會社があつて麥酒、氷、炭酸水の製造を從事してをり、麥酒製造用として毎年ミユニヒのマルト・ビルゼン及ボヘミヤ產ホツプを輸入してゐる。オメル麥酒會社以外の麥酒製造は總て印度支那麥酒及氷製造會社で行はれて居り本會社の五工場の生產狀況は次の如し

河內工場　製氷年 6 000 噸、炭酸水及リモナード 0.35立壜詰年 125 萬本
海防工場　製氷 7 000 噸、同上 125 萬本
西貢工場　製氷 1時間に 5 噸の製
堤岸工場　麥酒 12 000 頉
プノンペン工場　製氷 2 150 噸、壜詰 15萬本

（2）**暹羅** に於ては最近迄全然外國品に依存してゐたが1934年6月暹羅資本に依り資本金 60 萬銖で Boon Rawd Brewery Co., Ltd が創立された。能力は月 4000～5000 箱で現在3種の麥酒を出してゐる。

1935-36年に於て日本より 1 011 752立 196 176 銖輸入されてゐる。製氷及び清凉飲料製造工場は60所餘ある。

（3）**蘭領印度** にはスラバヤの蘭領印度麥酒釀造會社の工場とバタビヤのアーキベル麥酒釀造會社の 2 工場の工場があり、前者は1931年11月後者は1933年4月末各々操業を開始したが日本品との競走により經營難に陷り從て政府は本工業保護のため1933年12月ビールの輸入割當制を實施したので現在では業績好轉し1935年の釀造高は.62 500頉に達した。因にスラバヤの工場は1936年初め本國のハイネケンス、ビール會社に買收された。

石油工業

（1）**蘭領印度** にはスマトラ油田、爪哇油田、ボルネオ油田、セレベス油田、ムナ（Moena）油田、チモル油田、セラム油田及ニウギネア油田が主なもので、現在採掘されてゐるものはスマトラ、爪哇、ボルネオ及セラムの油田であるが、この中ニウギネア油田は既に1936年より調査を開始されて居り完了次第試掘に著手される筈である。現在當領に於ける主なる石油會社は

A＝バターフセ石油會社（資本金3億盾全額拂込濟・資本の6割は和蘭、4割は英國資本）
B＝ネーデルランセ・コロニアル石油會社（米國スタンダード石油會社系資本金 2 450 萬盾拂込 1 000 萬盾・全部米國側の出資で、本社は資本金以外に1億盾の資本を注入してゐる）
C＝蘭印石油會社（資本金 1 500 萬盾でバターフセ石油會社と蘭領政府の合辦會社で、資本は全部和蘭投資であるが半分は政府の出資に係り、他の半分はバターフセ石油會社の出資である。
D＝蘭領ニウギネア石油會社（資本金100 萬盾で1935年海牙に設立されたが前述の如くニウギネア油田が目下調査中であり、收益はない）又日本の出資金18萬盾は、ボルネオ石油會社の資本金 200 萬盾中日本側の株金180 萬盾の10分の1拂込金で一見甚だ小額ではあるが、本社の油田開發に日本側の注入せる資本は實に數百萬盾と稱されてゐる故に實際投資額は相當多額に上つてゐる。

	1934年
原油（直接燃料として賣却）	806 285
原　油（製油原料）	538 328
ベ ン ヂ ン	1 521 287
ホワイトスピリツト	27 551
ケ ロ シ ン	806 398
輕油（ソラル油及デイゼル油）	1 938 607
潤　滑　油	25 630
パ ラ フ イ ン	71 049
アスファルト	8 853
イムプレグネーテイング・オイル	6 771
其他生產物及損失	144 876
計	5 940 635

日本向け輸出は次の如し

	1934年	1935年	1936年
數　量（瓲）	428 350	610 537	497 002
價額（千盾）	5 241	7 132	5 122

（2）**英領馬來** は嚴密にいへば本業は當領に存在しない。現在この方面に活躍するものに Asiatic Petroleum Co., 及 Socony-Vacuum corporation の兩社がある。前者は英國、後者は米國系である。何れも蘭印精製油を新嘉坡向ひ島に輸入の上當領及外領へ同社のオイル・タンカー其他で再輸出するものでその勢力は獨占的に近く第三者の介入を許さない。各種石油製品は不動の協

日本はボルネオ東海岸のサンクリラン灣附近に石油坑區を有し、目下採掘中であるが未だ產油を見てゐない。本坑區はオースト・ボルネオ會社の所有に屬するものであつたが、1929年日本石油會社と三井物產會社及オースト・ボルネオ會社の共資に依つて設立されたボルネオ石油會社の經營するところとなり事業は日本側が其の任に當つてゐるが事實上は日本の所有に歸してゐる。

當領最近の石油產出高は次の如し

1931年	4 698 050噸
1932 〃	5 093 164 〃
1933 〃	5 534 822 〃
1934年	6 054 737噸
1934年	6 081 685 〃
1936 〃	6 437 818 〃

各種石油物產の生產高は左の如し

	1935年	1936年(推定)
原油（直接燃料として賣却）	836 857	740 395
原　油（製油原料）	337 466	.....
ベ ン ヂ ン	1 750 760	1 762 800
ホワイトスピリツト	36 994	98 612
ケ ロ シ ン	816 263	988 088
輕油（ソラル油及デイゼル油）	2 072 347	2 217 183
潤　滑　油	22 940	63 886
パ ラ フ イ ン	58 411	63 126
アスファルト	10 254	9 740
イムプレグネーテイング・オイル	6 117	5 073
其他生產物及損失	283 138	366 966
計	6 231 547	.....

定の下に市價の維持が行はれてゐる。これ馬來に於けるガソリン代が世界の10指に入る位高價なる理由である。

酒精工業

（1）佛領印度支那 に於ける酒精工業は當領の重要工業の一である。1933年7月許可制に依る自由製造が可能となる迄は酒精製造業は個人には禁ぜられてゐてその製造權は河内に本社を有する印度支那釀造會社の獨占するところであつた。本會社は1901年資本金3300萬法を以て設立されたもので、河内、ハイジョン、南定、堤岸、ヴインタイ等に工場を有してゐる。本會社はアミロ式處理法を以て月當り酒精4500頓を生產するため設立されたもので1日當り100瓲精白能力を有する附屬精米所及白色澱粉、葡萄糖、乳糖等製造のために米より窒素を除去する設備を有してゐる。南定の第二工場は月5000頓、海陽工場5000頓、根岸5000頓である。南定及堤岸兩工場では糖蜜からラム酒を製してゐる。然して高級酒精及變性酒精は領内消費の外輸出をなしラム酒は全て佛本國に仕向けられる如上の大工場の外交趾支那にはマゼ釀造會社を始め10工場があり、東京には1933年バンヂエンに設立された東京釀造會社があつて土地の傳統的方法と近代的方法を併用して日當り3000立の酒精を製してゐる。

（2）比律賓 に於ては1930年度には糖蜜生產高の中15%のみ酒精蒸溜され5%は國内消費80%は輸出されたが逐年酒精原料としての價値が一般に認識さるゝに至り、現在では65%を酒精蒸溜用に供し輸出は約30%に迄減少した

（3）蘭領印度 の主要工業であるが最近の不況に鑑され目下不振狀態にある。爪哇酒精の主要仕向地は支那、英領印度で1934年度に於ける總輸出高は756萬5千立で蘭印自體に於ても燃料用酒精の消費は減退してゐる。

椰子油工業

（1）比律賓 に於ては1909年に初めて古々椰子油の工場が出來、其の後1918年には31を算する狀態となつた。然し1日の生產高僅に1300噸、年額80萬噸を需要してゐた爲、其の要求に副ふべく各所に增設された製油會社も世界の不況に連れて閉鎖せるもの多く今日では5～6の工場が存在してゐるに過ぎない。從て現在はマニラ、セブーサンバブロの生產能力を合し1月1萬2千噸未滿であらう。古々椰子油の等級に就ては目下の所砂糖、アバカ、煙草の樣に嚴格ではなく單に脂肪酸の多寡に依りその等級を定めてゐる。1935年の輸出は古々椰子油24509162比、イラン油20375比、ラムバング及其他は1110比である。

（2）邏羅 に於ては當領の盤谷に英國人經營と華僑經營との椰子油工場7ケ所あるが至つて小規模である。

（3）英領馬來 の代表的なものは椰子油で、この他落花生油、ゴム實油、コプラ油等があるも椰子油の比ではない。當領の最大工場は和豐油廠（設立は1931年、資本金300萬弗、拂込113萬3400弗）で主製品は椰子油である。

（4）蘭領印度 の椰子油の生產は有名である。この果肉コプラの油脂含有量は普通60—67%で純粹なものは無味無臭でオリーブ油及其他の代用品として使用される。又爪哇及外領のコプラ油も著名であるがコプラの實產高は不明である。製油業は全般的にみて著しく擴張され工場製油（土人式製油方法に依らず機械設備を有する工場の製造に係るもの）の消費が著しく增大し且つ輸出油は總て之の工場製のものである。爪哇に於ける工場油生產高は次の如し

1931年	約	106 825千立
1933年	〃	116 226 〃
1933年	〃	127 402 〃
1934年	〃	137 778 〃
1935年	〃	123 000 〃

又スマトラ東海岸に主として栽培さるる油椰子は阿弗利加に次ぐ第二位の生產國とされ、植付面積73 829陌（1934年）である。パームオイルは普通12%の遊離脂肪酸を含有し一果から2-3%の遊離脂肪酸を含有する28%の油を抽出する事が出來、この遊離脂肪酸の含有率が少いもの程優良品で1935年143463瓲（價額13 637千盾）1936年推定21396千盾（數量不明）の輸出を行つて居り逐年增加を辿つてゐる。

染料工業

（1）邏羅 に於ては往時は總て國内產植物染料を以て染色を行つたが、アニリン染料の發見後は殆ど後者を使用するに至つた。併し現今當國にて最も重大なる染色工業はマクルア（黑檀を產する樹）の漿果による染色業で、北部、中部及半島北部に行はれ、別に盤谷には本業專門の大工場が數ケ所あるが染色に於ては極めて堅牢度强く染色に依る纖維の弱りがない事が一般より買はれ年々多量の絹及綿反物が輸入され染色後再輸出されその量も最近5ケ年平均35 970卷（411.588 鉢）の多くに上つてゐる。

（2）蘭領印度 の代表的なものとしてはレグノールト社のスラバヤ及バタビア工場並にルハーク塗料會社のスラバヤ工場で、他に中小工場が6ケ所ある。レグノールト社の生產能力は約125萬瓲、ルハーク社の生產能力は60萬瓲で蘭印全體の總生產能力は約200萬瓲である。然し右能力では消費量の半ばにも達せず年々多量の輸入を行つて居る。

最近3ケ年の輸入額及日本よりの輸入數量は次の如し

	1934年	1935年	1936(推定)
數量(瓲)	9 865	11 004	——
價額(千盾)	5 176	5 047	5 147
日本よりは			
數量(瓲)	3 039	3 925	3 156
價額(千盾)	506	595	506

尙日本から輸入を受ける染料の種類及量、金額は次の如し。

	1933年	1934年	1935年
コールタール	710千立	975〃	2 405〃
	62千盾	85	132
アニリン染料	9ブルト瓲	12〃	47〃
	7千盾	13	54
其他の染料	914ブルト瓲	1 059〃	1 331〃
	223千盾	226	245

罐詰工業

（1）英領馬來 は世界產額の上より見て第二位を占め爪哇に次ぐ存在である。領内約65 000英反の栽培地より製產される年額66 000噸、700萬弗の罐詰を輸出して居り、ゴム、錫に次ぐ大宗產業で右の内約8割までは英本國で消費されてゐる。領内には16工場があり内一工場丈は閉鎖してゐる。

（2）佛領印度支那 に於ては東京にマニオク及アロールト、タプコーにジヤム及果物罐詰製造會社があり北部安南及老撾には獸肉罐詰會社がある。

セメント工業

（1）比律賓に於けるセメント工業は歐洲大戰前リサール州ラグーナ湖畔にセメント原料發見され、工場建設と共にリサール・セメントはマニラ市場に販賣さるゝに至つたが、品質は外國製に比して著しき遜色がある。加ふるに戰爭突發と同時に同工場技師全部獨逸に引揚げた爲工場の運轉は全然不可避となり今尙その儘放棄されてゐる現狀である。然るに比島に於ける建築事業の發達に伴ひ斯品の需要激增しその輸入額は每年100萬比以上に上つてゐる。比島政府はセブー島東海岸ナガ附近にセメント原料豐富なるのみならず石炭も採掘さるゝに著目し、特別契約の下に米人によりセブー・ポートランド、セメント會社を設立させ、比島國立興業會社の275萬比出資に依り1923年以來セメントの製造に著手した。同工場の生產能力は日產 1000樽で比島全島の需要に應ずる計畫であつたが運轉意の如くならず本邦品等に比して遜色あり、而も需要少きため政府は同工場を米人經營者より引受け少くとも政府關係工事は絕對に比島セメントを使用される事にした。

（2）佛領印度支那 に於ては資本金800萬法の印度支那ポートランドセメント會社の獨占で能力は年約16 700噸である。尙輸出數量は1935年32 300瓲530萬法である。

（3）遏羅 に於ては1913年國內原料の發見と共に盤谷直北 Bangsue に遏羅セメント會社の設立をみた。同社の製品は本邦品及丁抹品に及ばぬが近時は優秀に向ひつゝある。同社の能力は年當り70萬樽（約1億2千瓲）と云はれ原料の粘土及泥板岩は國內に、用炭は海外に仰いでゐるが斯業は當國製造工業中最も有望視されてゐる。輸入高は1935年—36年に於て 11 284 284瓲、價額は同期 163 869 銖である。

（4）蘭領印度 に於ては蘭領印度ポートランドセメント株式會社（パタソセメント）の經營する工場が1つあるのみで生產額僅少である爲年々多量のセメントを日本より輸入してゐるが、日本の金再禁止以後日本セメントの激甚なる競爭に苦しめられ製品の半分も販賣する事を得ざる狀態に陷り、1933年頭初に於ては月平均販賣高僅に24 000樽となり剩へ消費高は益々減少し經營困難の狀態となつた。從て政府に於ても之を保護する必要を認め1933年6月邊に前記パダンセメントに對し月最小限度5萬樽の販賣を保證し續いて9月セメントの輸入制限令を公布し以て外國セメントの輸入數量を制限せる結果現在では小康を呈してゐる。本工場の生產能力は年約14萬噸である。因に1936年度の本邦セメントの輸入は48 958瓲63萬9千盾である。

煉瓦製造工業

（1）遏羅 では原料產地の農民は副業的に煉瓦を製作してゐるが、主產地は盤谷アユタヤー間の河岸であるが製品粗惡で不評、一方プラトウムターニー縣下バーンポートンには近代式煉瓦工場が生れ遏羅セメント會社もセメント瓦を製出して博く各種建造用に用ひられてゐる。

石鹼工業

（1）蘭領印度 の代表的のものは獨逸人の經營に係るスラバヤのドラレ工場があるのみで近年各地に小工場が續設され1935年の生產高は總計36 000瓲で製品は主として洗濯石鹼である。然し需要の大部分は未だ海外品に依存してゐる最近の化粧石鹼及洗濯石鹼の輸入高は次の如し

	1934年	1935年	1936(推定)
數量(瓲)	4 893	1 552	不明
價額(千盾)	1 452	578	595

（2）英領馬來に於ける石鹼製造は極めて幼稚にして總數20有餘の工場あるも何れも小規模其の內主なるものは Ho Kong Soop Co.,（新嘉坡、資本金2 000 000 弗能力洗濯石鹼月產1200箱、化粧石鹼日產1噸）及 Eng. Moh & Co., である。本邦よりの輸入は1935年度に於て

化粧用石鹼	184 240打	124 098圓
其他の石鹼	8 951百斤	98 531〃
計	——	222 629〃

燐寸工業

（1）遏羅 に於ける燐寸工場は

a＝The Siam MatchFactory Ltd,（瑞典系資本、英國系のボルネオ會社經營、資本金2百萬銖、月產能力9千函、1函＝小箱6百打入）

b＝民生火柴廠（華僑經營、1929年資本金20萬銖、月產能力4 500函、現在の生產高は月6百函位）

c＝東亞火柴廠（華僑經營、1933年創立、資本金20萬銖、月產能力2100函現在の生產は月250函）

以上の工場であるが後2者も前者の管理下にある。元來燐寸は數年前迄は最重要輸入品の一であつたが近年輸入稅を引上げた結果輸入忽ち激減して1935—36年度に至つては僅に 2 631 銖に過ぎなくなつた。國內消費は直接に調査する事は不可能であるが、大體上記工場の製造庫出高を以て消費高と見做して良いと考へられる。尙1935-6年に至る輸入は 2 631 銖、輸出17銖である。

（2）佛領印度支那 に於ては稼行會社は3社ある即ち東京に於てはベンチユイ製材及燐寸製造會社に所屬する工場があり領內各地に於て操業してゐる原料は東京奧地及中部仕出のボーデ材である。藥品は佛國より輸入し年平均7 200萬箱の生產がある。安南に於てはタンホア木挽及燐寸製造會社及びベンチユイにある製材及燐寸製造會社で年平均140萬箱を生產してゐる。

製紙工業

（1）蘭領印度 に於てはバンドン郊外のバダラランに代表的のものが一つ存在するのみで本社は資本金250萬盾を以て1922年に設立された半官半民の會社で主として政府の諸用紙を製してゐるが大半は外國品に依存してゐる。1936年に於て日本から輸出された量は5 962瓲で金額は1 286千盾である。

（2）遏羅 に於ては王室測量局の製紙工場及當領北部並盤谷に工場を有し前者は反古、襤褸を原料として官廳用紙を後者はマイコク、マイクラサ竹を原料として無光澤粗紙を製造してゐる

最近の輸入高は（印刷せざるもの）次の如し

	1933-34	1934-35	1935-36
數量(瓲)	3 987 403	7 513 285	6 039 304
價額(銖)	745 825	1 236 552	1 019 051

製鹽工業

（1）遏羅灣 の東岸及西岸には海水より北部及東部は數多の鹽水井より又東北部のウボーン及ウドーン縣の諸地にては岩鹽より產鹽し是等の諸地には數多の製鹽工場が設立されてゐる。尤も其の中大部分は海水よりの鹽で、氣候が斯業に最適の條件をもつてゐる事とて將來の發展性は多分にある。

當地の輸出入高は下の如し

		1933—34	1934—35	1935—36
輸出		1 555 300(擔)	2 221 369(〃)	2 034 415(擔)
		391 095(鉄)	563 032(鉄)	511 118(鉄)
輸入		1 361 087(瓩)	2 300 778(瓩)	1 600 346(瓩)
		31 696(鉄)	41 914(鉄)	35 153(鉄)

皮革工業

（1）**遥羅** は可なり著量の水牛、黄牛等の生皮及鞣皮を輸出してゐる。鞣皮業は主として盤谷に行はれ地方にも少數の鞣皮工場があるが盤谷の外は殆ど地方消費を生産するに過ぎない。最近3ヶ年の鞣革及製品輸出入高は下の如し

		1933—34	1934—35	1935—36
輸出	鞣品	1 883(擔)	1 258(擔)	994(擔)
		98 833(鉄)	72 613(鉄)	54 008(鉄)
	鞣皮製品	982(鉄)	147(鉄)	1 065(鉄)
輸入	鞣革及鞣毛皮	42 976(瓩)	47 709(瓩)	48 365(瓩)
		74 706(鉄)	80 681(鉄)	74 277(鉄)
	鞣革製品	258 096(鉄)	256 018(鉄)	244 756(鉄)

（2）**蘭領印度** に於ける斯工業は歐米の最新裝置を有つ方法等の勢力に押へられ土人經營の野生的工場は閉鎖されるの狀態で、2.3の工場を除いて目下稼行中の工場は皆無であらう。殊に消費方面が質より安價なる點に重點が置かれてゐるので採算的に收支償はず外來品の壓迫が激しい。

（3）**佛領印度支那** は蘭領印度に比して技術的には幾分近代的色彩が加味されてはゐるが、全般的にみて未だ家内工業色を脱してゐない。當地方の代表的工場としては Societe des Tauneeriesdl coehui chine のチコドモ工場で能力としては月約13-4瓲の生産を擧げてゐる。

瓦斯工業

蘭領印度 の瓦斯工業は急激なる變化なく「マカツサル」の市營瓦斯工場を除いては他は全く株式會社蘭印瓦斯會社の獨占事業でる。

鑛業

錫及び銅

（1）**英領馬來** は世界一の産錫國で1900年に於ける世界産量の54%は當領より産出したものである。今日に至るも尚國際錫委員會の割當標準噸數（馬來71 940噸、ボリヴイア46 490噸、蘭印36 330噸、ニゼリア10 890噸）の示す如く依然として産錫國の首位を占めてゐる。

馬來に於ける同鑛業の開發は初期の支那人の努力に依るものであるが、最近では歐洲人諸會社の近代式採鑛法に替へられ昔日の面影を失つてゐる。馬來に於て採掘さるゝ錫鑛は頗る純粋なもので、多くの場合72乃至73%の含有率を有して居る。現在行はれてゐる採錫方法は大體次の6種である。

a 淘泥式採鑛法（歐洲人が採用）
b 砂礫洗滌法（支那人が採用）
c 水力採鑛法（歐、支人採用）
d 竪坑式採鑛法
e 砂質地に於ける塹壕掘
f 梳掛け法

この内主として用ひられる法は淘泥式採鑛法である。最近3ヶ年に亘り馬來聯邦より生産輸出された錫總量及價額は次の如し

	數量(擔)	價額(弗)
1933年	382 803	37 551 968
1934年	547 112	62 593 476
1935年	685 222	76 215 424

當領より日本向けの量、額は次の如し

	數量(噸)	金額(弗)
1933年	1 868	3 019 189
1934年	2 780	5 368 158
1935年	2 500	4 691 611

（2）**遥羅** に於ては遥領半島にのみ産錫をみるもので、半島西岸のプーケット州は最も重要で總量の7割を供給してゐる。採鑛法はA淺漂法B狸堀りC流鑛法D砂礫吸上法E竪坑採鑛法F水力法G梳掛法等で行はれてゐる。錫及錫鑛の輸出高は次の如し。

	錫(擔)	錫鑛(擔)
1933—34年	1	246 335
1934—35年	0	255 246
1935—36年	7	237 571

銅＝品位の相當高い銅脈があり、目下試掘中であるが市況と相俟つて有望なる企業をなすものと期待される。

（3）**佛領印度支那** に於ける鑛床は東京のビア・ウアク及老撾のナム・パテーヌ地方にあるのが主なるもので生産量は1931—33年には若干の減少を示したが1933年よりは再び增産を示してゐる。最近の産額高は次の如し

	鑛石(瓲)	含有金屬量
1934年	2 088	1 151
1935年	2 359.5	1 331
1736年	2 416	1 403

（4）**蘭領印度** に於ては1813年に約450噸の産出をみたのが最初であるが逐次增産を辿りつゝあり現在當領では政府營工場とビリトン共同鑛業會社との2社により操業されてゐる。最近の産量は次の如し

1934年	20 532瓲
1935年	21 427〃
1936年	31 263〃

金、銀、鐵、石炭

（1）**比律賓**

A・金の採掘は古くから行はれてゐるが産額は微々たるものである。新に河床の砂金に着目され現在では3大會社により操業されてゐる。1936年の全島主要會社の産金總額は44 205 156比に及び前年の1935年と比較して33⅓%の躍進を遂げてをり更に1937年には57 519 230比、1938年には60 400 230比の生産を擧ぐるものと豫想されてゐる

B・鐵は金鑛業に次ぐ有望鑛業で、今日多くの鐵鑛は全比律賓に亘つて廣範圍に埋藏されてゐる。ミンダナオのスリザオ州には5億噸の埋藏量を有する一大鐵床があり、日本製鐵會社はカマリネスノルテ州カランバヤンガ鑛山より購入せる鐵鑛石を試驗せる結果含有量60%にして頗る良質而も同鑛山より採掘された鑛石は全部同社が買取る事になつた由。鐵鑛の輸出高は次の如し

	輸出總額(瓲)	日本向(瓲)
1934年	7 239 344	7 239 000
1935年	283 310 214	283 303 880

C・石炭は全群島に及び量は延長500平方粁、推定炭量6 000萬噸と見られてをる、比律賓科學局の内輪的見積りは次の如し

黒色褐炭	26 500 000瓲
亜瀝青炭	31 500 000
瀝青炭又は半無煙炭	3 500 000
計	61 500 000

産炭は火力弱く消費石炭の大部分は米國及び日本から供給を仰いでゐる。

（2）佛領印度支那

A・金は領内到る處に所在するも今日未だみるべき狀態には到つてない。

B・銀は1926年の380瓲が最高で最近は年々200瓲餘を生產してゐる。

C・鐵は重要な鐵鑛山多數あるが十分なる開發には至つてはゐない。こゝ1～2年來大いに著目され調査に努力されてゐるため今後の發展は注目される。產額は次の如し

	鐵鑛(噸)	含有金屬量
1934年	1 536	703
1935年	635	275
1936年	10 017	4 870

D・石炭は當領產鑛物のうち頗る重要な位置を占めてゐる。產量は次の如し

	1933年	1934年	1935年
石炭	1 591(千噸)	1 592	1 774.5

尙當領の無煙炭は炭質佳良で著名である。即ち

揮發分　8～11%　灰分　3～7%
炭素分　86～88%　硫黃分1%以下
熱量7 800～8 300カロリ

（3）邏羅

A・金は錫に亞ぐ鑛源で1936年1—4月間の產金高151瓲に上つてゐる。

（4）英領馬來

A・金はラウブ・オウストレーリアン金鑛會社が廣範圍に亘り金採鑛に從つてゐる。產金及輸出高は次の如し。

（單位オンス）

	ラウヴ金山	馬來聯邦	輸出高
1931	24 728	39 462	26 558
1932	27 755	29 296	25 757
1933	26 358	29 036	26 290
1934	24 310	30 221	26 156
1935	22 909	29 771	28 481

B・鐵はジヨホール及トレンガヌの兩州より產出し鑛山は日本人會社で作業されてゐる。即ち石原產業公司はジヨホール州バトパハ、スリメダンの鑛脈を同社は又トレンガヌ州ケママン、マチヤン・サタウンで鐵鑛、滿俺鑛を採掘し日本鑛業はトレンガヌ州ヴツダン近くのブキペシに鐵鑛山を有する。如上產出鐵鑛の大部分は金屬鐵平均4%を含有する良質赤鐵鑛で產出額は1936年1 612 309噸である。

C・石炭は馬來採炭會社に於て採掘されてゐるが、之は當半島に於ける唯一の炭鑛である。

（5）蘭領印度

A・金及び銀は現在スマトラ島のベンクーレン州のレヂヤン及レホン地方等に產出するが製鍊會社は少ない。

B・鐵鑛は爪哇のケヅー及バンユーマス州の海岸(磁鐵砂)、スマトラのラムポン州、ボルネオ南東部州の南東地等々に存在してゐるが未だ採掘されていない。

C・石炭はオムビリン炭坑、ブキトアセム炭坑、ランタウ・バンヂヤン炭坑オースト・ボルネオ社炭坑があり1936年の產出量は1 147 196噸である。

其の他鑛產物

（1）比律賓　にはクローム及滿俺の埋藏箇所が多い。

（2）佛領印那支那　には亞鉛(1929年の61 933瓲に比し1936年は18.3%減少)及鉛、タングステン、滿俺、アンチモニー等あるも紙面の都合上割愛する。

（3）英領馬來　にはタングステン鑛(1935年生產量はウオルフラム鑛133噸灰重石22 928擔)及イルメナイト等が產出してゐる。

（4）蘭領印度　には金剛石、滿俺、沃度、アスフアルト、硫黃、ボーキサイト等の產出がある。

樺太の化學工業

工　業

概　況

樺太に於ける工業の概況をみるに、昭和10年末現在に於ける工產物生產額は8千20萬5千圓で、各種生產物總額1億3千7百84萬54千圓の約6割を占め之を大正7年の實數生產總額3千7百57萬圓中、工產物の1千7百99萬圓弱に對比すれば隔世の觀がある。　是等工業に對する當局の助成施設を略述すれば、先づ明治43年樺太廳に臨時工業調査所を設け、同時に大泊に附屬工場を設置し主として林木の利用に關し松脂よりテレピン油製造、樟腦製造、木材乾餾して醋酸、石灰、木精及木タールを製造して之を移出し、其の副產物たる木炭は之を一般の需要に應ずるの外、煉瓦工場を起して其の需要に充つる計畫の下に著手し、大正6年には工場を大倉組に拂下げて經營させたが、大正10年以降閉鎖した。一方臨時產業調査所を設け、本島產業の獨立を期するため調査研究を重ね、直接間接に其の助成に努めた。又樺太內幌より產出する石炭は分析試驗の結果液體燃料化に適當なるを確め、三菱會社をして石炭低溫乾溜工業を起させ補助金を交付して之を奬勵してゐる。尙樺太產甜菜は品質優良成育良好な爲に之を原料とする製糖工業も亦昭和11年より操業の豫定であるが既に會社の設立を見工場を豐原に建設中であり、當地の工業は將來に俟つものが多々存する。尙當地最近の工業界の細目に亙る紹介は拓務要覽(昭和11年版)及び拓務統計(昭和10年版)の2資料以外適切なる參考資料なく、以下に述べる各項目は上記資料を基にするものである。

パルプ工業及製紙業

樺太材の利用に付てはパルプ製造を得策とし、大正2年初めて大泊に三井樺太製紙工場が起工され大正3年12月に操業を開始した。次いで大正9年4月樺太工業株式會社が泊居に工場を建設操業開始中歐洲大戰に際會し海外よりパルプ輸入杜絕に刺戟され、輸出急躍進內地工業勃興により漸次更に日本化學製紙料株式會社の落合工場（富士落合工場の前身）が大正6年に操業を開始した事により發達した。

昭和8年5月前記の王子製紙株式會社富士製紙株式會社樺太工業株式會社の3社合併し王子製紙株式會社となり爾來工場を各地に增設して現在次の如く9工場に及び、本邦パルプ資材の大半を供給するの狀態である。

王子製紙株式會社工場

名稱	生產設備	製品	設立年月
知取工場(知取町)	抄造機3臺 生產能力109萬听 紙料抄造機2臺 碎木機3基	上等印刷紙、模造紙、新聞用紙、マンラボール、各種漉合紙、製紙用パルプ	昭和元年12月

名稱	生產設備	製品	設立年月
豐原工場（豐原町）	木釜 5 基 紙料製產能力 7 萬 7 千噸		
	抄造機 1 臺 生產能力 200 萬听 紙料抄造機 2 臺 木釜 5 基 紙料生產能力 4 萬 5 千噸	各種包紙 製紙用パルプ	大正 6 年 1 月
落合工場（落合町）	抄造機 6 臺 生產能力 9 千 2 百萬听 紙料抄造機 2 臺 木釜 11 基 紙料生產能力 8 萬 1 千噸	セメント袋用紙、 各種クラフト紙、 パルプ	大正 6 年 4 月
眞岡工場（眞岡町）	抄造機 7 臺 生產能力 9 千 4 百萬听 木釜 4 基 紙料生產能力 3 萬 3 千噸	上等印刷紙、筆記 用紙、模造紙、荷 札用紙、和紙	大正 8 年 9 月
野田工場（野田町）	抄造機 1 臺 生產能力 3 千 9 百萬听 紙料抄造機 1 臺 木釜 2 基 紙料生產能力 2 萬 2 千 5 百噸	印刷紙、模造紙、 製紙用パルプ	大正 11 年 2 月
泊居工場（泊居町）	抄造機 1 臺 生產能力 1120 萬听 紙料抄造機 2 臺 木釜 5 基 紙料生產能力 4 萬 6 千噸	蠶座紙、包紙類、 製紙用パルプ	大正 4 年 8 月
惠須取工場（惠須取町）	抄造機 9 臺 生產能力 1365 十萬听 紙料抄造機 1 臺 碎木機 4 基 紙料生產能力 6 萬 9 千噸	上等印刷紙、模 造紙、新聞用紙、 各種更紙、各種 S ロール 製紙用パルプ	大正 14 年 11 月
敷香工場（敷香町）	抄造機 1 臺 生產能力 445 百萬听 紙料抄造機 2 臺 木釜 7 基 紙料生產能力 5 萬 5 千噸	セメント袋用紙、 各種クラフト紙、 人絹パルプ	昭和 10 年 6 月
大泊工場（大泊町）	紙料抄造機 1 臺 木釜 2 基 紙料生產能力 1 萬 8 千噸	製紙用パルプ	大正 3 年 11 月

尙最近に於けるパルプ製產狀況を示せば左の通りである。

年次	工場數	資材消費高（立方米）	生產高 パルプ（噸）	生產高 紙類（噸）	價額 パルプ（圓）	價額 紙類（圓）	計（圓）
昭和 8 年	8	1 255 595	141 942	146 832	20 844 909	33 782 022	54 626 931
昭和 9 年	8	1 440 414	179 097	156 196	28 247 894	37 229 883	61 477 777
昭和 10 年	9	1 509 868	204 609	165 815	32 464 313	37 905 722	71 370 035

尙從來生產されたパルプは、主として製紙用にのみ利用されてゐたが、近年人造絹絲製造用として利用さるゝに至り、人絹パルプ工場の設立をみるに至つた。即ち昭和 7 年創立された王子系の日本人絹パルプ株式會社の敷香工場は昭和 10 年 5 月末に操業を開始してより又本春よりクラフト工場の操業をも開始するに至つた。又昭和 9 年には野田工場、泊居工場に夫々人造絹糸用パルプの生產を開始してゐる。

石炭液化工業　昭和 10 年 3 月三菱鑛業株式會社の子會社たる南樺太炭鑛鑛業株式會社が、獨逸メタルゲゼルシヤフト會社の特許ルルギ式內部加熱式乾餾爐を採用して石炭の低溫乾餾工場を設立し目下一部運轉を開始してゐる當社では現在石炭處理能力 5 萬トン爐を 2 基設置してゐるが全能力は發揮してゐず製造品目は揮發油、輕油、重油、パラフイン、コーライトを自家用程度で製造してゐるが近く第二期計畫に著手する事となつてゐる。

甜菜糖工業　樺太廳に於ては明治 43 年以來甜菜の栽培試驗を行ひその有望性を認め、此が工業化に努力した結果昭和 10 年 7 月資本金 500 萬圓を以て明治製糖及び王子證券の共資により樺太製糖株式會社を設立した。工場は豐原町に敷地 16 萬 4 千坪を擁して設立、農場豫定地 13 萬 7 千 5 百余坪で甜菜栽培面積 1 500 町歩、能力は年 600 噸で目下第一期計畫を終り第二期增產に著手してをり將來を嘱望されてゐる。

釀造及び酒精工業　樺太は冷寒の地關係に支配され酒精飲料の需要は多い。當初は製品不良のため自然內地よりの移入酒に依り需要を充すの狀態であつたが、年と共に品質改良され一方人口の增加に伴ひ生產量も亦增加し、昭和 10 年度に於ける酒類釀造場 45 で、酒造高は 72 382 竕、價額 3 257 035 圓である。外に醬油、味噌、酢製造場 11、生產額味噌約 30 萬瓩、醬油 45 048 竕價額 11 萬余圓及びアルコール（變性共）3 710 石 401 443 圓である。當地に於ける主なる關係會社を擧ぐると次の如し

樺太酒精工業株式會社　資本金 500 萬圓（大株主は王子製紙）で本社は樺太に無水酒精の製造を目的として昭和 12 年 3 月設立されたもので目下建設途上にあり昭和 13 年 3 月頃には完成の豫定。採用方法は瑞典のエチール法で年 3 400 石の能力を以て操業開始する方針で操業後の成績によつては他の王子製紙 8 工場に夫々設備を施し總能力 3 萬石程度にする計畫がある。兎に角パルプ廢液を再生して酒精工業を興さうとする當社の計畫は事業の推移狀態が如何なる數字を現はすにせよ斯工業に一片の歡迎と期待とを與へらるべき性質のものである。

樺太酒精株式會社　眞岡町有志に依り資本金 30 萬圓で設立され昭和 8 年 12 月より操業を開始して居る。その主製品は（1）各種丁幾類、（2）日の丸印燒酒（3）淸凉飲料水

樺太製藥株式會社　本社を豐原に大正10年10月創立されたもので、工場は豐原及び大泊の2箇所にある。主なる製品は (1)局方アルコール (2)局方各種丁幾類 (3)燒酎、(4)フレツプ酒、(5)ウヰスキー等

罐詰製造工業　罐詰業（主に蟹罐詰）は明治42年以來勃興し、大正6年度には工場數 111、製產額 337萬余圓であつたが、蟹濫獲の結果次第に其の量を減じ大正9年蟹罐詰工場の合同を奬めた結果、工場數38、製產額145萬8千圓、昭和元年には工場數 18、製造額66萬3千余圓、昭和10年末には28工場、製產額約338萬圓となつた。其の中鱒罐詰は昭和8年樺太共同漁業株式會社の著業に依り急激に增加し、昭和10年末現在に於ける製造額は 144 萬余圓に達してゐる。

澱粉製造工業　馬鈴薯を原料とする澱粉製造は大正7年には製造戸數288戸、生產額4萬4千4百余圓で、大正13年末には製造戸數473戸に漸增したが生產額は 7215 に、更に昭和4年末には301戸約1萬4千圓に漸減した。近年斯業奬勵の結果漸增し昭和10年末製場數14、價額3萬圓である。

牛酪製造工業　牛酪製造に對しては奬勵補助金を交付し漸次發展の途上にある。昭和10年末現在に於ける製造場15、數製造高10萬瓩、價額約15萬圓である。

鑛　業

樺太に於ける地質及鑛物の調査は明治38年以來全土的に施行され現在に及んで居るが、調査委員の不足、鬱蒼たる森林の障害及交通の不便により未だ完了するに至らない。

炭田調査及石炭の低濕乾餾試驗　大正14年度より封鎖區域中、比較的開發の容易な中部內淵炭田及南部內幌炭田並に北部內川炭田に於ける炭層賦存の狀態及炭層地帶の番形測量を行つてゐる

樺太炭の利用法研究の一端として大正11年中內幌炭、川上炭及內淵炭を商工省燃料研究所に送り、石炭の低濕乾餾試驗を行つた結果、下の如き率を示してゐる。

	川上、內淵炭	內幌炭
半成骸炭	65—66%	56—57%
低溫タール	11—12%	10%
低溫ガス	150立方米	200立方米
硫　安	約5瓩	約5瓩

上記の試驗の結果に依り、南樺太炭鑛株式會社（工業欄參照）は巾幌に石炭低溫乾餾工場を建設し、昭和10年4月より操業を開始するに至つた。

石油調査及油田の試驗　昭和2年より從來の方針を變更し繼續事業として樺太全島に於ける第三紀層の石油に對する地質構造を調査する計畫の下に地域を分つて進めてゐる。

目下榮濱郡落合町圓山に於て日本石油株式會社が試錐してをり、樺太廳では之に對し補助を補へてゐる。

尙當領に於ける昭和10年度の石炭產出高は 1515647 噸、11475813 圓を示してゐる。

高級諸印刷

株式會社

大倉印刷所

東京市京橋區湊町3ノ12

電話京橋

4314

東洋紡績株式會社
大阪市北區堂島濱通二丁目

北支の化學工業

緒　言

ここに北支といふのは中華民國の河北省を中心に東は山東省、西は山西省北は察哈爾省及び綏遠省の5省を包括する總面積 1 018 952 方粁の地域であるが、これに更に河南、陝西の二省を加へる場合もある。

北支に於ける主要なる化學工業としては曹達工業を初め硝子、セメント、燐寸、染料、製粉、搾油の工業及び纖維工業たる綿絲紡績製絲工業等を擧げることが出來るが、この中曹達工業を除いては概して今尙未發達の狀態にあつて需要の一部を滿してゐるにすぎない。工場經營は主として外國資本及び技術の下に立つて居り、その爲經營の無秩序、製品の粗惡、流動資本の不足機械設備の不良等の弊害があり、勞賃賃銀の格安にも拘らず徒らにその豐富なる資源を死藏せしめ、能率擧らず極めて不振の狀態にある。併しながらこの資本主義的に著るしく立遲れ、總體的崩壞の危機に瀕するとさへ稱せられてゐる支那一般產業とは對蹠的に、長蘆の過剩鹽を主要原料とし土着資本による基礎化學工業の興隆は見逃すことの出來ない事實であり、急展せる本邦化學工業界にとり、又日本の對支經濟政策上深く認識されなければならぬことである。而して今や、その北支は蔣一派の抗日政策を拋棄して我資本並に數步先んぜる技術に信賴して死藏せらるゝ無盡藏の寶庫を開發利用し、以つて東洋文化の建設に協力せんとしつつある。北支に於ける化學工業が、ひいては產業全般が今支那事變を契機として一層の進展をなすであらうといふことは大いに期待せられるところである。

資　源

前述の如く北支には死藏せらるゝ極めて有望なる資源が豐富にあり之が開發は將來に期待をかけられてゐる。主要なる工業資源としては石炭、鐵、鹽及び棉花等を擧げることが出來るが、以下各種の資源殊に幾分でも化學工業に關係のあるものに就て略述しよう。

（i）**農產資源**　北支5省に於ける既耕地總面積は 310 000 千餘畝で全支の 29.75% に當り、その中山東省が 110 000 千餘畝で首位を占め、河北省がこれに次ぐ。總面積に對する既耕地の割合を見ても前2省は 46% 强で全支中屈指の豐穰なる農產地である。又農戶數について見れば全支の 54 925 000 戶に對して 12 574 000 戶を占め、總戶數に對する農戶數の 85.99% 割合となつてゐる。この樣に耕地面積からいつても耕地並に農家割合からいつても山東、河北、山西の3省が支那農業上に於て如何に重要なる位置を占めてゐるか知り得る。次に主要農產資源に就き簡單なる解說を試みる。

小麥　北支に於ける年產額は 11 246 百萬斤で全支の 28.68% を占め、その中山東省最も多く河北、山西の兩省が之に次ぐ。

粟　氣候の關係から高粱同樣北部を主產地とするので、北支5省の年產額は 10 174 百萬斤の多きに達し全支の

66.04% を占めてゐる。山東、河北の兩省は全支中 1, 2 位を占め、山西省が之に次ぐ。

高粱 5省の年產は 7 986 百萬斤で全支の 56.34 %、中でも山東、河北の兩省はその 1, 2 位を占め他の追從を許さない。

大豆 北支5省に於ける年產額は4 978 百萬斤で全支の 34.25% を占め、殊に山東省は斷然第1位、河北省が之に次いで全支の第五位にある。古來食用にのみ供されてゐたが近年油料子實としての用途が拓けてから更に重要な資源となるに至つた。

玉蜀黍 5省の年產 3 539 百萬斤で全支の 30.16% に當り、河北省に最も多く山東山西の產額も全支中重要なものとなつてゐる。直接食料のほか製粉の上小麥粉と混和して用ひられる。

米 5省の年產僅に 250 百萬斤、頗る貧弱なるものである。

棉花 棉花は支那の最も重要な農產資源であり、北米合衆國、英領印度に次いで世界的に重要な產地となつてゐる。北支中河北、山東、山西が多く年產約4億斤、全支の35%弱を占め、中でも前2省は全支中 1, 2 位を競つてゐる。以上3省の棉田面積及び皮棉年產額は次表の通りである。(1933年)

		棉田面積(單位千畝)	皮棉產額(單位千擔)
河北	實數	6 122	1 445
	對全支	15.13%	14.78%
山東	實數	5 357	1 469
	對全支	13.24%	15.03%
山西	實數	1 311	502
	對全支	3.24%	5.14%

葉煙草 主として山東省に產しその年產額は44 900千餘斤、全支の13.36%に當つてゐる。

落花生 5省中察哈爾、綏遠の2省には產しないが他の3省の年產額は1 912 百萬斤に達し全支の 46.34% を占め、殊に山東省は支那隨一の產地である。食用のほか近年工業用原料としての需要が開發激增するに及んでその生產も增大し海外にも盛んに輸出されてゐる。

柞蠶 山東省を主として從來3000檐乃至4000檐を產してゐたが近年は不況を極めてゐる。

尙これ等のほか諸種の植物性纖維原料の生產及び胡麻、菜種の產額にも見るべきものがある。

(ii) 林業資源 古來支那の森林制度は廢頽を極めその山林は殆ど荒廢に歸したが、北支に於ける荒涼は殊に甚だしい。從つて北支に於ては木材資源の見るべきものなく多少の林地を有する地方に於ても交通の便が悪い爲などから採算困難の狀態にある。近年中央政府を初め各地方當局は植林の奬勵に力を注ぎつゝあるも未だその實績を期待し得る程度に達してゐない。

併し、パルプ代用としての利用途を新たに開發された葦が全地方一帶に野生してゐることは頗る注目すべき事實であり、最近 1, 2 この利用方策が具體化しつつある。

(iii) 畜產資源 北支の中農業の盛んな河北、山東、山西の3省にも多少の牧地を見、その種類によつてはかなり多數飼育されてゐるが到底察哈爾綏遠兩省の比ではない。これ等邊境の地に於ける牧畜業は實に盛んなものでその種類も牛、馬、豚の如き普通のものから驢、騾、駱駝、犬等の多樣に亘つてゐる。

而して以上の畜類から得られる生皮はこれ又頗る重要な皮革工業資源として廣く海外に輸出されてゐる。

此處では邊境2省の統計が入手困難なため河北、山東、山西3省の飼畜數を上げることにする。

種類	數量(單位萬頭)	對全支%
牛	200	11.28
馬	62	42.86
羊	350	18.68
豚	1 600	20.09
騾	200	49.03
鷄	4 300(萬羽)	13.72

(iv) 鹽業資源 北支に於ては天然產に近い鹽が非常に豐富に堆積され有名な長蘆鹽田の如き有望な鹽田が各所に散在してゐる。即ち支那大陸は蜿蜒と連る海岸線に大量の海鹽を產するのみならず、陸地に於ても池鹽、井鹽岩鹽の產出があるのである。然るに支那政府はこれの人爲的生產制限を强制し現在休止してゐる鹽田多く徒らにこの天與の資源を死藏せしめて居る。長蘆鹽田とは北支河北省の海岸線にある鹽田の總稱で、蘆台、豐財の2鹽場からなつてゐる。現在兩場の鹽田面積9 120 町步、生產高平均36萬噸である。山東鹽田(靑島鹽田)は長蘆の比ではないが現在 6 000 餘步の鹽田面積を有し年產30萬噸をあげてゐる。

(v) 鑛產資源 埋藏量と鑛產額の兩方面から見て北支に於て獨り格段の重要性を有するものは石炭資源であり、その埋藏量は世界的のものである。その他の北支鑛產資源は現在知られてゐる限りに於ては敢て豐富とはいへないが、石炭に次いで重要なものに鐵があり、その他金、天然曹達、粘土、石灰石、硅石等を擧げることが出來る。又その將來を囑望されてゐるものに蠶土頁岩がある。

今日までに埋藏量が概算されてゐる支那鑛產資源の種類は9種でその數量は次表の如くである。(單位千噸)

石炭	239 059 000
石油	2 227 000(單位千バーレル)
明礬	179 333
蠶土頁岩	68 000
鐵鑛	323 000
重石鑛	949
安知母尼鑛	3 677
滿俺鑛	22 500
螢石	450

次に支那鑛產物中年產額100萬元以上のものを價格の順序に表示する。(1933年)

支那鑛產價格(單位千元)

鹽	392 000
石炭	92 926
錫	25 074
洋灰	22 349
石灰石	18 440
粘土	11 950
金	9 461
重石鑛	7 692
鐵鑛	4 546
安知母尼	3 301
鋼	2 500
硅石及硅砂	2 000
天然曹達	1 631
硝石	1 485
鉛	1 292
銑	1 213
石膏	1 088
明礬	1 041
其他計	603 055

上記の中、石炭と天然曹達の2種は殆ど北支に於てその全部が產出され、金及び硝石はその產額の半分以上を北支で占めて居り、洋灰、石灰石、粘土鐵鑛、硅石及硅砂、銑の6種は約半數

を北支が占めてゐるのであつて、その他のものは殆ど北支には產出を見ないのである。次に個々に關し解說を加へやう。

石炭　全支の埋藏する炭量は實測、推定を合せて 2 390 億噸といふ尨大な數字を示して居り、この中北支 5 省に河南陝西を加へた 7 省で 2 125 億噸、全支の 88.9% を占め、更に寧夏、甘肅、新疆、青海の 4 地方を含めると 2 210 億噸、92.45% に達してゐる。その內譯は次の如くである。

省別石炭埋藏量

	單位百萬噸	對全支%
察哈爾	504	0.21
綏　遠	476	0.20
山　西	127 127	53.18
山　東	1 639	0.69
河　北	3 071	1.28
河　南	7 764	3.25
陝　西	71 950	30.09
計	212 931	88.90
寧夏(綏遠)	488	
甘肅(山東)	1 500	
新疆(河南)	6 000	
青海(察哈爾)	500	
計	8 488	
總　計	221 019	92.45

併して、北支に於ける石炭產出額は 1934年の調査に依れば 1 837 萬 5 千噸で、內無煙炭は 380 萬噸の產出を見てゐる。これを各省別に上げれば下表の如くなる。(單位萬噸)

	總產出高	內無煙炭
河　北	773.9	138.7
山　西	270.1	116.8
山　東	350.4	—
河　南	213.0	116.5
陝　西	204.1	—
察哈爾	20.2	7.0
綏　遠	5.8	1.0
計	1837.5	28.0

鐵　北支に於いて第 2 位にある鐵類の埋藏量を表示すれば(單位萬噸)

產　地	埋藏量	鑛種
宣化龍關(綏遠)	9 165	赤鐵鑛
灤縣(河北)	3 242	赤〃磁鐵
金嶺鎭(山東)	1 370	赤〃磁〃
紅山(河南)	74	赤〃磁〃
利國驛(江蘇)	300	赤〃
易縣(河北)	150	砂鐵
信陽(河南)	200	砂鐵
井陘(河北)	776	赤鐵鑛
費縣(山東)	64	赤〃
開灤(河北)	15	赤〃 褐
固陽(綏遠)	70	
撫寧臨榆(鷄冠山)	35	磁〃

1934年の產出高は次の通りである。

產　地	鐵鑛(噸)	銑(噸)
陝西(土法)	180	50
山西(土法)	180 000	60 000
河南(土法)	25 000	8 000
山西陽泉(新式)	18 000	3 700

而して鐵鑛及び銑の全支に對する北支の產出高は

鐵鑛	全支	136萬噸
	北支	22.32〃
	滿洲	119〃
銑	全支	15.6〃
	支北	7.2〃
	滿洲	48〃

以上の如く、鐵鑛資源は相當豐富と思はれるが、之が開發はその產出額に見る如く未だ微々たるものである。

金　北支に於ける1934年の金の產額は 53 720兩(全支は 89 926兩)であり之を地方別に見れば次の通りである。

河北省	11 220兩
山東省	1 500〃
甘肅、青海兩省	15 000〃
新疆、外蒙兩省	26 000〃
計	53 720〃

粘土　1934年度の統計に依れば全支の 805 000 噸に對して、うち北支はその 5 割强の 442 000 噸の產出を見てゐる。この中山東省に最も多く 8 萬噸、之に次ぐ山西省が 5 萬噸を占めてゐる。

蠻土頁岩　山東省博山溜川(埋藏量 800 萬噸 Al_2O_3 含有量 40～58%) 其の河北省石門寨が重要な產地として知られ、このほか山西、河南兩省に於てもかなり豐富に埋藏してゐるものと考へられる。蠻土頁岩は將來重要性を持つと思はれるものであるが未だ調査が不充分で北支全體の埋藏量は分てゐない。

天然曹達　その北支に於ける產出量は 1萬 5 千噸、全支の 1 萬 7 千噸の殆ど全部を占めてゐる。主として察哈爾山西、綏遠、陝西寧夏の諸地方の池から產出される。

滑石　產地及び產量は次の如く、全支產額 4 950噸に對し、北支は 2 750噸で 55%以上に相當する。

河北	1 200噸	山東	500噸
山西	250〃	河南	800〃
計	2 750〃		

硅石及び硅砂　山東、河北の兩省に產し、山東省の年產は約 4 萬噸で全支の約半分を占めてゐる。

貿易の概況

北支の對外貿易は秦皇島、天津、龍口、烟台、威海衞、青島の 6 港に依るものであるが、內天津が最も盛んであり、青島が之に次いでゐる。他の 4 港は到底前 2 港に及ばず、總體的に見て北支に於ける對外貿易は經濟的疲弊に原因して極めて不振の狀態にある。一方北支の貿易は從來滿洲に依存することが大きかつただけにその市場の喪失による打擊も甚大なわけである。今 1936年に於ける輸出入金額を擧げれば次の通りである。(單位千元)

	輸入	輸出	合計
秦皇島	3 462	7 065	10 528
天　津	72 647	117 826	190 474
龍　口	2 012	2 599	46 120
烟　台	6 816	6 737	16 554
威海衞	1 211	2 348	3 560
青　島	54 751	51 533	106 284
合　計	140 900	191 118	332 013
1935年合計	150 131	159 639	309 770

今、1936年に於ける全支那との對外貿易を比較して見れば(單位千元)

	輸入	輸出	合計
全支	944 523	706 790	1 651 313
北支	140 900	191 191	332 013

僅か22%前後にしか過ぎず、從來の北支經濟力が如何に中支或は南支に比較して甚だしく劣勢にあることが窺はれる次第である。

併して北支に於ける主要なる輸入貿易品としては綿糸布、小麥粉、油脂、砂糖、紙、木材、金屬類等があり、輸出貿易品には鷄卵、棉花、羊毛、麻、各種種子、鹽、石炭等があるが、後二者を除いては全部が農產品であつて工業が未だ發達の域に達してゐないことを測り知ることが出來る。主要輸入國としては日本が第 1 位でその半分を占め、次いで米國、英國、獨逸の順序である。日本より輸入品の主なるものは織物が最も多く、その他小麥粉、砂糖、紙、金屬、雜貨等があり、米國よりは石油油脂、棉花、麥粉、紙類、木材、英國よりは金屬機械器具織物又獨逸よりの輸入品には金屬、機械器具、化學藥品紙類等がある。次に輸出品としては日本へは棉花、羊毛、麻を主とし鷄卵、

皮革、種子之に次ぎ、英國に對しては鷄卵、種子等、米國へは鷄卵、紡績用繊維、獨逸へは種子、鷄卵等である。

支那殊に北支の對外貿易の不振は主として經濟界の不況、銀の昂騰等に基くものであるが、密輸問題も決して見逃すべきではない。殊に1933年5月改訂實施せられた高率關稅に累せられて密輸は益々激增を促進せられた。北支方面では山東半島を中心として盛んに行はれたものであるが、近年その取締が益々嚴重となるに及んで密輸も漸次その影を潜めつゝある。扨て、上述の今事變前の貿易情勢であるが、今後本邦商品の對支輸出は日貨排斥の解消に依つて一轉しやうが、南支地方への發展に對してはあまり大きな期待をかけることは出來なからう。然し北支に於つては滿洲國同樣一大消費市場が出現した譯で大きな期待がかけられる。即ち戰後の復興には先づセメント、鐵鋼材、木材が考へられ、その他生活品砂糖、油脂、石鹼等あり、早くもその取引の交涉が進められてゐる模樣である。

北支の化學工業

既述せる如く北支に於ける主要なる化學工業としては曹達工業を筆頭に染料工業、硝子工業、燐寸工業、セメント工業、油脂工業、石鹼工業、製紙及びパルプ工業等を擧げることが出來、その他の工業として紡績工業及び製粉工業は北支工業の白眉である。併し永利化學工業公司等に依つて代表される曹達工業を除いては北支に於ける化學工業は少くとも今日までのところ極めて不振の狀態にある。以下その各々に就て略述してみよう。

曹達工業　は原料鹽に惠まれて最も發達を遂げてゐる化學工業である。この中最大の曹達會社たる永利化學工業公司は尨大なる長蘆鹽の利用策として1916年財政部の提唱によつて興され堅實强固なる基礎の上に立ち、獨自なる經營方針を取りて、次第に外貨への攻撃を加へつつ今日の大をなした。本工場は塘沽にある。ソルベー法により曹達灰日產180噸、苛性17噸の製造能力がある。分工場は浦口にあり、支那唯一の合成硫安工場である。1昨年(1936年)北支新狀勢に鑑み、本社を天津から上海に移し排日に備へるところがつた。現在支那に於ける曹達の需要は年約10萬噸以上であるが、永利製品及天然曹達の不足分たる5—6萬噸は輸入に仰いでゐる。輸入の殆ど大部分は英國ブランナモンドの製品によつて占められてゐる。永利に次いでは渤海化學工業公司がある。民國15年創立にかゝり財政部より種々の便宜を與へられ現在資金60萬元に達し極めて順調なる發展を見られる如くであつたが、經營に遺憾の點があり春年2月以來操業を中止して居り自力復興は絕望と視せられてゐる。山西省太原にある西北實業公司、これは民國34年資本金40萬元を以て設立、苛性曹達年產1500噸、省營事業として小規模乍ら發展の道を辿つてゐる。

以上3社を除いては徵々たるもので主として硫化染料の原料たる硫化曹達を製造してゐる。豐富なる工業鹽を利用するソーダ及び河南方面で得られる硫化鐵鑛を原料とする硫酸を自給した各種工業藥品工業は將來を有望視せられてゐる。

セメント工業　豐富なる石灰原料と燃料資源との結合に着目1907年に設置せられた啓新洋灰公司は、現在資本1400萬元、年產能力30萬噸の支那代表的セメトン工場である。政府の庇護のもとに北支販賣權を獨占してゐる。本工場は原料關係から云つて大いに有望な譯で破壞せられた北支再建の爲にも最も早く確立される工業と思はれる。

硝子工業　秦皇島に於ける板硝子工場たる耀華玻璃製造公司は現在資本250萬元、フルコール式取引法による公稱能力65萬箱、支那に於ける總需要65—70萬箱をほゞ充し得るのである。昨年ベルギー資本を驅逐してその經營を旭硝子系の大連昌光硝子に委任した耀華硝子は昌光硝子援護の下に今後極めて有利にその發展を辿るだらう。

染料工業　北支に於ける主要染料は硫化ブラックである。その他直接染料も最近使用されるに至つたが、未だ極めて僅かであつて北支の14工場ともに全部硫化黑染料に主力を注いでゐる日本よりは既に帝國染料が維新化學工廠社(青島)に投資してゐるが、最近三菱、三井の進出が傳へられ、今後支那市場の獨占が期待されてゐる。

燐寸工業　製品は主として硫化燐燐寸で販路は北支、中支、南支方面に亘つてゐる。年產額青島區40—45萬トン、天津區20—25萬トン、上海區30萬トンで、北支に於ける日本人投資會社の燐寸製產數量は天津、青島、上海3區に於て約3分の1を占めてゐる。又原料たる軸木、所要藥品等は殆ど日本製品を使用してゐる狀態である。現在極度の生產過剩に直面して經營困難に陷つてゐる有樣で、對策として統制問題が擡頭してゐる。

製紙工業　北支には製紙工場が9場あり、之等が主としてボロ、藁その他を原料として製紙せるもので良質の紙は造られてゐない。輸入パルプを以て洋紙を製造してゐる社もある。北支には原料たるパルプがないために、最近同地方に群生する葦を原料とする紙が目論まれてゐるが將來を期待されてゐる。我東洋製紙工業株式會社は逸早く天津市外に工場を建設中にある。

醱酵工業

(1) **清凉飮料及製氷工業**　サイダー類製造工場は相當あるが規模小で、取り立てるほどの工業がない。邦人系で天津の屈臣氏工廠、青島の大連製氷が逐年業績を向上せしめてゐる。

(2) **日本酒及洋酒製造工業**　北支の米或は朝鮮內地米等を原料として相當活躍してゐる。

(3) **醬油釀造業**　大豆、小麥を使用して相當發達してゐるが未だ家內工業の域を脫してゐない。

(4) **製糖工業**　溥益實業股份有限公司糖廠が甜菜から日產60噸を製して山東、河北、河南、山西省方面に販路を向けてゐる。

麥酒工業　豐富な大麥を利用して麥酒工場は4重要都市に各1工場をもつてゐる。北支並に滿洲國に向けて捌口を向け年約43萬函の製造高を擧げてゐる。我大日本麥酒は青島に於て年25萬箱能力の工場を經營してゐる。最近キリン麥酒に於ても北支進出を計畫しあり、有望工業の一に數へられよう。

陶磁器工業　河北省唐山附近から得られる。粘土を利用して家內工業的工場が興つてゐる將來はこれらの原料

から耐火工業方面に延びる餘地があり有望視せられてゐる。

粘土　長城粘土及柳江粘土は最高70—80%の礬土を含有してゐてアルミナセメントに使用せられる外アルミニウム製造原料として頗る重要性をもつてゐる。この開發事業に拂つてゐるのが長城鑛業會社と日支炭鑛汽船會社で日本の耐火煉瓦界に充分なる原料を確保してゐる。

油脂工業　棉、落花生、大豆油等植物油脂原料に惠まれて、棉實油及落花生油の生產をなし、該地消費の殘餘は大部分日本內地に輸入されてゐる。

石鹼工業　非文化的住民が多いために大した發達は見てゐない。工場は天津、濟南、青島で約20位、何れも洗濯石鹼及化粧石鹼の製造がなされてゐる。

石油工業　北支奥地に有望な石油資源がある由だが交通不便のため未だ開發に至らない。最近冀東火油公司が設立せられて輸入販賣をしてゐる。

護謨工業　ゴム製品の需要は相當に多い。人力車ゴムタイヤー、同チューブ、ゴム靴底及ヒール等比較的原始工業に屬するものが製造されてゐる。併し供給不足にて朝鮮及日本より相當輸入されつゝある。工場は主として青島及天津に10數工場を數へ殊に日本ゴムの勢力が大きい。

皮革工業　北支の奥並に蒙古方面よりの畜產皮を原料とした皮革工業は家內工業的に多數あり、工場數20に上つてゐる。然し設備の原始的なため良質のものは得られない。

其他の工業　壓縮酸素、澱粉、食品工業等があるが見るべき成果をあげてゐない。紡績工業は支那全土の豐富なる棉花を利用して古くより發達し北支のみで30數工場が數へられる。何れも綿糸、綿布として大工業組織を形造つてゐる。製粉工業も小麥の消化策として既に工業體系を備へてゐる。北支30數工場の年產能力1200萬俵に上り益々期待される所である。

結　語

北支に於ける化學工業の現狀に就ては以上に概述した如く、豐富なる資源を有し乍ら全般的に未發達、未開拓の狀態であり、漸く土着資本による基礎化學工業昜隆の萠しが見えそめんとしてゐる折柄、今次事變の勃發は全面的な影響を及ぼすに違ひない。併し一時的停滯に次いで、地方政權の確立强化に伴ふ交通機關の再建整備は化學工業の諸分野に亘つて目覺しい發展を豫想させるものがある。而して南京陷落による全支的統括は最近に至る迄の北支が持つ單なる地方的概念の包ひを脫し中南支を內容的に聯繫した全支的規模の一翼として、日滿兩國との緊密なる提携の下に具體的經濟工作が進められるであらう。遠からずして建設されるべき東洋平和の一日も速かならんことの望まれる次第である。

理學士　內田義信著
工業鑛物岩石學　菊判 上製　¥2.70 〒.21
御用命は弊社代理部へ　振替東京79086番

重要化學工業品內地生產高

（商工大臣官房統計課調査）——[註] … 未詳數字

品名	單位	昭和10年 數量	昭和10年 價格(圓)	昭和11年 數量	昭和11年 價格(圓)	昭和12年(上半期) 數量	昭和12年(上半期) 價格(圓)
人絹絲	(瓩)	2 010 316	.....	2 618 251	.....	1 600 974	.....
100デニール以下	(〃)	22 420	.....	37 461	.....	30 005	.....
120デニール	(〃)	1 433 062	.....	1 971 040	.....	1 194 381	.....
150デニール	(〃)	392 208	.....	363 076	.....	227 019	.....
200デニール以上	(〃)	162 566	.....	246 674	.....	149 569	.....
人造繊維物(絹トノ交織ヲ含ム)	——	.....	213 639 017	.....	306 689 434	.....	228 553 395
人絹綿羊毛各交織物	——	.....	660 286 659	.....	77 092 683	.....	55 292 188
金	(瓦)	17 837 466	.....	21 114 234	.....	11 456 057	.....
銀	(〃)	253 608 305	.....	298 793 482	.....	160 516 861	.....
銑鐵	(瓲)	2 718 861	.....	2 868 860	.....	1 276 696	.....
普通鋼壓延鋼材	(〃)	3 613 643	.....	4 279 464	.....	2 458 022	.....
厚7粍以下鋼板	(〃)	363 299	.....	468 899	.....	236 937	.....
其他ノ鋼板	(〃)	720 122	.....	927 253	.....	600 606	.....
鉄板	(〃)	94 852	.....	183 270	.....	90 367	.....
棒鋼	(〃)	926 800	.....	1 098 628	.....	602 197	.....
形鋼	(〃)	481 866	.....	570 457	.....	371 136	.....
帶鋼	(〃)	376 613	.....	329 410	.....	104 892	.....
條鋼	(〃)	408 040	.....	437 892	.....	247 473	.....
其ノ他	(〃)	186 383	.....	184 370	.....	110 072	.....
鋼管	(〃)	55 668	.....	50 921	.....	34 173	.....
石炭	(瓲)	69 829 886	.....	78 114 205	.....	41 776 572	.....
	(瓲)	34 904 818	.....	38 067 761	.....	20 853 017	.....

品名	單位	昭和10年 數量	昭和10年 價格(圓)	昭和11年 數量	昭和11年 價格(圓)	昭和12年(上半期1—6月) 數量	昭和12年(上半期1—6月) 價格(圓)
石油(原油)	(噸)	2 935 053	.....	3 820 462	.....	1 947 206	.....
硫黃	(噸)	152 019	.....	175 814	.....	119 411	.....
鉛	(瓲)	7 915 361	.....	8 021 141	.....	4 694 331	.....
亞鉛	(〃)	31 300 938	.....	36 201 530	.....	22 638 330	.....
錫	(〃)	2 059 669	.....	1 859 047	.....	817 062	.....
硫化鐵	(噸)	1 311 464	.....	1 692 624	.....	936 781	.....
セメント	(〃)	5 564 813	.....	5 456 458	.....	3 031 573	.....
過燐酸石灰	(〃)	1 274 231	45 137 262	1 442 062	46 450 007	859 552	31 972 330
硫安(內地)	(〃)	961 226	83 456 413	1 270 030	108 384 313	683 556	56 396 045
硫安(滿洲)	(〃)	.....	.....	178 969	12 803 958	93 017	668 100
石灰窒素	(〃)	204 791	15 972 923	203 160	17 533 857	139 826	10 748 998
晒粉	(瓲)	74 254 239	.....	78 321 333	.....	44 543 039	.....
苛性ソーダ	(〃)	213 319 880	.....	263 327 350	.....	164 312 750	23 389 533
板硝子	(函)	3 273 179	25 179 125	3 550 339	25 877 878	2 094 203	15 826 255
洋紙	(瓲)	780 234 795	.....	828 424 730	.....	433 543 696	.....
印刷用紙	(〃)	231 061 255	.....	246 912 315	.....	152 937 708	.....
新聞用紙	(〃)	334 049 485	.....	348 522 070	.....	184 226 227	.....
包裝類	(〃)	96 618 145	.....	104 552 650	.....	63 095 826	.....
板紙類	(〃)	36 227 235	.....	87 894 955	.....	25 101 139	.....
其他紙	(〃)	82 278 675	.....	87 894 955	.....	58 182 796	.....
アニリン	(〃)	3 659 559	2 558 271	3 831 780	2 683 671	2 114 479	1 910 853
ソーダ灰	(噸)	198 307	16 115 716	251 180	15 266 364	131 693	9 743 851
小麥粉	(袋)	41 267 413	147 216 500	35 912 588	151 599 505	15 134 861	73 053 225
鐵鋼	(噸)	6 648 887	69 459 713	5 743 718	59 037 686	3 045 613	32 091 235

國產

琥珀塗料

製造品目

1. ワニス、ペイント類、絕緣、耐酸
   耐アルカリ、耐海水、耐瓦斯、耐油
   軍刀、水筒、飯盒用等各種塗料
2. 琥珀寶飾品一切
3. 白土一般

東洋琥珀塗料株式會社

本社　東京市神田區神保町二ノ一九（電話九段4121—4.4577）
第一工場　東京市蒲田區羽田本町五八三（電話蒲田2044）
第二工場　東京市大森區森ヶ崎町五八七四
出張所　岩手縣九戸郡夏井村島谷

其他
陶土用
鑛山用
製藥用
顔料用
染料用
塗料用
製油用
釀造用
製糖用
人絹用

各種フイルタープレス

初めて濾過作業希望の向には
試驗機無料貸與す

斯界唯一の優秀品

（栗田式フイルタープレス）

各種濾過機專門製作

栗田機械製作所

大阪市港區九條南通四丁目三三四番地

（但シ市電汐干橋電停前）電話西二六一三番

最近三ヶ年間 内地化學工業品生産高（四十年以降統計表に據る）〔註〕……は未計數字

品名		昭和8年 數量	昭和8年 價格	昭和9年 數量	昭和9年 價格	昭和10年 數量	昭和10年 價格
人造絹撚糸	(瓩)	446 898	1 292 775	1 038 132	3 237 347	1 813 574	2 394 297
		.....	1 625	.....	17 650	.....	613 109
人造絹織物（絹トノ交織）		.....	98 562 587	.....	137 165 700	.....	146 393 025
人造絹織物（綿麻毛トノ交織）		.....	7 845 167	.....	12 293 468	.....	12 183 418
銑鐵	(瓩)	243 479	8 633 231	1 618 986	50 421 524	1 948 735	70 068 476
		.....	12 400	.....	36 800	.....	63 660
合金鐵	(瓲)	37 976 419	7 924 727	71 601 337	14 931 173	89 183 436	19 737 505
		.....	309 149 904	.....	137 357	.....	797 344
鋼特殊鋼		.....	22 263 868	.....	694 158 589	.....	856 187 248
		.....	75 876 226	.....	32 696 973	.....	32 635 619
鋼		.....	12 563 011	.....	83 327 392	.....	103 107 391
亞鉛		.....	8 627 598	.....	13 034 473	.....	15 682 665
鉛		.....	14 471 412	.....	9 875 272	.....	14 047 812
アルミニウム		.....	162 110	.....	19 149 172	.....	30 966 378
白金	(瓩)	40	648 000	197	880 500	162	587 140
		.....					
錫	(瓩)	1 325 117	4 082 927	2 312 263	8 097 028	3 223 612	11 660 222
		.....	986 390	.....	38 047	.....	115 882
タングステン	(瓩)	3 430 125	258 840	188 246	843 691	248 158	1 002 150
		.....	2 587 393	.....	3 241 286	.....	2 549 581
アンチモン		210 000	50 000	350 000	131 250	396 000	138 600
		.....	36 159 463	.....	43 134 588	.....	38 250
眞鍮		.....	789 896	868 284	1 008 406	1 536 227	1 999 372
青銅	(瓩)	616 950	13 000	.....	187 531	.....	40 233

品名		昭和8年 數量	昭和8年 價格(圓)	昭和9年 數量	昭和9年 價格(圓)	昭和10年 數量	昭和10年 價格(圓)
白銅	(瓩)	79 265	149 167	282 168	383 946	1 405 272	1 414 018
デユラルミン	(瓩)	1 015 757	7 466 465	745 978	5 249 083	229 457	1 400 833
シルミン		.....	.....	.....	.....	.....	8 145 496
減磨合金	(瓩)	674 384	978 630	871 656	1 503 383	998 056	1 701 609
		.....	35 101			.....	56 619
鐵	(瓩)	182 904	273 572	119 673	242 242	271 090	485 075
		.....	119 163	.....	51 000	.....	160 824
其ノ他合金		.....	3 398 607	.....	3 644 222	.....	3 331 082
鐵鑄物		.....	87 386 082	.....	126 153 904	.....	139 467 535
鑄物以外ノ金屬製品		.....	193 400 102	.....	233 751 047	.....	279 294 497
鍍金製品		.....	52 824 885	.....	72 765 965	.....	100 310 961
內燃機關		.....	46 605 230	.....	41 925 069	.....	47 649 011
電池		.....	11 456 635	.....	13 844 699	.....	16 080 544
窯業用機械器具		.....	4 351 629	.....	5 258 333	.....	3 869 844
製紙機械器具		.....	1 642 611	.....	2 731 426	.....	3 890 798
化學工業用機械器具		.....	14 341 447	.....	21 662 391	.....	23 577 954
食料品製造加工用機械器具		.....	5 495 501	.....	7 447 799	.....	9 421 217
「ガソリン」動車		288	1 486 822	236	824 323	336	2 132 369
						.....	64 500
飲食用陶磁器		.....	15 978 567	.....	21 861 854	.....	23 335 717
衞生用陶磁器		.....	1 324 246	.....	1 711 110	.....	1 996 068
家具用陶磁器		.....	1 843 717	.....	2 633 394	.....	2 251 716
建築用陶磁器		.....	5 283 982	.....	5 921 744	.....	6 746 448
電氣用碍子		.....	3 752 648	.....	5 614 218	.....	6 745 954
電熱器用陶磁器		.....	52 914	.....	52 517	.....	78 846
電氣用陶磁器		.....	76 576	.....	513 028	.....	7 276 784
醫藥用陶磁器		.....	10 527	.....	163 513	.....	277 481
耐酸及耐熱用陶磁器		.....	1 672 998	.....	1 799 644	.....	2 359 050
玩具用陶磁器		.....	245 885	.....	538 260	.....	642 100
陶管	(本)	8 057 776	1 223 999	5 773 244	1 331 581	7 003 227	1 305 315
		.....	196 367	.....	321 128	.....	198 593
其ノ他陶磁器		.....	1 476 181	.....	2 668 811	2 778 663	49 167 935
飲食用硝子		.....	4 143 424	.....	5 454 356	.....	6 631 679
硝子製珠玉及ビ光球		.....	302 716	.....	469 270	.....	239 103
裝飾用腕輪	(打)	17 730 057	676 218	17 909 800	853 553	16 821 581	865 290
						.....	165 000
其ノ他裝飾用硝子		.....	159 754	.....	246 272	.....	291 503
シエード及グローブ		4 602 660	323 834	9 032 273	440 566	3 489 909	211 203
		.....	175 586	.....	31 294	.....	358 730
其ノ他ノ照明用硝子		.....	1 280 036	.....	1 414 265	.....	1 119 460
電氣用硝子		.....	1 904 455	.....	96 230	.....	219 598
醫療用硝子		.....	276 914	.....	974 198	.....	912 238
耐酸及ビ耐熱用硝子		.....	80 000	.....	166 803	.....	522 905
壜類		.....	16 845 600	.....	20 349 458	.....	23 716 901
板硝子		.....	22 372 969	.....	23 427 306	1 009 981	7 642 874
鏡	(箱)	74 120	96 780	450	5 550	270	3 510
		.....	192 085	.....	428 106	.....	364 588
其ノ他硝子製品		.....	3 696 270	.....	4 499 816	5 570 707	68 173 151
普通煉瓦		168 311 377	2 283 016	193 049 238	3 067 606	228 408 250	3 193 852
		.....	8 000	.....	5 800	.....	10 067
耐火煉瓦	(箇)	85 586 220	4 942 888	84 482 396	6 103 114	135 956 508	9 589 798
		.....	3 238 350	.....	6 758 102	.....	8 621 293
黑鉛製煉瓦	(箇)	7 486 419	732 636	7 725 000	763 150	4 917 213	587 620
		.....	628 138	.....	647 650	.....	802 399
レトルト	(箇)	.....	2 871	600	2 400	600	2 400

品名		昭和8年 數量	昭和8年 價格(圓)	昭和9年 數量	昭和9年 價格(圓)	昭和10年 數量	昭和10年 價格(圓)
其ノ他耐火物及瓦煉瓦		.....	2 434 793	.....	5 638 997	.....	26 637 162
屋根瓦		.....	4 028 838	.....	4 625 057	.....	4 785 750
ポートランド	(樽)	21 789 392	75 920 221	26 689 637	90 814 136	30 854 313	99 146 671
其ノ他ノ「セメント」	(樽)	.....	8 646 523				
セメント製瓦	(箇)	153 926	515 065	39 002	176 498	706 233	1 508 424
		.....	.....	.....	1 212 968	.....	185 130
セメント製管類	(箇)	7 929 922	410 682	10 937 325	525 116	13 135 284	617 956
		.....	20 880	.....	14 546	.....	8 108
スレート		1 446 675	1 908 671	1 105 370	1 105 075	1 692 712	2 507 200
		.....	3 100	.....	886 545	.....	1 211 164
其ノ他ノセメント製品		11 600	13 050	468 594	687 312	865 100	1 227 760
		.....	1 671 920	.....	1 837 727	.....	1 828 806
石灰	(瓲)	.....	2 325 317	.....	1 669 296	.....	2 106 514
琺瑯鐵器		539 999	3 687 454	922 884	4 915 693	825 530	5 776 163
醫藥		.....	295 632	.....	83 476	.....	119 570
賣藥及ビ藥類似品		.....	11 992 402	.....	14 215 865	.....	15 944 861
發煙硫酸		.....	30 873 722	.....	38 490 725	.....	40 494 623
六十五度以上硫酸	(瓲)	.....	44 710 334	.....	50 374 127	.....	53 016 353
六十度以上硫酸	(瓲)	8 984	648 554	12 175	854 666	50 359	1 841 291
鉛室硫酸		180 069	7 110 235	220 560	9 359 762	305 241	11 625 797
	(瓲)	.....	29 998	.....	2 872		
合成鹽酸	(瓲)	21 464	552 293	16 211	507 209	23 326	867 402
其ノ他ノ鹽酸		1 402 852	22 678 038	1 496 531	20 447 983	1 511 874	21 517 071
	(瓲)	.....	141	.....	1 200	.....	1 638 667
合成硝酸		34 647	1 371 130	43 762	2 303 422	73 781	2 725 022
		.....	.....	.....	37 110	.....	.....
其ノ他ノ硝酸	(瓲)	32 834	1 647 955	36 699	1 142 663	32 709	687 386
		.....	2 320	.....	1 685	.....	550
ソーダ灰	(瓲)	52 635	6 575 692	61 745	7 052 512	71 221	7 849 992
		.....	151 815	.....	133	.....	1 993
洗濯ソーダ	(瓲)	3 003	528 709	3 762	706 021	4 889	698 777
重炭酸ソーダ	(瓲)	272 135	26 893 004	170 622	14 133 927	364 613	27 345 225
		.....	1 800	.....	36		
苛性ソーダ	(瓲)	3 166 929	134 644	2 583 066	134 013	3 426 047	142 624
		.....	1 040	.....	26 098	.....	59 378
カーバイド	(瓩)	6 413 000	637 100	10 164 472	1 277 827	15 989 809	2 010 847
		.....	1 500	.....	1 800	.....	2 200
重クローム酸加里	(瓲)	110 953	22 007 028	177 771	29 135 759	233 288	34 971 326
重クローム酸ソーダ	(瓲)	216 728	16 485 017	254 174	19 967 338	388 911	33 761 007
		.....	19 615				
ヨード	(瓲)	1 270 000	745 000	1 521 948	897 348	1 296 460	756 085
ヨードカリ	(瓲)	2 359 000	1 030 000	2 911 000	1 278 356	4 293 370	1 839 850
晒粉	(瓲)	45 057	531 869	37 157	341 333	30 919	274 774
		57 518	647 216	55 881	590 902	64 592	694 257
		.....	.....	.....	186		
酸素		61 142	4 838 551	66 155	4 777 067	77 080	5 194 934
水素	(瓲)	38 323 712	4 700 975	36 531 141	7 569 063	41 824 682	9 227 783
		.....	113 355	.....	21 600	.....	7 000
鹽素	(瓲)	2 979 352	1 258 231	12 909 941	1 397 936	3 628 881	1 220 421
		.....	14 244	.....	59 739	.....	13 890
炭酸	(瓲)	5 546 481	593 645	9 207 514	1 053 817	12 826 716	1 310 335
アンモニア	(瓲)	1 831 183	287 401	2 180 197	321 294	2 496 308	362 343
	(瓲)	108 643 415	23 834 236	73 148 726	18 403 553	149 990 542	33 522 231
		.....	400				

品名		昭和8年 数量	昭和8年 價格(圓)	昭和9年 数量	昭和9年 價格(圓)	昭和10年 数量	昭和10年 價格(圓)
其ノ他ノ壓縮ガス	(瓩)	14 736 573	313 196	12 442 680	516 876	12 153 780	425 737
	.....		234 748	.....	241 191	.....	225 973
合成醋酸	(瓩)	6 047 368	2 778 676	7 952 721	3 469 307	9 354 155	3 903 993
	.....		90 000				
其ノ他醋酸	(瓩)	538 340	140 705	295 350	149 993	691 569	401 350
	.....		3 900	.....	1 250	.....	3 100
醋酸石灰		315 292	170 293	511 662	299 576	.....	.....
サルチル酸	(瓩)	219 835	622 820	63 596	165 307	210 444	555 825
タンニン酸	(瓩)	152 685	230 702	183 578	315 091	186 212	264 291
石炭酸	(瓩)	1 477 572	1 923 477	2 311 742	2 693 302	2 070 910	2 400 025
ナフタリン	(瓩)	4 411 356	714 853	9 926 065	637 366	13 542 567	1 144 876
	.....		55 038	.....	357 233		
アセトン	(瓩)	262 797	290 184	267 877	331 573	221 820	231 860
メタノール	(瓩)	52 860	25 490	2 098 301	746 334	3 598 024	1 296 429
アルコール	(瓩)	1 489 679	764 550	1 572 478	1 052 306	1 183 653	895 051
	.....		803 269	.....	474 597	.....	742 378
エーテル	(瓩)	892 301	576 408	1 195 781	791 363	2 383 225	1 024 075
グリセリン	(瓩)	6 280 941	4 319 668	6 920 829	5 757 323	8 535 183	8 454 951
	.....		302 126	.....	2 700	.....	28 892
黄燐及赤燐	(瓩)	1 343 654	891 452	1 244 962	1 172 497	1 549 111	1 317 942
結晶芒硝	(瓩)	13 942 736	375 617	14 514 482	362 261	15 493 739	283 733
						.....	11 097
脫水芒硝	(瓩)	24 786 426	837 661	22 245 803	840 735	37 869 127	1 063 937
硫化ソーダ	(瓲)	18 616	1 378 505	21 417	1 824 017	22 682	1 989 795
硅酸ソーダ	(瓩)	13 717 840	1 033 305	20 040 240	1 380 622	21 850 490	1 527 846
	.....		132 848			.....	47 280

鹽化「カリ」	(瓲)	1 173	88 193	862	63 656	1 712	139 615
	.....		5 383	.....	1 778		
硝石		3 094	971 819	2 662	738 953	39 166	775 413
硝酸「アンモン」	(瓩)	2 723 158	388 270	3 342 785	536 038	2 390 592	321 088
				.....	2 645		
炭酸「マグネシア」	(瓩)	17 484 587	4 097 801	16 280 499	3 059 124	17 610 746	3 436 083
				.....	11 500		
鹽化亞鉛	(瓲)	3 712 953	905 038	5 763 598	838 947	7 293 327	955 502
	.....		20 094				
明礬	(瓲)	7 411	532 792	8 612	791 797	9 423	733 277
	.....		2 923	.....	43 314		
硫酸アルミニウム	(瓲)	22 531	1 119 232	21 684	1 096 122	26 819	1 252 605
	.....		36 000	.....	57 353	.....	42 720
其ノ他工業藥品		.....	32 586 918	.....	40 215 252	51 053 949	289 121 156
鹽基性染料	(瓩)	717 336	3 927 713	765 545	3 909 700	677 587	3 552 354
	.....		141 294	.....	366 694	.....	222 245
直接染料	(瓩)	1 693 278	5 536 960	2 183 367	6 606 101	2 700 458	7 446 301
	.....		170 638	.....	210 536	.....	280 712
酸性染料	(瓩)	522 365	2 012 531	554 179	1 801 352	756397	2 338 060
	.....		236 854	.....	289 734	.....	443 553
媒染染料	(瓩)	32 820	198 848	178 185	750 462	341 209	1 401 383
	.....		21 860			.....	8 774
硫化染料	(瓩)	11 815 949	5 721 883	12 144 731	5 107 557	12 450 127	4 607 565
						.....	67 500
建染染料		.....	2 772 768	.....	4 204 176	.....	6 388 496
其ノ他ノ染料	(瓩)	817 818	3 235 299	1 056 518	3 994 035	1 250 225	4 459 920
	.....		6 743	.....	214 668	.....	48 736
アニリン	(瓩)	2 995 219	2 600 255	3 821 180	3 033 444	4 043 955	2 924 182

品名		昭和8年 數量	昭和8年 價格(圓)	昭和9年 數量	昭和9年 價格(圓)	昭和10年 數量	昭和10年 價格(圓)
ニトロアニリン	(瓩)	8 053	29 114	56 214	111 689	22 294	74 727
ナフチルアミン		479 514	410 272	302 580	249 648	405 108	371 553
ベタナフトール	(瓩)	758 780	764 354	1 022 687	1 058 262	1 317 145	1 361 647
「オキシナフトエ」酸誘導體	(瓩)	155 579	452 138	56 001	168 003	146 200	270 260
其ノ他ノ中間物	(瓩)	5 675 514	5 801 355	3 059 470	3 860 433	6 493 328	7 045 002
		.....	.....	.....	7 500	.....	30 000
タンニンエキス	(瓩)	190 900	147 755	240 990	196 924	378 045	353 965
人造香料	(瓩)	1 001 758	1 822 048	1 728 746	3 976 215	1 204 770	3 672 881
				.....	76 399	.....	351 187
漆液	(瓩)	230 862	825 870	571 150	1 175 689	272 309	885 591
		.....	139 242	.....	53 200	.....	204 199
ワニス		.....	6 004 449	.....	6 598 289	.....	7 521 547
エナメル	(瓩)	3 903 696	2 173 836	4 781 882	2 557 695	5 084 819	2 676 079
		.....	471 344	.....	361 275	.....	378 448
船底塗料	(瓩)	1 773 166	1 166 019	2 328 453	1 845 822	2 607 219	1 962 535
其ノ他ノペイント	(瓩)	24 048 682	8 388 308	24 182 120	8 375 221	31 045 505	11 659 495
		.....	186 541	.....	533 219	.....	414 337
硝化綿塗料	(瓩)	406 950	1 067 279	589 304	1 249 525	762 178	1 767 419
		.....	124 999	.....	178 997	.....	110 443
靴墨		51 300	95 000	9 000	20 686	94 387	72 720
		.....	704 825	.....	749 052	.....	620 972
其ノ他ノ塗料	(瓩)	4 496 741	2 310 446	6 487 385	2 475 090	11 543 387	2 459 308
		.....	210 601	.....	238 257	.....	681 455
亜鉛華	(瓩)	17 763 021	6 244 862	16 423 208	5 664 436	21 407 203	7 005 156
		.....	15 000				
一酸化鉛	(瓩)	3 125 968	811 495	3 659 921	934 068	4 844 775	1 445 063
		.....	7 400	.....	31 500		

品名		昭和8年 數量	昭和8年 價格(圓)	昭和9年 數量	昭和9年 價格(圓)	昭和10年 數量	昭和10年 價格(圓)
鉛丹	(瓩)	8 416 698	1 972 198	10 003 639	2 366 284	16 876 831	3 062 754
硫酸バリウム	(瓩)	6 261 430	554 418	3 940 963	359 595		
				.....	1 495	3 988 571	480 986
リトポン	(瓩)	5 090 284	1 118 591	4 816 891	1 012 494	6 331 416	1 215 980
鉛白	(瓩)	796 565	251 444	795 277	249 868	1 613 246	571 737
群青	(瓩)	28 920	16 744	.....	.....	.....	.....
紺青	(瓩)	228 264	426 019	359 965	543 779	326 378	570 256
		.....	213 300				
ベンガラ	(瓩)	3 221 444	489 106	3 690 479	972 980	3 649 605	864 482
		.....	.....	.....	5 400	.....	1 600
窯業用顔料		.....	603 450	.....	256 252	.....	501 192
繪畫用繪具	(瓩)	25 485	26 103	39 183	34 248	37 965	57 628
		.....	2 103 402	.....	2 096 267	.....	1 791 843
墨		.....	554 021	22 500	18 000	23 000	18 000
				.....	990 725	.....	917 188
印刷「インキ」	(瓩)	9 348 819	6 353 262	9 623 469	6 763 523	11 608 190	7 896 608
		.....	141 540	.....	656 991	.....	259 256
其ノ他ノ「インキ」	(瓩)	225 588	87 259	112 804	170 538	857 883	1 060 200
		.....	3 607 868	.....	1 970 026	.....	1 598 623
其ノ他ノ顔料	(瓩)	3 958 620	1 980 147	4 346 772	2 240 061	8 290 146	3 093 275
		.....	1 168 058	.....	229 625	.....	363 113
化粧料石鹸	(打)	18 026 552	15 455 922	20 303 056	16 225 812	19 701 131	16 482 378
		.....	5 787 931	.....	5 182 045	.....	6 844 320
工業用石鹸	(瓩)	6 612 267	1 707 827	6 323 989	1 348 308	10 425 642	2 519 858
		.....	850 397	.....	583 919	.....	775 503
藥用石鹸	(瓩)	97 523	107 891	229 932	242 970	578 444	333 697
		.....	86 393	.....	134 774	.....	144 287
洗濯石鹸	(瓩)	46 442 355	8 051 255	61 760 606	11 677 113	70 833 474	13 400 517
		.....	1 533 141	.....	2 079 620	.....	2 137 716

品名		昭和8年 數量	昭和8年 價格(圓)	昭和9年 數量	昭和9年 價格(圓)	昭和10年 數量	昭和10年 價格(圓)
粉石鹼	(瓩)	12 239 914	2 461 455	15 364 493	3 193 054	15 538 683	3 489 759
		.....	531 255	.....	138 571	.....	638 716
其ノ他ノ石鹼		.....	1 118 112	.....	2 037 024	3 491 252	50 258 003
香水	(立)	40 204	200 165	28 821	166 958	43 993	478 083
		.....	583 184	.....	660 547	.....	713 388
香油	(瓩)	26 848	73 088	56 571	121 309	35 205	101 580
		.....	2 903 271	.....	2 939 306	.....	2 877 537
齒磨粉	(瓩)	220	955	25 047	34 195	1 603	3 584
		.....	9 290 626	.....	10 135 634	.....	10 234 243
化粧水	(立)	1 995	4 656	5 689	13 379	10 901	37 652
		.....	751 573	.....	1 121 851	.....	1 015 056
白粉	(瓩)	185 790	583 488	629 674	1 496 336	243 568	1 187 348
		.....	7 920 812	.....	7 476 477	.....	7 101 929
クリーム	(瓩)	320 955	1 965 260	435 472	2 290 598	413 631	2 476 596
		.....	3 786 984	.....	6 135 852	.....	5 867 649
洗粉	(瓩)	427 537	59 795	564 258	54 347	475 095	524 578
		.....	923 694	.....	1 481 913	.....	1 041 425
其ノ他ノ化粧料品	(瓩)	8 914 015	872 446	2 965 308	277 485	86 091	151 310
		.....	5 276 566	.....	3 267 921	.....	4 298 423
有煙火藥	(瓩)	172 102	72 397	292 922	128 635	312 795	202 478
無煙火藥	(瓩)	74 620	39 524	.....	.....	.....	93 370
ダイナマイト	(瓩)	8 438 205	7 789 888	10 730 990	10 240 099	7 596 667	7 258 036
						.....	4 512 683
無機性爆藥	(瓩)	2 343 698	2 061 589	2 585 755	2 565 610	710 815	603 184
		.....	.....			.....	586 665
雷汞		{7 689	53 821	.....	38 440		
		{.....	240 180				
導火索		{1 361 351	58 954	.....	1 334 746	.....	1 696 252
		.....	988 453				

煙火	(瓩)	8 825	14 662	7 892	14 915	13 504	20 578
		.....	203 722	.....	278 566	.....	200 568
其ノ他發火物	(瓩)	1 271 411	1 529 342	199 714	178 436	2 012 043	2 029 950
		.....	2 448 952	.....	4 307 412	.....	4 308 472
コールタール	(瓲)	112 983	1 966 314	197 335	4 140 172	275 847	6 946 814
		.....	7 985	.....	167 595	.....	60 085
ベンゾール	(瓲)	9 925	1 549 010	{34 918	5 349 692	26 251	6 152 612
				{.....	243 212	.....	8 645
トルオール	(瓲)	1 231	378 361	1 324	457 251	1 539	538 231
クレオソート油	(瓲)	{25 716	1 178 929	51 030	2 820 510	60 022	3 053 111
		{.....	39 238	.....	121 570	.....	117 611
揮發油	(瓲)	229 383	27 429 803	353 198	33 521 859	436 832	49 459 219
		.....	5 299 872	.....	27 860		
輕油	(瓲)	{113 877	7 196 285	129 385	7 494 300	122 891	7 370 544
		{.....	912 835	.....	185 995	.....	298 138
燈油	(瓲)	58 111	4 427 870	67 592	5 558 006	83 689	5 145 636
		.....	290 938	.....	31 125	.....	4 160
「マシン」油	(瓲)	121 671	11 011 598	148 299	12 429 582	147 728	13 580 267
		.....	1490 185	.....	1 290 532	.....	1 542 876
重油	(瓲)	104 384	3 370 089	{207 047	5 788 665	240 081	6 972 977
				{.....	22 798	.....	110 074
パラフイン	(瓲)	11 348	4 034 321	12 651	4 322 561	13 180	3 885 758
アスファルト	(瓲)	56 941	2 276 182	68 521	2 225 135	71 290	1 970 198
		.....	.....			.....	25 893
ピッチ	(瓲)	73 444	989 678	129 382	1 941 284	143 291	2 275 175
		.....	6 290	.....	38 078	.....	14 525
其ノ他ノ鑛油	(瓲)	21 172	1 290 223	41 383	2 252 124	55 063	2 683 819
		.....	2 866 370	.....	778 639	.....	1 177 565
菜種油	(瓩)	21 184 654	7 034 126	32 699 683	10 319 614	45 353 937	16 665 006
		.....	40 075	.....	9 834	.....	115 855

品名		昭和8年 數量	昭和8年 價格 圓	昭和9年 數量	昭和9年 價格 圓	昭和10年 數量	昭和10年 價格 圓
胡麻油	(瓩)	6 129 159	2 547 514	6 584 478	2 546 189	5 616 170	2 853 258
		.....	32 968	.....	234	.....	23 600
落花生油	(瓩)	994 564	362 636	1 178 062	457 328	1 139 546	569 023
椿油	(瓩)	47 190	37 175	68 931	58 805	80 953	57 876
		.....	.....			.....	566
棉實油	(瓩)	9 632 179	2 579 428	10 150 910	3 012 687	19 423 297	6 589 024
		.....	2 816				
椰子油	(瓩)	12 053 473	3 182 399	14 774 987	2 939 685	17 598 562	4 828 270
ヒマシ油	(瓩)	5 793 955	1 898 831	5 036 336	1 791 620	6 838 334	2 663 467
		.....	.....			43 769	15 561 070
大豆油	(瓩)	42 742 968	12 790 731	52 568 325	13 341 245	.....	214 148
亜麻仁油	(瓩)	8 425 923	3 662 035	9 349 863	3 606 377	8 443 451	3 465 927
荏油	(瓩)	9 198 149	4 729 085	7 072 241	3 697 567	20 790 079	10 463 789
		.....	24 293			.....	78 640
麻實油	(瓩)	499 578	220 759	1 868 699	650 979	3 023 666	1 004 311
桐油	(瓩)	113 128	57 304	161 460	72 860	244 470	104 348
其ノ他植物油脂	(瓩)	13 625 104	4 288 335	14 938 303	3 961 285	21 699 458	5 596 021
		.....	773 323	.....	248 395	.....	52 634
樟腦	(瓩)	3 699 084	6 264 384	2 904 630	6 008 342	4 418 677	8 619 251
赤樟腦油	(瓩)	819 015	418 694	929 919	566 461	915 403	659 191
白樟腦油	(瓩)	1 185 131	608 265	1 188 078	761 031	1 392 925	826 486
薄荷腦	(瓩)	280 839	4 729 770	297 972	5 455 504	343 276	6 176 206
				.....	13 780	.....	9 100
薄荷油	(瓩)	289 333	1 844 545	329 478	2 157 242	438 456	2 981 994
				.....	4 500		

松根油(テレビン油ヲ含ム)	(瓩)	885 711	381 490	869 476	361 217	818 839	336 120
		.....	4 584	.....	7 773	.....	37 860
ミカン油(オレンヂ油ヲ含ム)	(瓩)	8 850	15 230	7 090	13 200	9 802	16 794
其ノ他植物性揮發油	(瓩)	188 737	239 574	425 557	176 539	862 838	493 743
		.....	27 000	.....	195 277	.....	70 335
タラ油	(瓩)	1 378 506	295 077	1 239 568	300 741	2 143 202	1 137 433
		.....	1 285			.....	20 837
ニシン油	(瓩)	193 919	35 854	134 959	23 547	94 121	19 770
イワシ油	(瓩)	3 309 228	449 925	3 794 471	599 987	6 244 040	828 588
		.....	6 827	.....	2 829	.....	850
鯨油	(瓩)	2 768 423	457 124	3 605 435	666 598	5 715 833	908 587
		.....	41 070	.....	6 040	.....	80 431
其ノ他ノ魚油	(瓩)	12 414 840	1 917 663	6 315 878	867 626	20 904 091	5 152 255
		.....	101 069	.....	112 799	.....	104 800
サナギ油	(瓩)	439 366	69 317	378 147	63 330	916 930	177 663
		.....	21 122	.....	47 473	.....	22 906
牛脂	(瓩)	2 543 673	789 306	1 880 250	630 051	6 544 166	2 656 335
		.....	70 000			.....	39 777
豚脂	(瓩)	766 141	312 733	498 433	281 840	1 054 968	346 262
				.....	5 630	.....	31 841
其ノ他ノ獸脂	(瓩)	1 455 139	507 945	2 463 388	780 815	2 449 546	859 938
		.....	720	.....	10 763	.....	30 000
木蠟	(瓩)	4 208 131	1 440 017	4 998 324	1 701 743	4 283 426	1 845 215
				.....	3 405	.....	383 500
蠟燭	(瓩)	11 293 996	5 001 746	8 220 916	3 811 722	8 595 896	4 006 966
		.....	408 882	.....	1 283 763	.....	194 922
ボイル油	(瓩)	8 104 643	3 235 707	8 981 342	3 296 588	14 117 819	5 656 330
		.....	104 030	.....	76 875	.....	181 531
硬化油	(瓩)	61 459 940	13 563 868	63 252 226	13 043 601	82 086 957	19 173 264
		.....	30 160	.....	180 000		

品名	昭和8年 數量	昭和8年 價格(圓)	昭和9年 數量	昭和9年 價格(圓)	昭和10年 數量	昭和10年 價格(圓)
硬化蠟	(瓩) 1 689 347	513 571	1 050 512	404 608	885 778	254 064
オレイン酸	(瓩) 801 873	437 051	1 158 939	693 608	1 218 338	558 137
ステアリン酸	.....	115 350	.....	.....	.....	5 000
「タイヤ」及ビソノ附屬品	(瓩) 6 849 520	2 561 848	{11 633 538	3 881 885 13 500	18 120 001	5 480 962
機械用ゴム	.....	31 826 222	.....	40 588 061	.....	45 907 020
ゴム靴及ビゴム履物	.....	1 000 515	.....	491 801	.....	1 132 753
ゴム玩具	(足) 40 867 480	21 506 468	44 305 294	24 887 521	54 802 185	28 774 776
ゴム管	.....	372 704	.....	215 019	.....	199 268
ゴム調帶	.....	5 562 954	.....	3 547 872	.....	4 619 087
其ノ他軟質ゴム製品	.....	2 989 299	.....	3 447 968	.....	4 422 410
硬質ゴム製品	.....	5 662 136	.....	7 165 853	.....	8 262 972
「ゴム」引布	.....	16 061 033	.... .	20 159 401	.....	23 113 173
地下足袋	.....	86 704 950	.....	103 218 775	.....	119 052 349
「フエノールレヂン」製品	.....	2 875 681	.....	3 218 036	.....	3 058 105
蓄音機「レコード」	(足) 28 307 785	16 546 140	26 262 857	15 966 160		
碎木「パルプ」	.....	6 585				
化學「パルプ」	(瓩) 104 479	268 002	652 717	715 750	1 443 837	1 691 317
其ノ他「パルプ」	.....	2 019 151	.....	3 192 046	.....	3 217 147
印刷用紙	(枚) 24 675 124	11 639 690	25 730 707	13 220 867	28 922 390	15 576 854
筆記用紙	(瓲) 59 914	4 323 259	120 766	10 421 282	.....	42 000
圖畫用紙	(瓲) 19 082	2 666 015	42 773	6 730 244	248 250	23 151 691
包裝用紙	.....	462 692	.....	372 356	92 488	12 440 640
「マツチ」用紙	(瓩) 346 594 153	68 474 779	379 062 292	82 126 986	.....	1 088 263
煙草用紙	.....	292 785	.....	2 040 077	408 671 049	84 785 974
アートペーパー	(瓩) 23 562 994	5 353 794	11 684 817	4 216 282	.....	5 477 406
艶紙	.....	.....			17 854 773	5 301 655
連史紙	(瓩) 3 342 170	1 404 739	3 402 662	1 156 080	.....	178 821
半紙	.....	57 590	.....	824 610	6 678 522	2 037 035
美濃紙	(瓩) 27 695 873	5 899 260	39 180 581	10 274 291	.....	88 99
鳥ノ子紙及模造紙	.....	401 037	.....	52 832	49 049 558	10 776 673
「セロフアン」紙	(瓩) 1 952 192	501 230	2 787 756	711 515	.....	251 279
壁紙	(瓩) 7 655 911	4 632 590	{5 648 764	4 210 067 200 750	6 815 195	1 825 261
擬革紙	(瓩) 10 961 157	4 075 519	15 091 354	5 655 399	10 285 798	7 480 717
板紙	(瓩) 8 774 103	2 699 995	8 007 192	2 377 667	11 268 030	3 976 443
其ノ他ノ紙	.....	549 970	.....	559 992	6 334 611	2 152 153
セルロイド素地	(瓩) 4 312	870	.....	.....	.....	679 518
セルロイド製品	(締) 1 347 325	2 232 047	2 838 498	3 443 828	.....	.....
ヴアルガナイズドファイバー	.....	5 091 140	.....	3 480 192	1 953 675	2 296 197
人造絹絲	(締) 162 714	613 472	305 621	857 501	.....	4 393 911
	.....	24 743	.....	152 826	339 514	1 124 505
	.....	4 441 664	.....	4 174 774	.....	630 612
	(瓩) 574 529	901 372	726 842	1 031 561	.....	6 438 438
	.....	1 106 685	.....	2 383 278	2 382 433	1 931 271
	(瓩) 43 200	9 120			.....	2 009 445
	.....	50 204	.....	75 560	.....	19 100
	.....	1 000	.....	63 950	.....	112 270
	(瓩) 178 151 326	16 103 926	198 502 726	19 854 958	256 336 445	26 744 614
	.....	233 348	.....	224 300	.....	260 244
	.....	43 319 970	.....	50 774 629	53 808 680	224 781 212
	(瓩) 8 813 684	16 674 715	10 393 689	20 277 018	13 033 634	24 620 155
	.....	7 527 552	.....	7 367 782	.....	29 494
	.....	1 458 434	.....	1 257 415	.....	34 042 217
	(瓩) {42 887 618	103 989 267 82 314	70 116 847	147 508 519 40 182	..... 103 103 883	4 195 516 159 499 310 585 244

		昭和8年 数量	昭和8年 價格(圓)	昭和9年 数量	昭和9年 價格(圓)	昭和10年 数量	昭和10年 價格(圓)
寫眞用フイルム		.....	1 407 501	{37 750	661 798 2 106 975	36 158	408 738 2 785 931
乾板		.....	1 203 541	{262 425	430 312 1 212 052	630 548	1 034 099 1 079 374
寫眞用印畫紙		.....	2 104 629	{285 167	1 205 749 2 550 006	304 520	1 135 918 2 459 604
菜種絞粕	(瓲)	57 304	4 611 305 623	51 968	4 536 029	67 636	4 890 423 15 180
大豆絞粕	(瓲)	217 321	15 020 576	{258 119	16 713 352 11 139	204 403	16 469 348 286 739
其ノ他ノ植物質肥料		.....	9 232 442	.....	10 705 796	.....	12 963 103
魚絞粕	(瓩)	13 379 020	1 177 042 11 636	25 185 477	2 451 510 87 637	21 688 905	1 790 316 108 080
鯨絞粕	(瓩)	{4 582 693	338 999 2 720	4 438 780	297 779 101 746	6 409 137	490 180 4 328
骨粉	(瓲)	74 808	1 327 914 5 943	36 520	1 181 175 12 005	18 381	1 380 179 19 316
其ノ他動物質肥料		.....	1 747 795	.....	2 600 803	.....	3 191 328
過燐酸石灰	(瓲)	1 172 637	33 389 259	1 085 446	31 828 812 41 041	1 314 414	41 025 018 1 960
燐酸「アンモン」		.....	.....	.....	.....	280	11 490
硫酸「アンモン」	(瓲)	454 472	38 939 744	{533 509	46 460 808 2 004	606 929	56 759 784 356
硫酸「カリ」		251	97 907	.....	2 004	3 180	328 461 180
石灰窒素	(瓲)	278 825	19 934 167 941 704	254 392 254 392	17 053 290 3 210 804	318 146	25 699 338 1 687 632

配合肥料(化合肥料ヲ含ム)		.....	43 313 232	.....	48 904 936	.....	81 939 465
其ノ他ノ肥料		.....	2 393 167	.....	658 222	.....	1 485 309
牛製革		.....	21 306 141	.....	23 840 663	896 295	6 865 276
馬製革	(枚)	83 949	486 024	73 666	384 044	.....	1 541 931
其ノ他ノ製革		.....	1 009 816	.....	1 298 025	34 237	202 394
兎毛皮	(枚)	130 000	127 050	857 475	251 645	.....	2 054 854
其ノ他ノ毛皮		.....	552 535	.....	375 345	422 890	449 400
膠	(瓲)	3 293 495	1 651 574 23 389	3 611 209	1 825 589	.....	535 109
ゼラチン	(瓲)	110 200	139 323	237 738	343 031	4 025 457	1 721 096 840
其ノ他ノ糊料		.....	3 167 409	.....	2 487 396	737 610	847 668
カーボランダム	(瓲)	149 625	73 159	882 031	516 667 12 000	.....	4 273 656
金剛砂	(瓲)	157 009	83 364 42 600	2 464 000	130 020 125 610	1 004 537 1 344 758	457 716 156 275
其ノ他ノ研磨材料	(瓲)	1 484 358	360 834 99 599	344 290	122 694 125 098	1 392 172	557 607 162 590
人造砥石	(箇)	1 183 742	1 628 592 104 500	1 370 267	2 143 609 280 850	1 852 670	2 272 301 357 065
研磨紙布		{24 000	18 000 170 748	.....	98 782	.....	57 860
其ノ他ノ研磨用品		.....	34 166	.....	128 220	.....	203 145
電極	(瓲)	8 158 798	2 189 223 108 880	15 820 930	4 364 271 50 000	21 174 191	6 069 994 161 561
炭素刷子	(瓲)	52 750	34 400 354 921	62 375	56 400 404 695	12 750	27 200 579 151
炭素製板	(瓲)	46 406	26 910 19 787	38 250	22 440 11 318	27 200 579 151	49 875 .....
炭素棒	(瓲)	303 750	72 900 56 833	250 500	60 120 42 147	243 750	58 500 58 582

品名		昭和8年 數量	昭和8年 價格(圓)	昭和9年 數量	昭和9年 價格(圓)	昭和10年 數量	昭和10年 價格(圓)
炭素粒		……	5 135	……	5 779	……	7 653
パッキング		……	……	……	……	11 300 ……	11 300 2 500
其ノ他ノ炭素製品		……	527 229	……	1 567 907	……	1 744 739
冶金用コークス	(噸)	486 646	7 899 385	1 859 849	22 620 996	2 363 982	32 731 207
		……	……	……	9 014	……	28 289
其ノ他ノコークス	(噸)	983 295	13 148 738	1 152 102	18 588 571	1 121 786	19 538 495
		……	……	……	12 734	……	60 366
煉炭	(噸)	325 848	6 323 066	383 877	8 444 811	459 069	9 527 062
		……	4 831 111	……	4 372 654	……	6 686 139
木炭	(噸)	3 880	126 816	3 015	115 638	1 958	71 441
		……	5 432	……	4 306	……	12 546
其ノ他ノ化學工業品		……	23 027 367	……	25 811 497	……	37 826 174
清酒	(頌)	6 588 981	260 332 912	6 295 158	249 506 738	6 594 582	254 930 833
		……	2 960 216	……	1 476 881	……	5 826 554
味淋	(頌)	139 404	8 138 000	{124 754	6 751 245	152 366	8 576 659
				……	250	……	2 979
燒酎	(頌)	867 148	35 744 688	785 526	32 565 047	827 422	33 143 942
		……	1 920	……	5 150	……	955 870
麥酒	(頌)	1 737 723	80 935 369	1 839 811	78 587 082	1 970 124	91 805 061
		……	3 835 701	……	7 458 916		
葡萄酒	(頌)	32 711	1 735 367	56 523	2 590 492	43 632	1 856 122
		……	1 915 751	……	1 511 817	……	2 014 340
其ノ他ノ酒類		……	3 454 201	……	3 746 065	……	5 020 885
醬油及ビ溜	(頌)	5 120 782	61 097 664	4 658 247	65 443 109	4 705 319	65 005 344
		……	159 444	……	34 736	……	762 494
味噌	(頌)	179 531 207	16 334 792	189 872 976	18 156 695		
		……	201 034	……	44 816		

食酢	(頌)	287 675	1 929 048	246 602	1 952 565	288 586	2 192 084
		……	24 777	……	74 005	……	22 463
酒粕	(瓲)	66 168 878	6 546 348	68 598 101	6 104 231	76 812 436	6 719 988
		……	11 961	……	10 616	……	28 400
サイダー		……	14 132 015	……	7 801 890	……	10 365 531
ラムネ		……	1 424 789	……	1 600 975	……	1 611 915
シロップ類		……	1 182 207	……	1 848 819	……	1 615 720
其ノ他ノ清涼飲料		……	2 950 569	……	5 495 852	……	4 023 263
「ソース」「ケチヤップ類」		……	3 165 329	……	3 548 984	……	4 163 877
製粉		……	142 664 053	……	130 977 017	……	165 010 052
澱粉		……	7 131 470	……	9 683 397	……	12 624 831
粗糖	(瓲)	46 493 447	10 261 565	47 276 291	9 991 459	75 624 617	17 425 111
		……	179 000	……	1 147 430	……	1 015 924
精製糖	(瓲)	395 524 145	97 672 826	474 406 238	114 806 546	489 921 112	116 945 595
		……	13 079 324	……	763 427	……	3 797 431
糖蜜	(瓲)	15 125 538	2 024 005	19 423 145	2 182 154	19 301 728	2 425 463
		……	238 070	……	24 700	……	93 361
水飴		……	12 841 616	……	14 020 795	……	16 453 729
罐詰		……	34 258 512	……	43 408 685	……	46 129 348
果實及ビ蔬菜壜詰		……	156 220	……	100 299	……	322 479
煉乳		……	10 631 066	……	9 393 650	……	10 981 471
粉乳		……	2 073 729	……	3 159 338	……	1 639 909
バター		……	1 802 266	……	2 827 081	……	3 353 572
其ノ他ノ乳製品		……	4 358 670	……	5 830 379	……	6 302 214
人造バター		……	409 999	……	575 965	……	619 655
食鹽	(瓲)	64 658 153	3 494 777	87 570 896	4 121 651	93 147 852	4 264 159
		……	8 215			……	4 656
寒天	(瓲)	1 274 188	2 725 778	1 298 808	2 952 241	1 747 831	4 531 069
		……	65 390	……	150 399	……	92 487

品名		昭和8年 数量	昭和8年 價格	昭和9年 数量	昭和9年 價格	昭和10年 数量	昭和10年 價格
			圓		圓		圓
染料		.....	18 462 164	.....	15 122 901	.....	16 576 740
製藥	(瓩)	1 823 441	11 855 479	1 929 606	12 287 080	1 901 161	11 989 136
		.....	63 529	.....	162 385	.....	193 428
ガス	百立方米	7 211 017	.....	10 466 395	.....	.....	12 177 468
電氣	千「キロワット」時	12 063 419	.....	14 074 301	.....	.....	15 041 432
紙		.....	36 543 462	.....	45 152 120	.....	51 746 667
人造絹糸		.....	1 094 269	.....	979 852	.....	1 596 774
漆器		.....	981 314	.....	1 399 579	.....	1 694 844
防水布及び油布		.....	2 190 574	.....	2 273 617	.....	2 485 284
硫酸	(瓲)	{9 009 243	4 191 208	5 582 979	5 273 909	4 976 629	5 171 943
脂肪			5 000		114 354	.....	144 513
石鹸製品	(瓲)	3 457 100	2 513 429	4 458 895	3 313 531	5 460 631	4 558 154
綿製品		.....	3 740 358	.....	6 336 979	.....	8 698 415
マッチ	グロス	20 711 289	8 062 565	20 597 615	8 407 123	27 369 618	10 486 085
マッチ小箱(模地ヲ含ム)		.....	1 139 656	.....	1 626 444	.....	2 173 844
塩		.....	1 169 029	.....	550 947	.....	607 979
硝	(瓲)	218	553 291	22	71 947	69	170 420
		.....	947 873	.....	1 877 296	.....	956 202
銀	(瓲)	.....	63 751	.....	39 703	.....	61 806
錫	(瓲)	1 504 110	1 047 024	2 691 755	2 699 079	1 966 562	1 403 660
鉛	(瓲)	.....	6 388	.....	4 100	.....	3 200
		424 807	137 115	809 926	289 118	.....	72 500
其ノ他ノ硝	(瓲)	1 839 341	1 756 616	2 771 797	2 319 683	3 665 171	4 331 275
		.....	347 642	.....	295 083	.....	1 039 349
鉱		.....	3 281 055	.....	4 517 400	.....	4 666 487
鉱	(打)	1 483 620	684 839	3 116 595	961 557	1 115 449	938 335
クレヨン		.....	.....	.....	5 750	.....	15 750

資源愛護!! 先づ本書に依つて

國內物資の圓滑を計れ!

販賣、貿易業者並に
製造工場技
術者必
携の

ケミカル ダイレクトリー

化學製品案內

出づ!!

商工省絕讚

化學工業は一國產業の基礎工業として今や、我國力の伸展と共に各種工業の發展に魁して一路躍進を辿り、その使命は愈々重且大となりつゝある。殊に今日の時局下に直面して、資源乏しき祖國を護るは化學工業物資の運用如何に懸る所決して尠くない。その製品及原料の圓滑なる運用こそは銃後を護る我等の重責である然るに化學工業ほど其範圍廣汎にしてその製品種類の夥しく、類名異質、異名類質の甚だしいものはなく、專門家と雖も時に錯覺誤認を起す事も珍しくないのである。況して化學製品の "何が" "どことどこで" 造られてゐるか!! 販賣されて居るか!! の點になると皆目判らない。資源の運用など期すべくもないのである。勿論適切なる案內書もない。產業督勵の元締と云はれる商工省當局に於ても大いに困惑し、國務の澁滯を憂へてゐた次第である。

我社は元々 "化學工業報國" を目指す唯一の新聞社である。偶々商工省當局の敎示を蒙り、且つ多大なる援助を得たので、昨春この困難なる案內書の作成に乘出し、今回遂に上梓の運びとなつたのである。

本書は上述の主旨と目的とに依り發刊されたもので、**化學工業製品及其原料の生產及配給網を明示した**我國に初めて生れ出た「案內書」である。

商工技師平野久保氏が本書序文中に於て述べられてゐる如く、本書の利用に依つて先づ「**國務の澁滯も地を拂ふ**」ことに幾分の貢獻を遂げ得れば望外の收穫である。

=本書に盛られた內容=

1. 化學製品別製造業者……全化學製品及其原料約1000種目を選びこれらを內地及滿洲國に工場を有する約1600軒の製造業者につき調査、製品別下に分類配列せるもの
   【附】 a. 醫藥品主要製造業者
   b. 化學藥品主要製造業者
   c. 商品別主要販賣業者
2. 住所錄……製品取引を便ならしむる爲工場及營業所を名記し、これに電話番號を附せるもの。
   a. 製造業者住所錄(約1600軒)
   b. 販賣業者住所錄(約300軒)
3. 索引……化學製品には同義語多きを以つて何れの名前にても製品を引出せるやう索引を附す。

四六版 8ポ活字橫組 布上製

定價「二圓」 送料 市內 0.12 內地 0.15 植民地 0.22

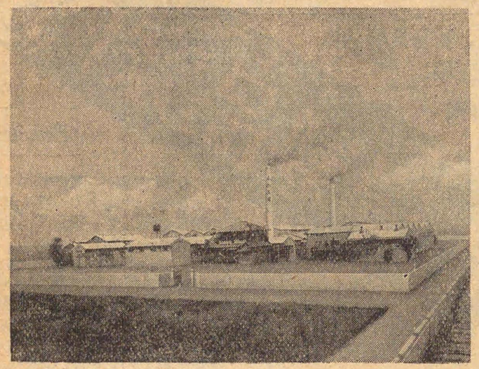
內容見本送呈

東京・京橋

發行所 化學工業時報社

犬印　化學藥品

工業用原料藥品



分析用化學藥品

犬印藥品ハ一品宛SSK化學藥品
規格ニ依リ嚴重試驗シテ居リマス

（カタログ御一報次第御送附致シマス）

東京市日本橋區本町二丁目九番地

合資會社　小西宗七商店

電話日本橋　八二五　八二六　三七四一　三六八三　三八六三

工場　東京市板橋區志村長後町二〇〇二番地

本邦化學工業品貿易情勢

昭和11年下半期に於ける貿易界の大勢を見るに輸出147 496萬圓、輸入141 944萬圓を算し、先づ順調の推移を示したのである。これを前年の同期に比較すると次の如くである。

	昭和11年下半期	昭和10年下半期
輸出	147 496萬圓	132 564萬圓
輸入	141 944	131 361
出超	5 522	1 203

當年下半期は海外諸國の本邦品防遏愈强化を豫想せられ、輸出伸張力は勢ひ減退も止むなき次第と考へられたる處輸出入貿易共に活況を呈し、比較的好成績を以て終始したのである。

今重要輸出入品の消長を見るに、輸出品としては綿織物、絹織物、莫大小は減退を示し、生糸、人造絹織物、機械類、同部分品、植物性脂肪油、玩具人造絹糸、紙類、硝子製品等は何れも增加を示したのである。

相手國別としては輸出として增加を示したるはアメリカ、關東州、支那、滿洲國、海峽殖民地、香港、比律賓、暹羅、英吉利、佛蘭西、獨逸、南阿の諸國、又減少を示したるは英領印度、蘭領印度、濠洲、埃及の諸國である。輸入として增加を示したるはアメリカ滿洲國、支那、海峽殖民地、馬來半島比律賓、英領印度、加奈陀等の諸國で減少を示したるは濠洲、英國、埃及の諸國である。

之れより化學工業に關する重なる品目に就て貿易趨勢を統計的に示して見れば次の如くである。

昭和11年下半期化學工業品貿易表

輸出

	千石	千圓
酒	34	2 757
麥酒	46	2 174
	千斤	千圓
植物油	40 187	11 270
內荏油	9 248	2 563
大豆油	88	28
棉子油	7 437	2 044
薄荷油	362	1 856
魚油、鯨油	55 668	4 809
木蠟	2 860	901
硬化油	30 669	4 849
石鹼		1 736
藥材、化學藥及爆發藥		34 726
內硫黃	60 278	2 412
樟腦	1 489	2 884
薄荷腦	29 370	2 933
燐寸		1 275
染料、顏料、塗料及塡充料		9 794
內合成染料		2 880
ペイント	5 843	1 448
人造絹糸	14 652	12 684
ゴム靴	111千打	840
其他		2 433
紙類		15 527
セメント		3 719
陶磁器		23 595
硝子		13 334
琺瑯鐵器		5 315
ゴムタイヤ		
內人力車用		380
自轉車用		1 973

自動車用		2 566
漆器		1 285
各種ゴム製品		3 686
セルロイド		1 948
玩具		21 311
セロフアン紙		1 355
輸入		
	千斤	千圓
植物性芳香油	270	1 369
棉子油	1 892	254
牛脂	3 499	715
礦油		82 940
藥材、化學藥及爆藥等		82 687
內主なるもの		
ゴム及松脂	89 025	47 394
苛性曹達	8 492	765
曹達灰	16 452	745
天然曹達	16 578	511
硝酸曹達	11 498	574
硼酸曹達	6 834	625
鹽化加里	38 489	2 839
硫酸加里	22 385	1 814
硫安	63 046	4 168
コールタール分離物	14 10	2 155
カゼイン	3 265	1 424
合成塗料	2 335	6 604
カーボンブラツク	3 915	1 138
漆	2 050	1 010
パルプ	131 078	11 706
同(人絹用)	162 525	24 994
印刷料紙	5 811	4 861
寫眞用紙	588	927
硝子板	573	798

次ぎに昭和12年1月以降6月迄の本邦對外貿易の實績は輸出 152 777 萬圓、輸入 214 592萬圓、差引輸入超過61 815 萬圓と云ふ驚くべき大入超に終つた。半期間に 6 億圓以上の入超は關東大震災の直後たる大正13年上半期に於ける入超66 000 萬圓に次ぐ記錄的のものである。

今之れを前年同期の實績と比較すれば左の如くである。

	12年上半期	11年上半期
輸出	1 527 776萬圓	121 800萬圓
輸入	2 145 920	148 982
入超	618 144	27 182

斯くの如き大入超を招致したる原因を檢討するに

一、豫算の膨脹、特に軍備擴張の刺戟を受け之が資材の輸入多額に上りしこと

二、生産力の擴充及輸出の增進、國內消費の增大等に依る重要原料品及必要なる機械の買付多かりしこと

三、世界的物價昂騰、運賃高に基く輸入價格の增大を招きたること

四、關稅の引上、爲替の軟調、爲替管理の强化等を見越せる輸入品の買急ぎ傾向多かりしこと

等を主たる原因と云ふべきであらう。

本年上半期の輸入增加が一般の豫想以上となると同樣に輸出の增加も亦極めて順調なる推移を示した。卽ち綿織物生糸、機械類同部分品、鐵、綿製品、藥品、塗料、金屬製品、其他大部分を通じて增勢を示し、減少したものには僅に植物油、精糖、小麥粉等若干を數ふるのみである。

輸入の著增を示したのは棉花、羊毛、鐵、護謨、銅、機械類及其部分品、礦油、バルブ、鉛、錫及豆類等である。

次ぎに相手國別に見ると輸出では歐洲國、支那、海峽殖民地、蘭印、北米合衆國に於て著增を示し、輸入では支那、英印、南阿聯邦、埃及、新西蘭、海峽殖民地等に於て著增を示した。特に原料分散買付の影響で南阿、埃及、新西蘭及中南米諸國よりの輸入增加は著しさを示した。

以上を以て輸出入貿易に對する大勢を示したものであるが之れより化學工業に關する重なる品目に就き貿易趨勢を統計的に示して見やう。

昭和12年上半期化學工業品貿易表

輸出		
	千石	千圓
酒類	87	4 695
內ビール	75	3 244
	千斤	
植物油	49 460	14 117
內落油	7 408	1 741
大豆油	5 016	1 171
棉實油	28 111	8 548
蘇荷	274	1 386
魚油、獸油	51 419	8 736
木蠟	3 228	1 343
硬化油	35 352	6 731
石鹼		3 082
藥材、化學藥、製藥、其調合品及爆發藥		36 456
內硫黃	43 551	2 210
樟腦	1 196	2 393
薄荷腦	29 671	2 947
燐寸		1 311
染料、顏料、塗料、塡充料		12 343
內合成塗料	6 422	4 077
ペイント		2 062
人造絹糸	19 442	20 744
スステープルフアイバー	8 756	6 242
〃糸	2 766	3 421
ゴム靴	165 924打	1 612
紙類		19 584
	千斤	
セメント	567 143	3 931
陶磁器		24 295
硝子		16 911
琺瑯鐵器		6 510
ゴムタイヤ(人力車用)		404
(自轉車用)		2 854
(自動車用)		2 826
(インナーチユーブ)		162
漆器		100
各種ゴム製品		5 514
セルロイド		1 936
セルロイド製品		3 469
玩具		18 833
セロフアン紙		1 685
輸入		
	千斤	千圓
植物性芳香油	483	2 839
棉子油	8 212	2 664
牛脂	4 485	1 126
礦油		120 247
藥材、化學藥、製藥及爆發藥		152 670
內主なるもの		
ゴム及松脂	107 789	80 168
苛性曹達	16 673	1 323
曹達灰	26 854	1 222
天然曹達	276	477
硝酸曹達	38 083	1 832
硼酸曹達	13 808	1 502
鹽化加里	92 415	7 689
硫酸加里	138 571	11 016
硫安	211 526	11 066
コールタール分離物	2 254	3 760
カゼイン	7 285	3 907
合成染料	2 030	9 347
カーボンブラツク	6 599	1 976
漆	1 699	1 718
パルプ	147 951	16 289
同(人絹用)	200 045	31 787
印刷料紙	27 295	2 902
寫眞用紙	1 230	1 629
	千方米	
硝子板	318	777

主要輸出品の狀況

次ぎに主要輸出品の狀況に就て大勢を記載することゝする。

麥酒　順調に發展を示して居る。主要輸出先は開東州、支那、英領印度、暹羅、等主として東南洋地帶で、其の餘の市場へは餘り販路が開拓せられない。獨逸ビールの勢力範圍に對しては進出が困難の爲と認められる。

植物性脂肪油　年々非常なる發展を示しつゝ來つたが今年は幾分の減退を示した。荏油の不況に基くものである。北米合衆國、英吉利、獨逸等を主要輸出先とする。

薄荷油　順調なる發展を示して居る佛蘭西、獨逸を主要なる輸出地帶とし海峽殖民地、英領印度等に於ても相當需要がある。醫藥とし其の他印度に於ては清涼劑として使用せられる。

魚油、鯨油　非常に好況を示して居る。獨逸を第一とし英國、和蘭等歐洲方面、北米、南洋方面へ輸出せられる。南極に於ける捕鯨事業の發展に伴ひ今後益々多くの輸出を見るであらう。主として硬化油の原料とし又植物油の代用として使用せられる。

石鹼　順調なる經過を辿つて居る。滿洲國　關東州、支那、海峽殖民地、印度等へ輸出されるが南洋に限られ其の餘に於ては佛蘭西品等の競爭により販路開拓が困難である。

樟腦　幾分の景氣恢復を示して居る印度、佛蘭西、北米を主要輸出地帶とする。印度に於ては宗教上の儀式用に北米及佛蘭西に於ては藥用及セルロイド原料として使用せられる。人造樟腦の發展に伴ひ往年の如き輸出は望むことを得ない。

燐寸　關東州、香港、海峽殖民地方面へ向け輸出增大の爲若干の景氣恢復を示した。併し當ては主要販路たりし支那、印度、米國の市場が夫々全く不振の爲往年の好況を示すことは遺憾ながら望み得ない。

人造絹糸　輸出益々好況を持續して居る。英領印度、支那、開東州、墨西哥其の他各市場へ非常なる發展を示した。人造絹糸生産國として纏ては米國をも凌駕し世界一の榮冠を誇稱し得るであらう。

紙類　益々好況を示して居る。滿洲國、關東州、支那、香港を始め南洋、歐洲、米國等各方面へ輸出される。紙類の輸出は今後共益々發展を示すであらう。

セメント　輸出寧ろ不振である。關東州、香港、海峽殖民地等を主要輸出地帶とするも何れも不況を免れない。之れは本邦內地に於ける需要旺盛の爲勢ひ輸出伸張力に拍車が掛けられない結果であらう。

陶磁器　益々好況を持續して居る。北米合衆國、英領印度、蘭領印度、加奈陀を主要輸出地帶とし其の他東洋、南洋、歐洲、アフリカ、中南米等殆と全世界市場へ向ひ進出を示して居る。陶磁器輸出品としては英吉利、獨逸、と共に本邦は世界三大輸出國と稱せらるゝのであるが、今後の發展に一層の期待が置かれるのである。

硝子及同製品　優秀なる勢を以て進出を示して居る。英領印度、蘭領印度北米を以て主要輸出地帶として其の他主として東南洋方面に地盤を築いて居る。近年製造技術も著しく進歩を遂げ殊にクリスタル硝子に於て優秀を示し將來の輸出發展を期待されて居る。

ゴムタイヤ　益々輸出發展を示して居る。開東洲、支那、其の他東南洋方面に輸出せられるが、此の方面に於ては佛、米、英等の製品を凌駕し堅實なる販路を築いて居る。

玩具　年々堅實なる歩みを續けて居る。英領印度、英吉利、北米合衆國を以て主要販路とし、東南洋、歐洲、アフリカ、中南米等殆ど全世界市場に向ひ普及を示して居る。獨逸、チエツコ等を凌駕し優秀なる地歩を占めて居るが惜しむらくは主として安價品に限られ、中流家庭向きとして需要せられないが、若し漸次高級品にも及ぼすことが出來るならば將來の發展期すべきものがあらう。

主要輸入品の狀況

礦油　年々多大の輸入額に達し大半は蘭領印度及北米合衆國より輸入せられる。時局の影響もあり今後共益輸入增大を示すであらう。

生ゴム　主として海峽殖民地及蘭領印度より輸入せられる。年々輸入激增を示して居るが本邦自動車の增加に伴ひタイヤ用としての原料並に一般ゴム製品の內地需要並に輸出增大に從ひ今後必然的に輸入は增加せらるゝであらう。

苛性曹達、曹達灰　主として英吉利より輸入せられる。本邦曹達灰、苛性曹達の產額年々增加を示して居るが需要も亦莫大に達するので當分輸入の增加は免れぬ所であらう。

硫安　關東州、獨逸より輸入せられ本邦產額の增加に伴ひ漸減の傾向を辿つて居る。

合成染料　獨逸、瑞典より主として輸入せられ、未だ本邦として製造せられざる特殊染料が大部分を占むるが、輸出織物の旺盛に從ひ本品の輸入も多額に達する。

パルプ　製紙用、人絹用共に年々輸入莫大に上り、主としてスカンヂナビヤ、北米、加奈陀より輸入せられる。年々紙類の製產は益々增加の傾向を辿つて居るし、人絹は亦非常な勢を以て生產增加を示して居る。內地品としては未だ其の一半の需要に應じ得るに止る。從つて年々輸入激增を示すも止むを得ざる狀勢である。

池田　弘著

工業的アミノ酸製造法

菊判　〒3.50
布裝　〒.21

理學的性質、製造原料、加水分解、中和、濾過の諸法及精法を論じ、製造設備及定量法からグルタミン酸曹達製法に言及せる斯業唯一の標準指針。

御用命は弊社代理部へ振替東京 79086番

高級洋式製本

和一

アルバム類

佐々木製本所

東京市京橋區濱町三丁目六番地

何卒多少不拘御用命の程願ます

御一報次第参上致します

叮嚀迅速

陸軍科學工學研究所中佐所員 工學博士 中村隆著 定價送料二五二〇

化學兵器の話と毒瓦斯

發賣所 東京市京橋區千代田ビル 振替東京七九〇八六番 化學工業時報社

再版 三版 四版 上製 四六判 二七六頁 挿圖入

内容目次概觀……

化學兵器の特徴、化學兵器の沿革、化學戰と資材と平時の用途、重要資源

化學戰の攻防、化學兵器と關係、化學兵器に對する外界の影響、氣象の影響、地形地物の影響、化學兵器の人道論、化學戰の將來、無風風及檜層風、沸點、氣化速度、安定度、混合化學兵器、工業的要素、關係業、比重、膨脹係數外

氣と氣、ブロム系統物、ヨード系統物、硝素系統物、硫黄系統物、酸素系統物、腐蝕劑、發泡劑、催涙劑、嘔吐劑、化學兵器防護法、個人防護法、集團防護法、吸收劑、特殊吸收劑、化學兵器製造法、鑒定法、ガス、麻痺ガス、クシヤミ、催涙ガス

薫煙、補助吸收劑

最近4ケ年間 本邦化學工業品輸出高

【註】 一印ハ輸出皆無 ……印ハ不明ノモノ

大藏省編纂「外國貿易月表」に據る

品名	單位	昭和8年 數量	昭和8年 價格	昭和9年 數量	昭和9年 價格	昭和10年 數量	昭和10年 價格	昭和11年 數量	昭和11年 價格
穀物穀粉澱粉種子			圓		圓		圓		圓
大豆	(百斤)	10 565	94 754	11 293	105 706	10 079	116 640	11 091	127 934
落花生	(〃)	114	1 411	186	2 119	891	14 944	2 211	24 508
亞麻子	(〃)	0	2	2 020	20 160	1 554	13 990	2	34
飲食物及煙草									
精糖	(百斤)	2 172 317	14 909 111	2 019 868	13 531 670	2 669 213	17 576 712	2 978 643	20 976 642
氷砂糖	(〃)	105 214	950 709	79 745	744 918	63 114	598 342	64 360	686 100
ソノ他ノ砂糖	(〃)	20 544	196 472	24 932	244 625	2 387	15 123	95 545	531 218
味噌	(〃)	22 594	287 218	21 237	257 381	19 707	264 716	18 150	253 411
醤油	(石)	18 742	806 877	19 048	768 910	34 845	1 505 576	46 734	2 125 092
鑛水	(〃)	1 408	107 367	1 531	102 160	1 449	106 479	775	69 123
其ノ他ノ飲料		.....	347 650	.....	340 047	971	135 391	708	113 916
コンデンスミルク	(容器共斤)	2 267 373	743 455	5 806 104	1 537 882	87 763	1 937 261	2 551	283 605
清酒	(石)	25 284	2 901 613	31 848	3 585 510	30 046	3 276 041	44 708	3 980 886
淡酒	(〃)	132 373	7 684 342	118 009	5 535 420	135 157	5 870 840	132 503	5 912 139
其ノ他ノ酒類		.....	221 919	.....	272 357	1 417	151 497	1 459	167 000
食鹽	(百斤)	14 490	45 911	6 770	16 129	416	2 902		
皮毛角牙及ビ同製品									
鞣革	(斤)	531 928	620 682	813 586	842 126	4 297	755 317	7 534	1 405 795
機械用帶	(〃)	187 386	368 900	232 890	466 600	2 390	573 291	2 459	669 450
其ノ他ノ革製品		.....	247 805	.....	472 263	2 858	28 601	.....	922 022

品名	單位	昭和8年 數量	昭和8年 價格(圓)	昭和9年 數量	昭和9年 價格(圓)	昭和10年 數量	昭和10年 價格(圓)	昭和11年 數量	昭和11年 價格(圓)
油脂蠟及ビ同製品									
亞麻子油	(百斤)	7 883	211 981	6 911	185 844	11 749	275 047	14 113	340 640
荏胡麻子油	(〃)	126 638	3 532 432	122 922	3 709 742	345 608	10 052 610	548 641	14 981 140
椰子油	(〃)	1 816	37 141	2 928	45 417	53 533	986 391	16 813	347 029
大豆油	(〃)	22 418	342 131	60 098	623 780	82 384	1 420 350	48 261	931 376
菜子油	(〃)	109 688	2 245 448	264 048	5 024 624	486 412	11 212 126	400 915	10 546 527
棉子油	(〃)	102	2 444	6 496	121 120	207 109	5 098 186	187 393	5 130 588
其ノ他ノ植物油	(〃)	29 003	789 845	48 234	1 322 831	73 291	2 561 915	86 142	3 009 880
樟腦油	(〃)	13 699	484 893	10 876	465 496	10 371	521 672	10 079	970 947
薄荷油	(斤)	521 771	2 006 755	541 263	1 838 294	5 385	2 281 835	5 779	2 963 438
鰐油	(　)	275 161	2 396 838	333 896	3 150 337	90 032	1 493 723	72 529	1 914 523
鮫油	(〃)					62 827	650 084	89 259	1 401 018
鰮油	(〃)					251 306	2 853 521	355 870	4 855 552
其ノ他ノ魚油	(〃)					145 174	1 267 214	93 439	1 134 981
鯨油	(〃)	11 083	131 732	11 935	155 678	52 778	628 778	47 390	873 938
石油	(ガロン)	1 347 562	544 061	1 170 857	423 253	29 275	984 006	63 838	1 893 036
其ノ他ノ鑛油	(百斤)	317 020	2 545 587	448 538	3 495 639	39 477	1 149 845	48 276	1 119 727
木蠟	(〃)	46 846	1 139 023	52 928	1 258 013	53 433	1 444 583	59 275	1 812 027
硬化油	(斤)	39 036 092	4 939 525	40 160 635	5 042 254	586 305	8 920 875	607 959	10 002 771
石鹼	(化粧用、打)	3 131 771	2 141 242	3 651 890	2 487 975	4 017 002	2 748 052	.....	4 246 376
其ノ他ノ石鹼	(斤)	6 527 623	1 062 069	7 804 425	1 053 266	113 624	1 232 465	146 714	1 537 367
化粧用クリーム	(容器共斤)	691 833	516 046	606 253	495 384	780 250	642 598	946 002	739 232
香水及ビ香油	(打)	315 738	480 329	519 914	714 844	1 099 632	976 440	1 569 021	1 157 125
其他ノ油脂及同製品		.....	771 740	.....	1 218 466	.....	1 381 726	1 909 491	.....
藥材化學藥及ビ爆發藥									
除蟲菊	(百斤)	84 808	6 349 939	93 848	7 447 004	127 750	127 750	93 473	3 206 952
〃	(〃)	15 792	500 361	12 530	399 212	16 028	546 392	15 540	543 567

品名	單位	昭和8年 數量	昭和8年 價格(圓)	昭和9年 數量	昭和9年 價格(圓)	昭和10年 數量	昭和10年 價格(圓)	昭和11年 數量	昭和11年 價格(圓)
硫黄	(百斤)	535 244	2 430 842	760 837	2 886 569	910 088	3 609 137	1 197 839	4 732 902
ヨード	(斤)	47 950	442 144	32 948	316 126	13 708	74 805	7 587	40 142
醋酸	(百斤)	13 464	425 614	19 328	598 260	32 926	886 221	33 308	808 945
硫酸	(〃)	78 672	419 341	77 184	421 684	62 083	320 703	62 171	300 473
硝酸	(〃)	44 070	530 575	62 624	625 878	49 388	511 656	21 107	197 498
亞砒酸	(〃)	22 215	268 302	38 070	354 256	31 193	304 214	19 744	193 826
硫化ソーダ	(〃)	104 640	593 109	102 129	590 574	78 456	416 960	72 743	320 507
ヨードカリ	(斤)	80 706	678 610	74 552	410 074	34 671	141 754	29 521	110 163
クロール酸カリ	(百斤)	9 900	276 062	32 960	892 042	48 371	1 162 450	38 186	790 825
晒粉	(〃)	56 531	486 730	70 803	755 156	108 154	1 106 990	141 757	1 163 158
炭化石灰	(〃)	148 766	946 539	198 256	1 378 397	245 233	1 597 904	300 442	1 870 032
樟腦	(〃)	27 604	4 445 108	27 964	4 902 224	28 335	5 039 365	24 667	4 843 122
薄荷脳	(斤)	530 848	5 283 983	509 724	4 556 540	515 698	5 400 777	492 335	4 985 915
薄荷玉	(打)	133 564	157 811	231 430	216 967	182 127	186 402	196 715	201 172
殺蟲粉	(百斤)	9 149	761 496	11 414	995 276	14 622	931 003	14 089	664 154
蚊取線香	(斤)	1 293 939	656 883	1 551 457	802 880	22 039	1 106 121	23 725	975 739
齒磨類	(容器共斤)	732 792	502 511	807 304	535 411	848 798	615 880	1 135 622	772 099
白粉	(〃)	798 240	561 310	1031 392	796 837	1 609 788	899 295	2 269 682	1 056 966
其ノ他ノ調製薫香類	(〃)	802 535	411 979	757 558	474 247	978 178	632 712	1 169 835	720 771
製藥		.....	1 272 998	.....	2 055 397	.....	2 405 716	.....	2 944 017
藥材化學藥及ビ製藥		.....	15 023 644	.....	11 647 519	.....	12 133 729	.....	15 624 449
爆發藥	(斤)	621 494	1 088 844	1 013 988	1 016 306	1 234 539	937 574	1 330 035	1 416 832
燐寸	(百斤)	161 774	3 248 599	178 092	2 928 558	201 211	3 209 449	15 784	244 077
染料顔料塗料及塡充料									

コールタール染料	(斤)	10 193 749	2 895 974	10 701 247	4 258 949	1 973 036	2 956 711	1 883 913	2 598 405
金屬粉	(〃)	153 451	117 485	230 593	225 573	318 042	268 386	426 395	365 207
鉛丹	(〃)	2 887 302	433 698	4 858 857	704 120	49 411	841 384	41 805	824 046
コールタール及ピツチ	(百斤)	527 764	1 353 168	703 674	1 360 434	330 590	700 138	613 414	743 712
鉛筆	(哥)	1 798 582	1 467 974	1 887 310	1 810 684	1 759 054	1 908 591	1 919 849	2 085 895
筆記用インキ	(斤)					12 145	373 334	95 231	502 520
印刷用インキ	(〃)	1 848 565	835 023	2 804 256	1 165 408	20 794	866 764	63 637	924 313
其ノ他ノインキ	(〃)					954	57 726	11 168	66 142
ペイント	(斤)	6 616 319	1 829 919	6 755 161	2 023 396	96 811	2 684 846	104 728	2 709 438
絲、布帛及同製品									
人造絹絲	(斤)	6 696 524	9 483 169	16 792 508	22 399 525	230 033	22 852 554	334 892	29 173 262
人絹織物		.....	77 381 765	.....	113 484 235	424 192 997	128 260 226	527 547 322	149 169 597
衣類及同附屬品									
足袋(大部分地下足袋)	(折)	260 492	1 366 801	301 932	1 388 358	216 507	1 270 442	189 595	1 277 355
硝子製眞珠		.....	1 349 081	.....	1 098 999	174 720	652 912	136 964	382 760
其ノ他ノ人造眞珠		.....	36 180	.....	16 163	753	1 724	73	272
セルロイド櫛	(哥)	551 222	3 110 415	695 649	4 260 550	684 815	3 950 054	614 676	3 483 936
硝子腕輪	(〃)	2 545 468	1 090 527	2 901 379	1 646 643	27 302 604	1 612 890	31 414 792	1 692 496
紙パルプ及ビ紙製品									
印刷用紙	(百斤)	620 690	7 642 050	579 135	7 675 365	618 866	8 518 218	609 137	8 173 787
煙草用紙	(〃)	26 663	1 016 683	50 667	2 158 900	50 217	2 365 478	82 703	4 480 480
雁皮紙及ビ薄葉紙	(〃)	6 200	867 318	11 091	821 760	13 053	1 024 938	12 090	1 222 611
吉野紙及ビ典具帳	(〃)	2 448	399 532	2 196	361 894	3 102	545 896	3 044	630 037
鳥ノ子紙	(〃)	109 363	2 089 245	86 397	1 593 866	112	9 938	183	27 683
連史紙	(〃)	572	8 300	5 682	66 780	13 135	198 724	10 273	131 839
板紙	(〃)	188 082	1 299 999	244 439	7 718 987	372 376	2 644 465	347 498	2 506 147
半紙及ビ美濃紙	(〃)	13 886	666 619	20 811	921 348	27 917	888 531	18 690	904 792

品名	單位	昭和8年 數量	昭和8年 價格(圓)	昭和9年 數量	昭和9年 價格(圓)	昭和10年 數量	昭和10年 價格(圓)	昭和11年 數量	昭和11年 價格(圓)
包裝用紙	(百斤)	31 715	532 519	40 139	738 541	40 929	707 528	71 802	1 356 696
塵紙	(〃)	66 574	1 209 444	63 847	1 119 809	51 630	985 860	86 326	1 447 919
其ノ他ノ紙	(〃)	88 990	1 955 386	188 495	3 473 003	177 520	2 810 496	262 763	3 629 637
製紙用パルプ	(〃)	517	4 191	6	109	12 392	109 559	8 993	78 352
纖物及ビ同製品									
石綿及ビ同製品		.....	445 714	.....	737 596	51 143	695 155	70 855	730 686
石墨	(百斤)	71 294	248 773	77 663	298 391	85 325	394 259	101 448	435 224
石炭	(英噸)	1 535 536	14 158 235	1 070 035	10 375 598	1 002 725	9721 084	1 094 567	10 356 265
セメント	(百斤)	7 904 795	7 394 590	8 998 422	8 038 278	10 918 062	8 081 777	10 702 749	8 001 931
其他ノ纖物及同製品		.....	2 394 177	.....	4 976 636	.....	3 189 207	.....	3 853 445
陶磁器及ビ硝子類									
陶磁器		.....	35 634 348	.....	41 877 441	.....	42 734 514	.....	43 191 657
窓硝子	(平方呎)	13 709 563	969 029	28 318 261	1 596 897	25 372 793	1 219 222	25 120 725	1 233 929
魔法壜	(打)	191 455	1 330 747	234 104	1 653 534	301 369	2 284 392	395 471	2 885 865
其ノ他ノ壜	(〃)	19 117 952	3 795 729	20 394 504	4 618 445	25 285 674	5 741 398	27 332 082	5 834 319
コップ	(〃)	4 738 316	2 827 154	5 375 252	3 327 013	6 776 100	3 891 084	7 455 325	4 090 975
食器	(〃)	1 117 609	749 186	996 622	926 473	1 368 815	1 242 414	1 548 380	1 415 629
ウオツチグラス	(哥)	88 150	99 959	119 122	132 761	132 509	181 582	133 140	162 013
珠玉及ビ球	(斤)	1 960 638	1 179 841	2 277 054	1 351 928	25 183	989 238	20 950	1 056 638
眼鏡	(箇)	8 705 027	997 165	12 788 982	1 451 375	19 813 163	2 055 557	27 016 649	2 552 802
鏡	(千箇)	40 047	2 226 089	54 597	2 645 008	77 248	3 572 891	75 238	3 413 288
其ノ他ノ身邊裝飾品		.....	1 151 712	.....	1 750 779	.....	2 519 655	.....	2 981 734
鑛及ビ金屬									
マンガン鑛	(百斤)	103 499	481 561	76 973	371 283	87 676	441 529	95 454	505 047

		昭和8年 数量	昭和8年 価格	昭和9年 数量	昭和9年 価格	昭和10年 数量	昭和10年 価格	昭和11年 数量	昭和11年 価格
			圓		圓		圓		圓
鐵	(百斤)	3 841 953	34 665 584	5 838 356	53 029 170	7 209 980	65 835 986	8 349 260	76 420 151
アルミニウム板	(〃)	3 998	376 42	5 793	534 154	16 975	1 654 784	14 537	1 302 995
銅 (塊及錠)	(百斤)					11 563	399 869	111	6 284
〃 (條及竿)	(〃)					4 588	193 872	3 096	150 682
〃 (筒及管)	(〃)					6 690	361 832	9 230	583 215
〃 (板)	(〃)	141 869	6 457 093	210 360	8 470 049	24 781	1 108 162	26 124	1 181 305
〃 (ワイヤロツド)	(〃)					23 216	755 202	699	23 244
〃 (線)	(〃)					314 562	8 872 044	134 104	6 204 877
〃 (其ノ他)	(〃)					11 538	566 535	33 755	1 709 960
鉛 管	(百斤)	13 130	191 434	31 700	500 492	23 623	403 961	24 217	498 339
錫 箔	(〃)	433	16 275	340	11957	392	11 295	14 396	315 228
安 知 母 尼	(〃)	1 102	22 616	841	16 123	1 636	49 592	1 361	55 771
眞 鍮	(〃)	140 199	5 497 636	206 274	7 816 557	217 441	8 502 979	165 311	6 678 961
其ノ他ノ金屬		.....	1 153 466	.....	2 039 080	.....	2 635 146	1 542	67 253
金屬製品									
アルミニウム製品		.....	1 126 966	.....	1894 860	5 145	570 777	5 614	659 695
ニツケル鍍製品		.....	1750 387	.....	3 326 883	35 825	3 506 451	48 718	5 496 525
車輛用部分品									
人力車用ゴムタイヤー及インナーチューブ	(百斤)	11 316	818 599	8 258	620 255	7 557	653 625	8 004	720 478
自轉車用ゴムタイヤー及インナーチューブ	(〃)	75 128	4 307 857	91 866	5 698 624	80 972	5 239 965	56 868	4 426 217
自動車用ゴムタイヤー及インナーチューブ	(〃)	.....	.....	.....	.....	44 750	3 813 892	50 367	4 531 250
其他のゴムタイヤー及インナーチューブ	(〃)	.....	.....	48 306	3 675 897	5 101	238 181	3 893	260 648
雜品									
漆器		.....	2 371 433	.....	2 570 476	.....	2 513 884	.....	2 098 217
ゴム製品(特揭品ヲ除ク)(軟質ノモノ)(ホース)	(百斤)					10 760	589 860		
〃 〃 (調 帶)						17 504	1 304 608	16 282	895 409

		昭和8年 数量	昭和8年 価格	昭和9年 数量	昭和9年 価格	昭和10年 数量	昭和10年 価格	昭和11年 数量	昭和11年 価格
			圓		圓		圓		圓
〃 〃 (字消ゴム)						7 849	351 998	7 122	228 965
〃 〃 (紐、線類)						8 230	969 845	9 555	953 126
〃 〃 (テニスボール)						34 257	101 435	29 909	66 023
〃 〃 (野球ボール)		.....	3 327 398	.....	5 215 995	19 501	47 735	5 345	13 324
〃 〃 (フツトボール チューブ)						29 491	76 210	35 340	81 838
〃 〃 (其ノ他ノ運動用具)						.....	221 967	.....	115 597
〃 〃 (其 ノ 他)						.....	12 560 625	.....	2 780 188
〃 〃 (硬質ノモノ)						.....	180 261	.....	181 518
〃 〃 (其 ノ 他)						.....	163 524	.....	321 002
セルロイド	(百斤)	22 013	2 363 031	30 071	3303 514	33 877	3 469 522	37 368	3 716 864
セルロイド製品(特揭品ヲ除ク)	(箱)					47 315	480 282	60 414	499 182
〃 (ピンポン球)		.....	2 346 751	.....	3 223 332	17 669	46 823	26 697	78 763
〃 (其 ノ 他)						.....	2 539 101	.....	3 650 640
セルロイド製玩具		.....	3178 037	.....	3 708 302	.....	6 064 840	.....	6 338 082
陶磁器製玩具		.....	572 596	.....	1 032 289	.....	3 207 943	.....	2 520 638
ゴム製玩具		.....	8 633 024	.....	6 406 263	.....	4 195 171	.....	4 641 382
豆 糟	(百斤)	39 293	165 573	50 882	226 887	40 521	223 767	39 725	232 979
亞麻子糟	(〃)	203 306	884 978	240 772	1 008 214	133 883	679 620	217 058	1 002 541
大麻子糟	(〃)	43 988	190 195	93 378	304 990	44 460	161 548	4 606	23 727
其ノ他ノ油糟	(〃)	65 018	209 673	141 600	509 574	417 586	2 065 338	189 265	859 436
過燐酸石灰	(百斤)					487 680	1 680 228	439 223	1 590 154
石灰窒素	(〃)	520 567	2 409 059	565 305	2 447 150	27 912	155 217	21 250	104 725
其ノ他ノ人造肥料	(〃)					197 117	918 052	307 420	1 499 420
其ノ他ノ肥料	(百斤)	872 736	5 064 496	34 284	227 009	21 148	97 535	83 754	468 779

最近4ケ年間 本邦化學工業品輸入高

大藏省編纂「外國貿易月表」に據る 【註】 一印ハ輸入皆無 ……印ハ不明ノモノ

品名	單位	昭和8年 數量	昭和8年 價格	昭和9年 數量	昭和9年 價格	昭和10年 數量	昭和10年 價格	昭和11年 數量	昭和11年 價格
			圓		圓		圓		圓
穀物穀粉澱粉種子									
大豆	(百斤)	7 243 904	38 034 773	9 128 311	41 028 092	8 702 373	53 781 211	9 235 075	60 518 608
胡麻子	(〃)	354 304	3 602 321	341 213	3 026 717	384 257	4 564 830	404 423	5 230 779
荏胡麻子	(〃)	454 366	4 382 217	430 160	4 687 094	1 070 465	11 228 363	1 887 388	17 749 838
菜子及ビ芥子	(〃)	352 612	2 766 684	802 255	5 591 103	1 093 010	8 929 830	328 565	3 044 731
亞麻子	(〃)	356 365	3 258 164	328 348	2 906 189	361 985	3 416 464	214 393	2 326 331
大麻子	(〃)	102 798	697 657	183 893	1 026 172	251 059	1 605 207	124 014	779 367
蓖麻子	(〃)	331 475	2 717 437	324 916	2 537 667	343 535	3 361 606	510 969	5 591 281
棉子	(〃)	1 444 536	3 762 908	1 010 692	3 000 904	1 655 033	6 188 084	1 428 684	6 449 556
其ノ他	(〃)	224 631	908 696	298 650	1 032 105	288 444	1 472 963	337 576	1 723 842
飲食物煙草									
砂糖	(百斤)	2 210 124	12 793 542	1 732 188	9 678 660	2 341 841	12 701 077	3 600 079	20 927 736
氷砂糖蜜及飴類		……	21 499	……	60 803	111 049	61 452	……	80 973
天然バター	(斤)	179 499	142 033	48 228	36 307	16 832	15 335	10 439	11 789
コンデンスドミルク	(容器共斤)	1 696 110	779 103	1 573 226	825 503	698 500	515 767	757 698	538 965
葡萄酒(壜入)	(立)	82 907	233 373	96 055	285 919	103 924	323 110	101 161	305 363
同(其ノ他)	(〃)	1 401 666	724 841	1 570 344	817 950	1 691 129	924 648	1 495 793	728 057
シヤムペン	(〃)	33 200	139 848	34 182	168 709	37 244	177 317	41 783	164 639
ウイスキー(壜入)	(〃)	98 065	392 035	117 546	497 248	138 731	580 119	190 204	801 306
同(其ノ他)	(〃)	7 880	27 347	23 398	35 092	19 251	25 640	133 369	44 804
其ノ他ノ酒類	(〃)	274 025	240 290	272 130	258 282	267 093	271 631	291 872	329 189
蠟燭	(百斤)	14 757 296	11 709 350	17 941 321	14 839 269	17 558 226	14 540 084	23 039 941	17 761 167
皮毛骨角牙革類及ビ同製品 (牛馬及ビ羊革)									
鎏リタルモノ	(斤)	7 695	48 835	6 406	35 743	6 475	41 997	4 728	38 852
染又ハ着色ノモノ	(〃)	161 945	1 443 892	175 835	1 668 888	211 571	1 963 940	252 021	2 579 167
靴底革	(〃)	23 125	45 208	26 692	54 589	38 817	62 152	41 371	82 220
其他ノ牛水牛及馬革	(〃)	46 685	85 447	40 730	55 885	29 024	53 503	52 601	62 847
ローラレザー	(〃)	4 793	66 193	2 202	32 529	1 002	17 824	2 312	43 717
其ノ他ノ羊革	(〃)	988 222	2 139 211	1 069 675	2 856 125	1 017 951	2 663 720	796 410	2 475 517
其ノ他ノ革類	(〃)	78 264	101 231	121 381	126 073	177 494	140 575	148 466	182 628
機械用帶及管	(斤)	3 550	25 780	4 577	32 644	5 310	47 636	4 960	40 877
帽子用裏革	(〃)	2 492	20 001	3 100	27 734	2 248	18 416	985	9 798
其ノ他革製品	(〃)	……	31 215	……	35 149	……	38 806	……	41 964
油脂蠟及ビ同製品 (揮發油)									
植物性芳香油	(斤)	555 838	2 655 610	555 718	2 546 684	749 466	3 161 437	748 521	3 244 426
松精油	(立)	368 312	214 262	293 486	150 855	204 669	103 452	289 372	146 415
蓖麻子油	(斤)	236	49	1 854	580	474	765	90 333	22 676
阿列布油		……	357 324	……	563 411	……	908 625	……	749 254
棉子油	(斤)	2 784 723	1 066 308	1 396 929	448 599	1 013 435	614 592	2 565 159	927 896
桐油	(〃)	1 538 188	441 883	1 757 211	579 275	1 524 782	796 096	1 830 361	1 174 337
牛脂	(百斤)	182 476	3 411 534	187 347	9 380 160	95 926	2 340 363	71 966	1 643 737
ステアリン	(斤)	293 717	112 541	458 405	161 671	343 174	126 286	293 608	107 260
オレイン	(〃)	254 185	51 395	127 572	32 957	41 979	11 802	20 718	7 240
(鑛油)								弧	
原油及ビ重油	(百ガロン)	1 130 089	68 346 696	7 439 851	82 482 862	9 187 371	106 825 959	3 912 377	129 687 677
其ノ他(比重0.730ヲ超ヘザルモノ)		732	46 747	12 792	325 241	6 672	86 311	1 530 724	58 294 210

品名	單位	昭和8年 數量	昭和8年 價格(圓)	昭和9年 數量	昭和9年 價格(圓)	昭和10年 數量	昭和10年 價格(圓)	昭和11年 數量	昭和11年 價格(圓)
同 (0.8017ヲ超ヘザルモノ)	(〃)	1 221 552	30 411 640	1 441 536	24 460 743	998 013	19 475 830	283 713斤	16 251 080
同 (0.8762ヲ超ヘザルモノ)	(〃)	152 330	4 361 692	231 886	5 240 359	266 865	6 321 136	75 248斤	5 049 727
同 (0.9218ヲ超ヘザルモノ)	(〃)	40 456	3 978 648	65 406	5 607 029	78 509	6 190 982	38 633斤	7 550 940
同 (其ノ他ノモノ)	(百瓩)	136 823	1 713 644	132 427	2 252 852	134 985	2 357 867	9 906斤 132 929	889 424 1 838 187
ワセリン	(斤)	655 482	223 321	662 551	228 829	1 086 172	302 623	1 261 332	328 717
パラフィン	(百斤)	330 856	2 602 980	247 966	1 632 286	304 134	2 031 989	380 093	2 467 098
融解點45°以下	(〃)	311 398	2 118 068	241 021	1 453 315	292 692	1 764 271	332 101	2 009 510
其ノ他	(〃)	19 458	484 912	6 945	178 981	11 442	267 718	47 992	457 588
石鹸		.....	95 199	.....	104 603	.....	144 358	.....	134 534
薫香付油脂蠟及同製品	(容器共斤)	49 137	143 570	60 171	179 421	62 811	224 742	63 383	185 121
香水	(〃)	30 279	340 409	33 035	374 560	74 652	341 999	27 281	326 509
硬化油	(百斤)	2 357	64 455	13 636	210 071	.....	188 442	4 227	123 853
其他ノ油脂蠟及同製品		.....	974 188	.....	942 663	.....	1 405 060	.....	1 488 919
藥材化學藥製藥及ビ爆發藥									
ホップ	(斤)	690 929	1 619 925	667 247	2 625 656	705 236	2 230 008	118 701	2 626 521
甘草	(百斤)	33 986	671 840	34 446	666 002	36 960	733 907	45 185	965 931
キナ皮	(斤)	352 873	320 547	388 438	527 135	666 786	830 187	791 664	1 103 791
沒食子其他ノタンニン材料	(百斤)	229 966	2 147 086	212 593	2 093 286	232 368	2 326 571	223 755	1 884 223
阿仙藥其他タンニン越幾	(〃)	176 138	2 881 146	193 362	3 063 776	226 066	3 784 868	276 361	4 899 047
ゴム及樹脂									
インヂヤラツバー及ガタパーチヤ	(百斤)	1 165 497	56 685 229	1 197 051	57 337 922	994 692	51 636 065	1 064 807	72 956 543
アラビヤゴム	(〃)	13 612	232 158	16 706	484 727	25 303	988 783	16 676	637 696
セルラツキ	(〃)	31 630	1 664 668	33 735	3 308 400	43 445	3 100 850	50 313	2 761 690
松脂	(〃)	368 233	2 993 619	351 273	3 160 696	461 153	4 271 808	467 171	4 664 345
其ノ他ノゴム及樹脂	(〃)	40 769	1 008 668	54 588	1 693 491	59 924	1 813 025	51 209	1 497 389
阿膠	(斤)	854 546	287 833	1 097 119	414 857	1 302 305	454 658	1 071 019	355 414
ゼラチン	(〃)	100 001	290 928	150 411	543 959	186 419	630 256	232 550	762 535
硼酸	(百斤)	3 389	94 923	2 543	75 300	4 507	106 874	3 612	107 988
酒石酸	(斤)	405 433	309 358	332 293	305 002	284 753	247 409	112 681	100 489
サルチール酸	(〃)	179 476	181 022	292 137	252 935	61 955	72 537	88 906	76 668
アセチールサルチール酸	(〃)	66 653	186 593	83 001	266 212	6 824	57 444	.....	.....
石炭酸	(百斤)	3 636	244 539	2	701	507	27 767	856	41 157
枸櫞酸	(斤)	119 493	86 611	211 951	144 776	160 355	124 339	136 847	114 376
苛性曹達(粗製)	(百斤)	207 959	1 994 008	165 468	1 525 881	332 274	2 913 430	193 124	1 649 698
曹達灰及ビ天然曹達	(〃)	774 123	3 269 748	618 986	2 892 912	351 685	1 214 519	681 387	2 617 558
重炭酸ソーダ	(〃)	3 068	16 929	41 036	216 958	39 907	206 126	32 279	163 957
硝酸ソーダ(粗製)	(〃)	581 692	3 858 059	663 400	3 494 475	1 042 093	5 422 753	1 351 760	7 157 678
硼酸ソーダ	(〃)	133 599	1 004 115	185 490	1 205 160	182 117	1 509 060	145 455	1 326 498
青化曹達及青化カリ	(斤)	595 943	287 633	478 244	259 204	550 493	305 843	601 412	334 685
鹽化カリ(粗製)	(百斤)	161 785	5 009 091	764 382	5 790 445	1 281 093	8 281 093	1 315 398	10 553 661
硫酸カリ(粗製)	(〃)	386 675	3 986 646	814 584	6 065 388	1 410 387	10 217 677	1 193 747	9 388 099
クロール酸カリ	(百斤)	9 182	234 661	8 631	189 740	1 608	47 946	5 137	87 752
重クローム酸カリ	(斤)	265 986	96 110	130 821	57 738	142 145	53 144	49 895	16 883
重クローム酸ソーダ	(百斤)	2 338	66 113	4 066	113 571	4 091	111 642	3 513	78 849
鹽化アンモニウム	(〃)	22 952	276 078	15 664	185 447	15 029	180 326	18 144	184 014
硫酸アンモニウム(粗製)	(〃)	1 807 477	9 420 832	2 681 688	13 806 538	3 976 636	21 069 356	5 235 515	33 929 521
炭酸アンモニウム	(斤)	46 928	10 522	75 082	16 675	58 436	16 282	36 837	8 314
醋酸石灰	(百斤)	15 171	161 389	12 093	127 707	5 748	60 230	0	61
フオルマリン	(斤)	511 091	133 201	28 466	6 037	414	530	226	311
木精	(百斤)	70 746	2 617 805	42 332	1 149 368	39 427	994 097	38 585	892 003

品名	單位	昭和8年 數量	昭和8年 價格	昭和9年 數量	昭和9年 價格	昭和10年 數量	昭和10年 價格	昭和11年 數量	昭和11年 價格
グリセリン	(〃)	18 782	639 072	10 861	449 411	2 655	188 766	846	59 412
ロンガリツト其ノ他還元劑	(斤)	506 751	208 407	723 606	268 836	499 301	186 107	603 611	224 063
乳糖	(斤)	426 151	198 792	700 983	331 597	714 482	307 572	689 113	295 016
ナフタリン	(百斤)	59 546	625 971	60 674	560 426	67 884	697 292	95 572	1 612 580
コールタール分溜物	(斤)	11 363 262	2 644 613	4 660 366	940 477	12 195 880	1 655 244	16 978 244	2 542 680
コールタール分溜物生成品									
オキシナフトエ酸及ビ其ノ誘導體	(斤)	157 356	336 591	171 293	336 702	132 011	259 204	210 200	331 690
其ノ他	(〃)	3 009 442	4 285 088	2 038 552	3 239 096	2 098 059	3 281 673	2 701 684	3 877 480
アンチピリン	(〃)	30 001	282 626	29 084	258 553	6 666	49 232	3 333	26 604
ピラミドン	(〃)	30 668	520 667	50 115	748 573	37 434	523 458	202	5 039
フエナセチン	(斤)	69 169	240 876	139 917	391 533	64 169	143 226	34 166	68 045
サントニン	(〃)	2 734 000	1 356 999	6 722 179	1 909 090	2 098 250	531 008	2 442 000	674 852
キニーネ(鹽酸及硫酸鹽)	(百瓦)	111 278	582 641	155 937	904 590	61 933	361 175	95 024	567 451
モルヒネ	(〃)	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
コカイン	(〃)	.....	.....	.....	.....	74 559	2 896 737	.....	.....
カゼイン	(百斤)	59 610	1 567 042	62 954	2 494 849	35 528	355 954	76 755	3 128 943
酒精劑	(立)	27 086	290 649	31 968	327 670	6 299	57 394	38 931	379 495
薫香性化學藥	(斤)	9 468	73 070	13 953	103 111	.....	.....	9 791	64 945
齒磨粉其他調製薫香類		.....	318 825	.....	343 982	.....	428 709	.....	449 182
其他藥材化學藥及製藥		.....	5748 141	.....	9 910 595	.....	10 592 700	.....	11 216 853
同調合品		.....	2 397 049	.....	3 473 047	.....	3 506 415	.....	4 066 085
ダイナマイト	(百斤)	1 815	156 348	1 363	112 004	709	62 833	226	20 453
其ノ他ノ爆發物		.....	3 216 674	.....	893 159	.....	829 677	.....	1 170 172

染料顔料塗料及ビ塡充料									
ログウード越幾斯	(百斤)	6 250	423 343	7 806	519 657	9 557	653 021	5 660	361 746
人造藍	(斤)	16 286	33 908	26 110	56 164	94 222	168 007	592 828	603 547
鹽基性染料	(〃)	473 415	1 990 627	573 127	2 403 120	189 067	828 712	180 908	795 544
直接染料	(〃)	473 415	1 990 758	573 927	2 403 120	564 661	2 252 227	994 123	3 012 765
酸性染料	(〃)	295 022	1 366 047	378 490	1 669 665	471 866	1 939 418	420 395	1 775 542
媒染及ビ酸性媒染々料	(〃)	370 773	1 363 845	366 051	1 353 202	482 345	1 723 011	800 948	2 006 395
硫化染料	(〃)	116 885	433 198	142 363	427 284	131 759	385 089	213 343	529 141
建染々料	(〃)	121 284	1 431 506	147 465	2 146 917	125 083	1 865 520	159 182	2 458 082
其ノ他合成染料	(〃)	40 296	156 205	28 954	111 081	25 148	124 541	34 012	170 750
酸化コバルト	(〃)	89 179	455 405	129 019	571 259	122 268	577 516	169 776	900 064
金液	(瓦)	685 344	371 677	625 063	360 595	313 933	219 307	195 808	147 691
カーボンブラツク	(百斤)	62 771	1 543 175	36 621	946 548	62 158	1 814 345	77 310	2 207 015
漆	(〃)	24 390	2 695 877	28 305	2 988 506	30 774	2 924 531	34 901	3 154 056
ヴアニツシュ	(斤)	65 422	56 768	70 910	55 686	46 803	47 389	61 813	62 259
瀝青及ビ土瀝青	(百斤)	50 626	370 030	68 028	413 206	104 121	456 997	107 001	412 503
鉛筆	(打)	94 949	100 425	102 602	143 578	152 529	153 573	137 693	166 451
印刷用インキ		.....	180 623	.....	206 787	.....	266 958	.....	299 906
ペーイント				.....	245 150	.....	254 422	.....	243 876
船底塗料	(斤)	144 596	153 133	111 020	100 138	150 553	124 779	.....	153 231
其ノ他		.....	129 395	.....	145 012	.....	129 643	.....	122 971
其ノ他染料及顔料類		.....	1 541 554	.....	1 501 450	.....	1343 668	.....	1 753 907
其他ノ塗料及塡充料		.....	531 134	.....	766 278	.....	1276 497	.....	775 256
絲繊維素及ビ同材料									
人造絹	(斤)	383 843	637 577	50 748	122 557	33 637	86 367	.....	18 886
布帛及ビ布帛製品									
ブツクバイダーズクロース	(碼方)	7 689	3 508	2 400	1 155	1 034	1 000	1 425	972

品名	單位	昭和8年 數量	昭和8年 價格(圓)	昭和9年 數量	昭和9年 價格(圓)	昭和10年 數量	昭和10年 價格(圓)	昭和11年 數量	昭和11年 價格(圓)
トレーシングクロース	(斤)	3 486	33 156	4 115	38 710	5 914	56 254	4 880	42 995
革布	(〃)	19 157	95 609	15 476	84 415	11 864	41 754	9 029	27 634
牀用油布及リノリウーム	(〃)	190 244	78 387	226 908	93 530	167 839	79 747	193 742	93 574
金剛砂布	(〃)	293 206	367 376	241 588	326 288	183 607	253 865	197 205	261 090
紙・紙製品・書籍及繪畫									
製紙用パルプ	(百斤)	2 708 373	27 066 350	3 814 656	44 255 752	2 430 661	21 171 251	2 660 381	22 948 574
印刷料紙									
アートペーパー	(〃)	303	20 885	148	22 200	417	44 199	392	34 369
其ノ他有色ノモノ	(〃)	7 277	148 650	8 102	178 153	8 645	170 930	9 672	171 001
一平方メートル五十八瓦以下	(〃)	495 172	3 100 921	733 753	4 786 380	948 894	7 442 552	1 212 704	9 287 220
其ノ他	(〃)	15 473	392 330	20 965	670 048	16 059	554 252	18 188	671 736
筆記用紙	(〃)	13 275	473 395	12 969	465 224	12 471	429 084	11 519	384 211
圖畫用紙	(〃)	183 748	179 274	187 969	201 832	181 808	201 795	162 339	176 220
包裝用紙及襯寸用紙	(百斤)	141 068	1 942 427	185 988	2 592 002	107 207	1 665 079	97 435	1 473 887
板紙	(〃)	12 054	597 112	8 778	443 411	8 675	401 394	18 329	406 394
模造日本紙及チツシユペーパー	(〃)	17 187	484 101	9 067	306 297	19 743	581 792	18 816	656 091
模造洋皮紙類	(〃)	75 390	2 447 565	54 373	1 656 863	84 904	2 505 454	69 168	2 026 864
寫眞用紙									
バライタペーパー	(內裝共斤)	666 965	829 847	1 031 888	1 358 401	761 672	989 339	845 139	988 910
ブロマイドペーパー及ブラチナムペーパー	(〃)	382 931	1 345 164	326 295	955 217	240 158	702 593	231 523	655 595
其ノ他	(〃)	898	3 745	1 282	5 244	845	3 868	491	1 751
其他ノ紙及パルプ製品		.....	1 259 444	.....	1 291 854	.....	1 448 529	.....	1 662 121
纖物及ビ同製品									
滑石及ソープストン	(百斤)	989 113	1 267 293	893 773	1 137 576	1 087 486	1 436 004	1 095 189	1 477 387
燐鑛石	(〃)	11 728 095	13 374 332	11 375 760	16 677 252	12 628 006	20 059 689	13 830 204	22 392 699
石膏	(〃)	122 932	205 350	198 230	235 646	435 706	228 091	286 352	331 724
クリオライト	(〃)	3 635	147 546	10 715	423 840	9 631	371 601	16 358	637 532
粘土	(〃)	1 418 431	1 062 645	1 786 431	1 333 858	2 270 093	1 668 510	2 559 959	1 835 875
石墨	(〃)	57 631	635 475	71 454	986 465	65 209	867 948	65 269	819 464
石炭	(英噸)	3 440 703	36 657 486	3 996 506	47 192 729	3 984 824	48 970 334	4 122 619	50 887 237
コークス	(〃)	4 429	123 325	5 975	183 166	5 190	161 684	8 583	289 462
セメント	(百斤)	2 527	3 399	184	2 614	6 000	7 377	395 789	472 370
ドロマイト及ビマグネサイト	(〃)	1 830 330	1 402 632	1 902 035	1 688 747	2 325 959	2 294 670	2 563 390	2 345 901
其他ノ鑛物及同製品		.....	2 475 278	.....	2 599 159	.....	3 152 802	.....	3 840 345
硝子同製品及ビ粘土製品									
耐火煉瓦	(百斤)	241 222	621 600	177 936	452 285	189 271	688 175	210 570	659 492
硝子板									
厚2.2ミリ以下無色平面ノモノ	(方米)	1 410 230	1 090 366	1 130 952	953 959	476 920	337 257	1 120 050	694 440
厚4ミリ以下無色平面ノモノ	(〃)	34 961	255 046	44 046	357 117	41 560	287 593	23 470	147 461
其他無色平面ノモノ	(〃)	165 514	1 622 540	176 641	1 865 536	176 256	1 810 376	79 985	953 999
其ノ他ノ硝子板	(〃)	460 065	928 759	315 449	676 850	182 692	459 852	56 100	226 910
金屬線又ハ網入ノ硝子板	(〃)	164 450	632 923	204 136	753 972	158 994	637 449	6 593	86 297
寫眞用乾板(現像セザル)	(百斤)	14 162	2 195 113	12 564	1 823 972	11 746	1 736 132	6 461	710 535
其他ノ硝子同製品及粘土製品		.....	649 306	.....	1 010 952	.....	1 053 391	.....	1 025 925
鑛及金屬									
鐵鑛	(百斤)	25 393 763	12 839 961	35 531 933	19 420 762	56 734 975	34 546 519	63 001 826	40 042 933

品名	單位	昭和8年 數量	昭和8年 價格 圓	昭和9年 數量	昭和9年 價格 圓	昭和10年 數量	昭和10年 價格 圓	昭和11年 數量	昭和11年 價格 圓
亞鉛鑛	(百斤)	630 214	2 035 567	217 984	689 402	688 228	1 594 031	801 653	3 020 105
其他ノ鑛(マットボツトム及鋼滓ヲ含ム)	(〃)	2 211 992	7 296 173	2 798 552	7 695 460	3 625 146	8 401 174	3 757 871	8 087 876
白金	(瓦)	1 030 669	3 803 379	1 211 791	4 456 543	713 976	2 638 128	756 356	2 910 858
鐵	(百斤)	35 968 825	136 640 637	41 417 104	117 563 197	53 279 528	207 159 318	49 529 645	192 039 882
アルミニウム	(〃)	120 646	10 233 107	169 614	12 576 368	223 358	18 362 317	170 685	13 228 734
銅	(〃)	293 629	9 627 567	856 137	28 389 216	1 160 453	37 959 262	888 837	36 221 054
鉛	(〃)	1 120 905	12 011 984	1 585 234	17 977 326	1 523 469	20 490 014	1 630 370	27 189 285
錫	(〃)	58 452	10 673 961	67 708	15 338 382	72 829	15 600 738	77 059	15 097 282
亞鉛	(〃)	542 094	9 349 811	553 468	9 458 091	764 049	12 254 043	1 029 569	16 427 760
ニツケル	(〃)	54 296	11 343 592	43 974	8 871 130	56 957	11 127 530	42 964	8 514 275
水銀	(〃)	6 151	1 672 638	8 300	2 582 517	13 605	4 460 917	8 541	3 122 372
眞鍮及青銅	(〃)	55 573	1 291 830	115 687	2 653 726	108 254	2 496 028	123 752	3 053 310
時計學術器銃砲船車機械類									
顯微鏡及部分品		.....	126 766	.....	229 576	.....	279 823	.....	301 139
理化學器同部分品		.....	1 040 357	.....	1 003 171	.....	1 529 999	.....	1 265 027
氣體壓縮機	(百斤)	3 474	669 367	14 828	1 742 186	7 782	1 053 072	11 993	1 815 044
送風機	(斤)	69 860	145 611	82 278	231 590	120 186	192 777	483 083	591 322
水壓機	(〃)	2 419	4 876	104 711	54 154	1 908 372	1 480 688	25 690	31 333
製紙機	(百斤)	168	9 715	.....	.....	11 690	616 395	5 344	284 100
製紙用フエルト	(〃)	223 827	1 341 037	246 740	1 409 884	329 645	1 250 341	252 854	1 340 145
製紙用金網	(〃)	9 328	35 828	2 848	15 129	3 013	19 299	2 214	13 981
雜品									
ゼブラ	(百斤)	139 643	1 196 433	245 782	1 449 493	259 228	2 322 379	177 446	1 977 354

コルク樹皮	(〃)	91 932	1 695 260	83 380	1 616 207	102 080	2 038 268	97 521	2 095 859
コルク栓及ビ輪	(斤)	6 813	19 049	9 088	18 044	6 291	18 606	9 714	19 545
木炭(燃料用)	(百斤)	1 347	4 272	108	331	84	302	26	186
電氣用カーボン	(斤)	1 496 467	1 564 062	1 892 926	1 498 147	1 506 111	1 276 275	1 866 070	1 356 853
インヂアラッバー及ガタパーチヤ製品		.....	862 008	.....	980 821	.....	878 739	.....	871 453
インヂヤラッバー及ガタパーチヤ(屑及故)	(百斤)	13 594	70 706	15 297	126 320	12 001	126 134	38 149	299 981
活動寫眞用フイルム									
感光性ノモノ(內裝共斤)		262 369	3 148 340	321 132	3 331 132	373 484	4 075 914	337 601	385 622
其ノ他	(〃)	30 042	596 180	20 399	592 105	22 219	732 529	21 679	539 677
其ノ他寫眞用フイルム									
感光性	(〃)	159 830	832 885	177 152	858 377	225 609	1 078 733	258 443	1 222 404
其ノ他	(〃)	11	413	28	168	226	3 792	8	153
肥料									
骨粉	(百斤)	402 108	1 764 896	475 959	1 908 869	494 880	2 101 663	591 838	2 598 296
豆油粕	(〃)	8 993 105	33 635 289	10 767 202	34 409 885	7 199 626	32 292 571	6 279 717	27 127 508
棉子油粕	(〃)	1 096 479	3 839 692	1 402 629	4 672 235	1 203 395	4 499 210	1 358 811	4 867 560
菜子油粕	(〃)	736 254	2 590 912	587 419	1 858 037	596 285	1 928 953	392 871	1 332 089
其ノ他ノ油粕	(〃)	324 154	1 124 650	356 637	1 111 933	602 874	1 957 291	751 984	2 462 419
フイツシユグアノ	(〃)	33 822	193 007	36 408	180 238	.....	.....	65	149
其ノ他ノ肥料	(〃)	257 150	1 119 016	258 047	999 453	142 711	893 124	710 497	5 640 150

城印

純正化學藥品
一般化學工業藥品

千代田化學工業株式會社

東京市王子區豐島町二五〇番地
本社及工場
電話 小石川(45)一七〇二番
王子 三七八一番
營業所
東京市日本橋區本町一丁目七番地
電話 日本橋(24)二四五八番

化學工業界日誌

昭和11年8月

1日 輸出人絹織物の統制强化決定す
壓縮瓦斯取締法實施さる。
3日 日本輸出鏡工業組合懇談會。
4日 大阪硝子同業組合主催硝子製品展覽會。
5日 日本輸出セルロイド櫛工組協議會。
7日 日本硝子同業組合聯合會會評議員會。
兵庫縣ゴム工組統制委員會。
東部ゴム工組調帶部會。
11日 日本釀造協會主催〔ライスウオーター實地指導講習會〕。
西邦強瑯工業組合評議員會。
大阪府工業懇話會。
12日 商工省の燃料國策要項正式決定
日本人造纖維紡織工業會委員會。
14日 晒粉販賣會社參與會。
17日 關東關西聯合アルミニウムロール會總會。
18日 セメント聯合會理事會。
大阪セルロイド同業組合評議員會。
大阪揮發油工組委員會。
19日 日本人絹聯合會臨時總會。
人纖懇談會。
20日 東京府輸出組合理事會。
21日 全購聯全肥料工場長會議。
23日 大阪染料壯年會水上運動會。
25日 合成工業會社の500萬圓增資案決定す。
晒粉販賣會社定例理事會。
26日 金屬着色講習會。
關西硫酸販賣會社重役會。
帝國發協明會理事會。
27日 阪神塗料製造技術員懇談會。
滿洲油化工業會社創立總會。
30日 日本護謨協會關西支部講演會。

9月

1日 新潟鐵工所拂込を徹收す。
昭和合成工業會社が100萬圓に增資す。
2日 關西晒粉參與員定例會。
硫安配給組合理事主事合同會議。
3日 人絹聯合會臨時總會。
關西ペイント會社の硝化綿工場の一部爆發す。
4日 大阪繪具染料組合主催森山、鳥居兩氏の歸朝歡迎會。
5日 アルミニウム展覽會が大阪阪急百貨店に於て催さる。
日本二硫化炭素工組理事會。
7日 燃料協會主催ガス節約研究會。
8日 大阪セルロイド工組設立發起人會。
東京ゴム協會役員會。
10日木曜會第1回例會。
11日 セロファン共販會社統制協議會
眞田用セロファン統制協議會。
化學機械協會創立關西側準備委員會
12日 大阪工友會總會。
農事電化協會特別委員會。
14日 日本ゴム工組タイヤー、チューブ檢査員會。
15日 日本ゴム協會關東支部例會。
大阪市立工研主催の化學工業講習會初まる。
セメント聯合會委員會。
17日 工業化學會關東、關西支部常會夫々開催さる。

グリセリン販賣會社定例重役會。
全國貿易品展覽會が名古屋に開かる
日本石鹸輸出組合臨時理事會。
22日 日本ゴム協會關西支部例會。
23日 電氣化學會電力問題講演(東京)
24日 化學工業協會塗料規格調査會。
機械學會講演會。
25日 顔料塗料印刷インキ協會第44回懇談會(東京)。
電氣化學協會關東支部常會。
26日 錦華人絹會社が拂込を徴收す。
由水會主催油脂工業講演會。
日本農藝化學會小集會。
燃料問題講演會 。
大阪燃燒懇談會秋季總會。
火兵學會創立30週年祝賀會。
27日 近畿化學工業秋季例會。
臺灣總督府天然瓦斯研究所開所式。
28日 化學機械及製品展覽會東京に於て開かる。
29日 阪神塗料製造技術員懇談會。
セロフアン販賣會社重役會。
30日 建築資料協會鐵鋼家具座談會。

10 月

3日 日本化學纖維研究所第1回講演會並に披露宴。
5日 苛性曹達統制協議會。
6日 大阪産業能率研究所主催第4回投炭競技會。
7日 日本冷凍協會講演會。
日本琺瑯鐵器工業組合協議會。
8日 木曜會第2回例會。
9日 服部報公賞授與式。
化學機械協會幹事會。
日本化學會近畿支部例會。
10日 燃料協會秋季特別講演會。
日本化學會10月常會。
西邦琺瑯鐵器工組商議員會。
日本菱鏑製品輸出組合役員會。
宇部曹達創立總會。
12日 大阪府能研主催硝子製品技術指導座談會。
日本硝子同業組合聯合會檢査打合會
13日 人絹工聯理事會總會。
14日 大阪熔接聯合組合合併記念會。
全國硫化曹達製造業者懇談會。
15日 グリセリン値上決定。
輸出セルロイド櫛檢査新規格實施さる。
大阪ゴム工業組合理事會。
關西晒粉參與會。
16日 藤井賞特別授與式。
セメント聯合會定例理事會。
日本硝子腕環工組秋季懇談會。
硬化油販賣會社重役會。
17日 工業化學會滿洲支部秋季大會。
マツチ工業改善委員會。
工業化學會關東支部大會。
18日 電氣化學協會第1回講演會。
19日 日本冷凍協議會講演會。
染工聯主催絹人絹染織展覽會。
大阪府工業懇話會。
21日 日本護謨協會關西支部例會。
全國曹達東西合同協議會。
帝國發明協會愛知支部總會。
22日 中小工業助成會社設立委員會。
化學機械協會創立關西側實行委員會
24日 工業化學會關西支部神戸大會。
河喜多博士功績記念奨學講演會。
25日 日染創立20周年物故從業員慰靈祭。
28日 專賣局內外鹽務協議會。
30日 阪神塗料製造技術員懇談會。
31日 日本農藝化學會關西支部大會。

11 月

1日 第4回發明展開幕。
早大應化教室落成祝賀式。
2日 日石第3回拂込徴收。

大阪市立工研主催理化學工業機械展覽會開幕。
4日 大阪工研協會總會。
6日 化學機械協會創立總會。
九州帝大創立25周年祝賀記念式。
7日大日本窯業協會秋季大會。
工業化學會臺灣支部秋季常會。
大阪府下工業會聯合會幹事會。
電氣化學協會秋季大講演會。
染料壯年會ハイキング會。
電氣化學協會見學會及び懇親會。
8日 工業化學會九州支部大會。
9日 顔料塗料印刷インキ協會講演會
10日 高壓瓦斯協會關西支部發會式。
京都化學談話會例會。
大阪市衞試創立周30年祝賀會。
日本護謨工聯統制委員會。
大阪石鹸輸組定例理事會。
11日 大阪セルロイド工組發起人會。
12日 西邦琺瑯鐵器工組商議員會。
木曜會例會。
13日 高壓瓦斯協會講演會。
14日 燃料協會第144回講演會。
日本化學會常會講演會。
18日 理化學研究所第30回秋季學術講演會。
燃料協會理事會。
硫安配給組合理事會。
19日 工業化學會關西支部京都講演會
人纖同業會委員會。
20日 日本藥學會例會。
全國燃料特別委員會合同會。
21日 工業化學會關東支部工場見學會
日本護謨工聯の護謨調帶統制委員會
大阪染料繪具同業組合の從業員表彰式。
24日 日本農藝化學會小集會。
輸出機械器具協議會。
25日 日本硝子腕環工組理事會。
精密機械工業講演會。
26日 大日本織物協會染料座談會。
護謨製品輸組役員會。
熔接研究會。
27日 日本化學會近畿支部講演會。

12 月

1日 第13回東京工藝品展覽會。
石灰窒素共販會社の新組合創立總會
3日 木曜會例會。
4日 大阪石鹸同業組合理事會。
5日 京大化學研究所秋季大會。
大阪全購聯改善委員會。
7日 大阪自由通商協會理事會。
關西アルミニウム、ロール會理事會
8日 日本護謨協會關西支部講演會。
同協會關東支部講演會。
人造纖維並に應用製品展開幕。
9日 西邦琺瑯鐵器工組總會。
石綿スレート業者懇談會。
10日 工業化學會關西支部常會。
11日 苛性曹達輸出統制懇談會。
カーバイド組合理事會。
化學機械協會關西側第1回會務委員會。
12日 石灰窒素製造組合初理事會。
16日 電氣普及會冷房冷藏調査委員會
懇談會。
日本藥學會理事會。
日本化學會常會及び講演會。
18日 日本護謨協會關東支部講演會。
日本タイヤー再生工組創立總會。
19日 大阪府中小工業統制指導委員會
化學工業協會オクタン價本委員會。
大阪市立工研忘年會。
阪神塗料製造技術員懇談會。
21日 日本農藝化學會臺灣支部創立總會。
工業化學會關東及び關西支部常會が夫々開催さる。
23日 燃料協會講演會。

24日 大阪セルロイド工業組合創立總會。

昭和12年1月

6日 東都セロファン同業組合總會。
7日 合金鐵組合理事會。
日本ス・フ同業會委員會。
8日 日本琺瑯鐵器工組役員會。
9日 東聯燃料對策特別委員會。
化學機械協會關西側會務委員會。
日本絹人絹糸布輸出組合臨時總會。
11日 東京護謨同業組合總會。
東京石鹸製造同業組合役員會。
12日 鑛油精製業聯合會總會。
大阪印刷インキ材料同業組合臨時總會。
13日 過燐酸肥料製造組合協議會。
14日 大阪石鹸輸出組合理事會。
大阪府工業會聯合會懇談會。
木曜會第5回例會。
15日 顔料塗料印刷インキ協會講演會
塗料聯合會第1回理事會。
日本燐寸工組統制委員會。
16日 日本輸出セルロイド玩具工聯臨時總會。
染工聯理事會並に總會。
18日 第1回肥料業委員會。
化學工業協會石油製品規格小委員會
グリセリン販賣會社重役會。
過燐酸懇話會生産幹事會。
19日 高壓瓦斯協會關西支部講演會。
石油聯合會重役會。
東京揮發油聯合會定例重役會。
20日 大阪硝子工組理事會。
21日 名古屋輸出陶磁器組合理事會。
重油中央委員會。
工業化學會關東・關西支部常會及び講演會夫々開催さる。
日本輸出セルロイド玩具工聯理事會
22日 色材協會理事會及び編輯委員會
23日 高壓瓦斯協會關西支部總會。
對英セルロイド玩具關稅問題對策委員會關東側發起人會。
大阪染料商組合染料交換會。
燃料協會新春講演會。
日本護謨協會關西支部新年宴會。
25日 東京タイヤ販賣業組合新年宴會
26日 東京輸出セルロイド玩具工組總代會。
日本セルロイド腕環工組役員會。
硫安肥料業製造組合參與會。
27日 大阪セルロイド同業組合總會。
28日 日本東部ゴム工組新年宴會。
日本輸出櫛工組定時總會。
東京電球工組定時理事總會。
工業講演會。
29日 バラ・ステ販賣聯合會理事會。
阪神塗料製造技術員懇談會。
31日 化學機械協會第1回定時總會並に講演會。

2月

2日 塗料聯合會發會式。
舗友協會年次總會。
3日 日本絹人絹布輸出組合聯合會臨時總會。
日本莫大小輸出組合總代會。
4日 京濱アスファルト同業組合役員會。
大阪陶磁器同業組合役員會。
日本石油洋燈工組定時總會。
木曜會例會。
5日 硫安製造業組合參與會。
人造纖維及びその應用製品展覽會。
6日 日本化學會近畿支部講演會。
8日 塗料聯合會東京部會發會式。
日本ゴム協會關東支部懇親會。
東京タイヤ販賣組合役員會。
曹達懇話會發會式。
日本琺瑯鐵器工組協議會。

阪神塗料製造技術員懇談會。
9日 大阪揮發油聯合會理事會。
東京輸出セル櫛雜貨工業會役員會。
10日 日本二硫化炭素工組理事會。
關西鹽酸會2月例會。
塗料聯合會大阪部會。
11日 大阪染料壯年會總會。
13日 東京石炭同業組合協議會。
大阪硝子工組理事會。
日本化學會2月例會。
大阪タイヤ商組合統制委員會。
西邦琺瑯鐵器工組商議員會。
燃料協會2月例會。
14日 日本金屬學會創立總會。
15日 日本鋼管會社熔鑛爐火入式。
大阪印刷インキ工組理事會。
大阪府工業用酸素卸商業組合初總會
16日 大日本人造バター工組定例理事會。
全聯燃料對策委員會代表者合同會議
鑛油精製聯合會理事會。
グリセリン販賣會社重役會。
色材協會役員會。
17日 化學工業協會塗料規格調査委員會。
ステロー共販組合・バラ・ステ販賣聯合會理事會。
18日 セメント聯合會理事會。
工業化學會關東及び關西支部常會。
大阪硝子商同業組合役員會。
製紙聯合會商議員會。
工業化學會滿洲支部通俗講演會。
19日 日本人絹織物工組聯合會統制委員會。
20日 日本二硫化炭素工組理事會。
日本琺瑯鐵器工組聯合會協議會。
日本藥學會2月例會。
電氣化學會關東支部講演會。
工業化學會九州支部常會。
工化中央會東部支部研究會。
硫安肥料製造組合臨時總會。
大阪インキ同業會第2回販賣大會。
兵庫縣ゴム工組役員會。
22日 化學工業協會規格委員會。
日本絹人絹糸布輸組聯合會理事會。
大阪陶磁同業組合總會。
日本燐寸工業組合總會。
23日 過燐酸肥料製造組合各社協議會
24日 化學工業懇話會。
大阪陶磁器輸出組合總會。
26日 東京セルロイド再製原料商業組合役員會。
セロファン販賣會社定例役員會。
27日 日本鑛業會講演會。
日本鋼管會社重役會。

3月

2日 京大物理化學研究室化研堀場研究室研究發表會。
大阪ゴム工組理事會。
塗料聯合會大阪支部理事會。
3日 西邦琺瑯鐵器工組理事會協議會
礦油精製聯合會懇談會。
日本物理化學研究會創立總會。
材料研究會關西支部第3回製品展示會。
4日 人絹聯合會總會。
木曜會例會。
6日 近畿化學工業會關西支部總會。
8日 日本陶磁器工組聯合會審議會。
日本セル玩具工組聯合會第1回意匠登錄審査會。
大阪府硝子商同業組合評議員會。
日本硝子製品輸組統制規定作成委員會。
日本染料商事株式會社創立總會。
9日 大阪セルロイド工組理事會。
大阪ゴム工組定時總會。
藤井榮三郎氏關係者招待會。
新興輸出品展覽會。

10日 關西アルミニウム同業會例會。
山東鹽業公司創立總會。
11日 化學機械協會關西側會務委員會
西邦硅珠鐵器工組商議員會。
日曹人絹バルブ會社創立總會。
塗料聯合會東京部會理事會。
12日 日本糖業聯合會協議會。
13日 燃料協會特別講演會。
14日 硬化油販賣會社重役會。
15日 塗料聯合會講演會。
18日 日本ゴム工組聯合會臨時總會。
合金鐵組合理事會。
朝鮮魚油會議。
關西硫酸販賣會社重役會。
工業化學會關西支部例會。
輸出鏡工業組合理事會。
19日 日本ゴム協會關西支部講演會。
20日 日本藥學會例會。
日本二硫化炭素工組定例理事會。
日本硝子同業組合聯合會總會。
帝國香料購買組合第1回理事會。
22日 日本硅珠鐵器工組聯合會理事會
東京石鹼製造同業組合役員會。
23日 ドラム罐規格委員會。
セロファン販賣會社役員會。
24日 塗料規格調査委員會總會。
25日 日本ゴム協會關東支部談話會。
人絹聯合會理事合。
日本ゴム工聯タイヤ申袋統制委員會
神戸製鋼所臨時株主總會。
26日 礦油精製聯合會理事會。
日本ゴム工聯春季總會。
兵庫縣ゴム工組・ゴム工聯總會。
27日 日本輸出セル櫛工組役員會。
燃料協會人造石油講演會。
28日 日本輸出セルロイド工組聯合會
臨時總會。
29日 東京肥料協會評議員會。
石炭協會聯合會理事會。
人絹聯合會理事會。

4 月

1日 日本鐵鋼協會通常總會並に講演會。
2日 酸素全國聯合會總會。
日本化學會第59年會。
3日 日本ゴム協會第回總會並に關東支部總會。
5日 人絹聯合會理事會。
6日 大阪ゴム工組タイヤ・チユーブ部會。
7日 礦油精製業聯合會懇談會。
石灰鐵業聯合會。
8日 東京ゴム同業組合聯時總會。
硝子輸出組合第4回理事會。
日本人絹糸布輸出組合聯合會臨時總會。
9日 繊維工業懇談會。
10日 日本農學大會日本農藝化學部會
大阪ゴム工組內地輸出共同部會。
大阪セルロイド同業組合鬘櫛部10日會例會。
工業化學會第40年々會。
11日 日本輸出セル櫛工組標準委員會
東京輸出電球工組定時總會。
12日 工業化學會年會。
化學機械協會講演會。
13日 硫安肥料製造業組合委員會。
朝鮮淺野セメント馬洞工場起工式。
日本燐寸工組統制委員會。
塗料聯合會大阪部會聯合專門委員會
15日 大阪市立工研主催化學品鑑定講技會。
人絹聯合會總會。
16日 東滿洲人絹バルブ會社臨時株主總會。
グリセリン販賣會社定例重役會。
17日 ボーア博士來朝紀念歡迎會。
日曹人絹バルブ會社臨時株主總會。
18日 日本鑛業會總會。

印刷インキ業者東西聯合協議會。
19日 大阪工業界定時總會。
纖前工業會々員大會。
ス・フ同業組合委員會。
20日 大阪染料繪具同組委員會。
大阪ゴム工組理事會。
21日 日本製紙聯合會協議會。
名古屋エナメル塗工組創立委員會。
大阪石油鐵油商組合春季總會。
22日 全國產業聯合會常任委員會。
關西硫酸販賣會社定例重役會。
23日 大阪窯業セメント會社重役會。
工場經營研究會。
晒粉販賣會社定時株主總會。
昭和製粉會社臨時株主總會。
24日 日冷凍協會總會。
高壓瓦斯協會第1回通常總會。
25日 日本硝子脫環工組理事會。
26日 化學機械協會座談會。
日本二硫化炭素工組理事會。
朝鮮硬化油會社創立發起人會。
27日 ボーア博士講演會。
關西硫酸販賣會社主腦者協議會。
28日 阪神塗料製造技術員懇談會。
帝國發明協會評議委員會。
東亞ペイント會社臨時株主總會。
29日 近畿化學工業會主催丸澤博士送別會。
30日 日本紡績會社定時總會。
大阪窯業セメント會社臨時株主總會
日產護謨會社決算重役會。

5 月

1日 商工省第77回國產振興委員會。
2日 電氣化學協會大會開幕。
3日 塗料聯合會大阪部會大島重義氏歡迎會。
酒精元賣捌會社發起人會。
4日 大阪鹽酸會月例懇談會。
5日 ボーア博士一般講演會。
人絹聯合會理事會。
陶磁器技術官會議。
6日 木曜會第9回例會。
燃料協會14回例會。
7日 曹達懇話會協議會。
染工聯第2回染色展示會。
染工聯事務所落成式。
帝國發明協會表彰發明展。
8日 化學機械協會座談會。
日本ゴム協會關西支部總會。
大阪工研協會春季總會。
西邦硅珠鐵器工組商議員會。
日本化學會5月常會講演會。
10日 化學機械協會關西側會務員會
帝國發明協會展覽會開幕。
11日 大阪市立工研主催「鯨と工業」講演會。
人絹聯合會・ス・フ同業組合總會。
大阪タルク同業組合總會、第7回染色技術官總會。
13日 羊毛工業會理事會。
高周波重工業新湊工場起工式。
工友會春季總會。
帝國瓦斯協會總會。
14日 酒精專賣委員會。
塗料聯合會東京部會理事會。
日本學術振興會染料調査委員會例會
大阪燃燒懇談會例會。
15日 帝國發明協會第15回地方發明表彰式、高壓ガス協會關西支部總會。
日本金屬學會第1回總會。
燃料協會5月例會
日本藥學會例會。
16日 京大有生會第8回大會。
17日 日本鑛山協會6第回爆藥研究會
色材協會懇話會。
能研協會總會。
18日 東京硝子組合總會。
大阪府立能研燃料講演會。
19日 日本繊維工業會社委員會。

アスファルト聯合會理事會。
石炭工業聯合會理事會。
礦油精製業聯合會理事會。
パラステ聯合會理事會。
大阪市立工研主催「香料化粧品座談會」。
20日　人絹聯合會・ス・フ同業會小委員會。
セメント聯合會理事會總會。
工業化學會關東支部常會。
21日　日本ゴム協會第2回年會。
日本製紙聯合會商議員會。
日本化學會近畿支部講演會。
22日　纖維素協會年會。
電氣化學協會關東支部講演會。
農藝化學會5月小會。
工業化學會關西支部大會。
24日　蔵前工業會通常總會。
大阪セルロイド同業組合評議員會。
25日　染料工業藥品同組講演會。
日本溫度計工業組合總會。
大阪印刷インキ工組總會。
ス・フ同業會委員會。
セメント聯合會緊急理事會。
京都化研談話會。
阪神塗料製造技術員懇談會例會。
26日　日本染料會社々長・會長就任披露式。
日本琺瑯鐵器工組總會。
大阪染色工組研究會。
27日　名古屋陶磁器輸出工組理事會。
29日　日本農藝化學會關西支部例會。
日本人纖工業會總會。
30日　色材協會工場見學會及び懇親會

6　月

1日　東京肥料組合創立總會。
2日　化學機械協會關西例幹事會。
3日　朝鮮魚油會議。
日本硝子製品輸出組合總代會。
大阪石鹸同盟會並に同志會例會。
4日　過燐酸組合理事會。
5日　大日本窯業協會春季講演會。
京大化研10周年祝賀會並に講習會。
酒精專賣法解説講演會。
7日　大阪市立工研主催「石鹸講習會」開幕。
大阪府下硝子加工研究會。
8日　塗裝講習會。
9日　全日本肥料商組合聯合會第1回發起人會。
10日　大阪荷性曹達懇話會。
燃料局開設官制公布。
大阪市立工研主催「石鹸工業座談會」
12日　工業化學會九州支部常會講演會
日本化學會常會。
燃料研究所學術講演會。
大日本窯業協會大阪支部懇親會。
塗料聯合會東西總會。
ゴム協會關西支部總會。
燃料協會例會。
オサメ硫酸工業所工場落成披露式。
14日　大阪市立工研主催「油脂座談會」
金屬材料講習會。
重工業化學工場委員講習會。
15日　阪神塗料製造技術員懇談會。
16日　理化學研究所第31回學術講演會
陶磁器講演會。
17日　工業化學會關東・關西支部例會
硬化油販賣會社總會。
大阪鹽酸會理事會。
日本二硫化炭素工組理事會。
大阪印刷インキ工組理事會。
18日　大阪市立工研主催「揮發洗滌組合座談會」。
19日　本藥學會例會。
塗料實演會。
日本化學會近畿支部例會。
21日　日本製紙聯合會理事會。
東京印刷インキ材料商組合總會。

工業化學會懇談會。
金屬材料講演會。
22日　石油聯合會重役會。
大日本特許肥料會社定時總會。
23日　塗料規格調査會。
日本人纖輸出同業會創立總會。
日本人絹工聯總會。
東京揮發油聯合會委員會。
第33回化學工業懇話會。
24日　東京石鹸同業組合理事會。
硝子製品輸出組合理事會。
25日　工業化學會滿洲支部大會。
理研特殊鋼總會。
製鋼原料共同購買會關東部會。
26日　日本農藝化學會6月例會。
北海道化學協會第4回總會。
28日　東京硝子製造同業組合總會。
人絹聯合會總會。
礦油精製聯合會理事會。
石油聯合會委員會。
大阪石炭協會總會。
日本纖出染料工組聯合會總會。
硫安製造業組合理事會並に參與會。
日本毛糸紡績創立總會。
人絹聯合會臨時總會。
29日　日本ス・フ同業會總會。
大阪窯業セメント會社研究室落成式

7　月

1日　石綿スレート工組創立總會。
木曜會座談會。
2日　東京揮發油聯合會理事會。
3日　日本農藝化學會關西支部講演會
大阪染料壯年會映畫の會。
藤岡工試新舘落生式。
5日　本社主催北支資源開發座談會。
大阪市立工研主催「石鹸講習會」開幕
大阪印刷インキ工組理事會。
不銹鋼講習會。
帝國瓦斯協會理事會。
工業X線講習會開幕。
6日　大阪硝子加工研究會委員會。
大阪石鹸製造同盟會例會。
大阪ゴム工組理事會。
鐵製聯理事懇談會。
7日　全國人絹織物染色加工業者大會
材料研究會關西支部コンクリート座談會。
8日　日本ゴム協會規格委員會。
重油中央委員會。
化學機械協會關西側座會。
9日　大阪理化學研究機關設立案協議會。
東肥協會理事會。
大阪コークス同業組合會。
西邦琺瑯鐵器工組協議會。
大阪採鑛冶金會座談會。
10日　日本化學會常會。
燃料協會講演會。
日本石鹸纖出組合初理事會。
西邦琺瑯鐵器工組商議員會。
12日　第1回關西ゴム工業講習會。
大阪硝子製造同組々合會。
13日　パラステ販賣聯合會臨時委員會
東京纖出印刷インキ工組例會。
日本・スフ同業會委員會。
硫安肥料製造業組合理事會。
14日　日本ゴム協會關東支部常會。
15日　工業化學會關東、關西各支部常會。
人纖工業全體委員會。
關西鹽酸會々合。
16日　油脂關係販賣會社並に聯合會々議。
染工聯理事會。
硬化油販賣會社定例重役會。
グリセリン販賣會社定例重役會。
17日　染工聯臨時總會。
西邦琺瑯鐵器工組理事會。
19日　全購聯理事會。
過燐酸組合理事會。
アスファルト乳劑講演會。
20日　製紙聯合會商議員會。
鑛油精製聯合會理事會。
大阪硝子製造業組合役員會。
大阪工業懇話會主催「燃料及び燃燒

研究會」
21日　日本人絹工聯統制委員會。
晒粉同業會重役會。
日本コークス親交會。
沃度鑛出組合全體會議。
石油技術協會講演會。
工業化學滿洲支部座談會。
22日　硫安肥料製造業組合理事會。
西邦硅鄕鐵器工組臨時總會。
石油聯合會中央委員會。
人纖工業會規格委員會。
24日　大阪肥料商組合總會。
塗料聯合會理事會。
26日　日本陶磁器工組聯合會理事會。
塗料聯合會緊急ラッカー部會。
ヴルツ絹絲應用織物展。
27日　日本ス・フ同業會商議員會。
日本石鹼油組東京支部役員會。
28日　製紙パルプ需給協議會。
礦油精製聯合會定時總會。
捺染統制委員會。
29日　日本燒寸工組理事會。
阪神塗料製造技術員懇談會。
西邦硅鄕鐵器工組合員協議會。
混凝土講習會。
30日　大阪工業會臨時總會。

8　月

1日　日本硅鄕鐵器工組聯合會協議會
2日　東聯燃料委員會。
日本石鹼鑛組關東支部總會。
3日　硫安組合懇親會。
日本石鹼鑛組協議會。
石油聯合會重役會。
ガラス製品展覽會。
大阪燃燒懇談會。
4日　礦油精製聯合會委員會。
セルロイド工業講演會。
關西鹽酸協議會。
5日　日本ガラス同組大阪支部檢查打合會。
大阪市立工研指導成績品展覽會。
滿洲合成燃料會社創立總會。
6日　日本內地向機械捺染工聯理事會
大阪硝子商組主催硝子新案座談會。
大阪府醸造學會夏季大會。
全購聯委員會。
7日　大阪燃燒懇談會緊急總會。
8日　日本ゴム協會關西支部例會。
9日　日本硝子同組聯合會組長會議。
10日　日本鑛出インキ組臨時總會。
パラ・ステ販賣聯合會創立披露。
大阪洗濯石鹼工組役員會。
アルミ昭和會協議會。
人絹工聯統制委員會。
11日　關東蠟燭統制組合第6回總會。
東京硝子纖工組總會。
全日本肥料團體聯合會協議會。
西邦硅鄕鐵器工組商議員會。
12日　重油協議會定例會議。
晒粉販賣會社重役會。
日本ゴム工組聯合會理事會。
13日　日本石鹼鑛出組合協議會。
16日　朝鮮鰯油基本協定更改會議。
石油聯合會全國支店長會議。
17日　日本硝子同組聯合會打合會。
グリセリン販賣會社定例重役會。
硬化油販賣會社定例重役會。
パラステ聯合會役員會。
阪神塗料製造技術員懇談會。
18日　セメント聯合會理事會並に總會
19日　日本製紙聯合會理事會。
20日　礦油精製聯合會懇談會。
21日　人絹聯合會理事會。
工業化學會全滿洲支部大會。
22日　日本學術協會大會特別講演會。
23日　全國人絹特約店聯合會。
日東化學工業會社創立總會。
24日　日本ゴム工組聯合會統制委員會
兵庫縣工業會緊急懇談會。
硫安肥料製造組合定時總會。
25日　商工省主催全國鑛業課長會議。
日本硝子腕環工組理事會。
神戶商工會議所貿易部會。
カーバイド組合總會。
帝國燃料會社設立政府民間懇談會。
26日　日本人絹織物工組聯合會統制委員會。
28日　大阪染料壯年會水上大會。

業　界　推　移

昭和11年7月より、昭和12年8月に至る本邦化學工業界の動きを摘記したるものである。

昭和11年7月

東洋曹達會社の苛性曹達初製品は愈々關西市場に出現した。
昭和合成化學の合成醋酸が漸く市場に出廻つた。
日之出紡績會社の人絹部が人絹計畫を具體化した。
大阪市立工研の中小工業巡回指導が開始された。
三菱商事機械部では化學機械部門を積極化することとなつた。
商工省で人繊、燃料、鐵鋼の三大原料政策を確立した。
國產各アルミ會社では一齊に事業擴張に乘出した。
岩城硝子が蒲田に特殊硝子工場を新設した。
東海曹達會社名古屋工場は運轉を休止することになつた。
大藏省專賣局は北支工業鹽の輸入を決定した。
品川白煉瓦會社が岡山縣片上に新工場を建設した。
日本タールの染料販賣陣決る。
國產工業ＩＧ兩社共資のチタン工業會社が設立された。
住友化學の自給用骸炭が運轉を開始した。
富士寫眞フイルム會社が超高級映畫のフイルム工業化に成功した。
盧溝橋の後漸く硫炭工業組合が結成された。
日本染料の酉島工場が漸く試運轉を開始した。

8　月

資本金200萬圓の日本マグネシユウム會社が東京に設立された。
日本食料工業のベルベツト石鹼買收が決定した。
朝窒が晒粉共販に加盟業界漸く安定。
横濱ゴム會社工場增設第二期に入る。
明治ゴム會社の糸ゴム市場化さる。
セメント聯合會對小野田セメントのセメント協定成立。
大阪曹達の過酸化水素工場日染との間に特許紛爭起る。
大阪酸水素罹災工場復舊成る。
日本曹達會社の染料計畫確立さる。
日鐵八幡工場のアンスラセン本格化計畫具體化す。
滿洲油化工業會社滿洲國政府援助下に創立さる。
神戶電機の合成樹脂製品漸次增產さる
昭和人絹、太陽レーヨン兩社人絹統制に加盟す。
晒粉安定工作に共販會社が積極的に乘り出した。
伊藤萬助氏の寄附20萬圓で京都帝大內に日本化學纖維研究所が設立された
大日本製糖のアルミナ計畫工業試驗に入る。
ツアン式ソーダ法を朝窒で採用することに決定した。
日本火藥の朝鮮工場が正式に認可され

た。(日産10トン)。
日本曹達が旭窒傘下工業を買收した。
昭和肥料の合成硝酸15トン增産成る。
尾崎染料が新硫化鑛山を發見した。
關西硫酸販賣會社が直營硫酸工場の建設案を決定した。
德山曹達が苛性及び曹達灰の增産を斷行した。
武田長兵衞商店が大衆醫藥への積極的進出案を決定した。
東洋合成化學工業がブリスライト製品を一部市場化した。
朝鮮石炭工業が東京に可塑物工場を新設した。
セルロイド生地統制機運再び濃化す。
各社の競爭激甚で硝化綿市場混亂に陷る。

9　月

日本製鍊會社事業積極化し1000萬圓に增資す。
東硫化學染料界へ積極的に進出す。
錦華人絹がツアーン式曹達工場の建設計畫に着手した。
栃木化學のチタン新工場落成移轉す
日東紡の人絹日產30トン擴張計畫決る
朝日化學肥料が過燐酸の本運轉を開始した。
南海晒粉會社が染料中間物の製造研究を開始した。
理研丸山技師がニコチンの新抽出法に成功した。
神戸酒井氏が山科硬化油工場を買收して小倉化學工業を創立した。
東京セロフアンと日本ヴイスコース會社の合併案が正式に決定した。
日窒系朝鮮石炭工業は蟻酸、蓚酸の製造計畫に着手した。
日本タール工業が1,000萬圓に增資し第段の飛躍に備へた。
資本金1,000萬圓の東洋製紙會社が津に設立された。本社は神戸。

10　月

鐘紡が滿洲營口に葦パルプ工場を建すべく康德葦パルプ會社を創立し
硫炭工業組合が正式に認可され、統の實體が結成された。
花王、合同油脂、第一工業、大阪曹素四社共資の特許洗劑會社が創立された。
メタノール企業諸會社一齊に增產に手す。
日本電工會社倍額增資案を決定す。
東邦人造纖維會社と鐘紡との提携な
南海晒粉の四鹽化炭素增產成る。
奥山石鹼の加盟で大阪地方酸素統定す。
川南工業が事業の積極化を狙つて、萬圓に增資、株式組織に改めた。
日本曹達が臺灣製鹽、山城火藥を買した。
日本タール工業が一躍3,000萬圓に資した。
日染の米國產染料確立方針具體化
川村喜十郎商店化學工業藥品界へ進
那須アルミが三井と提携してアルマト工業に進出。
大日本セルロイドのバライタ紙工業畫決る。
神東塗料各製品の倍額增產工事に着

11　月

國產各チタン白會社依然試驗時代せず。
帝國人肥クレオライトを增產。
重要肥料統制法實施さる。
九州曹達が福島縣小名濱に硫安工場

立を決定。
日染輸出會社印度に目覺しく進出。
鹽田の擴充を目指し大日本鹽業倍額に增資(800萬圓)
大日本麥酒が製壜事業を獨立、日本硝子株式會社を創立す。
錦華人絹の曹達工場、軍部の制限にふれて設計が變更された。
日窒の木ノ本硫酸工場が愈々操業した
光永政介氏が合成ゴム工業化をねらつて櫻野研究所を創立した。
多木肥料が硫安工場の建設に着手した
日窒の調味料(旭日味)販賣政策、積極化さる。
日窒が東洋水銀鑛業會社の支配權を獲得した。
苛性曹達輸出の全體統制成る。
臺灣拓植會社が創立された。

12　月

日曹傍系のパルプ會社が創立された。
住友アルミニウム製鍊會社が倍額增資案を決定した。
武長が神崎川新工場の建設に着手した
セロフアン界統制實施後やや安定す。
理研系大多喜天然ガス會社500萬圓に增資す。
日本アルミニウム會社が一部操業開始した。
日產の大日本人肥合併案が發表された
三菱鑛業の支援で堺化學工業會社が陣容を刷新更生した。
東洋紡が岩國、敦賀の兩人絹工場の大增產に着手した。
三井の石炭液化工場敷地大牟田に決る
商工省の中小產業振興會社設立要項決る。
三共が農藥積極化を目指し東西新工場の增設に着手した。
捉染翔ロンガリツトの亂賣戰深刻を極む。
塗料聯合會の大阪部會が結成された。
三井物產が1億圓增資案を決定した。

昭和12年1月

朝窒がアセトン應用新精米法に成功す
日本板硝子の四日市工場が竣工した。
重要肥料統制委員正式に決定す。
北越製紙の人絹パルプ計畫として北越パルプ會社が創立された。資本金600萬圓、年產2萬トン。
旭電化の藁パルプ增產完成す。
德永硝子の東京、滿洲の兩新工場建設案決定す。
日東紡の增資案(1,000萬圓)決定す。
住友金屬の反對で關硫直營の硫酸工場敷地變更に至る。
苛性曹達輸出懇談會愈々統制に着手す
原料暴騰で塗料界の採算難深刻化す。
日本製產業終に三菱商事に肩替りす。
日本香料藥品會社の本山新工場竣工す
燐界の協調なり日本燐工業會社創立さる。
資本金1,000萬圓の三河セメント會社創立。
旭硝子の尼ケ崎新工場運轉を開始す。
日窒木ノ本硫酸と關硫との協定なる。

2　月

岩城硝子が醋酸纖維の研究を完成。
旭硝子鶴見工場が磨板、型板の增產に着手した。
昭和酒造會社がエーテル界に進出すべくクマタ化學工業會社を買收した。
國產ロンガリツト再協定で安定の曙光現る。
日本足袋會社滿洲遼陽工場の建設に着工。

阪東調帶會社が再成ゴム會社を創立した。
塗料聯合會の東京部會正式決定。
旭硝子の尼崎工場普板の高級に着手す
敦賀、東北、富國、富山、德山の五セメント認可さる。
錦華人絹の苛性ソーダ工場行惱む。
日本人造羊毛會社の人絹工場成る。
住友金屬工業1億圓への增資決定す。
鐵興社變態增資、第二鐵興社を創立す
鈴木味の素が合成鹽酸の自給に着手。
大阪窒素セメントのアルミナセメント製造を開始す。
東洋クロス會社がレザー工場の建設に着工す。
日本化學工業の染料漸次本格的に出現す。
石原產業が倍額增資し、南洋ボーキサイトの開發を計畫す。

3　月

淺田明礬と飴磨化學が合併して淺田化學工業株式會社を設立、愈々アルミナの增產を積極化した。
日本化藥が朝鮮出進を計畫して朝鮮火藥會社を創立した。資本金500萬圓。
日本化學工業會社重役陣正式に決定す
帝國人肥がクレオライト增產に着手す
住友化學の接觸硫酸大增產殆ど實現す。
日本染料商事會社創立さる。
川村商店が日本染料藥品會社を創立し染料事業へ乘出す。
大日本セルロイドのバライタ紙を富士寫眞フイルムで工業化することに決定す。
昭和肥料の增產硫安運轉を開始す。
日の出紡人絹人綿工場建設に着手す。
日本油脂會社、合同油脂會社の合併成立す。
日曹コンツエルンの陣容成る。
東洋曹達が苛性ソーダ增產を更に積極化す、月產7,000トンへ。
新潟硫酸倍額增資し硫安、メタノールの製造工場起工。
日東紡績の人絹增產計畫躍進を示す。（月產25トン）
昭和、東京、庄內川、岸和田の四人絹會社共資で日本纖維工業會社（人絹紡績）を創立した。
昭和產業倍額增資し鹽釜大豆油工場に着工す。
住友電線の合成ゴム「グリサイト」本格製造に入る（自家用）。
硫安の輸出入制限令施行さる。
丸山研究所が觸媒用酸化バナヂウムの工業研究を完成。
日窒の石炭液火工場建設捗る。
旭工社の亞鉛華增產進む。（月產600トン）
大日本鹽業が山東鹽業會社を創立す。
日滿マグネシウム會社、宇部工場倍額增產案具體化す。
近江絹糸會社帝人の支配下に歸す。
東洋化成工業會社三倍增資案決定す。
三菱がバルブ事業に進出、滿洲バルブ會社の實權を把握す。
川村商店インキ部門を獨立し大日本インキ製造會社を創立す。
出雲製織人綿工場運轉を開始す。
昭和乾板會社、昭和寫眞工業會社に合併す。
鹽水港製糖會社多角化策として、日本砂糖工業會社創立。
日鐵八幡製鐵所のカーバゾール市場化さる。
商工省洋灰增設社を認可す（日東、東亞、昭和、旭、常陸）
好調の燐肥界に原鑛不足の惱みが加はる。

日本窒素2億圓に增資す。
日本特殊陶業會社工場建設に着手。

4　月

アルコール專賣法實施さる（4月1日）
江戸川工業所の蓚酸100トン增產實現す。
樺太の無水酒精工場新義州にて起工。
人絹用藥パルプを目的に大日本纖維工業會社創立さる。
太陽レーヨン玉島工場操業開始。
日本香料藥品會社の本山工場運轉を開始す。
大阪窒素セメントのアルミナ製造計畫具體化す。（年6,000トン）
樽許製紙（大倉洋紙店）でバライタ紙計畫。
大日本特許肥料會社4倍增資案決定し硫安事業へ乘出す。
關西ペイント會社岩城塗料を合併す。
武長商店が化工界進出策を表面化す。
日本板硝子四日市工場第1期運轉を開始す。
薄製作所の隔膜紙工場竣工す。
住友電線の倍額（3,000萬圓）增資案決る。

5　月

臺灣の天然ガスを利用する日產の硫安計畫具體化す。
昭和人絹の自給接觸式硫酸工場運轉開始。
日本電工アルミナ增產は石原產業よりボーキサイト受給に決定。
日本アンチモニー鑛業の精鍊工場大阪伽町に決る。
京大化研が15萬圓の豫算で合成燃料試驗工場の建設に着手す。
旭電氣の金屬マグ計畫工場建設に決定す。
東亞ペイント倍額增資決定し、特殊塗料界へ積極進出す。
昭和鑛業會社のメタノール製造計畫案內定す。
ス・フ織物の消費稅免除さる（5月1日）
酒精元捌會社設立さる。
特殊輕合金會社、揖斐川金屬工業會社合併す。
日染酉島工場の醫藥種市場化さる。
日本マグネシウム金屬會社の操業遲延す。
新東塗料、新防腐劑の製造を開始す。
日電系日本マグネシウム會社志村工場一部運轉を開始す。
第二鐵興社が創立された。
東洋化學染織がプリント捺染に成功した。
川南工業が三倍增資、1500萬圓に飛躍した。
日石尼崎工場が操業を開始した。
北鮮製紙の人絹パルプ運轉本格化さる
資本3,000萬圓で新日本レーヨンが創立された。
日本硫酸運轉を開始す。
日本電工がアルミニウム增產案を決定した。資金1,000萬圓。
日滿マグが年產1,000トン增產案を決定した。
滿鐵中央試驗所が雜纖維の資源利用に關する研究を積極化した。
資本金2,000萬圓で王子系山陽パルプ會社が創立された。年產2,000トン。
日東紡績會社の名古屋紡績合併案決定す。

6　月

富士寫眞フイルム會社が1,000萬圓に

增資した。
日電系三陟開發會社が南鮮化學工業計畫に乘り出した。
日產系日本油脂と大阪三石驗が合併し日本石鹼會社を創立した。
朝日化學肥料が燐鑛石の自營に乘出した。
理研の再生ゴムを工業化すべく野村の支援で理研護謨工業會社が創立された。
明治製糖會社の多角計畫成り愈々昭和護謨工業會社を創立した。
バガス、パルプの工業化に鹽水港數糖が愈々乘り出した。
旭製紙がパーチメント紙を增產した。
東洋レーヨンが人綿計畫に備へて瀨田町に4萬坪を購入した。
日本燃料工業會社の低溫乾餾工場建設地決定す。
日本炭油工業會社が亞炭の液化計畫を準備す。
朝鮮に新設の朝鮮協同油脂會社陣容決る。
苛性ソーダの手當難で人絹人纖會社脅ゆ。
昭和曹達倍額增資を決定す。
昭和板硝子創立さる。
日本硝子が名古屋硝子を買收。
東京人絹變態增資により東京纖維工業會社を創立す。
壽製作所系日本パルプ工業會社創立さる。
關硫直營硫酸工場尼崎市に起工。
月產2500連の能力を以て愛知セロファン會社登場す(舊昭和化學工業會社)
岩城硝子の奉天進出案決定す。
日本厚板硝子技術難で遂に挫折す。
日本硝子の增產計畫着々進む(尼崎工場3割、吹田工場倍額へ)。
保土谷曹達が蟻酸の製造を開始す(月產100トン)。
元堺化學の技術者で今回向陽化學工業會社を創立、着工。
日本製錬亞鉛鑛山を買收す。
南拓、三井の共資で南洋アルミ鑛業會社創立さる(資本金200萬圓)。
東亞ペイントの增產、練工場棟二竣工す臺灣專賣局が栳樟の葉より製腦を計畫す。
3年越しに日本フイルム工業(セロファン)創立す。
昭和板硝子伊保工場起工開始。
滿洲輕金屬工業のアルミ工場撫順大官屯に建設着工。
日曹人絹パルプが加奈陀B、C地方の原木購入に成功す。
南滿鑛業がマグネサイト增產を目的に6倍增資を決定す。

7月

籾殼利用の富國人絹パルプ會社設立さる(資本金1000萬圓)
マオラン纖維利用による高千穗製紙會社が大川義雄氏を中心に設立された
栃木化學のチタン運轉を開始す。
日本酸素が日本理化工業會社と改稱し事業を積極化した。
福岡酸素が筑豐酸素を合併す。
日曹が米子製鋼、大島製鋼を吸收合併して日曹製鋼會社を創立した。
第一工業製藥會社分工場三重縣廿日市町に建設案決る。
大阪印刷インキ、黑越、西和兩インキを合併資本金50萬圓となる。
オリエンタル、ペイントが輕合金用塗料の製出に成功す。
日石の坊子林(臺灣)ガソリンプラント竣工す。
宇部窒素の人造重油市販化さる。

陽色素がナフトール、中間物の新部門へ進出。
產燐の協定共販成立後歐洲向輸出旺盛となる。
鰻式硫酸工場關西各地に續々建設着手さる(矢作、東レ、關硫、神島、帝人肥、宇部、日本化成)。
藤製藥工場がゴム用有機顏料界に進出す。
硝子が支那市場進出を狙つて滿洲昌光硝子會社を創設した(資本金300萬圓)。
日窒火藥對日本火藥の競爭態度著しく緩和さる。
日產が帝國火藥を合併し、愈々火藥界統制への動きを示す。
日滿アルミがアルミナ原料に長城粘土を卒先使用開始。
東洋ベントナイト化學工業會社50萬圓に增資。
和透明紙セロファン工場倍增產に着手。
日本製錬の傍系日本化學工業會社が再び操業を開始す。
大日本塗料會社工場擴張計畫進捗す。
總督府の製腦原料保續計畫案成る
和レザーのオイルクロース本格化さる。
大阪理化學研究所の設立原案成る。
日窒火藥のレザー計畫表面化す。
新興化學工業所が大內新興化學工業會社を設立す。
支事變勃發し、本邦產業界に重大影響を與ふ。

8月

日本海、中央兩電氣の共資で合成硫酸を目的に帝國高壓工業會社を創立す
素の國產計畫に昭和肥料、日窒、東洋高壓等追隨す。
日酸、日本合成共資で日本アセチレン工業會社創立さる。
堺化學のチタン白漸く本格化に進む。
東洋拓殖會社がアンガウル燐鑛の積極開發に乘り出す。
大日本製糖の無水酒精製造計畫案決る
朝窒が愈々漁撈を目的に朝窒水產工業會社を創立。
三井のフイッシヤー法による滿洲合成燃料會社創立さる。
支那事變愈々擴大し本邦化工界への影響愈々重大化す。
旭電化のエチレングリコール出廻る。
日滿纖維工業會社創立さる(資本金700萬圓)。
東邦パルプ、東滿洲人絹パルプ兩社正式決定す。
三井物產、東洋レーヨン共資の朝鮮レーヨン會社創立さる。
日本電力系の朝鮮化學工業會社計畫大綱決る。
東洋リノリウムの增設工場竣工す。
大阪工試の合成ゴム工業化試驗準備進む。
東亞產業の砂鐵精製工場增產。
日曹のアルミニウム工場本運轉開始。
日染鶴崎工場起工に着手。
日曹が醫藥界進出を目指し獨立部門を設置した。
米國レニヤ社パルプ輸入量減退と明年度人絹パルプ手當難で人絹、人纖各社狼狽す。
南洋產パラオ樹からパルプ製造を目的に南洋纖維工業會社が創立された。
東邦化學研究所がアンスラセンケーキよりカーバゾールの精製に成功す。
田岡染料增產擴張具現。
日本硫酸會社製品關西市場に出廻る。
日本海洋皮革工業會社解散し工場閉鎖す。

明年度の人絹パルプ手當難愈々濃化す
德永板硝子の普板計畫進む。
旭硝子の寫眞用乾板硝子工場建設計畫進む。
人絹の共同保管案決る。(棚上15萬封度)。
アウトサイダー懸念解消し東西硫酸市場安定す。
人絹用苛性ソーダに普通電解物の使用確認さる。
滿洲曹達日產100トンで操業を開始す
日本油脂が大阪洗濯石鹼界統制に乘出し、播磨、木本、西本の業者を合併す。
日本油脂2000萬圓を增資し資本金38[illegible]萬圓となる。
住友化學のメタノール工場運轉遲る。
中國鑛業のアンチモニー精煉計畫進む
I、Gの新合成ゴム、ペルヂユレン[illegible]地市場に出現す。
日東化學工業會社創立さる。

資　源　局　編

工　業　研　究　輯　覽

A5判　定　價　2.70
洋　裝　送　料　33

金屬・機械・電氣・土木・建築・化學・窯業・食品・染織其他工業の11に分類し、全國官公私數百の研究機關に於ける研究題目・機關・擔當者・進度の一覽表

工學博士　栗原鑑司著
石油乾餾工業
菊判　布裝　¥9.50　〒.33

工學博士　小林久平著
再訂增補　酸性白土
菊判　布裝　¥5.50　〒.33

化工界人事錄

自昭和11年9月
至昭和12年8月

9　月（昭和11年）

2日　**門脇博明氏**（大阪工試技師）は理博に學位を正式に授與された
△**塚本赳男氏**（金澤醫大藥局長藥博）は留學のため横濱出帆の氷川丸にて沙市に向つた
3日　**齋藤定藏氏**（高田船底塗料會社取締役現日本油脂取締役塗料部長）は工博を授與された
4日　**丸澤常哉氏**（大阪帝大教授）は滿洲化學工業視察の旅より歸阪した
9日　**中塚佐一氏**（臺北帝大助教授）は理博を授與さる
△**津田恭介氏**（東大藥學科助手）
△**藤川福二郎氏**（同上）兩氏は正式に藥博を授與さる
△**橋爪惠氏**（藥學士、醫學士）は滿洲藥業視察中のところ無事歸朝
10日　**船久保英一氏**（阪大教授）
△**中島統一郎氏**（日本特殊鋼管專務）の兩氏は正午横濱入港の秩父丸にて歸朝
12日　**鮎川義介氏**（日本產業社長）は約一ヶ月の豫定で滿洲視察に向つた
15日　**多和田寬氏**（北大應化科助教授）は旅順工科大學教授に榮轉
△**宮道悅男氏**（富山藥專教授）は岐阜藥專校長に任ぜらる（勅任待遇）
24日　**西川虎吉氏**（旭硝子顧問）は滿洲曹達創立總會に出席のため渡滿中のところ歸朝した
27日　**白州次郎氏**（日食取締役）は太洋丸で米國經由歐洲視察に向つた

△**三宅鑛一氏**（東大理學部教授）
△**麻生慶次郎氏**（東大農學部教授）
△**高橋偵造氏**（同上）以上三氏は大學令第十三條により帝大名譽教授の稱號を授與さる

10　月

3日　**小森弘葉氏**（大阪府工務課技師）は歐米工業奬勵施設並に中小工業狀態調査研究を命ぜられ榛名丸で出帆
7日　**小山田實氏**（晒粉共販大阪支店長）は朝鮮視察に向つた
△**光永政介氏**（三菱鑛業技師）は梅野研究所に入社
△**門脇博明氏**（大阪工試技師）は大日本セルロイド會社に入社した
8造　**杉浦稱三氏**（住友金屬取締役技師長）は米國駐在員に命ぜられ郵船秩父丸で出帆した
△**平井澄氏**（三菱石石常務）は米國石油事業視察のため圓藤技師を帶同秩父丸で出發した
△**大島重義氏**（東亞ペイント取締役技師長）は秩父丸で歐米塗料界の視察に向つた
12日　**長尾欽彌氏**（わかもと本舖社長）は歐洲視察の旅から歸朝した
15日　**大島義清氏**（東大教授工博）は

歐米視察中のところ淺間丸で歸朝す
△加茂正雄氏（東大教授）は世界動力會議に出席中のところ無事歸朝した
△藪田貞次郎氏（東大教授）は歐米醸造工業界視察中のところ淺間丸で歸朝した
△小西長治郎氏（小西商店）
△鈴鹿和三郎氏（鈴鹿商店）兩氏は歐米肥料界の視察を終へ淺間丸で歸朝した
16日　橋本圭三郎氏（日石社長）は朝鮮經濟會議に出席のため出發した
19日　中瀨拙夫氏（前臺灣總督府殖産局長）は日本糖業聯合會常務理事に推薦された
△田中宗一郎氏（臺灣工業技師）は東京本店詰に轉勤した
30日　左近司政三氏（北樺太石油社長）は在露折衝中のところ無事歸朝した

11　月

1日　草鹿砥裕吉氏（臺灣製糖取締役）は後進に道を開くため辭任した
△玉井義助氏（臺灣製糖商務部長）は同社取締役に昇進した
△二階堂行健氏（海軍大佐）は定期異動により燃料廠研究部長に任ぜられた
△阪本佐太郎氏（海軍藥劑大佐）は定期進級により藥劑少將に陞進した
2日　高木正勝氏（大日本自動車飛行機タイヤー常務）は自動車に轢かれ重傷を負つた
11日　北川順氏（陸軍藥劑監藥博）は腦溢血にて急逝す
12日　遠藤永次郎氏（陸軍航空少佐）
△坂部三次氏（日本クロス專務）
△橋　正男氏（大日本製糖技師）
△熊澤武雄氏（麒麟麥酒技師）の四氏は横濱入港の秩父丸で桑港より歸朝した
15日　井上源之丞氏（東京セロファン社長）は神戸入港の諏訪丸で倫敦より歸朝した
16日　蘆田英太郎氏（武長商店技師）は横濱出帆の太洋丸で羅府に向つた
17日　荒川文六氏（九大工學部教授）は九州帝大總長に任ぜられた
18日　佐藤　清氏（日本乳製品會社技師）は朝日化學肥料會社の研究科に轉勤した
△中山秀三郎氏（東大名譽教授）は病氣療養中のところ肺炎を併發し遂に逝去した。享年73
22日　高橋春吉氏（臺灣總督府技師）は天然瓦斯研究所兼務を命ぜらる
24日　菊池恭三氏（大日本紡社長）は取締役會長に推された

12　月

1日　君島武男氏（九大應化教授）は今回勳二等瑞寶章を授與された
3日　塩見賢吾氏（臺灣總督府兼天瓦斯研究所技師）は米國天然瓦斯視察のため横濱出帆の秩父丸で出發す
6日　小林喜一氏（ライオン齒磨社長）は基督教青年會世界大會に日本代表として出席のため諏訪丸で倫敦に向け出發した
9日　長口宮吉氏（東京高等工藝助教授）は同校教授に任命さる
10日　宗宮信行氏（東大宗宮教授嚴父）は午後4時50分腦溢血で卒去さる
11日　武井　武氏（東京工大電氣化學科助教授）は同大學教授に昇進し併せて建築材料研究所員の兼務を命ぜらる
△矢木　榮氏（東京工大講師）は

日付にて助教授に任ぜらる（高等官6等）
10日　篠原健一氏（阪大講師理研所員）は神戸入港の宮崎丸で歐洲より歸朝
△横田俊雄氏（海軍機關中佐）は歐米石炭液化狀況を視察中のところ横濱入港の淺間丸で歸朝した
△藤本閑作氏（宇部曹達取締役）は逝去さる
15日　伊澤正宣氏（東北帝大教授）は非鐵金屬冶金學研究のため米國留學を命ぜらる
△武田修三氏（東北大助教授）は物理冶金學研究のため獨逸留學を命ぜらる
17日　菅波稱亨氏（商工事務官）は17日付文部省より佛國出張を命ぜらる
18日　青山孝吉氏（日曹技師）は高壓工業視察のため獨逸汽船シヤルンホルスト號で神戸出帆渡歐した
21日　向井參之充氏（九大助教授）は工學博士の學位を獲得す
△石黒武雄氏（東大藥學科助手）は藥學博士の學位を獲得す
△小平　勇氏（日鐵八幡精煉所研究所技師）は工博の學位を獲得す
31日　佐橋花刀自（理研所員佐橋佳一氏母堂）は自動車事故にて急逝す

1　月（昭和12年）

4日　岡本佐右衞門氏（工業藥品商）は午後9時永眠す
12日　原善三郎氏（元王子製紙取締役）は食道癌のため自邸で長逝す、享年66
15日　赤木一憲氏（京大化研所員）は東京人絹吉原工場に技師として入社
18日　志方益三氏（京大教授）は蓄膿症治のため京大病院に入院す
△山田　肇氏（盤城セメント取締役）は舊臘長逝した高木常務の後任として常務に就任す
25日　藤村健次氏（住友化學技師）は正式に工博を授與された
26日　大河內鉦子刀自（大河內正敏氏母堂）は86歳の長壽をもつて安らかに永眠す
△武田志麻之輔氏（函館高等水產教授）
△馬場爲二氏（臺北大農林專門部教授兼理農學部助教授）の兩氏は北大提出中の論文により農博を授與さる
28日　上方介友氏、山村美水氏（共に旭硝子社員）の兩氏は横濱出帆の太洋丸で海外視察の旅に上つた
30日　岡　俊平氏（旅順工大教授）は横濱出帆の白山丸にて歐洲留學の途に上つた

△村松　章氏（旭硝子大阪支店長）は今回停年により退社した
△阿部末吉氏（東北大工學部助教授）は旭硝子に入社し同社研究所に勤務
△林田寬治氏（東北大工學部講師）は東洋レーヨン株式會社に入社す
△角田秀男氏（大阪工試技師）は同試驗所を辭職す
△段野忠次氏（大阪府立貿易館庶務課長）は一身上の都合により辭職す

2　月

2日　本間高明氏（東京府立化工化學機械課長本間久松氏3男）は病氣療養中のところ長逝した
4日　安東新午氏（燃研技師）は世界石油會議出席のため郵船大洋丸で米國經由渡歐の途に上つた
△榛葉久吉氏（住友電線技師長工博）は神戸出帆白山丸で歐米視察の途に上つた

6日 **深水 壽氏**（滿化常務）は青森縣下の硫化鑛山買收取極めのため上京

7日 **錦織清治氏**（大同電氣製鋼技師）は林達夫氏と共に神戸入港の香取丸にて歐洲より歸朝

△**杉山 榮氏**（矢作水力副社長）は萬國動力會議出席後滯歐中のところ郵船香取丸で歸朝

△**山口美親氏**（東大應化助手）は腦溢血のため急逝した

8日 **勝木喜董氏**（蠶業試驗所技師農博）は理學博士の學位を正式に授與さる

△**保坂文藏氏**（パワーガスコーポレーション會社技師）は東北興業會社に入社

△**宮崎駒吉氏**（三菱電氣神戸製鋼所長）は三菱電機常務取締役に就任

△**佐藤曆次郎氏**（錦華人絹、錦華紡績、錦華毛糸社長）は心臟喘息病にて加療中のところ逝去

12日 **德永善四郎氏**（德永ガラス常務）は德永道治、德永敬仁の兩氏を帶同して渡米

14日 **難波守治氏**（東洋護謨工業取締役）は横濱出帆の榛名丸にて倫敦へ出發

1 日 **山村金保氏**（東工大分析化學教室助手）は理博の學位を獲得す

16日 **濱田成義氏**（蠶業試驗所技師）は農林省より歐米各國並に英領印度へ出張を命ぜらる

△**高松享氏母堂** かねて病氣療養中のところ逝去さる

17日 **米倉昌達子**（日本醫大教授、貴族員議員）は急性肺炎に心臟麻痺を併發し急逝す

18日 **清水要藏氏**（阪大工學部冶金科講師）はブラジルに於ける鑛業資源調査のため郵船ラプラタ丸にて神戸を出帆

△**祖父江寬氏**（東工大助教授）は在外研究員を命ぜられ倫敦に出發

22日 **民野鎌太郎氏**（豫備陸軍一等藥劑正）は病氣加療中のところ逝去す

23日 **橋本圭三郎氏**（日本石油社長）は滿洲石油會社總會に出席のため西下

24日 **松澤傳太郎氏**（日本石油鑛業課長）は19日腦溢血のため卒倒し其後加療中のところ肺炎を併發して長逝す

△**遠藤永次郎氏**（工博、陸軍航空兵少佐）は今回中佐に陞進す

28日 **宮本秋一氏**（日本鑛業社員）は倫敦に向け香取丸にて出帆

△**中谷芳郎氏**（三菱商事本店勤務）は日本穀產工業會社の專務取締役に就任

△**加藤正人氏**（錦華紡績專務）は錦華紡績、錦華人絹、錦華毛糸三社の社長に正式就任

3 月

4日 **山村金保氏**（東工大分析化學教室）は文部省より理博を授與さる

10日 **春日井新一郎氏**（東大助教授）は肥料學研究のため獨逸留學を命ぜらる

△**大 幸甫氏**（東京文理大助教授）は化學研究のため英國に留學を命ぜらる

11日 **榎並直三郎氏**（日窒專務）は吉川營業課長と共に京城着、肥料統制法施行に關し總督府と協議す

12日 **苫米地義三氏**（合同油脂常務）は魚油事情視察のため渡鮮す

△**越智昌三氏**（稻畑商店東京支店長）は日本染料支配人に就任す

△**柴田雄次氏**（東大教授、理博）は地震研究所兼務を命ぜらる

15日 **重松挺造氏**（重松製作所主）は防毒マスクに關する實狀調査其他の要務を帶びて上海に向け出發

△**丸山捨三氏**（理研所員）の學位論文"ヴイタミンCの研究"は教授會を通過した

△**川上行藏氏**（理研所員）の學位論文は東大農學部教授會を通過した

△**山內淑人氏**（藤永田造船所研究部長）は海外出張中のところ無事歸朝した

17日 **中原益次郎氏**（阪大教授、工博）は塑性學研究のため獨逸に留學を命ぜらる

△**小川若三郎氏**（遞信省電氣試驗所第五部長）は藤倉工業株式會社に入社

△**高木隆二氏**（藥博）は日本曹達會社に入社

19日 **貴志雷太郎氏**（片倉製紙紡績會社栽倉試驗所）は農博の學位を獲得

△**村山威士氏**（日本石油專務）は合同油脂會社の取締役に就任

△**井上盛義氏**（陸軍技師）は藥學博士の學位を授與さる

△**羽田 誠氏**（代々木香料製造所）は去月中旬より病臥加療中のところ遂に長逝す。享年47

20日 **山本一清氏**（京大教授理博）は米國、秘國及び伯國に出張を命ぜらる

25日 **高橋元枝氏**（古河鑛業顧問）は横濱出帆の大洋丸にて米國視察の途に上つた

△**丸澤常哉氏**（阪大工學部教授）は滿鐵中央試驗所長として就任

△**拔山大三氏**（東大助教授）は文部省より歐米各國へ出張を命ぜらる

△**伊澤正宣氏**（東北大助教授）は横濱出帆米國に向つた

27日 **依岡省輔氏**（東洋ファイバー社長）はかねて病氣療養中のところ遂に永眠す

28日 **角脇博明氏**（大日本セル技師）は同社新井工場詰として新潟縣に赴いた

29日 **藤山愛一郎氏**（大日本製糖社長）は對支經濟使節團に加はり渡支中のところ神戸入港の上海丸で無事歸朝

30日 **前田贊郎氏**（東大藥學科教室副手）は藥博の學位を授與された

4 月

2日 **齋藤 實氏**（蠶絲試驗所）は同所技師に任ぜらる

3日 **白崎好文氏**（大阪窯業取締役）は病氣加療中のところ遂に永眠す

4日 **山本正雄氏**（住友アミル社員）

△**福島富雄氏**（東亞企業社員）の兩氏は神戸入港の諏訪丸にて歐洲より歸朝した

5日 **八濱義和氏**（阪大工學部助教授）は工博の學位を授與さる

△**吉田一郎氏**（日本アルミ會社專務）は臺灣高雄工場の操業に立會ふため渡臺す

6日 **龜井三郎氏**（京大教授）は工博の學位を授與された

△**松永六二氏**（阪大講師）は滿鐵の委囑により滿洲某工場の裝置テストのため渡滿す

△**木村清三氏**（日本香料藥品研究部長）△**小山亮清氏**（理研眞島研究室）の兩氏の學位論文は阪大工學部教授會を通過した

8日 **嘉村平八氏**（明專教授）は工學博士の學位を授與さる

△村崎茂三郎氏（近藤製藥支配人）は歐米業界視察のため渡米
△臼倉錠次郎氏（長岡高工機械部長）は新潟鐵工所新潟工場に正式入社
△岸本　浩氏（堺市立金屬工業研究所長）は堺市技師に任命さる
9日　田中鐵三郎氏（田中鐵硝子營業部長）はかねて病氣療養中のところ午前6時永眠す、享年36
15日　湯淺武雄氏（元三共株式會社常務取締役）はかねて病氣療養中のところ急性肺炎を併發して永眠さる、享年68
16日　平野四郎氏（東大醫學部臟器藥品化學教室）△林　茂氏（陸軍科學研究所）林　平三郎氏（林源十郎商店取締役）以上三氏は正式に藥學博士の學位を授與された
17日　香坂要三郎氏（阪大教授）は神戸入港の淺間丸で歐米留學より歸朝
△山本久夫氏（堺化學取締役製造部長）は病氣療養のため同社を退社
△勝田雄次郎氏（專賣局技師）は大藏省令をもつて歐米各國に出張を命ぜらる
△宇井　澤氏（臺灣製糖、神戸製糖所技師）は同社九州製糖所に榮轉
18日　大島重藏氏（東亞ペイント技師長）歐米業界視察の旅より無事歸朝
△黑田泰造氏（元日本製鐵取締役）は理研特殊鋼株式會社の臨時總會に於て取締役に當選
△八木竹四郎氏（高砂香料常務取締役）は去る3月の盲腸手術後極力加療中なりしも遂に午前11時逝去、享年47
20日　丸山捨吉氏（理學研究所）△川上行藏氏（理學研究所助手）の兩氏は正式に農學博士の學位を授與さる
21日　松永六二氏（阪大講師）は滿洲出張より歸阪
24日　笠井眞三氏（小野田セメント副長）は業務打合のため上京中のところ同日歸社
△荒木鶴雄氏（愛知時計電機研究課長）は正式に工學博士の學位を授與さる
30日　田野柏嶺氏（大阪市立工研庶務課長）は老齡の故を以て同所を辭任

△小川道之輔氏（東京パームチック專務取締役）は專務の職を引退し顧問として盡力することとなつた
△坂井定吉氏（石井鐵工所專務取締役）は專務を辭任、第一線より引退す

5　月

3日　福島政治氏（東北大助教授）は工學博士の學位を獲得
4日　淺岡勝憲氏（淺野セメント技師）は東京驛出發、シベリヤ經由獨逸に向つた
△上野　周氏（中山化學研究所副所長）は急性腹膜炎のため午前8時長逝す、享年53
6日　相馬半治氏（明治製糖社長）は世界砂糖工業界視察のため米國に向つて出發
△三宅清藏氏（北越製紙社員）はカナダに於けるパルプ購入折衝のためバンクーバーに向け出發
12日　酉川正治氏（東大理學部教授博）は帝國學士院の第二部新會員として同日例會に於て推薦さる
△阿部房次郎氏（東洋紡取締役會長）は腦溢血のため療養中のところ午前8時永眠す、享年70
13日　西岡尚夫氏（日東硫曹技師長）は歐米漫遊の旅より無事歸朝

△芦澤忠治氏（明治護謨會社技師）は歐洲に於けるラテックス工業視察のため渡歐
14日　下田吉人氏（大阪市立衞試所長）
△庄野唯衞氏（大阪市立工研技師）
△武富　昇氏（早大教授）の三氏は兵庫出帆の伏見丸にて渡歐の途に上つた
15日　本多光太郎氏（東北大總長）は總長任期滿了に付後任選擧の結果重任と決定
19日　武田雄八氏（臺灣總督府中研技師）は農學博士の學位を授與さる
△市村　毅氏（臺北帝大助教授）は理學博士の學位を授與さる
20日　小塚泰一氏（明治製糖常務）
△古河順氏（古河鑛業副社長）
△野澤卓一氏（明治洋灰常務）
△高田　覺氏（岐阜工試長）の四氏は午後3時横濱出帆の淺間丸で渡米
△友成九十九氏（倉敷絹織技師）の東大に提出中の學位論文教授會を通過
△辻永又治氏（西邦琺瑯鐵器工組理事）は伊藤岩太郎氏の後任として同組合理事長に就任
21日　岸　武八氏（商工技師）は横濱入港の日枝丸で歐米視察の旅より歸朝
△堀江不器雄氏（横濱高工教授）は教授を辭し單に講師として留まり新に日本揮發油會社取締役技師長として入社
△今井利三郎氏（東部護謨工組檢査員）は朝鮮護謨同組の創立と共に檢査員として赴任
△大和逢實氏（大阪工試技師）は同所を辭し久留米ブリヂストン、タイヤ會社に入社
△須田喜一氏（元千葉藥專教授）は引退病氣療養中逝去
22日　安西正夫氏（日本電工庶務課長）は朝鮮鞍山の精煉所視察のため渡朝
△貴忠二一郎氏（撫順炭坑研究所技師）の東大醫學部に提出中の學位論文は教授會を通過
23日　森要太郎氏（大日本人肥取締役農博）は腸癌のため正午赤十字社病院にて逝去、享年74
26日　竹村勘吾氏（高千穗製作所技術顧問、工博）は歐米に於ける重工業界視察のため宮崎丸で渡米、期間6ヶ月
△岸野佐吉氏（古河鑛業日光精鋼所技師）の提出中の學位請求論文は教授會を通過

加福均三氏（臺北帝大教授兼總督府中研工業部長）多年に亘り臺灣化學工業界に盡瘁した氏は健康上の都合により辭任し東京に引上げることとなつた
△大村辰雄氏（日曹大阪出張所次席）は日曹本社營業課に榮轉

6　月

1日　八木秀次氏（阪大理學部教授）は歐米學界視察のため横濱出帆の太洋丸で出發
△濱田隆一氏（九大農學部長）は任期滿了改選の結果重任と決定
△山本眞一氏（大阪市產業部庶務課長）は大阪市立工研庶務主任に就任
△都甲卯作氏（大阪工試技師）は一身上の都合で辭職
△神代貞三氏（前臺灣製糖鑑査兼帝國火藥取締役）は病氣療養中のところ逝去、享年74
△玉井三之助氏（前德山海軍燃料廠製油部長、機關大佐）は早山石油に

入社、川崎工場長に就任
△澤口悟一氏（東工試技師）は歐米視察中のところ神戸入港の榛名丸で歸朝
3日　竹井政夫氏（三井鑛山目黒研究所技師）
△紀　俊忠氏（三井鑛山目黒研究所二部技師）
△井口俊夫氏（滿鐵中試技師）
△能見　忍氏（日本農藥技師）
△石川潤一氏（鳥取高農教授、農博）
△增本敏三郎氏（愛知時計常務）
△小森弘業氏（大阪府工務課技師）
の7氏は午後神戸入港の龍田丸で歐米視察の旅より無事歸朝
△細井唯介氏（細井製藥所代表者）は病氣療養中のところ永眠す
11日　吉田勇三氏（昭和人絹專務技師長）は歐米化學纖維界視察のため横濱出帆の秩父丸で出發
△岡本達夫氏（三菱製紙中川工場長）
△石川盛次氏（同高砂工場次長）の兩氏は歐米製紙界視察のため横濱出帆の秩父丸で外遊
△勝田雄次郎氏（大藏省專賣局技師）は世界製鹽業界視察のため横濱出帆の秩父丸で出發
△井上重則氏（日曹人絹パルプ技師）は原料パルプ購入のためカナダに出張中のところ歸朝
△小野澁平氏（第一工業製藥社長）
△芝　時孝氏（同社技師長）の兩氏は歐米視察のため龍田丸に乘船出發
12日　木村康一氏（上海自然科學研究所製藥學科勤務）は東大に提出中の學位論文通過し藥學博士の學位を獲得
16日　鎗市太郎氏（阪大工學部長）は任期滿了に付き後任選擧の結果再選重任と決定
△八田四郎次氏（東北大教授）は旅順大學に講義のため渡滿
18日　溜淵忠利氏（大阪府工務課長）は商工省工政課長に榮轉
△本田武顯氏（肥後製鑛會社長）は病氣加療中のところ午前6時逝去
24日　志方勢七氏（播津製油社長）
△山田不二氏（協和鑛業取締役）
△內藤二男氏（大日本セル技師）の3氏は横濱入港の淺間丸で米國より歸朝
△櫻井莊三氏（東大助教授、農博）は文部省より歐米各國の視察を命ぜらる
△黒田　勳氏（東大助手）
△井上盛義氏（陸軍科學研究所勤務）
△植田高三氏（長崎醫大附屬藥專教授）の3氏は正式に藥學博士の學位を授與さる
25日　堀江不器雄氏（日本揮發油技師長）は製油事情調査のため渡滿
26日　歸山　亮氏（九州曹達技師）はメタノール製造用機購入のため渡歐中のところ神戸入港の香取丸で歸朝
△絹川武良司氏（住友金屬鋼管製造所研究課長）は文部省より工學博士の學位を授與さる

△大野正已氏（金澤高工應化助教授）は教授に昇進、無機化學講座を擔當

7　月

3日　黒澤武雄氏（日本石油技師）は歐米の石油界並に石炭液化工業界視察のため横濱解纜のエンプレス、ブリテン、エシア丸で米國に向け出發
4日　白川一雄氏（白川製陶社長）
△矢澤浩氏（商工省工務局技師）の兩氏は横濱出帆の榛名丸でスエズ經由ロンドに出發
△竹井　花氏（ライオン石鹼專務）

井俊郎氏令閨）は病氣療養中のところ午前零時15分永眠
5日　入江辰雄氏（大阪工試技師）は工學博士の學位を授與さる
△新谷壽三氏（北樺太石油技師）は北樺太オハ油田試掘監督のため赴任
△清谷　保氏（東部硫酸販賣會社員）は支配人に昇進
10日　三好　孝氏（朝鮮協同油脂常務）は同社工場建設地買收のため渡鮮
△宮野春之進氏（昭和肥料鹿瀨工場長）は罹病のため新潟醫大病院に入院、經過良好
11日　山田清一氏（日本樟腦技師）
△池田鐵作氏（臺灣總督府專賣局技師）の兩氏は神戸入港の鹿島丸にて歸朝
△中澤亮治氏（臺灣總督府中研技師）は中研工業部長に就任
12日　上野誠一氏（阪大工學部教授）は滿洲及び北支に出張を命ぜられ渡滿
18日　友成九十九氏（倉敷絹織技師）は工學博士の學位を授與さる
19日　保田宗次郎氏（日本化學工業專務）は九州方面の同社工場視察のため西下
19日　神尾友修氏（日本曹達取締役）は加奈陀B、C地方のパルプ材購入に成功後歐洲方面を視察中のところ無事歸朝
△伊藤一郎氏（三菱鑛業重役、貴族議員男爵）は堺化學工業の專務に就任
△篠部富藏氏（堺化學專務）は同社取締役に就任
△吉川義雄氏（日本鑛業販賣部長）
△木俣泰清氏（同社々員）の兩氏は横濱出帆の淺間丸にて桑港に向け出發
△德永善四郎氏（德永硝子常務）は歐米の硝子工業界視察の旅より無事歸朝
21日　矢吹修二氏（大阪アルカリ肥料支配人）は病氣療養中のところ長逝
23日　木島鰀三郎氏（旭ベンベルグ監査役）は自宅に於て腦溢血のため長逝、享年68
△金井滋直氏（前日本曹達常務）は日曹人絹の常務に就任
△清水要藏氏（阪大工學科冶金學科講師）はブラジルに於ける鐵物資源の實地調査を終へ歸朝
△大谷米太郎氏（東京ロール製作所代表取締役）は昭和電極株式會社々長に正式就任
△吉川　滋氏（堺化學大阪營業所長）は一身上の都合により同社を退社の上堺商事株式會社に入社
△廣瀨亞夫氏（造幣局作業部長）は造幣局在職30年の永い技術生活から勇退
△伊藤祐莊氏（昭和肥料本社庶務課長）は川崎工場事務課長に就任
30日　山口珪次氏（阪大工學部教授）は海外留學から無事歸朝
31日　中村一雄氏（共進舍石鹼社員）は日本石鹼輸出組合よりアフリカ市場開拓のため渡阿中のところ無事歸朝

△鎗市太郎氏（阪大工學部長）は滿州、北支の工業事情調査のため渡滿

8　月

1日　堰田琴次氏（東大醫學部助教授）
△內藤正一氏（森永煉乳社員）の兩氏は横濱出帆の鹿島丸にて渡米
5日　高橋文太郎氏（昭和製鋼社員）
△戸田如水氏（東京磨鋼帶製造所技

師）の兩氏は神戸入港の箱根丸にて歐洲より歸朝

10日　**貴志二一郎氏**（滿鐵撫順炭鑛所技師）は藥學博士の學位を授與さる

△**萩原鐵藏氏**（臺灣興業會社二結工場長）は同社を退社

12日　**三品邊造氏**（三菱製紙社員）は橫濱出帆、ホノルル經由桑港に向ふ

13日　**秋葉武定氏**（日本化學工業技師）

△**和田伯士氏**（同上）の兩氏は所要機械視察のため橫濱出帆の秩父丸で米國經由渡獨

△**竹下　元氏**（三菱商事大阪支店機械部長）は名古屋支店長病氣療養中のため後任と決定

△**松本伊織氏**（前全南知事）は日本油脂朝鮮支店長に就任

△**高原知義氏**（日本板硝子四日市工場技師）は支那事變に應召し野澤部隊輿瀾隊に入隊

△**莊司信守氏**（東料工試第五部技師）は應召、北支に出動

17日　**永井彰一郎氏**（東大教授、工博）は滿洲各地視察に上る

19日　**木村康一氏**（上海自然科學研究所生藥科）は藥學博士の學位を授與さる

19日　**藤澤　信氏**（富士寫眞フイルム會社乾板部主任）は去る2月以後渡歐、寫眞工業界視察中のところ無事歸朝

21日　**和三長三氏**（並木製作所專務）

△**渡部　旭氏**（同上常務）の兩氏は神戸入港の諏訪丸で歐洲より歸朝

26日　**春日　弘氏**（住友金屬工業常務）は橫濱入港の氷川丸にて米國より歸朝

27日　**丸澤常哉氏**（滿鐵中試所長、工博）は阪大名譽教授の稱號を授與さる

△**林　茂助氏**（東工大助教授）は同校教授に陞進

△**安藤　進氏**（東工大染料化學講師）は助教授に陞進

28日　**平友　恒氏**（武田製藥所研究部技師）は農學博士の學位を授與さる

△**平田文夫氏**（桐生高工教授）

△**横山　稔氏**（塩義商店生藥課長）

△**丹野恒治氏**（東北大理工學部出身）

△**北川徹三氏**（京大理學部出身）

の以上4氏は理學博士の學位を授與さる

農學士　川端滿三著

接　合　劑

葯判布製　定價 2.50　〒 21

接合劑、糊料及其他植物性接合劑、油接合劑、樹脂接合劑、護謨及ガツタパーチア接合劑、膠及び膠接合劑、カゼイン劑合劑、グリセリン接合劑、石膏接合劑

內田俊一著
化學工業と其裝置
價 .70　〒 .10

小栗捨藏著
製造化學總論
價 .70　〒 .10

——御用命は弊社代理部へ振替東京七九〇八六番——

化學工業關係試驗所學會協會組合團體

(1) 試驗研究機關

——A——

青森縣工業試驗場　弘前市大字袋町74
秋田縣工業試驗場　秋田市土手長町
秋田縣釀造試驗場　秋田市上中城町2
秋田縣川連漆器試驗場　秋田縣雄勝郡川連町
愛知縣製糸試驗場　豐橋市花田町妙立寺
愛知縣三河染織試驗場　愛知縣寶飯郡三谷町
愛知縣工業試驗場　名古屋市東區花田町3丁目
愛知縣尾張染色試驗場　愛知縣中島郡大和村
靑鄕研究所　京都市左京區田中大堰町9

——C——

朝鮮總督府殖產局燃料選鑛研究所　京畿道始興郡永登浦邑堂山里 222
朝鮮總督府中央試驗所　京城府東崇洞199
朝鮮總督府地質調查所　京畿道始興郡本洞里

——D——

電氣試驗所福島出張所　福島市大字森合
電氣試驗所平磯出張所　茨城縣那珂郡平磯町
電氣試驗所　東京市品川區五反田5の57
愛知上繪付改善會研究所　岐阜縣土岐郡駄知町1875
電氣協會電氣計器大阪試驗所　大阪市西淀川區大仁本町3の46
電氣試驗所大阪出張所　大阪市北區中野町2丁目

——E——

愛媛縣工業試驗場　松山市宮西町5

——F——

福島縣會津工業試驗場　若松市榮町864
福島縣川俣工業試驗場　福島縣伊達郡川俣町寺久保77
福井縣工業試驗場　福井縣吉田郡圓山西村
福岡縣久留米工業試驗場　久留米市津福本町
福岡縣福岡工業試驗場　福岡市西堅粕松原添644
福岡縣福島工業試驗場　福岡縣八女郡福島町稻富
福岡縣立金屬工業研究所　福岡縣八幡市

——G——

群馬縣工業試驗場　前橋市岩神町
岐阜縣陶磁器試驗場　岐阜縣土岐郡多治見町
岐阜縣製紙工業試驗場　岐阜縣武儀郡美濃町
岐阜縣工業試驗場　岐阜縣羽島郡笠松町

——H——

北海道工業試驗場　北海道札幌郡琴似村
兵庫縣神戸工業試驗場　神戸市神戸區下山手通4丁目
兵庫縣西脇染色試驗場　兵庫縣多可郡西脇町
兵庫縣三木金物試驗場　兵庫縣美囊郡三木町
廣島縣福山工業試驗場　福山市西町甲

729
廣島縣廣島工業試驗場　廣島市東白島町199
廣島縣釀造試驗場　廣島市東白島町196

—I—

岩手縣工業試驗場　盛岡市內丸69
茨城縣工業試驗場　茨城縣結城郡結城町
石川縣工業試驗所　金澤市長土塀五番丁4

—J—

釀造試驗所　東京市瀧野川區瀧之川97

—K—

工藝指導所　仙臺市二十人町通10
航空研究所　東京市目黑區駒場町
神奈川縣工業試驗場　橫濱市神奈川區龜住町1
絹業試驗所　橫濱市神奈川區澤渡4
化學研究所　大阪府三島郡高槻町
京都市工業研究所　京都市下京區東九條山王町11
京都市染織試驗場　京都市上京區烏丸通今出川上ル
京都府織物試驗場　京都府中郡吉原村
京都陶磁器試驗所瀨戶試驗場　愛知縣瀨戶市大字瀨戶
香川縣醬油試驗場　香川縣小豆郡苗羽村
香川縣工業試驗場　高松市花宮町
高知縣商工奬勵館　高知市旭町
海軍燃料廠研究部　山口縣德山市
熊本市商工研究所　熊本市新町1の1
鹿兒島縣大島郡染織指導所　鹿兒島縣大島郡名瀨町
鹿兒島縣工業試驗場　鹿兒島市原良町1315
關東鹽業試驗場旅順分場　旅順市明治町
關東鹽業試驗場　大連市管內大連灣會大房身屯

—M—

宮城縣工業試驗場　仙臺市勾當臺通
宮城縣齋藤報恩農業館　宮城縣遠田郡小牛田町
三重縣工業試驗場　津市下部田町
三重縣窯業試驗場　四日市市阿倉川
三重縣釀造研究所　津市公園前

—N—

新潟縣染織試驗場　新潟縣南蒲原郡[illegible]附町
新潟縣染織講習所　新潟縣中魚沼郡[illegible]日町
新潟縣金工試驗所　三條市大字四日[illegible]
燃料研究所　川口市壽町188
內務省土木試驗所　東京市本鄉區駒[illegible]上富士前町
內閣印刷局研究所　東京市瀧野川區[illegible]ケ原町
內務省土木試驗所赤羽分所　東京市[illegible]子區志茂町3丁目
長野縣工業試驗所　松本市蟈町
奈良縣賣藥試驗場　奈良縣北葛城郡[illegible]田町
奈良縣工業試驗場　奈良縣北葛城郡[illegible]田町
內務省大阪衞生試驗所　大阪市東區[illegible]橋3の15
日本化學纖維研究所　京都市左京區[illegible]田京大工學部內

—O—

大阪工業試驗所　大阪市西淀川區[illegible]西町2丁目
大阪府金屬材料研究所　大阪市西區[illegible]ノ子島上之町
大阪市立工業研究所　大阪市北區[illegible]町38
大阪府工業奬勵館　大阪市西區江之島
大阪市立衞生試驗所　大阪市北區[illegible]町

大阪府工藝指導所　大阪市西區江之子島
大阪府立產業能率研究所　大阪市東區豐後町
岡山縣工業試驗場　岡山市南方
大分縣工業試驗場　大分市舞鶴町
沖繩縣工業指導所　沖繩縣島尻郡眞和志村

—R—

理化學研究所　東京市本鄉區駒込上富士前町31
陸軍科學研究所　東京市淀橋區百人町4丁目
陸軍糧秣本廠　東京市深川區越中島町
陸軍自動車學校研究部　東京市世田ヶ谷　世田ヶ谷4丁目
陸軍衞生材料廠　東京市世田ヶ谷區玉川用賀町

—S—

埼玉縣熊谷釀造試驗場　熊谷市
埼玉縣浦和染織試驗場　浦和市
埼玉縣川口鑄物工業試驗場　川口市本町1の217
埼玉縣川越工業試驗場　川越市大字小仙波72
埼玉縣秩父工業試驗場　埼玉縣秩父郡秩父町大字大宮
專賣局中央研究所　東京市荏原區戶越町1390
商工省中央度量衡檢定所　東京市京橋區木挽町
水產試驗場　東京市京橋區月島12
水產講習所　東京市深川區越中島町8
靜岡縣釀造研究所　靜岡市追手町
滋賀縣窯業試驗場　滋賀縣甲賀郡信樂町大字長野
滋賀縣能登川工業試驗場　滋賀縣神崎郡五峯村
滋賀縣長濱工業試驗場　滋賀縣坂田郡長濱町南呉服

纖維化學研究所　大阪市北區常安町大阪帝大理學部
堺市立金屬工業研究所　堺市九間町西1町
島根縣工業試驗場　松江市殿町1
專賣局三田尻試驗場　山口縣佐波郡中關町
佐賀縣窯業試驗場　佐賀縣西松浦郡有田町

—T—

栃木縣工業試驗場　足利市西宮町
鐵道大臣官房研究所　東京市芝區濱松町
東京市電氣研究所　東京市麹町區有樂町2の5
東京市土木局土木試驗所　東京市芝區新芝町12
東京衞生試驗所　東京市神田區和泉町2
東京府立染織試驗場　八王子市明神町
東京電氣會社研究所　川崎市堀川町72
富山縣賣藥試驗場　富山市千石町
富山縣染色試驗場　富山縣東礪波郡福野町
富山縣工業試驗場　高岡市中川
陶磁器試驗所　京都市伏見區深草正覺町
龍野醬油同業組合試驗場　兵庫縣揖保郡龍野町
德島縣工業試驗場　德島市前川町
鳥取縣商工奬勵館　鳥取市西町373

—U—

宇品陸軍糧秣支廠　廣島市宇品町

—W—

和歌山縣工業試驗場　和歌山市一番丁1

—Y—

山形縣鶴岡工業試驗場　鶴岡市家中新町4
山形縣山形工業試驗場　山形市六日町
山形縣米澤工業試驗場　米澤市花岡町
山梨縣工業試驗場　山梨縣南都留郡谷

村町
山口縣染色試驗場　山口縣玖珂郡柳井町
山口縣工業試驗場　山口市下竪小路

（2）學會協會

——D——

電氣化學協會　東京市麹町區有樂町1—3
大日本水產會　東京市赤坂區溜池町
大日本織物協會　東京市京橋區京橋1の2千代田證券ビル內
大日本窯業協會　東京市京橋區銀座西4の5
大連油坊聯合會　大連市山縣通（大連重要物產取引所內）

——F——

福岡縣鑛工聯合會　福岡市天神町福岡縣廳工場課內

——G——

顏料塗料印刷インキ協會　東京市京橋區京橋3の4

——H——

北海道石炭鑛業會　札幌市北三條西2の7

——K——

工業化學會　東京市麹町區丸ノ內3の4
機械前工業會東　京市芝區新橋驛前
金屬學會　仙臺市東北帝國大學內
機械學會　東京市麹町區丸ノ內丸ビル
科學知識普及會　東京市神田區錦町
化學工業協會　東京市麹町區丸ノ內東通5號
火兵學會　東京市本鄉區本富士町東大工學部造兵學教室
化學機械協會　東京市京橋區京橋1の2
近畿化學工業會　大阪市西淀川區大仁西2丁目大阪工試內

——H——

阪神塗料技術員懇談會　大阪市西淀川區大仁町大阪工試內
兵庫縣工業會　兵庫縣廳工業課內

——M——

滿洲技術協會　大連市山形町18

——N——

日本化學研究會　仙臺市米ヶ袋中ノ坂通3の6
日本技術協會　東京市神田區錦町1—6
日本衞生化學會　東京市本鄉區東大醫學部藥學科衞生化學教室內
日本化學會　東京市本鄉區本富士町東大理學部內
日本農藝化學會　東京市本鄉區本富士町東大農學部內
日本醸造協會　東京市瀧野川區瀧野川町97醸造試驗所內
日本鑄物協會　東京市麹町區丸ノ內3の8
日本寫眞學會　東京市芝區新芝町東京高藝內
日本ポルトランドセメント同業會東京事務所　東京市麹町區丸ノ內淺上ビル
日本工業倶樂部　東京市麹町區丸ノ內2の1
日本工人倶樂部　東京市丸ノ內2の1
日本護謨協會　東京市麹町區丸ノ內倶2號館
日本動力協會　東京市麹町區丸ノ內南樂館內
日本印刷學會　東京市芝區新芝町東京高藝內
日本製紙聯合會　東京市麹町區丸ノ內2の10
日本板紙同業會　東京市京橋區銀座4の3
日本全國製油業聯合會　東京市麹町區丸ノ內2の6
日本硬化油同業會　東京市麹町區丸ノ內丸ビル內

日本レーヨン協會　京都市上京區智惠光限通一條上ル
日本人絹聯合會　大阪市東區備後町2第二野村ビル
名古屋工業會　名古屋市中區器新町名古屋高工內
名古屋工師會　名古屋市西區島田町名古屋實ビル
燃料協會　東京市麹町區丸ノ內3の4
南洋栽培協會　東京市日本橋區通町1の7

——O——

大阪印刷インキ材料同業會　大阪市東區瓦町1の11
大阪醸造學會　大阪市北區東野田町9丁目阪大工學部內
大阪工研協會　大阪市北區北扇町大阪市立工業研究所內
大阪工業會　大阪市西區土佐堀通大同ビル
大阪肥料協會　大阪市西區江之子島舊府廳內
大阪化學會　大阪市北區東野田町阪大應化內
大阪石炭協會　大阪市港區南安治川通2の2
大阪染料協會　大阪市東區唐物町1
大阪工業懇話會　大阪市東區大手前大阪府廳別館
大阪燃燒懇談會　大阪市東區豐後町大阪府立產業能率研究所內
大阪挾箱協會　大阪市西區江之子島工業奬勵館

——R——

理化學研究所　東京市本鄉區駒込富士前町

——S——

纖維素協會　東京市本鄉區本富士前東京帝大工學部應用化學科內
榮光會　東京市澁谷區幡ヶ谷本町東京工試內
石炭鑛業聯合會　東京市麹町區丸ノ內1の2日本工業倶樂部內
石油技術協會　東京市麹町區下二番町48地學協會內
纖維工業學會　東京市目黒區大岡山東工大紡織學科內
曹達晒粉同業會　東京市麹町區丸ノ內1の6
セメント販賣協會統制會　大阪市西區土佐堀通1の1

——T——

東北帝國大學金屬材料研究所　仙臺市片平町
糖業聯合會　東京市丸ノ內工業倶樂部內
帝國瓦斯協會　東京市麹町區丸ノ內2の2丸ビル內
帝國水產會　東京市赤坂區溜池1丁目
帝國發明協會　東京市麹町區丸ノ內3の2
地學協會　東京市麹町區下二番町48
帝國發明協會　東京市麹町區丸ノ內3—2
塗料聯合會　大阪市港區八幡屋松之町1の284

——W——

早稻田應用化學會　東京市淀橋區早大理工學部應用化學教室內

——Y——

橫濱工業會　橫濱市橫濱高工內

（3）組合團體

——A——

旭川製麵工業組合　旭川市三條通の右1號株式會社三箇商店內
秋田醬油味噌醸造工業組合　秋田市大町3の25秋田商工會議所
會津碍子工業組合　福島縣北會津郡南村上米塚新田西2110
足利機械捺染工業組合　栃木縣足利市通3の2589

足利絲布染色工業組合　足利市通3の2589
愛知陶管工業組合　名古屋市中區老松町3の23
愛知製飴工業組合　名古屋市南區熱田東町丸山2
愛知縣アルミニウム工業組合　名古屋市東區伊勢町1の5
愛知縣煉瓦工業組合　愛知縣幡多郡宇坂町大字楠村
愛知縣赤瓦工業組合　愛知縣碧海郡高濱町高濱一色6
愛知縣製氷工業組合　名古屋市西區堀內町4の1日本食料工業株式會社堀內工場內
淡路瓦工業組合　兵庫縣三原郡湊組279
阿波石灰工業組合　德島縣那賀郡富岡町黑津地の下10
阿波煉瓦工業組合　德島縣板野郡瀨戶町堂浦本浦中65
阿波ひゝほ味噌工業組合　德島市大工町27
阿波醋酸石灰工業組合　德島縣那賀郡新野町大字豐田
青谷因幡紙工業組合　鳥取縣氣高郡青谷町39の2

——B——

萬古陶磁器工業組合　四日市市東阿倉川1486
播州凍豆腐工業組合　兵庫縣多可郡野間谷村中野間309
播州瓦工業組合　明石市鍛冶屋町18
防長味噌工業組合　山口市下立小路山口縣工業試驗所內

——C——

筑後陶器工業組合　茨城縣眞壁郡紫尾村大字東水田
千葉縣製氷工業組合　千葉廳公園水產會內
筑後瓦工業組合　福岡縣三潴郡城島町242

——D——

澱粉飴工業組合　東京市京橋區寶町1の7味の素ビル內
大日本バター工業組合　芝區琴平町33
駄知陶磁工業組合　岐阜縣土岐郡駄知町1196

——E——

遠州製氷工業組合　濱松市海老塚町328の1、遠州製氷冷蔵株式會社內
惠那陶磁器工業組合　岐阜縣惠那郡陶町猿爪405の1
愛媛縣製氷工業組合　松山市久保町26大日本製氷松山出張所內

——F——

福島縣製氷工業組合　福島市大町10
深谷瓦工業組合　埼玉縣大里郡深谷町大字田谷14
富士郡製紙工業組合　靜岡縣富士郡今泉村今泉214の1
福岡縣炭酸飲料水工業組合　福岡市蓮池町8の4
藤津陶磁器工業組合　佐賀縣藤津郡鹽田町馬場下甲492

——G——

群馬縣製氷工業組合　前橋市岩神町345
岐阜瓦工業組合　岐阜縣本巢郡鷲巢町58の1
岐阜縣製氷工業組合　岐阜市吉津町2の14
岐阜縣加工陶磁器工業組合　岐阜縣土岐郡多治見町1065の27
岐阜縣石灰工業組合　岐阜縣不破郡赤坂町4053
岐阜縣陶磁器工業組合聯合會　岐阜市神明町2の17

——H——

北海道除蟲菊製品工業組合加工工場　北海道札幌郡琴似村琴似
北海道除蟲菊製品工業組合　札幌市外琴似驛前
北海道鑛業諮工業組合　函館市海岸町135
北海道澱粉工業組合　北海道上川郡士別町南大通2931の1
北海道鉛筆材工業組合　北海道斜里郡斜里村159
函館鐵工機械工業組合　函館市鶴岡町41
函館護謨工業組合　函館市鶴岡町50
保證責任釜石鐵工品工業組合　北海道上閉伊郡釜石町釜石第7地
乾麵麭工業組合　東京市京橋區寶町1の7、味の素ビル內
兵庫縣護謨工業組合　神戶市林田區神樂町1丁目
兵庫縣製氷工業組合　神戶市神戶區下山手通5の23番屋敷山手ビル內
兵庫縣西皮革工業組合　兵庫縣川邊郡川西町火打字東1の2
廣島鐵工機械工業組合　廣島市銀嶺町37
廣島縣染色晒工業組合　廣島市塚本町11
廣島縣製氷工業組合　廣島市千田町850の1
廣島縣瓦工業組合　廣島縣深安郡神邊町3181
廣島縣護謨工業組合　廣島市楠本町3の397
濱田醬油工業組合　島根縣那賀郡濱田町大字黑川
保證責任兩筑染種油工業組合　福岡縣朝倉郡甘木町2343の1
肥前瓦工業組合　佐賀縣三養基郡三川村

——I——

石卷鐵鑄工業組合　石卷市大町1丁目
茨城縣製氷工業組合　茨城縣廳商工水產課內
石川縣瓦工業組合　金澤市長土塀5番丁の4石川縣工業試驗場內
石川縣硬質陶器工業組合　金澤市南町大同ビル二階
石川縣輸出織物染色工業組合　金澤市高岡町
伊賀燒陶磁器工業組合　三重縣阿山郡丸柱474
伊勢醬油工業組合　津市佐伯町岩田626の4
伊豫奉書紙工業組合　愛媛縣周桑郡國安村大字國安
伊豫陶磁器工業組合　愛媛縣伊豫郡砥部町
石見陶器工業組合　島根縣那賀郡石見村淺井64の4

——K——

氣仙沼鐵工業組合　宮城縣本吉郡氣仙沼釜の前190の1
桐生絲染工業組合　桐生市安樂土町2の1184
川口鑄鐵鑵工業組合　川口市川口町1030
川口機械工業組合　川口市本町2の74
兒玉瓦工業組合　埼玉縣兒玉郡兒玉村442
關東セルロイド玩具工業組合聯合會　東京市荒川區尾久町2の528
關東捺染工業組合　東京市日本橋區大傳馬町2の1、傳馬ビル
關東アルミニウム工業組合　東京市神田區東紺屋町49
江東皮革工業組合　東京市向島區吾嬬町西8の26
關東電球製造工業組合　東京市品川區五反田3の1120
關東製氷工業組合聯合會　東京市京橋區寶町3の7、齋藤ビル內
神奈川縣製氷工業組合　橫濱市中區本町5の49、本町ビル內

木曾製藥工業組合　長野縣西筑摩郡福島町
木曾平澤漆器工業組合　長野縣西筑摩郡楢川村大字奈良井1566
金澤鐵工機械工業組合　金澤市英町15の6
湖北醬油工業組合　滋賀縣阪田郡長濱町大字南呉服367
京都晒染工業組合　京都市下京區西洞院通七條上ル福本町405
京都綿織物染色工業組合　京都市右京區西大路高辻角
關西濃機械捺染工業組合　京都市中京區壬生坊城町10
京都モスリン機械捺染工業組合　京都市下京區烏丸通五條下ル大阪町 374
京都陶磁器工業組合　京都市東區五條通東大路東入ル
京都絹人絹染色工業組合　京都市中京區西京下合町15
京都內地向絹人絹麻機械捺染工業組合　京都市中京區壬生馬場町28
京都清涼飲料水工業組合　京都市下京區佛光寺通り大宮東入西田町596
關西アルミニウム湯沸工業組合　大阪市天王寺區石ケ辻町4
關西タイル工業組合　大阪市西區阿波座中通1の45の1、大阪陶磁器會館
關西晒綿布工業組合　大阪市東區博勞町2の25、第一徵兵館內
神戸人造眞珠硝子珠工業組合　神戸市葺合町磯部通2の10番屋敷
神戸輸出織物染色工業組合　神戸市神戸區京町76、日本染工株式會社內
神戸輸出織物手捺染工業組合　神戸市神戸區海岸通1の16
神戸加工陶磁器工業組合　神戸市神戸區海岸通1の16、神戸商工會議所內
香川縣瓦工業組合　高松市鹽上町991
香川縣清涼飲料水工業組合　高松市西ノ丸町2
香川縣製氷工業組合　高松市北濱町
高知縣瓦工業組合　高知市江ノ口125
高知清涼飲料水工業組合　高知市農人町城見通150の1
吳鐵工機械工業組合　吳市々役所內
九州洗濯石鹼工業組合　福岡市行ノ町53
唐津瓦工業組合　唐津市東2の7
熊本縣製氷工業組合　熊本市大江町九品寺387 熊本製氷會社內
熊本味噌工業組合　熊本市大江町九品寺205
熊本縣清料飲涼水工業組合　熊本市竹幸町熊本市商工會議所內
鹿兒島縣大隅澱粉工業組合　鹿兒島市武町570

——M——

宮城縣製氷工業組合　宮城縣廳商工課內
宮城縣輸出石盤工業組合　宮城縣桃生郡十五濱村
三河陶管工業組合　愛知縣碧海郡高濱町字高濱一色13
美濃瓦工業組合　岐阜市港町422の5
瑞浪陶磁器工業組合　岐阜縣土岐郡瑞浪町寺河戶907
三重縣製氷工業組合　津市正部町俵田の671の3
三重縣瓦工業組合　津市山下下部田1051
南日本製腦工業組合　鹿兒島市鳥居町25

——N——

鳴子木地漆器工業組合　宮城縣玉造郡鳴子町新屋敷58の1
新潟縣製氷工業組合　新潟縣廳商工水產課內
新潟市鐵工業組合　新潟市新島通3の1
野州石灰工業組合　栃木縣安蘇郡葛生町葛生2660

日本輸出羽二重工業組合聯合會　東京市京橋區京橋1の2　千代田證券ビル內
日本輸出織物染色工業組合聯合會　東京市京橋區寶町1の7、味の素ビル五階
日本放射熱工業組合，東京市麹町區丸の內丸ビル五階國產放熱器株式會社內
日本東部ゴム工業組合　東京市向島區寺島町5の146の8
日本內地向機械捺染工業組合聯合會　東京市日本橋區室町4の5の1、近三ビル
日本量器工業組合　東京市芝區西久保明舟町17、日本度量衡協會內
日本度器工業組合　東京市芝區西久保明舟町17、日本度量衡協會內
日本衡器工業組合　東京市芝區西久保明舟町17、日本度量衡協會內
日本溫度計工業組合　東京市芝區西久保明舟町17、日本度量衡協會內
日本電球工業組合聯合會　東京市麹町區有樂町1の3、電氣クラブ內
日本度量衡器計量器工業組合聯合會　東京市芝區西久保明舟町17、日本度量衡協會內
○名古屋陶磁器工業組合　名古屋市東區白壁町21
名古屋陶磁器上繪燒付工業組合　名古屋市東區東白壁町21
名古屋硝子工業組合　名古屋市東區松山町21
名古屋綿織物染色工業組合　名古屋市西區西志賀町字石田213
日本陶磁器工業組合聯合會　名古屋市東區布池町32の156
名古屋輸出樂器玩具工業組合　名古屋市中區白金町5の19
奈良縣小倉山凍豆腐工業組合　奈良縣山邊郡針ケ別所村大字小倉941
奈良縣護謨工業組合　奈良縣北葛城郡高田町三倉堂12
奈良縣野邊川凍豆腐工業組合　奈良縣吉野郡野邊川村大字柞原80
日本硝子腕環工業組合　大阪市西區西長堀北通1の15、大阪實業協會內
日本セルロイド腕環工業組合　大阪市東成區大今里町665
日本輸出人造眞珠硝子珠工業組合　大阪市南區高津町1番丁24
日本硝子光珠工業組合　大阪市浪速區稻荷町2の949
日本琺瑯鐵器工業組合聯合會　大阪市南區上本町3の12
日本魔法瓶鐵器工業組合　大阪市浪速區稻荷町2の935
日本伸鐵工業組合聯合會　大阪市西區新町南通4川崎ビル
日本二硫化炭素工業組合　大阪市北區堂島濱通3の3
日本ランプ工業組合　大阪市北區菅原町114
日本輸出鏡工業組合　大阪市東區博勞町5の25
日本輸出セルロイド櫛工業組合　大阪市東成區大今里町655
日本亞鉛鍍板工業組合　大阪市西區江ノ子島西ノ町34
日本セルロイド刷子工業組合　大阪市天王寺區寺田町5
日本硝子同業組合聯合會　大阪市西區本田町3番町16の1
日本護謨工業組合聯合會　神戸市林田區神樂町1丁目
日本フキラメント工業組合　大阪市西區土佐堀通1の1、大同生命ビル四階
日本硝子マーブル玉工業組合　大阪市南區難波新地6番町、三和ビル內
日本撚寸工業組合　神戸市神戸區海岸

通5、商船ビル
日本護謨工業組合聯合會　神戸市神戸區北長狹通4の23
日本炭酸カルシウム搗粉工業組合　廣島市中島新町57の1、廣島縣農會
能義郡醬油工業組合　島根縣廣瀨町役場内
長崎縣鐵工品工業組合　長崎市小曾根町22
長崎醬油味噌釀造工業組合　長崎市紺屋町20

——O——

小樽石鹼工業組合　小樽市港町22
小樽製麵工業組合　小樽市長橋町63眞島方
小樽護謨工業組合　小樽市入船町8の22
大野醬油工業組合　金澤市大野町2の35の2
尾西染色工業組合　一宮市明治通2の22
大阪化粧刷子工業組合　大阪市此花區吉野町1の122
大阪莫大小晒染工業組合　大阪市東淀川區下新庄町591の1
大阪セルロイド生地工業組合　大阪市天王寺區筆ヶ崎町31
大阪鉛筆工業組合　大阪市東區南久太郎町1の17
大阪セルロイド玩具容器工業組合　大阪市東成區猪飼野大通3の9
大阪染色工業組合　大阪市東淀川區本庄中通1の15
大阪ゴム工業組合　大阪市東區小橋東之町53の2
大阪印刷インキ工業組合　大阪市東區瓦町1の11
大阪陶管工業組合　大阪市住吉區住吉町1815
大阪府硝子工業組合　大阪市北區梅ヶ枝町88
大阪セルロイド同業組合　大阪市東成區猪飼野町1141
大阪ゴム工業組合　大阪市北花區上福島北3丁目
大阪電解錫工業組合　大阪市西區西道頓堀通2丁目住友ビル
大阪セルロイド再製生地工業組合　大阪市東成區大今里765
大阪安貨母尼工業組合　大阪市南區上本町筋3の12
大阪輸出電球工業組合　大阪市堂島仲通2丁目中央電氣倶樂部別館
大阪洗濯石鹼工業組合　大阪市北區絹笠町9大江ビル内
大阪毛絲染色工業組合　大阪市東淀川區本庄中通1の15
大阪友禪工業組合　大阪市東區唐物町3の22
岡山縣製氷工業組合　岡山市下石井116
岡山縣清涼飲料水工業組合　岡山市天瀨68
岡山縣護謨工業組合　岡山市下石井334
大分縣北海部郡製瓦工業組合　大分縣北海部郡坂ノ市町
大分縣日田郡瓦工業組合　大分縣日田郡日田町元町
沖繩縣陶器工業組合　那覇市壺屋町80

——R——

燐酸肥料工業組合　東京市麹町區丸の内1の6の1、海上ビル新館3階
琉球漆器工業組合　那覇市若狹町1の4119

——S——

札幌護謨工業組合　札幌市北一條東2の6
庄内燒瓦工業組合　酒田市大堰北18
仙臺木綿染物工業組合　仙臺市南染師町63
仙臺鐵工業組合　仙臺市五番丁12

相馬陶器工業組合　福島縣双葉郡大堀村
佐渡味噌工業組合　新潟縣佐渡郡羽茂村大橋14の2
佐野綿布工業組合　栃木縣安蘇郡佐野848の1
埼玉陶器工業組合　埼玉縣大里郡深谷町西大沼270の3
酒造組合中央會　東京市麹町區丸ノ内丸ビル
信州諏訪味噌工業組合　長野縣諏訪郡上諏訪町商工會議所内
靜岡縣東部製氷工業組合　沼津市宮町428
駿河製紙工業組合　靜岡縣庵原郡松野村303の2
靜岡輸出漆器工業組合　靜岡市天王町2の33
瀨戸陶磁器工業組合　瀨戸市大字瀨戸3232の1
品野陶磁器工業組合　愛知縣東春日井郡品野町
三州瓦工業組合　愛知縣碧海郡高濱町
西南部陶磁器工業組合　岐阜縣土岐郡笠原町4983の6
滋賀縣石灰工業組合　滋賀縣坂田郡醒ヶ井村醒ヶ井600の2
信樂陶器工業組合　滋賀縣甲賀郡信樂町
滋賀縣天鷺絨工業組合　滋賀縣坂田郡長濱町大字米川6
西邦琺瑯鐵器工業組合　大阪市南區上本町筋3の12
ステープル、フアイバー同業會　大阪市東區備後町2第二野村ビル
泉州瓦工業組合　大阪府泉南郡深日村1311の2
泉南綿糸染晒工業組合　大阪府泉南郡佐野町1250
讃岐陶器西部工業組合　香川縣香西町519
讃岐陶器東部工業組合　香川縣木田郡牟禮村大町
山陰製氷工業組合　米子市灘町3の150
石州瓦工業組合　島根縣那賀郡石見村淺井64の1
下關内燃機關工業組合　下關市伊崎町大字伊崎51
佐賀機械工業組合　佐賀市經新勤業課内
佐賀縣製氷工業組合　佐賀市神野町838の10
佐賀縣清涼飲料水工業組合　佐賀市赤松町32

——T——

栃木縣味噌工業組合　宇都宮市茂登町1621、中村味噌店内
東京セルロイド玩具組合　東京市板橋區志村長後町2633、志村工場内
東京輸出電球工業組合　東京市品川區東品川5の116
東京電球工業組合　東京市麹町區有樂町1の3、電氣クラブ内
東京琺瑯鐵器工業組合　東京市神田區東紺屋町49
東京輸出セルロイド玩具工業組合　東京市淺草橋2の8
東京鉛筆工業組合　東京市日本橋區本町4の2の1、東京糸問屋組合事務所二階
東京輸出印刷インキ工業組合　東京市麹町區丸ノ内3の2、三菱21號館三階
東京味噌工業組合　東京市深川區福住町1の16
東京輸出セルロイド櫛工業組合　東京市淺草區淺草橋3の10
帝都製氷工業組合　東京市京橋區寶町3の7齋藤ビル四階
東京眼鏡工業組合　東京市下谷區東黒門町18、東和アパート20號室

東京染晒工業組合　東京市下谷區二長町210
東京輸出織物染色工業組合　東京市日本橋區大傳馬町2の1、傳馬ビル內
東京三河島製革工業組合　東京市荒川區三河島町8の2369
東京毛皮工業組合　東京市荒川區三河島町8の2372
東京醬油工業組合　東京市小石川區表町102、日本醸造工業株式會社內
東京塗料商工組合　東京市本所區東兩國1の3
東京電球硝子工業組合　東京市京橋區銀座西2の2、共同建物ビルデング4階
東京樂水紙工業組合　東京市豐島區西巢鴨町3045
東京硝千壜工業組合　東京市本所區東兩國4の7の7
東京電解錫工業組合　東京市麹町區丸ノ內3の6、中通4號館7號
東京獸油工業組合　東京市荒川區尾久町10の1566
東海密柑罐詰工業組合　清水市入船町3の25
立岩製紙工業組合　長野縣小縣郡長窪古町
天然陶藝工業組合　長野縣下伊那郡龍江村7122
土岐津陶陶磁器工業組合　岐阜縣土岐郡土岐津町土岐口2179の1
妻木陶磁器工業組合　岐阜縣土岐郡妻木町1123
富山縣瓦工業組合　高岡市中川967
富山縣輸出織物染色工業組合　高岡市下關391
常滑陶器工業組合　愛知縣知多郡常滑町市場220の2
東海四縣製氷工業組合聯合會　名古屋市西區堀內町4、日食堀內工場內
高島郡醬油工業組合　滋賀縣高島郡今津町大字今津172
高木皮革工業組合　兵庫縣飾磨郡花田村高木449
德島縣木管素地工業組合　德島市出來島町西土手外217の1、大正紡織木管會社內
德島製氷工業組合　德島市船場町船場60
德島縣清涼飲料水工業組合　德島市富田浦町堀南1621
高取燒磁器工業組合　福岡市西新町5丁目
對島繻詰工業組合　長崎縣下縣郡豐原町大字今屋敷

——U——

宇部鐵工業組合　宇部市大字中宇部字沖ノ山5の1、宇部商工會議所內

——W——

和歌山晒粉白工業組合　和歌山市本町6の11
和歌山絲染工業組合　和歌山市七番丁78
和歌山縣製氷工業組合　海南市內海町
和歌山製革工業組合　和歌山市岡町富地26の1
和歌山染色工業組合　和歌山市七番丁78

——Y——

山形縣南部醬油工業組合　米澤市元諏訪町1337岸孫藏方
安田瓦工業組合　新潟縣北蒲原郡安田村大字保田6055の1
横濱輸出織物染物工業組合　横濱市中區山下町205
山口縣瓦工業組合　山口縣都濃郡富田町4246
大和瓦工業組合　奈良市登大路町58
八幡機械工業組合　八幡市前田濱町3

——Z——

全國捺染協會　京都市東山八阪鳥居町下ル3丁

化學工業關係全國諸學校一覽

帝國大學及び官立大學（昭和12年11月現在）

名稱	學部	創立年月	總長又ハ學長	學部長	所在地
東京帝國大學	工學部	明19, 3	長與又郎	平賀讓	東京市本鄉區本富士町
	理學部	同		田丸卓郎	同
	醫學部	明23, 6		永井潛	同
	藥學科				同
	農學部			佐藤寬次	
京都帝國大學	工學部	明39, 9	濱田耕作	濱部源次郎	京都市左京區吉田町
	理學部	大3, 7		野上陸治	
	農學部	大12, 1		沼田大學	
東北帝國大學	理學部	明43, 12	本多光太郎	窪田忠彥	仙臺市片平町
	工學部	大8, 5		宮城音五郎	
九州帝國大學	工學部	明44, 9	荒川文六	寺野寬一	福岡縣箱崎町
	農學部	大9, 8		滿田隆二	
北海道帝國大學	農學部	明40, 6	高岡熊雄	星野勇三	札幌市北八條
	工學部	大13, 9		水義二郎	
	理學部	昭5, 4		所哲太郎	札幌市北十二條
大阪帝國大學	理學部	昭6, 5	楠本長三郎	島利行	大阪市北區常安町
	工學部	昭8, 4		眞鉛市太郎	
東京工業大學	工學部	昭4, 4	中村幸之助		東京市目黑區大岡山
東京文理科大學	文學部	昭4, 4	森岡常藏		東京市小石川町大塚窪町
廣島文理科大學	理學部	昭4, 4	塚原政次		廣島市千田町

私立大學

名稱	學部	創立年月	總長又ハ學長	所在地
早稻田大學	理工學部	大9, 2	田中穗積	東京市淀橋區戶塚町
日本大學	工學部	昭3, 4	山岡萬之助	東京市神田區駿河臺北甲賀町
東京農業大學	農學部	大14, 5	吉川祐輝	東京市澁谷區常磐松町

官立專門學校

名稱	生徒種別	修業年限	創立年月	學校長	所在地
富山藥學專門學校	本科	3	大9, 11	高橋隆造	富山市奧田町
	研究科	——			
熊本藥學專門學校	本科	3	大14, 2	村山義溫	熊本市大江町
	研究科	——			
千葉醫大附屬藥學專門部	本科	3	明34, 4	間庭秀夫	千葉市大學內
	研究科	——			

名稱		修業年限	創立年月	學校長	所在地
金澤醫大附屬藥專門部	本科	3	明34, 4	淺野三千三	金澤市大學內
	研究科	—			
長崎醫大附屬藥專門部	本科	3	明34, 4	大倉東一	長崎市大學內
	專攻科	—			

公立專門學校

名稱	修業年限	創立年月	學校長	所在地
岐阜藥學專門學校	3	昭6, 9	宮道悅男	岐阜市九重町三丁目

私立專門學校

名稱	生徒種別	修業年限	創立年月	學校長	所在地
東京藥學專門學校	—	3	大6, 3	鍋島豐太	東京市淀橋區柏木
大阪藥學專門學校	本科	3	大6, 3	吉木彌三	大阪府豐能郡櫻井谷
	研究科	—			
京都藥學專門學校	—	3	大8, 3	藤井勝也	京都市東山區山科御陵中內町
明治藥學專門學校	本科	3	大12, 3	高橋三郎	東京市世田ヶ谷區野澤
	研究科	—			
帝國女子藥學專門學校	本科	4	大14, 1	野崎仙太郎	大阪府南河內郡北八下村
	研究科	—			
帝國女子醫學藥學專門學校	本科	4	大14, 3	額田晉	東京市大森區大森
	研究科	—			
共立女子藥學專門學校	豫科	1	昭5, 11	長田捷二	東京市芝區芝公園第六號
	本科	3			
東京女子藥學專門學校	本科	4	昭5, 11	西崎弘太郎	東京市澁谷區幡ヶ谷諏訪
	研究科	1			
昭和女子藥學專門學校	本科	4	昭5, 11	山羽貞夫	東京市目黑區上目黑五丁目
	專修科	1			
	研究科	1			
東京藥學專門學校女子部	—	4	昭6, 2	秋谷七郎	東京市下谷區上野櫻木町
神戶女子藥學專門學校	本科	4	昭7, 4	大籔幸太郎	兵庫縣武庫郡御影町
	研究科	1			

官立實業專門學校

名稱	學科	修業年限	創立年月	學校長	所在地
京都高等工藝學校	色染機械, 圖案陶磁器	3	明35, 3	村上字一	京都市左京區松ヶ崎御所海道町
名古屋高等工業學校	機械, 土木, 色染紡織, 藥建電氣	3	明34, 2	土屋純一	名古屋市中區御器所町

名稱	學科	修業年限	創立年月	學校長	所在地
熊本高等工業學校	機械工學, 電氣工學, 土木工學, 採鑛冶金	3	明39, 3	遠藤金市	熊本市黑髮町
米澤高等工業學校	機械, 電氣, 應用化學色染化學, 紡織	3	明42, 3	大場成實	米澤市馬口勞町
桐生高等工業學校	機械, 應用化學, 電氣化學, 色染化學, 紡織科, 別科	3 1	大9, 12	西田博太郎	桐生市天神町
橫濱高等工業學校	機械工學, 應用化學, 電氣化學, 建築學, 造船工學	3	大9, 1	富山保	橫濱市大岡町
廣島高等工業學校	機械工學, 應用化學, 電氣工學, 釀造學	3	大9, 1	長俊一	廣島市千田町
金澤高等工業學校	機械工學, 應用化學, 土木工學	3	大3, 11	青戶信賢	石川縣石川郡崎浦村
仙臺高等工業學校	機械工學, 電氣工學, 土木工學, 建築學	3	明36, 3	鶴見一之	仙臺市南六軒町
明治專門學校	機械工學, 電氣工學, 應用化學, 鑛山工學, 冶金學工	4	明40, 7	中川維則	福岡縣戶畑市
東京高等工藝學校	工藝圖案, 金屬工藝, 木材工藝, 印刷工藝, 精密機械科別	3	大10, 12	安田祿造	東京市芝區新芝町
神戶高等工業學校	機械, 電氣, 建築, 土木	3	大10, 12	古宇田實	神戶市須磨區水笠通
濱松高等工業學校	機械學, 電氣學, 應用化學	3	大11, 10	安達禎	濱松市大字澤
德島高等工業學校	機械工學, 應用化學, 土木工學	3	大11, 10	松本岩太郎	德島市常三島町
長岡高等工業學校	機械工學, 電氣工學, 應用化學	3	大12, 12	福田爲造	長岡市學校町
福井高等工業學校	機械, 纖維工業, 建築	3	大12, 12	前田復三	福井縣吉田郡西藤島村
山梨高等工業學校	機械工學, 電氣工學, 土木工學	3	大13, 9	清水半吾	甲府府元柳町
秋田鑛山專門學校	採鑛冶金, 鑛山機械, 燃料	3	明42, 3	平岡通也	秋田市手形町

朝鮮總督府所管

京城帝國大學

名稱	學部	創立年月	總長	學部長	所在地
京城帝國大學	醫學部	大15, 5	上田常吉	高楠榮	京城府蓮建洞

官立專門學校

名稱	學科並分科	生徒種別	修業年限	創立年月	學校長	所在地
京城高等工業學校	紡織，應用化學 土木，建築，鑛山	本科 研究科	選科3 一	大11, 4	山村銳吉	京城府東崇洞
水原高等農林學校	農學科 林學科	本科 選科 研究科	3 一	大11, 4	湯川又夫	京畿道水原郡日新面

私立專門學校

名稱	生徒種別	修業年限	創立年月	學校長	所在地
京城專門學校	本科	3	昭4, 10	國峰專吉	京城府黃金町六丁目

臺灣總督府所管

臺北帝國大學

名稱	學部	創立年月	總長	學部長	所在地
臺北帝國大學	理農學部	昭3, 3	幣原坦	青木文一郎	臺北市富田町

官立專門學校

名稱	學科並別科	生徒種別	修業年限	創立年月	學校長	所在地
臺灣總督府臺南高等工業學校	機械工學科 電機工學科 應用化學科	本科 研究科 選科	3 2以內 3以內	昭6, 1	若槻道隆	臺南市旭町
臺北帝國大學附屬農林專門部	農學科 林學科	本科 研究科	3 2以內	昭4, 4	青木文一郎	臺北市富田町

關東廳所管

官立大學

名稱	學部	創立年月	學長	所在地
旅順工科大學	工學部	大15, 4	野田清一郎	旅順市札幌町

私立專門學校

名稱	學科並分科	生徒種別	修業年限	創立年月	學校長	所在地
南滿洲工業專門學校	機械工學科 建築工學科		3	大11, 5	小山朝佐	大連市伏見町

工業學校

甲種

名稱	學科	分科	修業年限	創立年月	學校長	
北海道廳立札幌工業學校	採鑛，機械，土木 建築，家具		3	大5, 1	西野金助	
北海道廳立函館工業學校	機械建築，土木，應用化學，木材工藝		3	大10, 4	瀧澤一馬	
北海道廳立苫小牧工業學校	土木，建築，機械，電氣，應用化學		3	大12, 3	三橋藤太郎	
青森縣立弘前工業學校	木材工藝，建築，機械，土木	本科 專攻科 研究科 第二部	5 3 2 1	明43, 2	藤江乙次郎	
岩手縣立工業學校	機械，建築，土木，應用化學	本科 專攻科	3 2	明31, 4	增田精家	
山形縣立米澤工業學校	染織，建築，機械	本科 專攻科 選科	5 1 1	明30, 4	岡村武雄	
山形縣立山形工業學校	染色，機械，化學工業，土木	本科 專攻科 選科	5 1 1	大9, 2	杉山佐市	
山形縣立鶴岡工業學校	染織，建築，電氣機械	本科 專攻科 選科	5 1 1	大9, 2	平川秀五郎	
福島縣立會津工業學校	染色，窯業，漆工，應用化學	本科 專攻科	5 3以內	大3, 7	井口直次郎	
福島縣立川俣工業學校	染織	本科 研究科	3 2以內		一ノ木市三郎	
茨城縣立工業學校	應用化學，機械		5	明42, 2	山田友吉郎	
栃木縣立足利工業學校	機械，染織，機織 機械，圖案，色染	本科 第二部	5 1	明28, 4	太田豐彥	
群馬縣立伊勢崎工業學校	機織，色染	本科 研究科	5 2以內	明43, 4	佐藤吉彥	
前橋工業學校	染織，製絲，建築		5	大12, 4	木村六助	
群馬縣立桐生工業學校	色染，機械	本科	5	昭9, 3	西田博太郎	
埼玉縣立川越工業學校	染織，圖案	本科 選科	5 1以內	明40, 4	高松今男	
千葉工業學校	應用化學		5	昭11, 3	井口兎吉	
東京府立織染學校	織色	本科 專攻	5 1	明20, 3	河合建雄	

東京府立工藝學校	金屬工藝，精密機械，木材工藝，製版印刷，機械仕上，板金，塗工	本 第二本 第三本	5 4 3 2	明	39, 7	近藤榮助
東京府立化學工業學校	應用化學，電氣化學，化學機械	本 第二本 選	5 5 2以內	大	8,12	宇野三郎
東京府立實科工業學校	機械工作，精密機械工作，鍛工冶金	本 第二本 第三本 別	5 4 4 2以內	明	32, 9	津田信良
東京市立深川工業學校	電氣，機機	第一本 第二本 專修	3 4 6～1年	昭	6, 4	水澤保吉
東京市立高輪工業學校	電機，機械	本 專	4 6ヶ月	昭	10, 9	加藤榮治郎
東京市立藏前工業學校	電氣，機械	本 專	4 2	昭	10, 9	北條三郎
東京市杉並工業學校	機械		4	昭	12, 4	增田稔
新潟縣立長岡工業學校	染織，機械，應用化學，電氣	本 別 專修	2 2 2	明	42, 2	森山善雄
新潟縣立高田商工學校	工藝	本 補	5 2	大	5, 4	小川延賢
富山縣立工藝學校	木材工藝，工藝圖案，工藝彫刻，應用化學，機械，漆，工藝，電氣，金屬工藝	本 二部	5 2	明 昭	27,11 10, 4	豐島銳郎
石川縣立工業學校	色染，漆工，窯業，金工，機械，繪畫，圖案，木工	本 選 研	5 2以內 1以內		27,11	太田誠二
福井縣立工業學校	染織	本 第二部	5 1	大	4, 2	鈴木恒夫
山梨縣立工商學校	染織	本 專修 選	5 1 3箇月以上		43, 4	行宗繁輝
長野縣長野工業學校	機械，電氣，應用化學，土木，建築	本 專	4 2	大	6, 8	長井教雄
長野縣諏訪蠶絲學校	蠶絲，染織		5	昭	12, 4	石田恭吾
岐阜縣多治見工業學校	陶器	甲部 乙部	3 3	明	35, 2	井深捨吉
岐阜縣第一工業學校	染織，土木，機械，應用化學		5	大	13, 7	高田覺
岐阜縣第二工業學校	色染化學，機械，電氣，建築		5	大	13, 7	青木善之助

靜岡縣立濱松工業學校	色染仕上，紡織，圖案，建築	本	5	大	7, 3	山本又六
愛知縣工業學校	紡績，染色化學，圖案，印刷，機械，電氣	本 選 研	5 4以內 2以內	明	34, 8	木村德壽
愛知縣窯業學校	窯業		5	大	9, 3	永塚榮治
愛知縣起工業學校	染織	本	5	大	4, 1	吉光正義
愛知縣常滑工業學校	製陶	本 選 研	3 一 一	明	28,12	押谷鐵三郎
名古屋市立工藝學校	木材工藝，金屬圖案建築，精密機械	本 第二本 別	5 4 3以內	大	9, 2	佐藤松治郎
三重縣立工業學校	應用化學，建築	本 研	5 1以內	明	35, 2	竹井幾右衞門
滋賀縣立彥根工業學校	色染，紡績	本 研	5	大	9, 2	越智求馬
京都市立第一工業學校	建築，色染，機械，機織，電氣工業化學	本 第二本 專	5 4 1	明	27,10	岩森彌助
京都府立工業學校	染織	本 專	5 1	大	11, 2	桑田重好
京都市立美術工藝學校	漆工		5	明	37,10	川村萬藏
大阪府立堺職工學校	第一化學，第二化學，化學機械，金屬工業		3	昭	11, 4	小山平治
大阪市立泉尾工業學校	紡績，色染，窯業，應用化學		5	大	10, 9	木村翠
大阪府立佐野職工學校	紡織，機械	本 高級	3	大	14, 3	山田庸
兵庫縣立工業學校	機械，電氣，建築，應用化學，土木	本 專修	5 2	明	35,11	高木太作
奈良縣立御所工業學校	染織	本 別 選 研	5 3ヶ月 1	明	34, 3	金子常治
和歌山縣立工業學校	建築，木材工藝，應用化學，染織	本	5	大	3, 2	荻野俊夫
鳥取縣立米子工業學校	機械，電氣，應用化學		3	大	11, 6	大石聞二
岡山縣立工業學校	土木，機械，應用化學		5	明	34,10	大森鐵二郎
廣島縣立福山工業學校	紡織，染色，化學，圖案	本 專修	5 1	昭	7, 2	星千里

山口縣立下松工業學校	機械，應用化學	本	5	大	9, 1	正來遊方
		第二部	1			
山口縣立宇部工業學校	應用化學，機械，電氣		5	大	9,12	丹澤武茂
德島縣立工業學校	建築，染織，木材工藝	本	5	明	35, 2	大久保惣太郎
			3			
香川縣立工業學校	金工，木工，漆工，建築	本	5	明	31, 2	三好眞長
		專選	3月～1年3以內			
愛媛縣立松山工業學校	染織，建築，木工		3	明	42, 9	青木治助
高知縣立高知工業學校	土木建築，應用化學，機械，電氣	本	5	明	45, 4	松本政良
福岡縣立福岡工業學校	建築，機械，染織，採鑛	本	5	明	29, 4	弘中廣志
		研專	1			
		第二部	1			
福岡縣三井工業學校	電氣，採鑛，機械，應用化學		3	明	40, 8	川崎壽男
佐賀縣立有田工業學校	圖案，繪畫，製陶		5	明	36, 3	一條茂喜司
長崎縣立長崎工業學校	應用化學，造船，工藝		5	昭	12, 3	加藤九里
長崎縣立佐世保工業學校	採鑛工藝		5	昭	12, 3	中山友次郎
熊本縣立工業學校	建築，機械，染織，土木，應用化學		5	明	34, 4	竹下俊夫
鹿兒島縣立鹿兒島工業學校	機械，建築	本	5	大	8, 3	太田平一郎
		第二部	1			
鹿兒島縣立加治木工業學校	建築，家具		3	明	43, 6	山本春水
鹿兒島實業學校	建築，機械，美術工藝	工業專修	3	大	12, 3	川島準彥
		夜間	3			
			4			
沖繩縣立工業學校	建築，家具，漆工		3	明	35, 4	源河朝達

乙種

古河足尾銅山實業學校	工科（機械，電氣，採鑛）		3	大	2, 4	村雨辰雄
栃木縣足利市實業學校	染織，木工		3	昭	10, 9	鈴木陽吉
新潟縣立栃尾實業學校	染織		3	明	41, 7	荒善五郎
山梨縣瑞穗實業學校	工業科（染織）		3	昭	2, 3	丸茂正穗

愛知縣工業實務學校	染織，機械，電氣		2	昭	10, 6	木村德壽
四日市市立商工學校	窯業，機械	選	3	昭	10, 3	矢野九三
			2			
京都市立第二工業學校	漆裝家具，金屬工藝，建築，裝飾，陶磁器		3	大	4, 3	米澤美雄
大阪市立實業學校	機械，金屬工業，木工，電氣，應用化學	本	3	大	8, 1	北川武藏
大阪府立城東職工學校	電氣，機械，計器		3	昭	3, 3	村田喜一郎
兵庫縣立姬路工業學校	色染化學		3	昭	11, 2	西川裕
福岡縣八幡工業學校	機械冶金		2	昭	10, 9	原田國作

朝鮮總督府所管

京城工業學校			3	明	40, 2	山村銳吉
麗水公立水產學校		本	2	大	10, 4	楢崎敏夫
		專	1			
統營公立水產學校			3	大	12, 4	名越正廣
龍岩浦公立水產學校			3	大	13, 4	江田武雄
私立昭和工科學校	鑛山，土木，建築		2	昭	9, 7	三浦義明

臺灣總督府所管

臺北工業學校			5	大	10. 4	瀧波惣之進

關東廳所管

大連工業學校			5	昭	10, 2	坂敬治
撫順工業學校			3	昭	2, 2	棟久藏

工業化學會編 工業化學語彙 4,6判布裝 ¥3,00 〒.21

理學士 樫本竹治著 高等化學計算法 菊上判製 ¥1.80 〒.21

——御用命は弊社代理部へ振替東京79086番——

化學工業界唯一の
品格を備へた權威ある專門機關紙

内外化工界の狀勢は

本紙で一目瞭然

本紙の使命 本紙は中正穩健なる輿論の喚起に努め我化學工業界の情勢を迅速且つ正確に報導し以て學業兩界の緊密なる連鎖となり一意專心、斷じて營利を目的とすることなく、斯界の進步發展に貢献せんとするものであります。

本紙の發展 昭和3年8月本紙が創刊せらるゝや東西帝國大學を始め各專門學校、試驗所、研究所並に關係實業界よりの贊助後援は期せずして與へられ、月2回發行は半歲にして旬刊となり僅か5年餘にして週刊發行に進み、專門新聞として正に東洋唯一の報導機關となりました。

本社の事業 本社は機を逸せず時宜に適したる各種の事業を計劃實行して來ましたが中でも工業化學會編纂の實用化學便覽の奉仕的出版を初めとし化學工業年鑑及化學機器圖集、化學製品案内の發行の如きは本社の誠意を披攊し主義に忠實なる證左として、各位の嘆賞を蒙つて居る處であります。

購讀料一ケ年　六圓

一部貳拾錢（但シ前金・送料共）

本社の陣容

贊助員（順序不同）

理研所長 子爵 大河内正敏氏
東京工大敎授 工學博士 松井元太郎氏
早大敎授 工學博士 小林久平氏
日本石油會社專務 取締役 水田政吉氏
特許 辨理士 中松盛雄氏
東京工大敎授 理學博士 加藤與五郎氏
東大名譽敎授 理學博士 松原行一氏
東大名譽敎授 工學博士 鴨居武氏
東大敎授 工學博士 田中芳雄氏
東大敎授 工學博士 大島義淸氏
東大敎授 工學博士 厚木勝基氏
東大敎授 工學博士 龜山直人氏
九大名譽敎授 工學博士 西川虎吉氏
明治製糖會社社長 相馬半治氏
京大敎授 工學博士 喜多源逸氏
京大敎授 工學博士 中澤良夫氏
大阪工試所長 工學博士 莊司市太郎氏
大阪前工研所長 理學博士 高岡齊氏
大阪工大敎授 工學博士 鉛市太郎氏
大阪工大敎授 工學博士 上野誠一氏
德山曹達常務 工學博士 越智主一郎氏

本紙の編纂上特に御盡力を願ふ方々

東大敎授 工學博士 大島義清氏
東大敎授 工學博士 永井彰一郎氏
東大敎授 工學博士 永井雄三郎氏
日產化學 研究課長 庄司務氏
商工省 技師 平野久保氏
東北帝大 理學博士 柴田林之助氏
東大藥科 藥學博士 高木誠司氏
日本化成 技師 藤木經明氏
大阪工大 工學博士 上野誠一氏
九州帝大 工學博士 栗山捨三氏
滿鐵中試 工學博士 内野正夫氏
同 理學博士 井上正一氏
同 技師 ヒロタトラヲ氏
大阪衞試 醫學博士 下田吉人氏

本社

工學博士 棚橋寅五郎氏
藤井榮三郎
編輯長 本松憲相

化學工業新聞雜誌・附研究報告

24部門に大別、各部門内の新聞雜誌名は五十音順に配列す。
發行日中日1とあるは月1回1日發行の略、定價は但書なき場合は一册の價なり。（單位圓）

1. 經濟 2.3. 化學工業一般（經濟と技術） 4. 試驗所報告 5. 各學校會報 6. 金屬及冶金 7. 機械及化學機器 8. 電氣及電氣化學 9. 燃料 10. 窯業 11. 肥料 12. 醫化學藥品及工業藥品 13. 染料及染色 14. 顏料塗料印刷インキ 15. 寫眞 16. 石鹼、油脂、香料及化粧品 17. ゴム 18. セルロイド及プラスチックス 19. 化學纖維 20. 醱酵製品 21. 農產及農藝化學 22. 水產及食品 23. 航空 24. 雜

書名	發行日	定價	發行所	住所
1. 經濟				
大衆經濟	1日	0.20	大衆經濟社	東京市神田區小川町3-10（電・神田4425）
海外經濟事情	10日 25日	0.70	中屋三間印刷株式會社	東京市京橋區築地4-4（電・京橋341）
經濟情報	旬刊	0.30	經濟情報社	東京市麴町區丸ノ内2-18（電・丸ノ内2906）
ダイヤモンド	月3回 10日	0.45	ダイヤモンド社	東京市麴町區内幸町1-3（電・銀座4455～9）
中外財界	15日	0.20	中外商業新報社	東京市日本橋區茅場町2-16（電・茅場町251～9）
調査報告		非賣	名古屋高商產業調査室	名古屋市
東洋經濟	每土曜日	0.35	東洋經濟新報社	東京市日本橋區本石町3-2（電日本橋81～3）
投資經濟	月3回 10日	0.30	投資經濟社	東京市麴町區有樂町1-3（電・丸ノ内2832）
統計時報	30日	0.30	內閣印刷局	東京市麴町區大手町
統制	月刊		名古屋陶磁器工業組合聯合會	名古屋市東區布池町32
野田經濟研究所日報	日刊	1ケ月 0.50	野田經濟研究所	東京市神田區神保町2-44（電・九段3151）
本邦財界情勢	13日	0.35	三菱經濟研究所	東京市麴町區丸ノ内3-8（電・丸ノ内3845）
マネジメント	15日	0.50	マネジメント社	東京市四谷新宿1丁目
勞働科學研究	奇數月6回	年5.00	倉敷勞働科學研究所	岡山縣倉敷市
2. 化學工業一般（經濟を加味せるもの）				
科學	15日	0.50	岩波書店	東京市神田區一ツ橋2-3（電・九段1870）
科學と工業	1日	0.35	大阪工研協會	大阪市北區北扇町市立工業研究所內

書名	發行日	定價	發行所	住所
化學工業	10日	0.50	化學工業協會	東京市丸ノ内3-2(電・丸ノ内3009)
化學工業資料	年4回	0.30	紫光會	東京市澁谷區幡ヶ谷本町1 東京工業試驗所内(電・四谷550)
化學工業時報	週刊	0.20	化學工業時報社	東京市京橋區京橋1-2(電・京橋4416)
化學工藝	1日	0.40	化學工藝社	群馬縣桐生市下久方町221
科學知識	1日	0.50	科學知識普及會	東京市神田區錦町1-16(電・神田870)
化學評論	奇數月15日	0.50	化學評論社	大阪市西區京町堀通1-4(電・土佐堀240)
藏前新聞			東京工大新聞部	東京市目黒區大岡山(電・高輪7890)
工學	1日	0.50	東京工學社	東京市小石川區駕籠町6(電・大塚2605)
工業	1日	0.30	大阪工業會	大阪市西區土佐堀通1-1(電・土佐堀4073)
工業解論			工業解論社	大阪市南區鰻谷仲之町
工業現勢	1日	0.15	東京工業大學工業調査部	東京市目黒區大岡山(電・高輪7860)
工業雜誌	1日	0.35	工業雜誌社	東京市京橋區銀座7-3(電・銀座2023)
工業調査彙報			工業調査協會	東京市神田區旅籠町3-4(電・下谷4817)
工業日日新聞			工業日日新聞社	東京市京橋區築地3-8
工業日本	1日	0.40	工業日本社	東京市京橋區丸ノ内2-15昭和ビル(電・丸ノ内5335)
工業評論	1日	0.40	工業評論社	大阪市住吉區中野町43-11
工政	10日	0.70	工政會	東京市麹町區丸ノ内3-4(電・丸ノ内3980)
產業	1日	0.35	日本產業協會	東京市麹町區内山下町1-1(電・銀座2456)
資源	1日	0.35	工業調査協會	東京市神田區旅籠町3-4(電・下谷283)
資源資料要錄		1.00	國勢社	東京市京橋區第一相互館(電・京橋2181～9)
自由通商			大阪自由通商協會	大阪市北區宗是町大阪ビル内
日刊工業新聞	日刊	1ヶ月1.20	日刊工業新聞社	大阪市北區中ノ島5-106(電・代表518)
日本工業新聞	日刊	1ヶ月1.20	日本工業新聞社	東京市京橋區有樂町2-4(電・銀座6611) 大阪市北區堂島濱通4(電・福島754)
日滿工業新聞			日滿工業新聞社	大阪市西區江戸堀北通5
發明	5日	0.50	帝國發明協會	東京市麹町區丸ノ内3-2(電・丸ノ内1888)
發明新聞	月3回	1ヶ年3.00	發明新聞社	東京市麹町區大手町2-2 日清生命館内(電・丸ノ内2849)
物理化學の進歩	偶數月末日	0.60	京都帝國大學物理化學研究室	京都市
物理と化學	1日	0.40	地人書館	東京市神田區錦町3-22(電・神田895)

書名	發行日	定價	發行所	住所
北海道工業通信	月3回	0.70	北海道工業通信社	札幌市南一條西13丁目鏡ビル(電・1620)
理科報告		2.00	東北帝國大學	賣捌所・丸善株式會社
理學界	1日	0.40	理學界社	東京市神田區神保町1-59

3. 化學工業一般（技術を加味せるもの）

火兵學會誌	奇數月		火兵學會	東京帝大工學部造兵學教室内(電・小石川7195)
九州帝國大學工學彙報	年6回	0.50	九州帝國大學工學部	福岡市
研究報告			旭化學工業奬勵會	東京市麹町區丸ノ内2-6旭硝子株式會社(電・丸ノ内3185～9)
研究報告			大阪帝國大學	賣捌所・丸善株式會社
工學彙報		0.50	九州帝國大學工學部	
工業化學雜誌	5日	1.20	工業化學會	東京市麹町區丸ノ内3-4有樂館内(電・丸ノ内2769)
自然科學と博物館	1日	0.10	科學博物館事業後援會	東京市下谷區上野公園東京科學博物館内(電・下谷6400)
舍密	15日	0.20	舍密社	大阪市西區土佐堀通1丁目(電・芦屋2351)
朝鮮化學會會報	20日	非賣	朝鮮化學會事務所	京城帝國大學醫學部化學教室内(電・光化門500)
東京工業大學々報			東京工業大學	東京市目黒區大岡山(電・高輪7890)
日本化學會誌	28日	1.00	日本化學會	東京帝大理學部化學教室
日本化學總覽	1日	0.60	日本化學研究會	仙臺市米ヶ袋上丁10(電・仙臺3924)
日本學術協會報告	年4回	非賣	日本學術協會	東京帝國大學工學部内
明治專門學校學報			明治專門學校	小倉市
旅順工科大學彙報			旅順工科大學	關東州旅順
早稻田應用化學會報	年4回	0.40	早稻田應用化學教室	東京市淀橋區戸塚町早大應用化學教室内

4. 試驗新報告（業別に分業出來ざるもののみ蒐錄）

愛知縣工業試驗場報告			愛知縣工業試驗場	名古屋市東區花田町3丁目(電・東2270)
衞生試驗所彙報			內務省衞生試驗所	
大阪工業試驗所報告		非賣	工業調査協會	東京市神田區旅籠町3-4(電・下谷481)
化學研究所報告			京大化學研究所	大阪府高槻町
關東鹽業試驗所報告			關東鹽業試驗所	關東州大連灣會大房身屯
業務研究資料	10日 25日	各冊別	鐵道大臣官房研究所	東京市芝區海岸通1-1(公衆電芝797)
造幣局研究報告			造幣局	

書名	發行日	定價	發行所	住所
臺灣總督府中央研究所工業部報告		非賣	臺灣總督府中央研究所	臺北市幸町
大豆工業研究所報告		非賣	大豆工業研究會	大連市初音町24
朝鮮中央試驗所報告		非賣	朝鮮中央試驗所	京城府東崇洞
電氣試驗所研究報告		1.40	工業調查協會	東京市神田區旅籠町3-4(電·下谷4817)
東京工業試驗所報告		非賣	工業調查協會	東京市神田區旅籠町3-4(電·下谷4817)
奈良市工業研究所報告			奈良市工業研究所	奈良市
兵庫縣工業試驗所技術報告		非賣	兵庫縣工業試驗所	神戶市下山手通4(電·青合3222)
北海道工業試驗所報告		非賣	北海道工業試驗所	札幌市札幌郡琴似村琴似
滿鐵中央試驗所報告		非賣	滿鐵中央試驗所	大連市
理化學研究所彙報	1日	0.70	理化學研究所	東京市本鄉區上富士前31(電·大塚5121)

5. 大學、專門學校會報

金澤工業會誌	年4回	非賣	金澤工業會	金澤高等工業學校內(電·80)
學術報告			鹿兒島高等農林學校	鹿兒島市
桐生高工時報	10日		桐生高工時報編輯部	桐生市宮前町
藏前工業會誌	1日	非賣	藏前工業會	東京市芝區新橋2-8(電·銀座637)
熊本工業會誌			熊本工業會	熊本市熊本高工內
工學院同窓會誌			工學院同窓會出版部	東京市淀橋區角筈2-93
工業			東京工業大學雜誌部	東京市目黑區大岡山(電·高輪7890)
鍛工	1日	年6.00	日本大學鍛工會	東京市神田區駿河臺1
東京物理學校雜誌	1日	0.30	東京物理學校同窓會	東京市牛込區神樂町2-24(電·牛込1275)
名古屋工業會々報	1日	非賣	名古屋工業會	名古屋高等工業學校內(電·南99)
明專會報	月刊	年3.00	明專會	戶畑市明治專門學校內
橫濱工業會誌	1日	非賣	橫濱工業會	橫濱高等工業學校內

6. 金屬及冶金

鞍山鐵鋼會雜誌	年4回	年5.00	鞍山鐵鋼會	鞍山昭和製鋼所內
鑄物	10日	非賣	日本鑄物協會	東京市麹町區丸ノ內3-8(電·丸ノ內4940)
大阪金物新聞			大阪金物新聞社	大阪市此花區福島北3

書名	發行日	定價	發行所	住所
大阪鐵工所調查部	年4回 1日		大阪鐵工所調查部	大阪市此花區櫻島南之町(電·土佐堀3000)
樺太鐵業會誌	5日	0.20	樺太鐵業會	樺太廳鐵務課內
岩石鑛物鑛床學	1日	半ヶ年3.00	日本岩石鑛物鑛床學界	仙臺市東北帝國大學理學部內
金屬	1日	0.50	アグネ工學社	大阪市西區新町4新町ビル
金屬の研究	20日		共融會	仙臺市片平町金屬材料研究所內
研究報告			住友金屬工業株式會社	大阪市此花區島屋町56(電·土佐堀5127)
研究報告			日本製鐵株式會社八幡製鐵所	福岡縣八幡市
鐵友			樺太鐵業會	樺太廳鐵業課
採鑛冶金月報	15日	0.20	水曜金採冶月報部	京大工學部採鑛冶金學敎室
水曜會誌			水曜會	京都市京都帝大工學部採鑛冶金敎室
住友電線彙報要錄			オーム社	東京市神田區鎌町3-3-2(電·神田653)
臺灣鐵業會報	年6回	年6.00	臺灣鐵業會	臺北市明石町2-4
朝鮮鐵業會誌	15日	1.00	朝鮮鐵業會	朝鮮京城南米倉町4
日滿鑄物工業新聞	日刊	1ヶ月0.50	日滿鑄物工業新聞社	東京市麹町區內幸町1-5(電·銀座1368)
鐵と鋼	25日	0.80	日本鐵鋼協會	東京市麹町丸ノ內2-1(電·丸ノ內2626)
日本金屬學會誌	20日	1.00	日本金屬學會	仙臺市片平町金屬材料研究所內
日本鑛業會誌	22日	0.60	日本鑛業會	東京市京橋區銀座西8-7(電·銀座903)
マグネシウム		非賣	マグネシウム工業懇話會	東京市麹町區丸ノ內2-2 丸ビル三階 日滿マグネシウム株式會社內(電·丸ノ內1874)
滿洲鑛業協會報			滿洲鑛業協會	新京興安胡同201鑛業監督署內
滿洲冶金學會々報			滿洲冶金學會	旅順工科大學內
熔接及切斷	5日	0.20	帝國酸素株式會社	神戶市神戶區明石町38

7. 機械及化學機器（度量衡器及汽罐を含む）

化學機械	年4回	年6.00	化學機械協會	東京市京橋區京橋1-2(電·京橋495)
化學と機械			日本機械同盟事務所	大阪市北區玉江町1-11
罐友	15日		汽罐協會	東京市麹町區外櫻田·內務省社會局監督課
機械			工業圖書株式會社	東京市神田區旅籠町3-4(電·下谷4817)
機械學會誌	20日		社團法人機械學會	東京市麹町區丸ノ內2-2 丸ビル(電·丸ノ內3979)

書名	發行日	定價	發行所	住所
機械工學	25日	0.35	機械工學社	大阪市外千里山312(電・吹田733)
汽罐研究	4回	年6.00	汽罐協會	東京市麹町區外濠田・内務省社會局監督課
機罐の友	25日	0.35	日本汽罐士協會	東京市京橋區築地3丁目(電・京橋215)
機織界	10日	0.50	紡織雜誌社	大阪府泉北郡高石町羽衣58(電・濱寺2269)
計測	年4回	0.30	計測學會	東京市芝區西久保明舟町17
計量界	5日	0.30	日本度量衡協會	東京市芝區西久保明舟町17(電・芝835)
精密機械	25日		精機協會	東京帝大工學部造兵學教室(電・小石川7195)
度量衡			日本度量衡協會	東京市芝區西久保明舟町17(電・芝835)
日刊機械工業新聞			日刊機械工業新聞社	大阪市北區玉江町1-4
日立機械評論	年4回	0.35	日立評論社	東京市麹町區丸ノ内2-2(電・丸ノ内2591)
理論實際機械及電氣	1日	0.50	株式會社養賢堂	東京市本郷區森川町70(電・小石川659)

8. 電氣及電氣化學（電氣材料を含む）

沖電氣時報	30日	非賣	沖電氣株式會社	東京市麹町區丸ノ内1-6(電・丸ノ内1281～7)
O H M	1日	0.50	オーム社	東京市神田區錦町3-3-2(電・神田635)
カーボン評論	隔月15日	0.20	カーボン研究會	名古屋市南區松月町4-20
古河電工	年5回	1.00	古河電氣工業株式會社横濱事務所	横濱市神奈川區西平沼町
高壓瓦斯協會誌	1日		高壓瓦斯協會	東京市麹町區内幸町大阪ビル新館(電・銀座5181)
日芝浦マツダ工業グラフ	25日		芝浦マツダ工業株式會社	
芝浦レヴュー	5日	0.25	芝浦レヴュー發行所	東京麹町區有樂町三信ビル内芝浦製作所(電・銀座5711)
G S NEWS	15日		ジーエスニュース編輯部	京都市新町今出川北入日本電池株式會社内
ジヤーナル	31日	非賣	明電社	東京市品川區大崎2-276(電・大崎327)
照明學會雜誌	25日	0.50	照明學會	東京市麹町區有樂町1-3(電・丸ノ内4615)
電氣化學	5日	0.60	電氣化學協會	東京市麹町區有樂町1-3(電・丸ノ内4895)
電氣學界雜誌	10日	0.35	電界社	大阪市北區堂島北町36(電・北6588)
電氣機械器具及材料特製品	年1回	0.70	電氣協會	東京市麹町區有樂町1-3(電・丸ノ内2780)
電氣經濟時論	15日	0.35	電氣經濟時論社	大阪市北區中之島2-22
電氣協會會報	25日	0.70	電氣協會	東京市麹町區有樂町1-3(電・丸ノ内756)

書名	發行日	定價	發行所	住所
電氣工學	1日		電氣工學社	東京市日本橋區與兵衛橋2-5(電日本橋408)
電氣公論	15日	0.40	電氣公論社	京都市下京區西洞院三哲
電氣顧問	10日	非賣	東京電燈株式會社	東京市芝區田村町1-1
電氣時報	15日	0.20	電氣時報社	東京市本郷區千駄木町247
電氣商品	10日	0.10	電氣商品聯盟	東京市京橋區銀座6-1-10(電・銀座5791)
電氣事業月報	25日	年2.50	電氣協會	東京市麹町區有樂町1-3(電・丸ノ内2780)
電氣時代	10日	0.30	電氣時代社	東京市麹町區内幸町1--6 鳥ビル(電・銀座6084)
電氣製鋼	15日	0.30	電氣製鋼研究會	名古屋市南區東築地31
電氣と化學	15日	0.25	國產時代社	東京市麹町區内幸町1-6(電・銀座521)
電氣之友	1日	0.40	電氣之友社	東京市京橋區銀座8-1（電・銀座2525)
豐田研究彙報		1.50	帝國發明協會	東京市麹町區丸ノ内3-2(電・丸ノ内1888)
マツダ研究時報			東京電氣株式會社	神奈川縣川崎市
無線資料			東京電氣無線株式會社	神奈川縣川崎市堀川町72
明電社ジヤーナル	15日	非賣	明電舍	東京市品川區東大崎町2-276(電・高輪440)
安川電機	年4回	0.20	安川電機製作所	八幡市藤田

9. 燃料（石油、瓦斯、木炭及石炭）

瓦斯の世界	20日	0.50	瓦斯の世界社	東京市京橋區寶町3-7(電・京橋265)
研究實驗成績報告			海軍燃料省	山口縣德山
薪炭同業組合月報			薪炭同業組合	東京市神田區錦町1-2
石炭時報	1日	0.50	石炭工業聯合會	東京市丸ノ内日本工業倶樂部内(電・丸ノ内1829)
石炭新報			石炭新報社	東京市京橋區銀座西6-4
石油技術協會誌			石油技術協會	東京市麹町區下二番町48(電・九段569)東京地學協會内
石油時報	10日	0.40	日本石油株式會社	東京市麹町區丸ノ内3-4(電・丸ノ内3351)
大日本木炭協會報	20日	0.30	大日本木炭協會	東京帝國大學農學部森林化學教室
臺灣總督府天然瓦斯研究所彙報			臺灣總督府天然瓦斯研究所	臺灣臺北
筑豐石炭鑛業組合月報			筑豐石炭鑛業組合事務所	福岡市若松町旭小路411
帝國瓦斯協會雜誌	10日	0.50	帝國瓦斯協會	東京丸ノ内2-2(電・丸ノ内162)
東京薪炭問屋同業組合月報			東京薪炭問屋同業組合	東京市神田區旅籠町3210
動力	10日		日本動力協會	東京市麹町區丸ノ内・有樂館

書名	發行日	定價	發行所	住所
動力の節約	年6回	0.30	工場能率増進研究會	東京市麹町區丸ノ内郵船ビル
日本煉炭新聞			日本煉炭新聞社	横濱市中區濱舟町3-45
燃料協會誌	20日	1.00	燃料協會	埼玉縣川口市(電・川口3101)
燃料研究所報告		非賣	燃料研究所	埼玉縣川口市(電・川口3101)
燃料之日本	25日	0.30	新興經濟研究會	東京市京橋區京橋3-5(電・京橋3844)
燃料問題資料	30日	0.50	燃料問題研究所	東京市品川區東大崎3-175
北海道石炭鑛業會報	25日々	0.30	北海道石炭鑛業會	札幌市北一條西4-2 商工會議所4階
横濱石炭同業組合月報			横濱石炭同業組合	横濱市中區花咲町1-18

10. 窯業（セメント、陶磁器、硝子器）

旭硝子研究報告			旭硝子株式會社試驗所	東京市牛込區喜久井町17(電・牛込5789)
大阪陶業新聞			大阪陶業新聞社	大阪市西區阿波座上通1-62
海外セメント事情	15日	非賣	日本ポルトランドセメント同業會	大阪市東區今橋1-9(電・北濱3925)
海外陶片錄			陶磁器研究會	商工會陶磁器試驗所
會報	隔月		大日本陶磁器纖組出合聯合會	名古屋市東區東白壁町21
硝子界	25日	0.30	大阪府硝子製造同業組合	大阪市北區梅ヶ枝町88(電・北3509)
硝子新聞			硝子新聞社	大阪市北區善源寺町6目丁
九谷陶報				石川縣九谷町
硝友	1日	0.50	硝友便利社	東京市本所區東兩國4-7-7(電本所2529)
セメント界彙報			セメント界彙報發行所	大阪市東區今橋1-9
セメント工業	1日	0.25	セメント工業社	東京市京橋區銀座6-5-2(電・銀座5843)
セメントコンクリート道路			日本ポルトランドセメント同業會	大阪市東區今橋1-9 帝國ビル(電・北濱2928)
大日本窯業協會雜誌	1日	0.80	大日本窯業協會	東京市京橋區銀座西4-5(電・京橋5519)
帝國硝子新報	5ノ日	年3.00	帝國硝子新報社	大阪市北區與力町1-7(電・堂川1363)
陶業時報	月刊		陶業時報社	大阪市西區阿波座上通1-62
陶磁界	月刊		陶磁界社	名古屋市東區大曾根中ノ2341
陶磁器試驗所報告		非賣	工業調査協會	東京市神田區旅籠町3-4(電・下谷4817)
陶磁器新聞	月刊		陶磁器新聞社	京都市伏見町三栖向町
陶磁公報	月刊		陶磁公報社	東京市澁谷區山下町31

書名	發行日	定價	發行所	住所
日刊陶磁界新報	日刊		陶磁界社	名古屋市東區大曾根中ノ2341
日本陶磁器時報				名古屋市中區千早町3-7-2
肥前陶報				佐賀縣有田町
松浦陶磁報				佐賀縣有田町622
窯業新聞	月刊		窯業新聞社	名古屋市中區南呉服町2
旬報輸出陶磁器			名古屋陶磁器輸出組合	名古屋市東區東白壁町21

11. 肥料

大阪肥料日報			大阪肥料日報社	大阪市此花區玉川町2
肥料通信			實業報知日報社	神戸市榮町

12. 醫、化學藥品及工業藥品

衛生工業協會誌	1日	0.80	衛生工業協會	東京市京橋區銀座西3-1 建築會館内(電・京橋5419)
大阪藥業新聞	日刊	年20.00	大阪藥業新聞社	大阪市南區日本橋2-126(電・減3200)
近畿藥業			近畿藥業社	奈良市四木辻22
ケミカルタイムス	30日		ケミカルタイムス社	東京市日本橋區本町3-5
山陽藥事時報			山陽藥事時報社	廣島市鰻廻町94
新京衛生工業會誌	30日		滿洲技術協會	大連市東公園町35
時事藥報			時事藥報社	大阪市住吉區昭和町西1
十全會雜誌	1日	0.50	十全會	金澤醫科大學内
武田化學藥品月報			武田化學藥品株式會社	大阪市東淀川區十三西ノ4-54(電・北5490)
第一工業製藥株式會社社報	1日	非賣	第一工業製藥株式會社	京都市下京區西洞院七條下ル(電・下3551)
千葉藥學誌	年1回		千葉醫大藥學專門部	千葉市千葉醫大内
中央藥論	旬刊	年3.00	中央藥論社	名古屋市中區池田町54(電・中1002)
東海藥報			東海藥報社	名古屋市東區伊勢町3
東京藥品日報	日祭日の翌日	1ケ月5.00	東京藥品日報社	東京市芝區南佐久間町1(電・芝3234)
名古屋藥報			名古屋藥報社	名古屋市中區丸太町2
日本衛生化學會誌			日本衛生化學會	東京市本郷區帝大藥學校室
日本道修藥報			日本道修藥報社	大阪市東區道修町1丁
日本藥報	5日 20日	1ケ年6.00	日本藥報社	東京市牛込區下宮比町8(電・牛込1885)
ホスピタル	25日	0.50	醫局及藥局社	大阪市北區曾根崎新地3-34(電・北5053)
藥界時報			藥界時報社	富山市山手町27

書名	發行日	定價	發行所	住所
藥學會誌			金澤大學附屬藥專部藥學會	石川縣金澤市(電・4100)
藥學雜誌	25日		日本藥學會	東京市牛込區下宮比町5(電・牛込1885)
藥業の友	1日 15日	1ヶ年 3.00	藥業の友社	東京市小石川區水道端1-8(電・小石川2019)
藥業往來			藥業往來社	大阪市東淀川區木川町401
藥業週報	週刊	年3.00	藥業週報社	東京市麻布區本村町12(電・三田3572)
藥業新聞			藥業新聞社	大阪市北區新川崎町
藥業新報			藥業新報社	大阪市西區江戸堀下通3-15
藥業時報	日刊	1月0.80	藥業時報社	東京市神田區鎌倉町13(電・神田3124)
藥石日報	日刊	年8.50	藥石日報社	大阪市西區江戸堀下通3-35(電・土佐堀3550)
藥叢			藥叢社	京都市上京區寺町竹屋町
藥友新報			藥友新報社	大阪市天王寺區逢坂上ノ町

13. 染料及染色

色染	年3回	年1.60	福井高工色染會	福井市外牧ノ島(電・福井268)
染織	10日	0.50	染織文化社	大阪市住吉區北畠中町1-1
染織時報	27日	0.50	大日本織物協會	東京市京橋區1-2 千代田證券ビル
染料と藥品	年4回	非賣	タール化學同業會	大阪市此花區春日出町日本染料製造株式會社内(電・土佐堀3500)

14. 顏料、塗料及印刷インキ

大阪印刷インキ材料同業會々報			大阪印刷インキ材料同業會	大阪市此花區上福島北1-14
大阪塗料工業新報			大阪塗料工業新報社	大阪市住吉區天王寺町3485
色材協會誌	1日	0.60	色材協會	東京市京橋區京橋1-2 千代田證券ビル(電・京橋4416)
染料塗料工業藥品新報	15日	1ヶ年 3.00	工業藥品新報社	東京市淀橋區柏木3-343(電・四谷7271)
塗工の魁	月2回	年3.00	塗工の魁新聞社	大阪市港區八幡屋松ノ町1丁目(電・西2278)
塗料			日本ペイント株式會社	大阪市淀川區浦江北町(電・福島2561)
塗料工業	偶數月20日	0.30	東京塗料出版會	東京市大森區新井宿7-93
塗料新聞			塗料新聞社	東京市神田區鍛冶町1-1 今川會館内
塗料の研究	隔月1回	非賣	關西ペイント株式會社	尼崎市神崎365
東京印刷インキ材料商組合報			東京印刷インキ材料商組合	東京市京橋區銀座西5 對龍館内

書名	發行日	定價	發行所	住所
東京塗裝工業新聞			東京塗裝工業新聞社	東京市世田ヶ谷區玉川世田町1301
阪神塗料製造技術員懇談會報告	15日	0.35	塗料之魁新聞社	大阪市港區八幡屋松ノ町1丁目(電・西2278)
ペイント	隔月1回	非賣	東亞ペイント製造株式會社	大阪市西淀川區高見町1-36(電・土佐堀7990)

15. 寫眞

アサヒ、カメラ			大阪朝日新聞社	大阪市北區中之島3
カメラ			アルス	東京市神田區神保町3-13(電・九段2175～6)
寫眞日報			東京寫眞專門學校	東京市澁谷區幡ヶ谷2-325(電四谷4813)

16. 石鹼、油脂、香料及化粧品

小川香料時報			小川香料店	大阪市東區道修町2-45(電・北浜666～7)
大阪化粧品商報			大阪市化粧品商報社	大阪市南區博勞町2
大阪石鹼商報			大阪石鹼商報社	大阪市東區船越町1-40(電・東5185)
小間物雜貨商報			小間物雜貨商報社	大阪市北區北久寶寺町2丁目
神戸油脂日報			神戸油脂日報社	神戸市榮町3-16
神戸藥粧業界商報			神戸藥業界商報社	神戸市
東京小間物化粧品商報	週刊		東京小間物化粧品商報發行所	東京市日本橋區馬喰町3-3(電浪花1171～2)
東京油界新報			中央經濟新報社	東京市日本橋區蠣殼町3-8-2(茅場町6300～1)
日刊商業新聞			日刊商業新聞社	大阪市東區京橋2丁目
油界日報			中央經濟新報社	東京市日本橋區蠣殼町3-8-2(電・茅場町6300)
油業報知新聞	日刊	半ヶ年 13.00	日刊油業報知新聞社	東京市京橋區新川2-2
吉原製油旬報			吉原製油株式會社	大阪市北區中之島3丁目

17. ゴム

大阪ゴム醫療機新聞			大阪ゴム醫療機新聞社	大阪市東區平野町2-11
護謨工業			日本護謨工業組合聯合會	神戸市神戸區北長狹通4-1
護謨時報			東京ゴム同業組合護謨時報出版部	東京市日本橋區本町1-2 實業聯合館三階(電・日本橋63)
ゴム	25日	年0.60	平泉洋行出版部	東京市荏川區尾久町5-778 電下谷776・1875)
ゴム機械商報			東京藥業ゴム機械商報社	東京市日本橋區本石町3-14(電・日本橋3522)

書名	發行日	定價	發行所	住所
ゴム工業時報	旬刊	6ヶ月 3.00	ゴム工業時報社	神戸市林田區大塚町4-27
ゴム新報			ゴム新報社	東京市下谷區上野櫻木町17
ゴム通信			ゴム通信社	大阪市此花區上福島北3-138 (電・福島2802)
ゴム報知新聞	10日 20日	1ヶ年 3.00	ゴム報知新聞社	大阪市天王寺區南河堀町17 (電・天王寺2220)
鮮滿ゴム			鮮滿ゴム新聞社	朝鮮京城府吉野町1-127
東京藥業ゴム器械商報			東京藥業ゴム器械商報社	東京市日本橋區本石町3-14 (電・日本橋3522)
東洋ゴム新聞			東洋ゴム新聞社	神戸市神戸區北長狹通7-16
南洋栽培協會報			南洋栽培協會	東京市麹町區丸ノ内2-2 丸ビル内(電・丸ノ内607)
日本護謨協會誌			日本護謨協會	東京市麹町區丸ノ内3-6(電・丸ノ内5502)
日本ゴム新聞			日本ゴム日報社	神戸市神戸區榮町3-16

18. セルロイド及プラスチックス

大阪セルロイド新報			大阪セルロイド社	大阪市東成區猪飼野378
日本可塑物新報			日本可塑物新報社	大阪市東淀川區三津屋町北通4
日本セルロイド時報	1日	1ヶ年 2.04	日本セルロイド時報社	奈良縣生駒郡富雄村三碓71
プラスチックス工業	4日	0.20	大阪工研協會	大阪市北區扇町 大阪市立工業研究所内(電・4901)

19. 化學纖維（製紙、人絹、人綿及紡織）

絹織研究	15日	0.30	北陸機械鐵工新聞社	金澤市尾張町61(電・金澤149)
蠶業新報	20日	0.25	蠶業新報社	東京市京橋區銀座西1 實業ビル(電・京橋1276)
蠶絲界報	1日	年3.80	大日本蠶絲會	東京市麹町區有樂町1-7(電・丸ノ内836)
紙業月報	15日	0.20	東京紙商同業組合	東京市神田區駿河臺3-6-1(電・神田1961)
紙業雜誌	5日	0.30	日本紙業聯合會	東京市麹町區丸ノ内2-11(電・丸ノ内691)
紙業日々新聞			紙業日々新聞社	東京市神田區淡路町1
人絹			日本人社	東京市京橋區銀座西5日本人社
人絹界	15日	0.50	人絹と羊毛社	大阪市浪速區元町2-53(電・浪速2879)
人絹協會ニュース			人絹協會	桐生市東町1-195
ステープル・ファイバー			日本紡績研究會	大阪市北區堂島濱通堂ビル内
纖維工業			纖維工業會	福井市福井高工内

書名	發行日	定價	發行所	住所
纖維工業學會誌	20日	0.50	纖維工業學會	東京市目黒區大岡山東京工業大學紡織科内(電・高輪7890)
纖維素工業	15日	0.60	纖維素協會	東京市本郷區本富士町東大應化厚木教室内
纖維文献集	20日	0.60	纖維文献刊行會	大阪市西區京町堀1-45紡織雜誌社内(電・土佐堀240)
大日本紡績聯合會月報			大日本紡績聯合會	大阪市東區備後町3-8 綿業會館(電・本町1150)
帝人タイムス	1日	0.25	帝國人造絹絲株式會社	大阪市北區中之島2-25江商ビル(電・北濱4681)
內外人絹時報			內外人絹時報社	大阪市東區北久太郎町3-15 (電・船場1756)
日本織物新聞			日本織物新聞社	大阪市西區阿波座中通1-88
日本蠶絲總覽	25日	0.40	蠶絲化學研究會	長野縣上田市
日本紡績通信			日本紡績通信社	東京市日本橋區堀留町2-8
福井レーヨン特報			福井レーヨン特報社	福井市佐佳枝中町15
紡織界	1日	0.50	紡織雜誌社	大阪府泉北郡高石町羽衣58 (電・濱寺2269)
紡織時報	5日	0.55	紡織時報社	大阪市港區東田中町4-59
紡織と人絹	1日	0.50	エンヂニヤリング社	大阪市北區曾根崎上3-8(電・1221)
紡織之日本	1日	0.50	日本紡織研究所	大阪市北區堂島濱通1 堂ビル内(電・5890)
綿業時報			綿業倶樂部	大阪市東區備後町3
羊毛界	8日	0.80	紡織雜誌社	大阪府泉北郡高石町羽衣58 (電・濱寺2269)
レーヨン			日本レーヨン同會	京都市上京區智惠光院通一條上ル
レーヨンエーヂ	15日	0.70	レーヨンエーヂ社	大阪市北區絹笠町 大江ビル(電・北1215)

20. 醱酵製品（酒、醬油、砂糖及清涼飲料）

大阪酒醬油新聞			大阪酒醬油新聞社	大阪市北區上福島中59(電・福島421)
酒醬油新聞				京都市下京區殺小路通寺町西入
醸界新聞				大阪市南區瓦屋町4番町61
醸造學雜誌	10日	0.50	大阪醸造學會	大阪市北區東野田町大阪帝大工學部
醸造公論			東京醸造公論社	東京市京橋區新川1-3-4
醸造試驗所報告			醸造試驗所會	東京市澁谷川區澁谷川町97 (電・駒込5-389)
醸造新報週間				大阪市西淀川區大仁町1-5
醸報			醸報知新聞社	大阪市西淀川區浦江南2-16-3

書名	發行日	定價	發行所	住所
製糖化學彙報			製糖化學教室	臺北帝國大學理農學部內
清涼飲料	10日	0.20	日本清涼飲料協會	東京市神田區仲町2-12(電・下谷471)
臺灣總督府糖業試驗所報告			臺灣總督府糖業試驗所	臺灣臺南市
日本釀造新聞			日本釀造新聞社	東京市日本橋區芳場町1
帝國飲料新聞			帝國飲料新聞社	大阪市北區木幡町59(電・北5305)
東京牛乳新聞	5日	0.30	牛乳新聞社	東京市豐島區巢鴨5-1130(電・大塚925)
帝國酒醬油新聞				東京市京橋區勢川1-6
日本釀造協會雜誌	15日	0.45	日本釀造協會	東京市瀧野川區瀧野川町91(電・駒込5・339)

21. 農產及農藝化學

植物學雜誌	20日	年9.00	日本植物學會	東京帝大理學部植物學教室內
大日本農報	15日	0.50	大日本農報社	大阪市住吉區田邊本町3-4
日本農藝化學會誌	10日	0.90	日本農藝化學會	東京帝國大學農學部內(電・小石川198～9)
農業	1日	0.40	大日本農會	東京市赤坂區溜池1(電・赤坂257)
農業雜誌	1日	0.15	日本農事協會	東京市神田區鍛冶町3-8
農業世界	20日		博文館	東京市日本橋區本町(電・日本橋1301～6)
農業と機械	1日 15日	0.20	農業と機械社	東京市赤坂區一ツ木町31
農事試驗場彙報			農林省農事試驗場	東京市瀧野川區西ケ原町
農事電化	20日	0.30	農事電化協會	東京市麹町區有樂町1-3-6 電氣倶樂部內(電・丸ノ內1943)
農林時報	1日	0.60	富山縣立農事試驗場	富山市外掘川町太郎丸
北海道農會報	10日	0.12	北海道農會	札幌市北四條通西7丁目(電・367)

22. 水產及食品

水產界	1日	0.30	大日本水產會	東京市赤坂區溜池町1(電・赤坂87)
水產研究誌	1日	0.50	樂水會	東京市深川區越中島6 (電・本所83)
水產公論	1日	0.40	水產社	東京市麹町區丸ノ內3-3(電・丸ノ內1842)
日刊食品新聞			日刊食品新聞社	大阪市南區鑄町通2-3
日本飲食料新聞			日本飲食料新聞社	大阪市南區末吉橋通4-90
冷凍	1日	0.50	日本冷凍協會	東京市京橋區銀座西3-1 建築會館(電・京橋4415)

書名	發行日	定價	發行所	住所
23. 航空				
航空研究所彙報	1日	0.75	東京帝國大學航空研究所	東京市目黒區駒場町(電・青山5760～3)
航空研究所報告	15日	0.55	東京帝國大學航空研究所	東京市目黒區駒場町 電・青山5760～3)
航空事情			陸軍航空本部	東京市麹町區華町2 (電・九段3110～3)
航空時代			航空時代社	東京市麹町區內幸町1-7 幸ビル(電・銀座6525)
日本航空學會誌	5日	1.00	日本航空學會	東京市芝區田村町1-3 飛行會館(電・銀座0677)
飛行	1日	0.30	財團法人帝國飛行協會	東京市芝區田村町1-3 (電・銀座0677)
滿航	5日	0.25	滿洲航空株式會社	奉天商埠地經路九緑路3

24. 雜(特許、組合、團體會報)

愛知商工			愛知商工館	名古屋市中區新栄町陸ビル內
エンヂニヤリング	1日	0.50	エンヂニヤリング社	大阪市北區會根崎上3-8(電・北1221)
大阪工業倶樂部			大阪工業倶樂部	大阪市大阪帝大內(電・東67～8)
大阪之商品	1日	0.30	大阪之商品編輯部	大阪市西區立賣堀北通1丁目立賣堀ビル
技術日本	8日	0.30	日本技術協會	東京市神田區錦町1-6
學士會月報			學士會	東京市神田區錦町3-13(電・神田1181)
軍事と技術	1日	0.25	陸軍技術本部	東京市荏橋區百人町4-519(電・四谷556)
工業教育			工業教育振興會	東京市荏原區中延町1100
工人			日本工人倶樂部	東京市神田區錦町1-12
臺灣技術協會誌	隔月1回		臺灣技術協會	臺北市明石町1-1 臺灣總督府官房營繕課(電・2132)
清和	10日	非賣	清和倶樂部	東京市品川區上大崎4-239
東京工業組合時報	5日	0.10	工業組合中央會東京支部	東京市麹町區丸ノ內2-1 東京府廳商工課內(電・丸ノ內941)
東京工場時報			東京工場協會	警視廳工場課
東京商工奬勵館報	1日16日		商工奬勵館	東京市麹町區丸ノ內3-1
特許公報	週3回		特許局	東京市麹町區三年町1
特許と商標		0.40	辨理士會	東京市麹町區三年町1
包裝新報			包裝新報社	東京市豐島區西巢鴨町揚之內161
滿洲の技術	15日	0.70	滿洲技術協會	大連市東公園町35
萬博	15日	0.10	日本萬國博覽會協會	東京市麹町區有樂町1-2 常盤生命ビル
躍進工業			工業組合中央會大阪支部	大阪府東區大手前大阪府工務課內

化學工業關係有名外國新聞雜誌

發行回數 A（年一回）M（月一回）M（月二回）B-M（二ヶ月に一回）
Q（年四回）S-W（週二回）D（日刊）S-A（年二回）W（週刊）
(A) 米國 (E) 英國 (F) 佛國 (G) 獨逸

Analyst (E)	Jan.-Dec. only S-M	27.00
Annales de Chimie (F) *ex. Aug. & Sept.*	Jan.-Dec. only 10 Nos.	18.00
Annales de chimie analytique (F)	Jan.-Dec. only M	9.40
Archiv d. Pharmazie u. Berichte d. deutschen Pharmazeut. Gesellschaft (G) (Jan. J.)	9 Hefte	22.80
American Perfumer & Essential Oil Review (A)	One year only M	14.20
Archives of Internal Medicine (A)	M	20.80
Berichte d. Deutschen Chemischen Gesellschaft (G)	*(Jan. J.)* M	81.70
Berichte d. Deutschen Keramischen Gesellschaft (G)	M	67.60
British Chemical Abstracts Series B (E)	Jan.-Dec. only M	66.20
British Chemical and Physiological Abstract A (E)	3 Section	108.00
British Medical Journal (E)	W	63.70
Brennstoff-Chemie (G)	24 Hefte	60.00
Bulletin de la statistique générale de la France (F) *with Monthly Supplements*	Oct.-Sept. only Q	15.60
Bulletin de la Société chimique de France (F)	Jan.-Dec. only S-M	34.80
Cement & Lime Manufacture (E)	M	10.20
Ceramic Age (A)	M	14.80
Ceramic Industry (A)	M	22.30
Céramique (F)	M	21.20
Chemical Abstracts (A)	Jan.-Dec. only S-M	52.40
Chemical Age (E)	W	23.40
Chemical Industries (A) *with Chemical Guide Book*	M	13.90
Chemical of the Ceramic Society (E)	Jan.-Dec. only M	44.30
Chemical Reviews (A)	Jan.-Dec. only B-M	34.50
Chemical & Metallurgical Engineering (A)	M	15.00
Chemical Newspaper (E)	W	10.00
Chemical Trade Journal (E)	W	21.00
Chemiker-Zeitung (G)	104 Nrn.	54.90
Chemische Apparatur (G)	24 Hefte	24.60
Chemische Industrie (G) (Jan. J.)	W	50.00
Chemisches Zentralblatt (G) (Jan. J.)	W	220.70

Chemistry & Industry (E)	Jan.-Dec. only W	75.50
Chimie et industrie (F)	Jan.-Dec. only M	95.20
Deutsche medizinische Wochenschrift (G)	W	42.00
	für Studenten	38.00
Dyer, Textile Printer, Bleacher & Finisher (E)	One year only F	9.50
Enzymologia (Holland)	1 Vol. @ *6 Nos.*	30.90
Facts About Sugar (A)	M	17.30
Farbe u. Lack (G)	W	33.40
Farben-Zeitung (G)	W	36.10
Farbenchemiker (G)	M	21.50
Fuel in Science & Practice (E)	M	21.30
Gazetta Chimica Italiana (Italy)	Jan-Dec. only M	40.20
Glass Industrie (G) (Jan. J.)	W	47.60
Glass Industry (A)	M	10.40
Helvetica Chimica Acta (Spain)	1. Vol. @ 7 *Nos.*	26.40
Hoppe-Seyler's Zeitschrift f. physiologische Chemie (G)	*Ca 7 Bde. á 6 Hefte* pro *Bd. Ca*	15.50
Ice & Refrigeration (A)	M	13.90
Industrial Chemist (E)	M	11.00
Industrial & Engineering Chemistry (A)	Jan.-Dec. only three Ed.	31.70
	Industrial Ed. only M	15.80
	News Ed. only S-M	7.90
	Analytical Ed. only M	11.60
	with Chemical Abstracts	77.50
	with Jol. of Am. Chem. Soc.	63.50
	Above three combined	111.50
India Rubber Journal (E)	W	14.00
India Rubber World (A)	M	15.00
International Sugar Journal (E)	M	15.60
Journal de chimie-physique (F)	Jan.-Dec. only 10 Nos.	17.30
Journal f. praktische Chemie (G)	*Ca 3 Bde. á 12 Hefte* pro Bd. *Ca*	16.90
Journal of Experimental Medicine (A)	Jan.-Dec. or July-June only M	20.00
Journal of Indian Chemical Society (India)	M	22.10
Journal of Organic Chemistry (A)	B-M	22.40
Journal of Physical Chemistry (A) *ex, July-Sept*	Jan.-Dec. only 9 Nos.	38.00
Journal of Scientific Instruments (E)	*pub'd Monthly* 1 Vol.	27.00
Journal of the American Medical Association (A)	W	39.00
Journal of the American Ceramic Society (A)	One year only M	53.50
Journal of the American Chemical Society (A)	Jan.-Dec. only M	37.10

..... with Chemical Abstracts		82.00
..... with Ind. & Eng' Chemistry		63.50
..... Above theree combined		111.50
Journal of the American Leather Chemists Association (A)	M	45.00
..... to Libraries or Schools		41.40
Journal of the Chemical Society (E) ..... Jan.-Dec. only	M	58.50
If combined with "British Chemical Abstracts. Series (A)"		105.00
Journal of the Franklin Institute (A)		
Journal of the South African Chemical Institute (E)		
Journal of the Institute of Brewing (E)	M	38.00
Journal of the International Society of Leather Trade Chemist (E)	M	27.00
Journal of the Society of Dyers & Colourists (E)	M	44.60
Journal of the Society of Glass Technology (E) ..... 1 Vol. @ *6 Nos.*		44.50
Keramische Rundschau u. Kunst-Keramik (G)	W	26.10
Kolloid-Beihefte (G) (*Ergänzungshefte z. Kolloid-Zeitschrift*) ..... 2 Bde. *á 12 Hefte*		20.20
Kolloid-Zeitschrift (G) ..... 4 Bde, *á 3 Nrn.*		90.90
La Chimica e l'Industria (Italy)		
Leather Goods (E)	M	8.50
Leather Manufacturer (A)	M	7.10
Liebigs Annalen d. Chemie (G) ..... 2 Gruppen *á 4 Bde. á 3 Hefte*		88.30
L'Industrie chimique (F)		24.10
Mikrochemie (Austria) ..... *Ca 2 Bde.* pro Bd. *Ca*		57.50
Mining and Metallurgy (A)		13.80
Monatshefte f. Chemie (Austria) ..... *á 2 Bde.* pro Bd. *Ca*		41.70
Natural and Applied Science Bulletin (Manila)		
Oil & Colour Trades Journal (E) ..... Jan.-Dec. only	W	18.00
Oil & Gas Journal (A)	W	21.70
Paper Industry (A)	M	10.40
Paper Trade Journal (A)	W	20.70
Papier-Fabrikant (G)		43.20
Perfumery & Essential Oil Record (E)	M	17.90
Petroleum Times (E)	W	35.80
Pharmazeutische Zentralhalle f. Deutschland (G)	W	24.50
Platinum and Allied Metals (E)		
Pulp & Paper of Canada (Canada) ..... 13 Nos.		22.40
Recueil des travaux chimiques des Pays-Bas et de la Belgique (Holland) *ex. Aug. & Sept.* ..... 10 Nos.		32.20
Revue Générale des Matières Colorantes (F)		
Sammulung chemischer u. chemisch-technischer Vortraege (G) ..... zwanglos		versch

Science Abstract (A)		
Sprechsaal f. Keramik, Glass u. verw. Industrien (G)	W	46.60
Tonindustrie-Zeitung (G) ..... 103 Nrn.		30.30
Transactions of the Electro-Chemical Society (A)		
..... *Ca 2 Vols.* per Vol. *Ca*		25.00
..... to Libraries & Colleges *Ca*		15.80
Transactions of the Faraday Society (E) ..... Jan.-Dec. only	M	57.00
Transactions of the Ceramic Society (E) ..... Jan.-Dec. only	M	44.20
Vierteljahrschrift der Naturforschenden Gesellschaft (G)		
Zeitschrift d. Vereins deutscher Chemiker (G)		
Teil *A*: Angewandte Chemie (Jan. J.)	W	55.90
Teil B: Chemische Fabrik (Jan. J.) ..... 26 Nrn.		35.30
Teil A u. B		88.30
Teil A u. B mit Chemische Industrie		133.90
Teil A mit Chemiche Industrie		101.50
Zeitschrift f. analytische Chemie (G) ... *Ca 4 Bde. á 12 Hefte* pro Bd. *Ca*		27.10
Zeitschrift f. anorganische u. allgemeine Chemie (G)		
..... *Ca 5 Bde. á 4 Hefte* pro Bd. *Ca*		22.20
Zeitschrift f. Elektrochemie (G) (Jan. J.)	M	52.60
Zeitschrift f. Metallkunde (G)	M	34.10
Zeitschrift f. physikalische Chemie (G)		
Abt. A: Chemische Thermodynamik, Kinetik, Elektrochemie, Eigenschaftslehre ..... *Ca 4 Bde.* pro Bd. *Ca*		29.70
Abt. B: Chemie d. Elementarprozesse. Aufbau d. Materie ..... *Ca 4 Bde.* pro Bd. *Ca*		29.70
Zement (G)	W	37.00

Acta Physicochimica URSS (R)	M	28.00
Allgemeine Oel- u. Fett-Zeitung (G)	M	17.90
Chaleur et industrie (F)	M	9.70
Deutsche Parfümerie-Zeitung (G) ..... 24 Nrn.		41.70
Journal de pharmacie et de chimie (F)	S-M	10.70
Journée industrielle (F)	D	34.90
Nitrocellulose (G)	M	25.00
Zeitschrift f. Untersuchung d. Lebensmittel (G) ..... 2 Bde. á 6 Hefte		105.90
Zhurnal fizicheskoi (R)	M	21.00
Zhurnal khimicheskoj promyshlennosti (R)	S-M	35.00
Zhurnal prikladnoj khimii (R)	M	21.00

主要化學工業關係會社要覽

蘆溝橋事件に端を發した支那事變はその戰局が擴大進展するに伴つて株式市場に大動搖を與へた。頭初の樂觀氣配は事件の本質を識るに及んで漸次悲觀的となり、恐慌となり、恐慌相場の現出となつたのである。然るに南京攻略近しの報を轉機として8月以來相場は順次上騰歩調に轉じ、今や南京陷落で完全な戰勝相場の出現をみるに至つた。此の間未だ底流する一部弱氣筋の警戒氣配は無きにしもあらずではあるが、素々戰爭の武力的且つ經濟的の終結期を豫想し得ざる現在、且又今事變が復雜多岐に亘る事由から生じた事柄を併察すれば、軟弱氣配が市場の一部に底流するとも强ち不思議とするに足りない。又斯る氣配が今後持續するにしても、時局の進展は之れが擴大强化を容易ならしめざる範圍外にある。敢へて意とする必要は毫も無い。現下の株式市場は、少くとも時局株を中心とみる限り樂觀的氣配に指導、支持されてゐると云つて差支ひないのである。

一方之れが中心樞抽となる化學工業方面の生產經營は如何と云ふに、少くとも相場に現れたる以上の本質的躍進を遂げてゐると云ふ事が出來る。試みに時局關係事業を四項に大別して、設備擴張費に向けられたと見做し得る拂込金の增減表を揭げると、

（單位百萬圓）

	10年	11年	12年（9月迄）
機械造船工業	23	72	187
金屬工業	4	22	47
纖維工業	2	13	111
化學工業	49	39	253
小計	77	146	598
其他	158	288	447
合計	235	434	1045

上表に依り11年度と12年度の增加割合を對比すると、纖維業の8.5倍を最高に化學工業の6.5倍、機械造船工業の2.6倍、金屬工業の2.1倍を最低として何れも急激な膨脹振りを示してゐる。卽ち前記四者に依つて本年9月迄に約6億の巨費が生產擴張費に充當されてゐる。昨年度分の4倍に當る。而も擴張は引續き敢行されてゐるから12年末には恐らく7億に達しやう。此の間其他事業卽ち平和事業の增加率は僅か1.6倍しかないのをみても時局產業に對する膨脹が如何に急激であつたか、推察するに難くない。生產擴張が需要を對比して行はれてゐることを想起すれば化學工業部門が產業の實質的樞抽をなすのと見て差支ひあるまい。一部では戰時過度期に於ける急激な膨脹は設備の粗惡化乃至は製品精蜜度の低下から將來平和產業の復活に際しての反動を極端に警戒視する向きもあるが、此れは當を得たるものとは思はれない。

少くとも化學工業施設が戰時品、平時品を問はず自然に需要に順應し得る用意を常備してゐるを考察すれば平時に於ける對策も十分なるものがあると見做し得るのである。從つて今後とも積極的活躍發展を辿ること言を俟ぬ次第である。

【備考】 記事中優は優先株、特は特別配當、無は無配當、△は年一回決算、×は配當落、▲は新株株落の賂、利廻りは該期配當を基礎に算出した。

（12月12日記）

事業	銘柄	資本金（千圓）	拂込總額（千圓）	一株拂込（圓）	配當 12年(%)	株價（圓）	利廻（%）
輕金屬工業	日本電氣工業	50,000	31,250	50.0	下10.0	70.5	7.10
	同　新			12.5		30.0	4.13
	時局に惠れて中心事業たるアルミ部門が確立されたる時に當り當社は二分減配を斷行した。畢竟するに前途の安泰を慮つた爲めである。今後とも時運に棹さして良好なる成績は維持されよう。						
	日滿アルミニウム	10,000	8,750	50.0	下 8.0	79.7	5.02
	同　新			37.5		67.1	4.48
	東北興業と提携して東北振興アルミを創立した。同時に原料供給を兼ねる意圖から倍額增資を斷行設備擴張を行ふ。原料、電力方面も最近漸く安泰の域に到達したので期待出來る。						
	日本アルミニウム	10,000	10,000	50	下 6.0	89.20	3.34
	年產6千噸設備完成に併せて目下2千噸の增設工事を行つてゐる。此れに伴ひ1千萬圓增資も決定した。問題の配當も下期行つた。13年以降生產の順調化と俟つて增配も期待出來る。						
カーボン工業	日本カーボン	1,750	1,750	50.0	上普10.0 特 2.0	×63.00	9.63
	昭和電極との提携に成功して去る10月25萬圓を增資した。其他炭素製品の擴張、活性炭、研磨劑の生產計畫があり具體化するとすれば再增資も考へられる。時局に惠れて最近業績も好轉しかけた際一層此の感が深い						
	東海電極製造	6,000	3,500	50 0	上 12.0	×88.00	6.43
	同　新			37.5		×47.90	4.61
	12月末新株第3回12圓50錢を徵收した。最近時局の影響に伴ひ需要增大せるに鑑み工場擴張費に充つる爲めだ。原料騰貴で收益こそ大巾の增收は見込ぬが今後の成績は十分期待出來る。						
肥料工業	日本窒素肥料	200.000	117,500	50.0	上10	×87.1	5.76
	同　新			12.0		×39.0	3.10
	前3期間の平均利益率13.5%に對して、10%配當維持は窮屈である。しかし非常に好調を示す仔會社の朝窒及び長津江水電の配當を抑制した上でのことであるから彈力性を有つと云へよう。北鮮に於ける大膽な各種化學工業の積極策は刮目すべきである。						
	住友化學工業	40.000	25.000	90.0	上普8.0 特2.0	95.6	5.24
	同　新			12.5		46.2	2.73
	肥料部門は確立された。今後は硫安の增產で手遲れとなつてゐた諸工業藥品の分野へ進出することが窺はれる。餘裕含みの業績であるから先づ不安はない。						

事業	銘柄	資本金（千圓）	排込總額（千圓）	一株排込（圓）	配當 12年(%)	株價（圓）	利囘（%）
肥料工業	ラサ工業	25,000	12,000	50.0 12.5	下12%	107.6 51.5	5.57 2.92
	過燐酸、燐礦石、藥品は普通であるが、問題の田老鑛山が愈々利益を生み出した。進んで含銅硫化鐵鑛の製煉に乘り出す筈であるが、實現すれば業績は今後一層の好轉を期待される。						
	朝日化學肥料 同　新	5,000	3,000	50.0 25.0	△12%	——	——
	當社は新興肥料會社として賣出して來た。過燐酸及び化成肥料設備の優秀と原料自給が强味であるが、本年は愈々硫安計畫に著手する。經營が堅實でしかも積極的であるから新味を有つと云へよう。						
	帝國人肥 同　新	3,500	1,812,5	50.0 12.5	8%	——	——
	當社は過燐酸會社として永らく不振狀態を續けたが、最近肥料より硫酸及び人造氷晶石等藥品方面への主力轉換策により漸く業績を强化し得たが未だ舊套を脫しきれぬ憾みがあるので樂觀は出早である。						
	電氣化學工業	28,000	28,000	50.0	上10.0	× 78.0	6.40
	電力の不安から自社製品に對し兎角の不便を感じてゐたが、コークス法の完成に依り電力不安は除去された。和賀川開發は東北興業と提携し低燐鐵、カーバイドの生產に振向けられる。13年春倍額增資を行ひ資產內容の均衡を計る意圖である。						
	昭和肥料 同　新	30,000	22,500	50.0 25.0	上10.0	83.6 54.8	5.98 4.50
	硫安增產完成を機として今後の原料對策に腐心してゐる。八甲田山の硫化鐵、北海道盥金炭鐵の買收がそれだ。原料自給が達成された時當社の强味は一段と增さう。13年4月2千萬圓增資が內定してゐる。						
	日產化學工業	62,000	62,000	50.0	上10.0	——	——
	過燐酸製造會社として著名な大日本人造肥料と日本炭礦の合併に依り設立された新會社である。日產を資本背景としてその有する資源を自在に使用し今後積極的に業界に進出する。目下朝鮮鎭南浦に新工場建設中、明年末完成の上過燐酸、硫酸の生產開始の豫定である。						
	滿洲化學工業	25,000	18,750	37.5	上7.0	× 48.0	6.20
	硫安增產6萬噸は昨11月完成して現在操業途上に在る。從來の24萬噸を合し30萬噸設備を有する樣に成つた。更に硫化鐵自給策から靑森縣下某鑛山の買收計畫がある。實現するにしても目下の狀勢では資金徵收困難な實狀だ。						

事業	銘柄	資本金（千圓）	排込總額（千圓）	一株排込（圓）	配當 12年(%)	株價（圓）	利囘（%）
肥料工業	東洋高壓工業	25,000	18,750	37.5	× 7.0	× 48.0	6.20
	12年1月三池窒素との合併に依り硫安年產能力は27.7萬噸となつた。右に伴ひ生產費も著しく低下され併せて經營の合理化で今後益々强味發揮とならう。化成肥料計畫は調整法に牴觸の恐れがある爲め一時中止の態となつたが、甘味のない現在大した影響はない。						
硫黃品工業	日本硫黃 同　新	2,000	1,750	50.0 37.5	上12.0	71.6 56.8	8.39 7.88
	精製硫黃販賣に多少の衰退を示したが、硫炭、硫黃鑛の兩部門は此れをカバーする成績を示した。名古屋工場建設は地元の反對で中止となり、岡山工場を擴張中にある。今後の增產が可能であると同時に需要方面も好調であるから十分な成績が維持されよう。						
	三共	12,000	12,000	50.0	上 8.0	72.10	5.57
	生產規模擴張の爲め12年12月最終未拂込12圓50錢を徵收した。調整法に牴觸するを見込して逸早く決定したのである。滿洲進出を企圖して大連工場の積極的整備を敢行してゐる。事變下に在つて甲乙のない成績を擧げ得る處に當社の强味がある。						
	鐵興社	10,000	7,5000	50.0 30.0	上12.0	——	——
	曹達、鹽酸、アンモニア、石灰窒素、醋酸人絹と尨大なる新計畫を樹て電源を立谷澤水力を開發充當の方針である。滿俺生產に於て嚴然たる强味を有する當社が上記計畫を具體化するとなれば一段と業績に寄與することとなる。今後配當維持に問題はない。						
	日本製鍊 同　新	10,000	4,463	50.0 17.5	上10.0	×64.6 ×29.0	7.73 6.57
	龜戶工場を分離して日本化學工業を再生せしめた。此れに依り出資收益と時局需要の增大で今後豫想以上の收益增大が豫定されてゐる。製品は複雜多岐に亘つてゐるがそれ丈けに今後の合理化經營に妙味がある。						
曹達工業	旭電化工業 同　新	5,000	3,500	50.0 25.0	上普10.0 特 .0	×85.6 ×44.1	5.84 5.66
	從來の消極經營を捨てて最近時局に對應する經營法を採用してゐる。その具體化としてバルブ、マグネシウムの進出がある。曹達油脂部門も好調であるから社業發展に問題はない。						

事業	銘柄	資本金（千圓）	拂込總額（千圓）	一株拂込（圓）	配當 12年(%)	株價（%）	利廻（%）
曹達工業	日本曹達	80,000	41,630	50.0	上12.0	79.7	7.48
	同　新			12.0		30.1	5.02
	過度期に於ける操業の常として兎角の風評もあつたが、時局の進展で此等は全く消滅した。アルミ事業も固定化するし、金融部門も確立した。目先軍需品を中心として進み得る處に當社の强味はある。減配論も擡頭してゐるが、行ふとすれば政策的なもので成績は寧ろ向上すべき筋合だ						
	北海曹達	6,000	4,500	50.0	上7.0	45.2	7.75
	同　新			25.0		23.6	7.42
	問題の新株拂込も完了して借金の返濟と鹽化物工場の擴充費に充當することとなつた。更に疑問視されてゐた染料方面への進出策も目鼻がついたので實現されることとなつた。今後に注目が出來る。						
	東洋曹達	1,250	662,5	30.0	——	——	——
	同　新			12,5			
	獨特の經營法を採用して進出してゐる。即ち當社は直接事業を行はずして仔會社たる昭和曹達を設立、此れに事業を代行せしめ毎期良好なる業績を收めてゐる。						
	保土ケ谷曹達	10,000	3,425	50.0	上10.0	64.0	7.81
	同　新			12.5		19.5	6.70
	待望の二倍半增資も實現され、火力發電の新設、此れに伴ふ苛性曹達、鹽化物の增產に着手することとなつた。更に硫黄自給策から富岡鑛業、鹿部鑛業を買收した。此等が稼行する迄には明年一杯を要する、從つてそれ迄は資本負擔となるが、妙味津々たるものがある。						
	德山曹達	20,000	15,000	50.0	上10.0	55.6	9.02
	同　新			25.0		29.6	8.92
	大アンモニヤ法會社としての地位は微動だもせぬが、經營は苦しい。當分は人絹會社への安値契約時代の傷手を醫やして行はねばならぬ。曹達一本の會社であるから斯界の狀勢に左右されるのが弱味である。						
	東洋曹達工業	10,000	6,500	50.0	上12%	71.0	8.45
	同　新			25.0		40.0	7.50
	資本金 2,000 萬圓の第二東曹を設立、今後は電解法をも採用して益々積極策を進めよう。最新のアンモニヤ法會社と云ふのが强味でコストが安いから、たとひ不況時代が到來しても充分切拔ける力を有つてゐる。						
	大阪曹達	2,000	1,500	50.0	上18%	114.0	7.92
	同　新			30.0		67.5	7.59
	電解曹達會社中の最優秀會社である。社內保留を非常に多く蓄積してゐるから、何か新計畫に乘り出すのではあるまいかと思はれる。12年上期の利益率は67%に達し18%の配當を續けてゐるが、かかる高率配當は時節柄考慮の要がある。						

事業	銘柄	資本金（千圓）	拂込總額（千圓）	一株拂込（圓）	配當 12年(%)	株價（圓）	利廻（%）
曹達工業	南海化學工業	4,150	2,175	50.0	上普7.0	55.7	7.10
	同　新			25.0	特3.0	31.0	6.40
	今迄は確かに立遲れてゐたが、最近曹達、硫酸方面から四鹽化炭素等の藥品方面へ進出、特に大垣製藥の合併以來積極的である。基礎確立迄は日子を要するが、先づ舊殼を脫した形である。						
染料工業	日本染料製造	15,000	13,000	50.0	上12%	136.0	4.30
	同　新			37.5		119.0	3.62
	當社の成績は益々向上してゐる。12年は原料高の影響を全面的に受けたが、增設工場の稼行と製品値上で補足し得た。本工場を擴張し盡し鶴崎工場の具體化策を進める。外國染料の輸入禁壓と自社染料輸出の增進で好調維持は當分續かう。						
	關西ペイント	3,000	2,000	50.0	8%	——	——
	同　新			37.5		——	——
	岩井一族で全株式を所有してゐるため市場性を有たないが、東西兩工場を有つ大塗料會社として絕えず新味ある經營を見せ技術も優秀である。12年度は各會社共通の原料昂騰に依る打擊も少かつたが、今後は未知數である。						
	帝國染料	2,500	2,035	50.0	上普10.0	70.0	8.59
	同　新			35.0	特 5.0		
	硫化ブラックの生產を中心として每期業績は躍進を示して來た。然し輸出の中心をなす支那市場が今事變で杜絕した爲め一時的ではあるが業績は低下を示さう。						
	日本ペイント	6,000	3,850	50.0	上8.0	56.20	7.01
	同　新			30.0		34.10	7.02
	原料は極度に昂騰を示してゐるが、製品賣値伴はずして玆許成績は餘り香しくない。期待を持つ需要方面も一般物は捗々しくなく特殊方面のみが幾分の望みを持れてゐる狀態だ。蓋し事變下の影響は大である。						
火藥工業	日窒火藥	1,500	750	12.5	無配	——	——
	日窒の仔會社である。資本金 100 萬圓 4/1 拂込の當社は12年10月資本金 50萬圓全額拂込濟の日東火工品會社を合併す。火藥界に永年亂賣を續けてゐるため未だに無配であるが、設備が最新優秀なのと原料自給の强味を有つ。						
	帝國火藥工業	10,000	3,100	15.5	上4.0	19.20	3.27
	日窒、日火の狹擊に遭つて悲境を辿つて來たが、今回日本油脂の傘下に馳せるに及んで局面は一變した。即ち從來の受身的立場から攻勢的地位を獲得した。グリセリンの自給、販路の獲得等その路は拓けた今後一割程度迄增配は可能な筋合にある。						

業種	銘柄	資本金（千圓）	拂込總額（千圓）	一株拂込（圓）	配當 12年(%)	株價（圓）	利廻（%）
火藥工業	日本火藥製造	10,000	7,901	50.0	上 普10.0	×116.6	9.(illegible)
	同　新			30.0	特10.0	× 67.0	9.1(illegible)
	多年業界の癌とされてゐた濫賣も終熄して一陽來復の春が訪れた、需要も時局柄增大すべき筋合にあるし業績の向上に間違ひはない。目先增配の壓迫はあるとしても問題にするに足らない。						
麥酒工業	大日本麥酒	94,000	59,800	50.0	上 12.0	112.0	5.(illegible)
	同　第二新			20.0		49.5	4.(illegible)
	時局柄賣足の鈍るのは當然である。從つて目先當社の業績に期待は持てぬ。これに併せて原料高の影響がある。目下手持安値の維持があるにせよ今後が問題だ。二分の減配も行はれるかもしれない。						
	麒麟麥酒	10,800	10,800	50.0	上 10.0	129.0	3.(illegible)
	調整法施行を前にして逸早く當社は未拂込を徵收した。廣島、山口兩工場の建設資金に充當する爲めだ。生產增加は望めるとしても需要方面に難關がある。來期以降は停頓狀態を示さう。						
	櫻麥酒	2,647	2,647	50.0	上 5.0	×42.7	5.(illegible)
	整理途上から一轉して東京進出を策してゐたが、今事變で有散霧消した出荷量も左程の惡化を示さず好調を示してゐる。それと云ふのも地盤が九州方面に限定されてゐる爲めだ。今後も此の程度の成績維持は可能であらう。						
	滿洲麥酒	2,000	2,000	20.0	上 6.0	×37.6	3.(illegible)
	待望の配當も豫想より大く 6 分を斷行した。それと云ふも第一工場に併せて第二工場が順調に操業を開始した爲めだ。內地と異り需要も好調であるから內地會社の樣に業績の低下する心配はない。						
	朝鮮麥酒	6.000	1,500	12.5	上 8.0	——	——
	需給惡化の傾向は朝鮮方面に迄進展してゐる。今期こそ影響は輕少であるが13年上期邊りから需要惡化は必至の狀態だ。それにしても生產費が此較的廉安であるから配當を落す樣な事はあるまい。						
製糖工業	鹽水港製糖	29,250	29,250	50.0	下 8.0	75.0	5.(illegible)
	豫定のコースに從つて12年下期は二分增配の 8 分增配を行つた。此れと同時にバガスパルプ、無水酒精の工業化を具體化す可く 6 千萬圓增資を決定した。目下主務省で審議中であるが、事業の性質上許可されやう。						

業種	銘柄	資本金（千圓）	拂込總額（千圓）	一株拂込（圓）	配當 12年(%)	株價（圓）	利廻（%）
製糖工業	沖繩製糖	7,500	7,500	50.0	3.0	23.0	6.60
	同　優先				△優 6.0	——	——
	無理矢理の決算で稼行を續けて來た結果內容的には何等見る可きものはない。更に關稅引下げは當社に多大の影響を與へることとなるが、政府も沖繩產業振興の見地から多少の補償を與へるといふ。何れにしても現狀では好轉など望む可くもない。						
	北海道製糖	5,000	5,000	50.0	△ 8.0	56.7	7.06
	同　優先					56.6	7.26
	增資も時局を考慮して一時見合せの態となつた。何時實施出來るか疑問であるが增資必至の型態に在る丈けに今後事業の遂行に多少の支障はあらう。						
	南洋興發	40,000	25,000	50.0	下 12.0	×91.0	6.52
	同　新			12.5		×40.9	3.92
	時局の影響を少しも受けてゐない強味を有する。卽ち當社は精糖を中心として無水酒精、護謨、燐礦石、樹脂其他化學工業部門に進出を策してゐる。多少砂糖方面が不調でも十分補ひ得られる。						
	帝國製糖	27,000	20,250	50.0	上 10.0	72.6	6.91
				12.5		25.7	4.82
	12年下期成績は未發表であるが、恐らく各社と同樣な歩みを續けると思はれる。13年以降は原價高と需要減退を見越されるから影響は大である採取區域に惠れない當社は更に重壓を附加しやう。						
	明治製糖	48,000	39,200	50.0	上 12.0	115.2	5.12
	同　新			30.0		82.4	4.32
	當社と云へ共12年下期に成績が頭打ちと思はれる。それを補ふ爲め種々の工策が研究されてゐる。その現れとして護謨事業の積極的進出となつた更にパルプ計畫もある。今後に妙味は殘される。						
	大日本製糖	61,970	56,333	50.0	下 12.0	103.1	5.82
	同　新			37.5		84.6	5.32
	下期成績は多少の成績低下を示した。然し配當維持に不可能ではなかつた。來年以降は尙低下を見込まれると思はれるが、結局化學工業部門進出に意を注いでゐるから十分補ひ得られるであらう。						
	臺灣製糖	63,000	43,080	50.0	下 12.0	118.7	5.02
	同　新			20.0		62.4	3.90
	今後の業績低下は必至の樣だ。然し當社には手許に有り餘る遊金を所持してゐる。配當持續には何等の懸念もない。業績低下の打開策としてパルプ計畫がある。實現迄に尙時日を要さう。						

事業	銘柄	資本金（千圓）	拂込總額（千圓）	一株拂込（圓）	配當 12年(%)	株價（圓）	利廻（%）
食品工業	日魯漁業	53,800	42,300	50.0	上10.0	62.2	7.95
	同 新			25.0		31.0	8.00
	漁業そのものは決して不成績でないにも拘はらず日ソ關係の惡化から兎角云々され不安視されてゐる。日ソ關係の不安は年中行事の一つである自由出漁の手もあるから一概の悲觀は無用である。						
	森永製菓	10,000	8,125	50.0	下7.0	59.8	5.86
	同 新			12.5			
	懸念視されてゐた增資も無事通過して資本金1千萬圓となつた。生產設備の擴張も具體化した現在當然とも云へる。事變關係で輸入菓子の禁止となり、需要範圍の擴大となつた。それ丈けに今後に期待が出來る。						
	明治製菓	10,000	7,234	50.0	下8.0	74.20	5.39
	同 新			25.0		43.10	4.02
	增稅の壓迫下に在つて當社業績は依然好調である。一に需要關係の好調に基くものである。此れに順應して川崎、笠間、札幌三工場の擴張計畫がある。實施後の成果は期して待つべきものがあらう。						
護謨工業	熱帶產業	6,500	5,525	42.5	上5.0	32.9	6.49
	壯年木が比較的少い關係から當社の生產量は少い。而も市價の低落影響を下期全體に受けた爲め業績低下は免れない。今後も此れと同樣なことが云へるが、配當は當分据置かれやう。						
	日本產業護謨	10,000	10,000	20.0	下20.0	43.2	9.01
	增資の目的はベニヤ板進出に在る。護謨事業そのものが大して悲觀すべき狀態ではないが、現下の狀勢では飛躍發展は望れない。そこで當社は事業の多角化を具體化したのだ。然し資本負擔の壓迫は13年下期邊りから現れるのではなからうか。						
	昭和護謨	10,000	5,000	50.0	上5.0	96.20	9.30
	豫想配當2割も護謨市價の暴落に遭つて5分下げの1割5分配當に落着いた。南亞公司を主體として農園經營栽培に自信を存してゐるから多少の市價低落があるにせよ相當の成績維持可能である。						
	ボルネオ護謨	5,000	2,000	20.0	上8.0	18.2	8.80
	拂込徵收說もあつたが時局發展と市價低落に依り今後の見遠し困難な爲め一時中止の態となつた。消極的經營から積極的に轉換を傳へられてゐたのが杜絕して玆許從來方針を踏襲することとならう。						

事業	銘柄	資本金（千圓）	拂込總額（千圓）	一株拂込（圓）	配當 12年 (%)	株價（圓）	利廻（%）
護謨工業	南國產業	3,000	3,000	50.0	上7.0	41.20	8.53
	同 新			40.0		30.60	9.16
	12年度上期は全面的に市價昂騰の影響を受け待望の7分配當を斷行した。借金返濟にも積極化してゐるから今後內容は好くなると思ふが、護謨市價の低落は相當の被害を受けやう。但し當社は紅茶、規那等を副業的に行つてゐるから他社とは幾分趣きを異にしてゐる。						
	馬來護謨公司	4,700	3,800	50.0	10.0	49.60	10.03
	同 新			35.0		32.10	11.02
	借金過多に惱む當社は6月1日第1、第2新株合計70萬圓を徵收して返濟に務めた。生產量も護謨園の買收に依り增大す可き筋合に在る。從つて多少の市價低落はあつても業績は幾分向上しやう。						
	南洋護謨	5,000	2,750	50.0	上10.0	59.6	10.05
	同 新			12.5		17.3	8.53
	二倍半增資を實現化した。資金調整法實施前に拂込を徵收したのであるから成功と云つて好い。增資の目的は護謨園の擴張にある此れに依り目先極端な增產は望めないにしても今後が樂しめる。現行配當は据置かれやう。						
	スマトラ護謨拓殖	8,000	3,500	50.0	上13.0	▲61.5	10.55
	同 新			12.5		▲20.6	8.1
	生產量は多いものの生產費は割高である。併せて市價低落、資本增加の壓迫、投資會社の未豫行が重壓して玆許業績は香しくない。然し過度期にある現在として止むを得ない點もある。一概の悲觀は無用である。						
皮革工業	山陽皮革	4,000	2,500	50.0	下8.0	58.0	8.62
	同 新			12.5		—	—
	日本皮革と並ぶ大皮革會社、12年下期400萬圓へ倍額增資すると共に大擴張を進めてゐる。皮革界の活況を滿喫するものの軍需會社の特質上配當を2%方落した。原皮を支障なく購入し得るから依然好調を續けやう						
	日本皮革	5,000	5,000	50.0	上普10.0 特 2.0	91.20	5.49
	事變に依り軍需用は增大し好況を示してゐるが、一面原皮の輸入が杜絕してゐるので事變が長引くとなると此の方面の心配がある。然し時局は可速度的に解決への途を辿つてゐるから心配はあるまい。						
	滿洲皮革	1,000	750	37.5	—	20.—	—
	滿洲國軍部と特殊關係にあり、需要先には何等の不安はないが、操業に兎角圓滑を缺いてゐる。それと云ふも原皮購入に難があるのと設立當初の計畫粗雜に基くものである。						

炭鑛工業

事業	銘柄	資本金(千圓)	拂込總額(千圓)	一株拂込(圓)	配當12年(%)	株價(圓)	利廻(%)
炭鑛工業	三菱鑛業 同 新	100,000	87,500	50.0 37.5	下 12.0	×127.20 ×108.10	4.5 4.07

採炭を中心として人油、錫、硫化礦、アンチモニー等最近當社は化學工業方面への進出は著しいものがある。何れも好調を示してゐるから問題は全然ないとみてよい。

事業	銘柄	資本金(千圓)	拂込總額(千圓)	一株拂込(圓)	配當12年(%)	株價(圓)	利廻(%)
炭鑛工業	磐城炭礦 同 新	10,750	9,100	50.0 22.5	繰越	56.0 28.2	—

住吉坑、綴坑出水に依り多大な打擊を受けたが、最早殆ど復舊し採炭を開始した。13年上期當りから採炭も順調化するであらうし、第二磐炭の合併も完了するから配當復活も當然期待出來る。

事業	銘柄	資本金(千圓)	拂込總額(千圓)	一株拂込(圓)	配當12年(%)	株價(圓)	利廻(%)
炭鑛工業	北樺太鑛業	10,000	5,000	25.0	△6.0		

日ソ關係の惡化からソ聯の火藥供給澁滯となり昨年期は二ケ月も採炭中絕となつた。而も日獨伊防共協定の成立は日ソ關係を益々惡化せしめることとなる。さすれば當社の操業にも間接的惡影響のあるは事明と云へる。

事業	銘柄	資本金(千圓)	拂込總額(千圓)	一株拂込(圓)	配當12年(%)	株價(圓)	利廻(%)
炭鑛工業	九州炭礦汽船 同 新	10,000	6,250	50.0 12.5	下 12.0	×112.0 × 54.3	5.40 2.70

從來の消極經營方針を捨てて積極的に採炭に進出する樣になつた。その現れが舊福津炭坑の復活である。右に依り增產も可能であるし其の上搬出の便を備へてゐるから成績は漸次躍進する見込み。

事業	銘柄	資本金(千圓)	拂込總額(千圓)	一株拂込(圓)	配當12年(%)	株價(圓)	利廻(%)
炭鑛工業	北海道炭礦汽船 同 優先	70,000	61,900	50.0	8.0	93.6 94.0	4.27 4.21

不需要期にも拘はらず賣炭高は增加を示し成績も良好であつた。生產方面の擴張も過般の拂込で實行中にある。13年夏頃迄には完成しやう。液化計畫も進捗を示してゐる。實現後の殘餘が期待出來る。

事業	銘柄	資本金(千圓)	拂込總額(千圓)	一株拂込(圓)	配當12年(%)	株價(圓)	利廻(%)
炭鑛工業	太平洋炭礦	11,000	9,900	45.0	7.0	49.20	6.47

小炭礦の買收完成で13年度から出炭高は增加する筋合にある。需要も增大を見越されてゐる際だけに十分期待出來る。更に當社は尨大な增產計畫がある。卽ち16年末迄に百萬瓲の增產設備を施すことだ。實現の可否は別として積極的に業界進出を策する當事者の態度は頷ける。

事業	銘柄	資本金(千圓)	拂込總額(千圓)	一株拂込(圓)	配當12年(%)	株價(圓)	利廻(%)
炭鑛工業	東邦炭礦 同 新	16.500	15,250	50.0 37.5	上 7.0	69.6 54.3	7.17 6.87

新東邦、大谷兩炭礦を合併して資本的に一流會社となつた。然し未だ斯業一流他社に比して遜色がある。今一步の努力が必要である。龜山炭坑の燒毀は新鋭會社丈けに影響も大であるが、今後出資の增加に俟つて追々良好な成績を維持しやう。

事業	銘柄	資本金(千圓)	拂込總額(千圓)	一株拂込(圓)	配當12年(%)	株價(圓)	利廻(%)
炭鑛工業	入山採炭 同 新	10,000	6,250	50.0 32.5	上 普10.0 特 2.0	90.6 68.2	5.53 4.77

12年上期は炭價昂騰と需要增加で記錄的成績を擧げた。更に發展を期する爲め大倉と提携して宇部炭田に進出し、直接經營の衝に當る樣になつた。斯業社中での將來性に富んだ會社と云へやう。

瓦斯工業

事業	銘柄	資本金(千圓)	拂込總額(千圓)	一株拂込(圓)	配當12年(%)	株價(圓)	利廻(%)
瓦斯工業	大阪瓦斯 同 新	51,000	42,500	50.0 25.0	10.0	83.4 47.2	5.96 5.21

一般需要の增大に倂せて副產物の値上りを全面的に受け業績は目覺しい躍進を示した。料金値下問題も解消したし、玆許好環境に惠れてゐる。難を云へば石炭の昂騰であるが。需要增加で影響は輕微である。

事業	銘柄	資本金(千圓)	拂込總額(千圓)	一株拂込(圓)	配當12年(%)	株價(圓)	利廻(%)
瓦斯工業	神戶瓦斯 同 新	30,000	15,000	50.0 12.5	10.0	84.6 27.4	5.93 4.53

メートル使用量の引下げに今後多少の需要增大は見込まれるにしても減益は免れない。然し同社は日本染工、尼崎瓦斯の二社を有して何れも好調を示してゐるから一割配當持續に問題はない。

事業	銘柄	資本金(千圓)	拂込總額(千圓)	一株拂込(圓)	配當12年(%)	株價(圓)	利廻(%)
瓦斯工業	東京瓦斯 同 新	150,000	112,500	50.0 12.5	8.0	69.5 18.4	5.76 5.45

昨年料金の引下げを行つたが、12年上期は寧ろ增益を齎した。需要の增大と副產物の賣行きが良好だつたからだ。然し今度は炭價の昂騰乃至は再度の値下げを行はねばならぬから業績は低下しやう。

石油工業

事業	銘柄	資本金(千圓)	拂込總額(千圓)	一株拂込(圓)	配當12年(%)	株價(圓)	利廻(%)
石油工業	日本石油 同 新	80,000	62,000	50.0 27.5	下 8.0	81.2 53.4	4.89 4.01

12年下期は多少の利益向上を示してゐたが、販賣量の割に少かつた。諸經費が昂騰したからだ。然し13年上期以降からは値上げを全面的に受けるから業績は幾分向上するであらう。

事業	銘柄	資本金(千圓)	拂込總額(千圓)	一株拂込(圓)	配當12年(%)	株價(圓)	利廻(%)
石油工業	北樺太石油	20,000	20,000	50.0	6.0	44.3	6.76

待望の增資も時局の進展で對ソ關係が惡化を示して來たので中絕の態となつた。反面產油、試掘も影響を受けてゐる。然しオハ油田からの出荷は引續き良好であるから6分配當据置に問題はない。

事業	銘柄	資本金(千圓)	拂込總額(千圓)	一株拂込(圓)	配當12年(%)	株價(圓)	利廻(%)
石油工業	旭石油 同 新	5,000	3,700	50.0 25.0	10.0	71.2 43.6	7.04 5.75

元來の方針として消極的經營に甘んじて來たが、時局の進展は此れを許さぬものがあるので積極的方針に轉向した。卽ち過般の拂込徵收に依つて製油所の大擴張、揮發油、重油の大增產が目論まれてゐる。1割配當は安態だ。

事業	銘柄	資本金（千圓）	拂込總額（千圓）	一株拂込（圓）	配當 12年(%)	株價（圓）	利廻（%）
製紙パルプ工業	王子製紙	300,000	224 904	50.0	上 10.0	98.2	5.09
	同 新			25.0		56.6	4.24
	1億74萬圓からの借金を4ヶ年で返濟した收益力は偉大である。目下需要こそ減退を示してゐるが、投資收益利拂ひの社絕等にも考慮すれば收益の增大は必至である。						
	高崎板紙	10,000	4,180	50.0	下 15.0	×98.2	7.65
	同 新			20.0		×37.4	8.02
	12年下期1割の大巾減配を斷行した。需要減退と市價低落で收益低下を示した爲めである。需要は引續き低調を辿ると思はれるが、新設中の原戸工場、擴張中の高崎工場が13年來より稼行するから配當に問題はない。						
	滿洲パルプ	10,000	2,500	12.5	缺損	16.0	—
	工場建物は完成して目下所要機械を設置中にある。來春には操業開始の運びとなる。能力は第1年度1萬石、第2年度から2萬石が稼行する豫定である。配當開始は早くて13年下期からか。						
	東邦パルプ	30,000	7,500	12.5	無配	24.2	—
	東滿洲パルプを對等條件で合併した上資本金の增資を計り、事業積極化を行ふこととなつた。此れで當社は完全に鐘紡の支配下になつた。工場も完成して12年末から操業の豫定である。						
セロファン工業	高崎セロファン	1,035	96,0	50.0	無配	28.0	—
	同 新			38.4		——	
	共販設立に依り斯界は漸次好轉して來た。當社も此の影響を受けて順次立直りを示し、12年下期決算では黑字を示して來た。13年下期から特配の配當復活が期待出來る。						
	高崎セロファン	2,500	1,180	50.0	無配	8.0	—
	同 新			20.0		2.0	
	經營者を更迭して極力內容刷新に務めてゐるが、高崎工場は東洋物產で經營してゐる爲め結局川口工場に依り操業の意圖らしい。整理に這入つてから數年を經てゐる處から推察して再操業に至る迄は仲々困難である。						
人絹工業	大日本紡	110,000	66,500	50.0	上 12	102.0	6.37
	同 新			12.5		41.1	6.45
	朝鮮清津に進出現地に於て藥品自給の大人絹計畫を進める外、內地でも人絹及びその紡織工場の擴張、更に天津工場新設を企圖してゐるが、支那事變の影響は大資本を擁する當社に對しても相當深刻なので、今後の計畫もスムースには進捗すまい。						

事業	銘柄	資本金（千圓）	拂込總額（千圓）	一株拂込（圓）	配當 12年(%)	株價（圓）	利廻（%）
人絹工業	帝國人造絹絲	36,000	32,250	50.0	上15	124.6	6.04
	同 新			37.5		106.2	5.17
	人絹會社中創立最も古く技術優秀內容は堅實である。從來消極的態度をとつてゐた人絹方面へも近江絹絲との提携以來積極化してゐる。12年下期人絹界惡化とパルプ高の影響を受けるが當社の成績には不安はなからう。						
	旭ベンベルグ	46,000	37,000	50.0	上10	×67.2	9.45
	同 新			25.0		×37.6	6.74
	當社は日窒の傍系會社としてベンベルグ糸、人絹、人繊及び硫安、硝酸を製造する異色會社である。12年下期人絹界不況の中に藥品自給の强味を發揮、それに大津工場の全的人絹改裝が業績向上に寄與した。一割配當は維持されよう。						
	日本レイヨン	30,000	18,750	50·0	12	82.3	7.32
				12.5		43.2	6.97
	11年の三倍增資に次いで12年は資本金2千萬圓の人絹專門會社新日本レイヨンを設立、その中1千萬圓を當社が負擔したが、これで大人造繊維會社としての面目を整へた形である。拂込徵收が期待されてゐる。						
	倉敷絹織	50,000	30,000	50.0	上10	71.5	6.96
				新37.5		55.6	6.83
	當社は倉敷紡績の傍系として人絹工場の低建設費を誇り、最近は人絹にも染手、日產約10トン强を生產してゐる。朝鮮進出の計畫を有つが引續き堅實經營に專念すれば業績には不安は無からう。						
	太陽レーヨン	10,000	10,000	50.0	上8	46.7	8.60
						13.1	7.69
	人絹餘剩能力を人綿に轉換、12年上期漸く8%の初配當を行ひ得た。人綿及びその紡績工場の擴張と朝鮮進出等の積極計畫もあるが、目下の內容は餘り堅實とは云へない。						
	新興人絹	10,000	7,500	37.5	上8	42.6	7.02
	當社は人絹專門會社としての古參格で技術も優秀である。12年末日產約50トンへの擴張計畫を達成した。今後は人絹界一般のパルプ難及び製品消化が好轉すればコスト安の强味を發揮して行くことにならう。						
	岸和田人絹	8,000	4,000	25.0	上6	24.6	6.06
	岸和田紡績の傍系である。當社は昭和9年創立以來相當苦難を嘗めて12年上期漸く初配當をつける迄に漕ぎつけた。人絹日產6トン半人綿3トン本格化はこれからである。						

事業	銘柄	資本金（千圓）	拂込總額（千圓）	一株拂込（圓）	配當 12年(%)	株價（圓）	利廻（%）
人絹工業	東邦人造繊維	10,000	7,500	37.5	上6.0	39.0	5.77
	當社は人絹專門會社であるが、現在日產7トン辛うじて經濟單位に漕ぎつけやうとしてゐる。繊維國策に順應する會社としての強味を充分有つが準備の苦難時代が長かつたから、今直ぐ好轉は望めまい。鐘紡との提携は將來の動向を暗示する。						
	日本人造羊毛	10,000	2,500	12.5	上7	15.7	5.73
	當社は創立以來經營の目鼻が確立されず種々の曲折を見て漸く初期生産に移つた。12年末で人絹日產6トン半、兎角前途を憂へられてゐたが繊維國策の波に乘つたから今後は見直すべきであらう。						
	錦華人絹	15,000	12,000	40.0	上6	×36.0	6.66
	錦華紡の仔會社である。現在の人絹、人絹擴張計畫の實現後でなければ實の成績向上は望めまい。藥品自給も硫酸だけでは未だ大して强味にはならぬ。それに12年下期は人絹惡化の影響を多分に受けよう。						
	明正レーヨン	5,000	4,000	40.0	上5	31.20	6.26
	當社も長く振はなかつたが、12年上期漸く5分の初配當を行ひ得る迄に漕ぎつけた。人絹のみ約5トン程度、12トンへの擴張計畫を遂行中であるが、時流に投じた事業であるから、業績も漸次立直らう。						
	福島人絹 同　新	14,000	9,800	50.0 20.0	10	—— ——	— —
	福島人絹の仔會社である。人絹日產13トン、人綿3トンが漸く順調に進行、12年倍額增資を決行した。現在遂行中の人絹15トン計畫が具體化すれば時流に投じて漸次發展しよう。						
	鐘淵紡績	60,000	60,000	50.0	上25.0	234.0	5.34
	事變勃發で別會社たる上海製造絹絲の上海、青島、天津三工場は相當の被害を被つた。從つて上海絹絲から配當は望めないとしても內地方面は依然好調であるから現配當は動くまい。增資も目下の處停滯狀態だ。						
	新潟人絹工業	3,000	1,500	25.0	上無配	7.0	——
	12年4月から操業は漸次本格的となつて來たが、原料高の製品安に惱まされて成績依然低調を示してゐる。業界は目下の處餘り好調とは云へない丈けに一層の奮發が必要である。						

事業	銘柄	資本金（千圓）	拂込總額（千圓）	一株拂込（圓）	配當 12年(%)	株價（圓）	利廻（%）
人絹工業	昭和人絹	20,000	10,000	25.0	上8.0	33.5	7.42
	龍山人絹、三重人絹の合併を了して當社生產設備は擴大された。業界は低調であるが、當社は原料藥品自給の强味を有するから影響は他社と多少趣きを異にする。配當は安善だ。						
	東京人造絹絲 同　新	15,000	10,500	50.0 25.0	8.0	△48.3 △24.7	8.20 8.00
	建設中の沼津工場は明年春から稼行する。人絹日產25瓲である。硫酸設備も施設中で完成も殆ど同期である。今後に期待は持てる譯だが、業界の昨今を考へると多少の業績低下を示すのではなからうか。						
	東洋レーヨン 同　新	30,000	25,000	50.0 37.5	12.0	—— 88.0	—— 5.03
	過般の拂込金5百萬圓は人織工場の建設費と東洋絹織、朝鮮レーヨンの拂式拂込に充當された。完成は13年夏頃となるらしいから完成後は成績幾分良化しやう。						
洋灰工業	淺野セメント 同　第二新	106,310	62,767	50.0 22.5	4.0	44.6 15.6	4.53 5.82
	12年上期は出荷增大を告げて異常な好成績を示して餘裕裡に4分配當を行つた。然し下期の減益は蔽ひ難い事實である。事局に依り船腹の不足コストの增大等からして減益必至である。						
	小野田洋灰 同　新	31,000	25,680	50.0 32.5	10.0	75.2 49.6	6.67 6.56
	拂込資本の負擔增加に依り12年上期の收益率は收益增大にも拘はらず低下を示した。下期は依然として此の傾向を辿ると思はれるが、1割配當は据置きの見込み。						
	磐城セメント 同　新	23,000	13,775	50.0 12.5	8.0	×55.6 ×14.2	7.21 ——
	豫定の如く富國洋灰の株式過半數を處理して同社の實權を手中に收めたが、業界の惡化で寧ろ重荷の態となつた。增資斷行に依り資本負擔も增加されるから13年上期以降の配當は問題である。						
	宇部洋灰 同　新	14,000	10,500	50.0 25.0	上10.0	—— ——	—— ——
	上期の好調に比して下期以降は停頓を齎すであらうが、內容に於て優秀を誇る丈けに大した打擊は受けぬだらう。1割配當に困難を伴ふ樣な事は萬々あるまいと思はれる。						

事業	銘柄	資本金（千圓）	拂込總額（千圓）	一株拂込（圓）	配當 12年(%)	株價（圓）	利廻（%）
洋灰工業	秩父洋灰	12,000	5,800	30.0	普12.0	×69.9	7.53
	同　新			20.0	上記 3.0	×39.8	6.27
	洋灰會社中隨一の資產內容を誇る。多少の需要低下があるにしても配當は維持出來る。若し減配を行ふとしてもそれは業績的のものでなくて政爭的のもので何等不安はない。						
	土佐洋灰	5,000	3,650	50.0	上6.0	×30.2	10.20
	同　新			27.5		×17.5	9.42
	12年3月行つた半額減資に依り略々豫定の目的は達成された。然し業績は業界が混沌としてゐる丈けに餘り芳しくない。從つて增配など思ひも及ばない事である。						
	七尾洋灰	5,000	4,250	42.5	6.0	×35.6	7.20
	磐城の經營下に在つて內容は順次改善されつゝあり、12年下期も上期に劣らぬ成績を收めた樣だ。6分配當は持續すると思はれるが、來期以降は他社と共通の惱みを味ふことゝならう。						
	日本洋灰	10,000	1,125	50.0	7.0	52.6	6.52
	同　新			25.0		25.1	6.96
	表面化された重役間の暗鬪も更選に依つて解決した。流金問題も社長以下の現金補塡で落着し、完全に內容は刷新される事となつた。然し業績は13年上期以降から低下を示そう。						
	豐國洋灰	7,500	7,500	50.0	6.0	48.0	6.24
	13年上期以降利益低減は止むを得ないであらうが、最近內容が極度に改善されてゐるから別に不安はない。配當は勿論据置く見込みであるが當社が秩父、大阪窯業に次いで優良會社となつたのは注目すべきだ。						
	滿洲洋灰	2,500	2,500	50.0	上無配	29.0	—
	資本金の四分一減資を行ひ極力資產內容の刷新に努めた。効果は順次現はれて漸く配當期も近付いて來た。四平街工場の操業も緒に着いたし、13年上期邊りから3分配當開始の見込みである。						
	大阪窯業洋灰	12,000	6,750	50.0	上16	×111.6	7.20
	同　新			25.0		× 74.0	5.40
	セメント會社として多角經營のトップを切る唯一の會社である。アルミナ、シリカの特殊洋灰及び耐火煉瓦の外、アルミナ計畫をも具體化した長城鑛業を傍系に引具し、北支粘土の開發で利益を得てゐる。從つて洋灰界惡化の打擊もこれ等聯繫事業の發展で緩和される。						

事業	銘柄	資本金（千圓）	拂込總額（千圓）	一株拂込（圓）	配當 12年(%)	株價（圓）	利廻（%）
洋灰工業	東洋セメント工業	5,000	2,738	50.0	上10	65.0	7.68
	同　新					23.2	5.42
	上期は需要好轉を入れて成績順調であつたが、下期より洋灰界急惡化の影響を多分に受ける。從つて當社は相當コスト安の會社であるが、業績は幾分低下しよう。						
	大分セメント	11,067	6,349	50.0	上 6	× 41.8	7.19
	同　新			36.5		× 28.6	7.56
	當社は製品販賣を三井物產に委任す。原料昂騰と事變以來洋灰界急惡化の影響を受けたことは他と共通である。固定資產が未だ割高である。洋灰一本であるから斯界が立直らぬ限り業績の向上は望めぬ。						
	大阪窯業	1,100	1,100	20.0	7.0	× 25.6	5.40
	事變關係に依り耐火煉瓦需要は增大を示してゐる。引續き成績も向上が望み得られやう。增產擴張も一段落を告げてゐるから7分配當には毫も不安はないと見られる。						
	品川白煉瓦	5,000	4,275	50.0	8.0	82.6	4.87
	同　新			37.5		62.8	4.76
	當社も又大阪窯業と同樣事變の好影響を十分に受けて好成績を收めた。岡山第3工場も目下建設途上にあるし、湯本工場の操業も本格化してゐるから今後も順調な業態を辿るであらう。						
	旭硝子	40,000	30,000	50.0	普10.0	117.0	6.19
	同　新			25.0	上特 5.0	78.0	4.31
	增稅と依る影響を一時は心配されたが、附課されたのを見ると大したことはなかつた。而も需要は漸次增大される一方市價は昂騰してゐるから引續き成績良好の見込みである。						
窯業	日本板硝子	10,000	5,500	50.0	12	111.6	5.36
	同　新			12.5		45.6	3.28
	旭硝子に次いで板硝子界の重鎭である。12年中に四日市工場を全部竣成計80萬箱の倍額增產を達成、磨板の新方面へも進出する。當分新建築の不許可による需要不振と新規同業會社の出現が今後の不安材料であるが當社の手堅い經營には先づ狂ひはあるまい。						
	德永板硝子	2,250	2,250	50.0	6		
	同　新			50.0			
	德永硝子製造會社の傍系として三井物產との共營會社である。獨自の型板硝子を以て本邦硝子界に地步を確立した。13年度當社の普板計畫年產30萬箱が若し實現すれば、今後更に躍進を遂げよう。						

事業	銘柄	資本金（千圓）	拂込總額（千圓）	一株拂込（圓）	配當 12年(%)	株價（圓）	利廻（%）
黑業	川南工場	15,000	7,500	50.0	10		
	同　新			12.5			

當社はトマトサージン罐詰會社から出發して、最近めきめき發展を遂げた新興多角經營會社で、今の所造船及び罐詰の收益が主であるが、曹達及び板硝子部門の技術的困難を克服すれば、業績は益々好轉しやう。

冶金工業	住友金屬工業	100,000	62,500	50.0	9	×83.5	5.39
	同　新			12.5		×37.9	2.89

當社は軍需會社として時局景氣を滿喫した。主體事業は伸銅、製鋼、鋼管、輕合金等その他の構成材料であるが、製作能力は擴大、內容も頗る充實してゐる。當分繁忙期を持續するものと見られる。

	日本鑛業	160,000	138,750	50.0	上14.0	×108.7	6.44
	同　新			37.5		×93.6	5.60

政府の產金奬勵策と相俟つて當社は產金に積極的に乘出した。此れに伴ひ銀、銅、鉛も增加する。所要資金として拂込が豫想される。其の後の增資は確定的とみてよい。

	土肥金山	2,500	2,500	50.0	上10.0	——	——

每期平均4割以上の好利益率を擧げてゐる當社の收益力は恐る可きで今後も積極的增產完成と併行して良好なる成績維持が可能である。

合金及鐵工業	日本鋼管	55,300	34,725	50.0	上12.0	95.6	6.27
	同　新			25.0		54.3	5.56

第2熔鑛爐の稼行に併せて目下日產600噸の第3熔鑛爐を建設中である。13年5月完成であるか、稼行開始後業績に寄與すること甚大なるものがあらう。配當据置きに問題はない。

	日本製鐵	359,821	359,821	50.0	7.0	70.7	4.85

豫算3億圓に上る尨大な計畫も事業の發展で益々促進される可き筋合に在る。資金は增資に據るが如く傳へられてゐるが現在の處保留金、社債等に依つて賄はれる豫定である。

化工機器	田中機械	7,000	3,625	50.0	15	94.0	7.96
	同　新			12.5		——	——

化學機械の專門メーカーである。最近大英斷を以て大阪工場と同機能を有する東京工場を建設愈々スタートせしめた。今後關東方面に於ても一流メーカーとして伍するだらうし、業績も益々好調を續けるだらう。

事業	銘柄	資本金（千圓）	拂込總額（千圓）	一株拂込（圓）	配當 12年(%)	株價（圓）	利廻（%）
化工機器製作工業	栗本鐵工所	5,500	3,625	50.0	上 8	46.5	8.61
	同　新			12.5	下 3½	14.9	6.71

主製品は鑄鐵管、諸鑄物等であるが、最近化學機械方面に注力し社內保留金を以て化學工業を主體とする新工場の建設に着手した。これに依つて約50%の生產能力を增大する見込みである。經營は堅實で不安ない。

	紡機製造	8,000	3,196	50.0	普通 10.0	63.7	11.76
	同第二新			32.0	特 5.0	34.6	11.01

人絹人綿機械メーカーである。12年上期より土山の增設機械工場及び坂越の人綿工場が業績の向上に寄與し、それに伴會社日本常磐鋼の收益が加はつた。依然として好調を持續する見込。

	壽重工業	10,000	6,750	50.0	上15	78.2	7.7
	同　新			25.0		31.7	9.42

人絹機械及び紡織機械メーカーとして著名である。最近關聯事業とは云ひ乍ら餘りにも經營を多角化し過ぎた嫌ひがあり、これ等の統合宜しきを得るや否やが一にかゝつて當社の盛衰を左右するであらう。

	大阪製鎖造機	7,000	6,200	50.0	上 8.0	56.5	7.06
	同　新			40.0		43.2	9.42

現在化學機械よりは寧ろ軍需關係方面が主になつてゐるが、漸次化學機械の各種プラントに向つて積極改革を進めることにならう。過般齒車メーカーの雄溝口齒車を買收して更に一つの强味を增した。現行配當は維持されよう。

	島津製作所	12,000	6,000	50.0	上15		
	同　新			12.5			

當社は理化學機械及び精密、人絹機械メーカーとして著名であるが、時局に直面して業績益々好調を呈す。12年春の增資に依り着手した擴張部分の稼行する13年度は更に利益著增の見込である。しかし時局柄高率配當は望えるであらう。

	神戸製鋼	45,000	26,250	50.0	90	——	——
	同　新			12.5			

12年夏の增資に依り本工場に於ける鋼材、伸銅、機械各部門及び仔會社滿洲鑄銅、高知電氣工業の擴張を實施してゐるから13年度利益著增は必至であるが、軍需會社として現行以上の配當は期待されまい。

	大阪機械工作	12,000	6,750	50.0	10.0	64.6	7.76
	同　新			12.5		22.1	6.19

12年10月500萬圓增資第1回拂込121750錢を徵收した。右資金に依つて航空機發動機生產に積極的に乘出す。紡機方面も相變らず順調に推移してゐる配當維持に問題はない。

事業	銘柄	資本金（千圓）	拂込總額（千圓）	一株拂込（圓）	配當 12年(%)	株價（圓）	利廻（%）
化工機器製作工業	大阪機械製作	8,00	6,645	50.0	普15.0	96.0	10.52
	同　新			37.5	上特 5.0	76.5	9.67
	再期4割、5割の收益率を擧げてゐる當社は12年上期も餘裕裡に2割の配當を斷行した。然し中心事業たる紡機製產が今後進展を阻止される筋合になるので將來は工作機械、石油機械其他軍需品に進出する意向だ。それにしても普配1割5分の維持は十分可能である。						
	芝浦製作所	30,000	22,500	50.0	特 8.0	95.6	5.16
	同　新			25.0	上普 2.0	58.6	4.20
	電氣方面の需要は依然好況である。此れに順應して奉天に新工場を新設し、滿洲進出を期してゐる。內需用にも對應して設備擴大するに內定してゐる。全面的に進む當社の今後は期待出來る。						
	東京瓦斯電工	12,000	12,000	50.0	7.0	124.0	2.89
	計器部、自動車部を分離した當社は今後、工作機械、兵器、航空機の三部門に對し積極的に進出する意向である。目下擴張中にあるが、13年7月完成豫定である。此等資金として4萬圓增資が豫定されてゐる。實施時期は詳でないが早晩實現されやう。						
	石井鐵工所	8,000	4,812	50.0	15.0	79.0	—
	同　新			12.5		33.0	—
	倍額增資を敢行して生產規模の大擴張を行つた。成績も引續き良好で餘裕綽々現行配當を持續してゐる。今後液化事業の進展に伴ひ此の方面に躍進する意向の樣だ。配當は當然維持出來る。						
	月島機械	1,500	90.0	30.0	12.0	61.0	—
	第二月島機械を設立して合併した。此れで資本金1100萬圓となつた。燃料國庫に順應して液化プラントを中心とする生產設備の擴張に向ける爲めである。配當維持に問題はない。						
	新潟鐵工所	10,000	8,000	50.0	上 10.0	97.2	5.16
	同　新			25.0		69.5	3.74
	事態の積極化は生產設備の擴張實現を餘儀なくせしめ事業は益々繁忙を務めてゐる。此等擴張に伴ひ未拂込金も早々に徵收されると思はれるが此の程度では不足で、近く倍額程度に增資されやう。						
	日立製作所	117,900	73,688	50.0	下 12.0	94.6	6.21
	同　新			12.5		78.1	5.70
	12年下期は事變の好況を受けて引續き良好な成績を收めて居た。此れに力を得た當社は更に全部門に亘る增產計畫を樹立して目下實施途上にある。云はば擴張過渡期に在るのである。近き將來に於ける飛躍發展が期待される。						

事業	銘柄	資本金（千圓）	拂込總額（千圓）	一株拂込（圓）	配當 12年(%)	株價（圓）	利廻（%）
化工機器工業	三菱重工業	120,000	75,000	50.0	7.0	84.7	4.12
				12.5		39.2	4.21
	受註3億圓に達して凡ゆる生產規模を動員して製產に多忙を極めてゐる成績の良好なるのも當然と云へる。12年12月12日50錢徵收した。此等老大な受註に對應する爲めである。增配も可能であるが改革的に行ふまい						
	日本精工	12,000	5,000	50.0	10.0	68.1	7.32
	同　新			25.0		38.2	6.59
	變態增資の目的で12年7月帝國精工を設立し合併した。製品に軍需的色彩強い。事變進展は益々需要增大を豫想されてゐる。而も需要の半分は輸入に仰いでゐる現況であるから今後に十分刮目出來る。						
其他	大日本鹽業	8,000	5,000	50.0	普8.0	67.5	5.93
	同　新			12.5	上特2.0	26.8	3.73
	工業鹽の重要性は事變の進展に伴ひ一段と高まり、需要は著增を告げてゐる。政府の近海鹽自給主義に依り當社は益々發展を期待される。此れに對應する爲め鹽田の擴張を積極化してゐる。從つて第2回拂込も早晩實施されるであらう。						
	日本理化工業	3,000	2,625	50.0	10.0	72.0	6.04
				37.5		59.5	6.30
	機械工業、造船事業等の旺盛で需要は好調であつた處、事變の突發は此れに拍車を加へることとなり、業績は逐一好轉を示して來た。增資も傳へられてゐるが事業の性質上長引くこととならう。						
	大日本セルロイド	20,000	15,000	50.0	8.0	69.0	5.80
	同　新			25.0		37.0	5.42
	對支輸出は目下の處全滅だが、大した事はない。目下工業化に進んでゐる不燃燒セルロイドが稼行する樣になれば業績に寄與する處大である。新井、網干兩工場の醋酸增設工事も13年2月頃には完成する。						
	日本油脂						
	同　新						
	2千萬圓增資に引續いて直系會社を合併し、積極業界進出を策してゐる石鹼界は大して好況とは云へないが原料自給し得られる處は强味である。グリセリン、火藥等に積極的に進出してゐるから現行配當に問題はない						
	神戸電機製作	2,000	2,000	50.0	上 8		
	同　新			50.0			
	增資を必要とするが、合成樹脂製品は資金統制法で發展を抑へられる。主要事業たる蓄電池は原料鉛の昂騰拂底に直面してゐるが、時局品のこととて繁忙である。これの利益に依つて當社の事績は維持されよう。						